

第3次匝瑳市男女共同参画計画 策定に係る市民意識調査結果報告書

令和3年3月

匝 瑳 市

目 次

I	調査の概要.....	1
1	調査の目的	1
2	調査対象	1
3	調査期間	1
4	調査方法	1
5	回収状況	1
6	調査結果の表示方法	1
7	調査の配布・回収状況からみた調査信頼度	2
II	調査結果.....	3
1	回答者属性	3
2	男女平等に関する意識について	5
3	男女の役割分担について	43
4	仕事について	102
5	社会への参画について	124
6	ドメスティック・バイオレンス（DV）について	150
7	少子化対策について	163
8	高齢者介護について	169
9	男女共同参画の推進について	175
III	「その他」意見.....	178
IV	自由意見.....	194
V	調査票.....	203

I 調査の概要

1 調査の目的

第2次匝瑳市男女共同参画計画は、男性も女性もお互いを尊重し、支え合い、みんなが幸せに暮らせる社会をめざすことを基本理念として、平成29年度から令和3年度までを計画期間として、施策の推進を図ってきました。この調査は、次期計画策定に向けて、現計画の評価と検証をすることを目的として実施したものです。

2 調査対象

匝瑳市在住の20歳以上を無作為抽出

3 調査期間

令和2年11月2日から令和2年11月20日

4 調査方法

郵送による配布・回収

5 回収状況

配 布 数	有効回答数	有効回答率
2,000 通	819 通	41.0%

6 調査結果の表示方法

- ・回答は各質問の回答者数（N）を基数とした百分率（%）で示してあります。また、小数点以下第2位を四捨五入しているため、内訳の合計が100.0%にならない場合があります。
- ・複数回答が可能な設問の場合、回答者が全体に対してどのくらいの比率であるかという見方になるため、回答比率の合計が100.0%を超える場合があります。
- ・クロス集計の場合、無回答を排除しているため、クロス集計の有効回答数の合計と単純集計（全体）の有効回答数が合致しないことがあります。なお、クロス集計とは、複数項目の組み合わせで分類した集計のことで、複数の質問項目を交差して並べ、表やグラフを作成することにより、その相互の関係を明らかにするための集計方法です。

7 調査の配布・回収状況からみた調査信頼度

本調査の有効回答数（819 票）は、対象となる集団（満 20 歳以上の市民、30,568 人）に対し、統計学上で一般的に使用される条件（信頼度 95%、標準誤差 5%）を想定した標本数（380 票）を上回ることから、調査結果は十分に信頼できるとみなすことができます。

$$n = \frac{N}{\left(\frac{e}{k} \right)^2 \times \frac{(N-1)}{P(1-P)} + 1}$$

※ n : サンプル数

N : 全体の人数（母集団）

e : 許容できる誤差の範囲

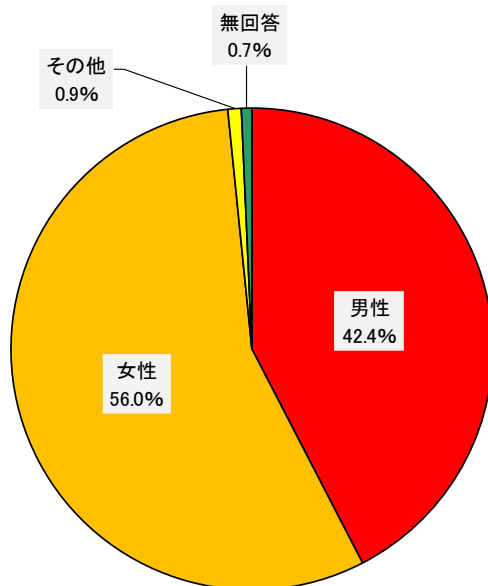
P : 母比率=0.5 (50%のときに最大のサンプル数となるため)

k : 信頼度係数=1.96 (通常、信頼度 95%を基準とするため)

Ⅱ 調査結果

1 回答者属性

F 1 あなたの性別をお答えください。答えたくない方は、「その他」に○を付けてください。（いずれかに○）

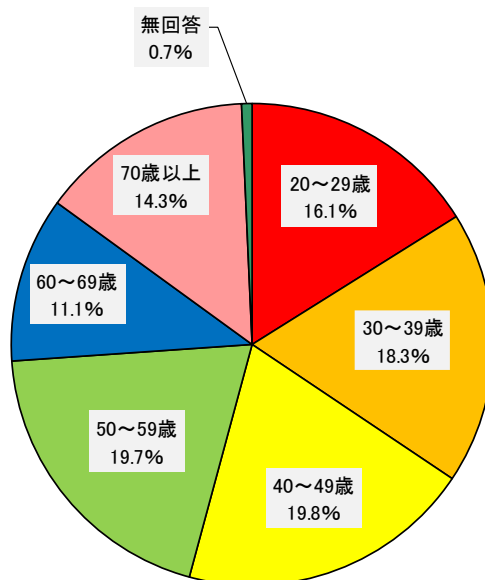


N = 819

【全 体】

「男性」の割合が 42.4%、「女性」の割合が 56.0%となっています。

F 2 あなたの年齢をお答えください。（1つに○）

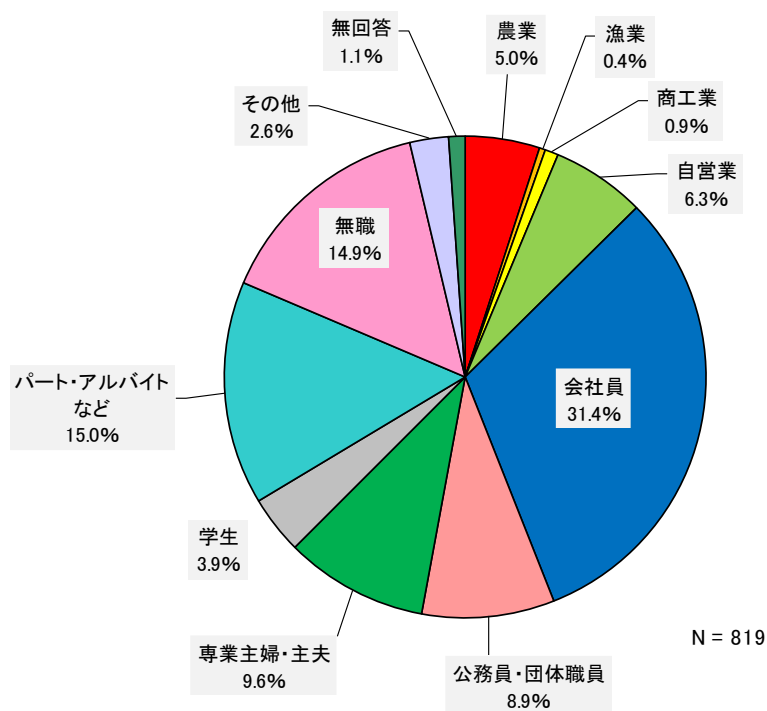


N = 819

【全 体】

「40～49 歳」の割合が 19.8%と最も高く、次いで「50～59 歳」の割合が 19.7%、「30～39 歳」の割合が 18.3%となっています。

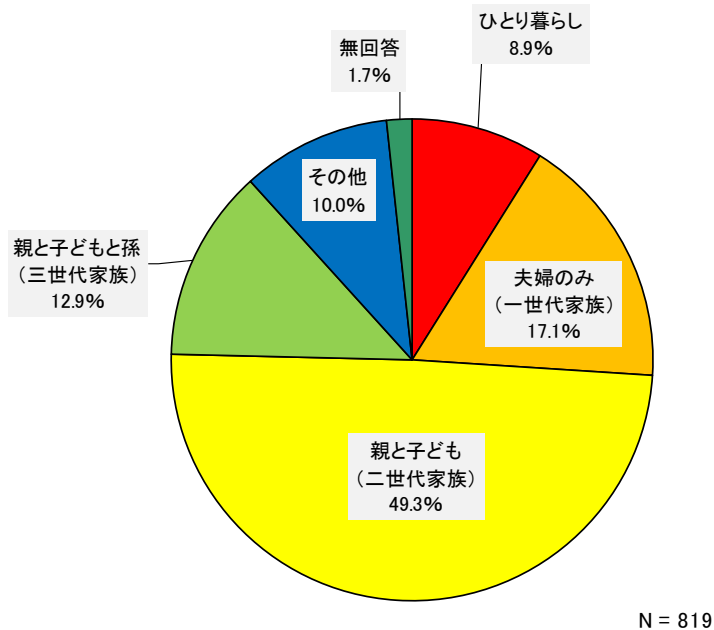
F 3 あなたの主な職業をお答えください。(1つに○)



【全 体】

「会社員」の割合が 31.4%と最も高く、次いで「パート・アルバイトなど」の割合が 15.0%、「無職」の割合が 14.9%となっています。

F 4 あなたの家族構成をお答えください。(1つに○)



【全 体】

「親と子ども (二世世代家族)」の割合が 49.3%と最も高く、次いで「夫婦のみ (一世世代家族)」の割合が 17.1%、「親と子どもと孫 (三世世代家族)」の割合が 12.9%となっています。

2 男女平等に関する意識について

問1 あなたは、次のA～Hのそれぞれの項目について、男女の地位は平等になっていると思いますか。(それぞれ1つに○)

【全 体】

『学校教育の場では』を除くすべての項目で「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」をあわせた“男性の方が優遇されている”の割合が最も高くなっており、特に『政治の場では』『社会全体では』では6割を超えています。

一方、『学校教育の場では』で、「平等である」の割合が高く、5割台なかばとなっています。

【性 別】

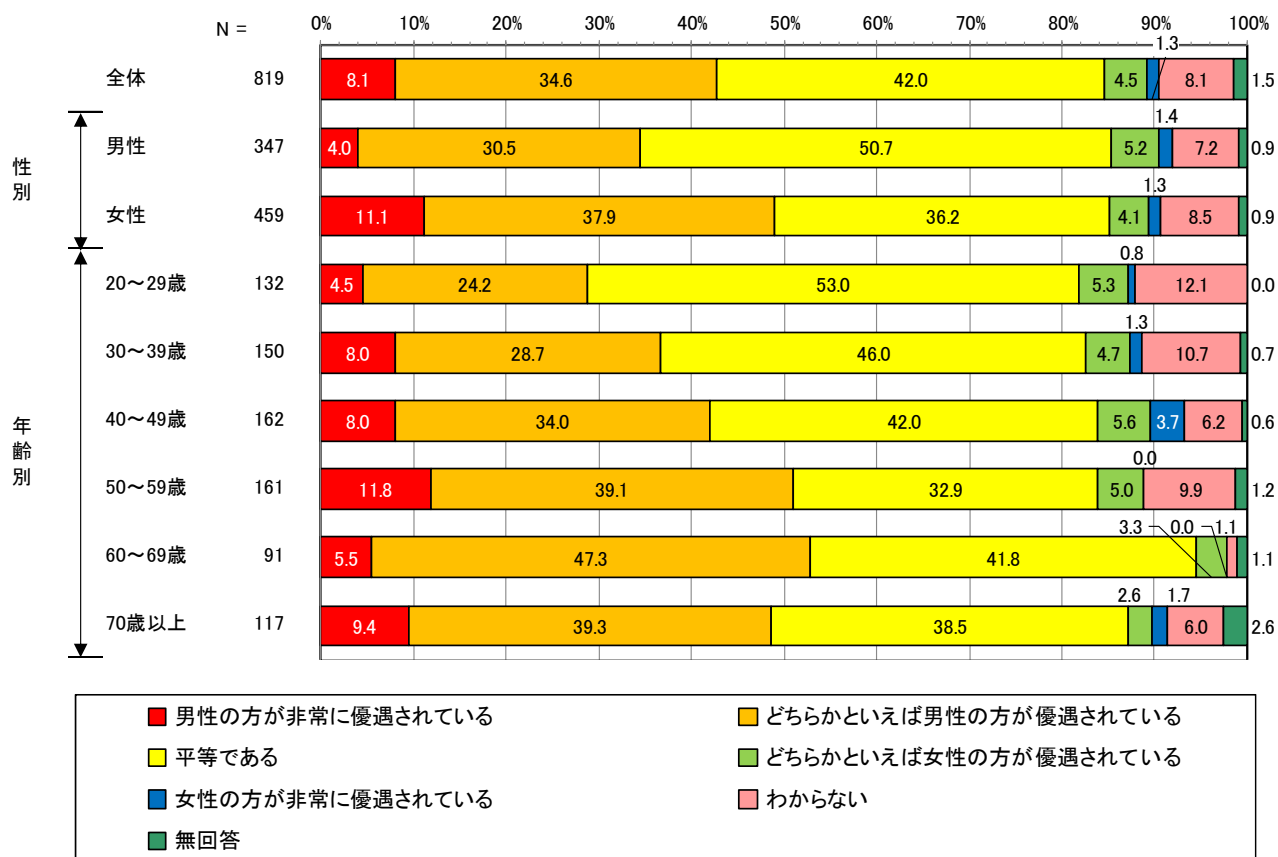
性別でみると、『学校教育の場』では男女での差異はみられないものの、その他の項目では、男性に比べ女性で“男性の方が優遇されている”の割合が高くなっており、特に『法律や制度上では』『社会全体では』で、約18ポイントの差がみられます。

また、「平等である」と回答した人は、すべての項目で、女性に比べ、男性で高くなっています。

【年齢別】

年齢別でみると、多くの項目で、50歳以上で“男性の方が優遇されている”の割合が高く、約5割となっています。また、年齢が低くなるにつれ「平等である」の割合が高くなる傾向がみられます。

A. 家庭生活では



【全 体】

「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」をあわせた“男性の方が優遇されている”の割合が42.7%、「平等である」の割合が42.0%、「どちらかといえば女性の方が優遇されている」と「女性の方が非常に優遇されている」をあわせた“女性の方が優遇されている”の割合が5.8%となっています。

【性 別】

性別でみると、男性に比べ、女性で“男性の方が優遇されている”の割合が高く、約5割となっています。一方、女性に比べ、男性で「平等である」の割合が高く、約5割となっています。

【年齢別】

年齢別でみると、49歳以下に比べ、50歳以上で“男性の方が優遇されている”の割合が高く、約5割となっています。また、他に比べ、20～29歳で「平等である」の割合が高く、約5割となっています。

【前回調査（平成 25 年度）との比較】

単位：％

	有効回答数 (件)	男性の方が非常に 優遇されている	どちらかといえば男性の 方が優遇されている	平等である	どちらかといえば女性の 方が優遇されている	女性の方が非常に 優遇されている	わからない	無回答
令和2年度調査	819	8.1	34.6	42.0	4.5	1.3	8.1	1.5
平成 25 年度調査	705	12.3	41.3	31.2	4.4	1.3	7.9	1.6

平成 25 年度調査と比較すると、「男性の方が優遇されている」が 10.9 ポイント減少し、「平等である」が 10.8 ポイント増加しています。

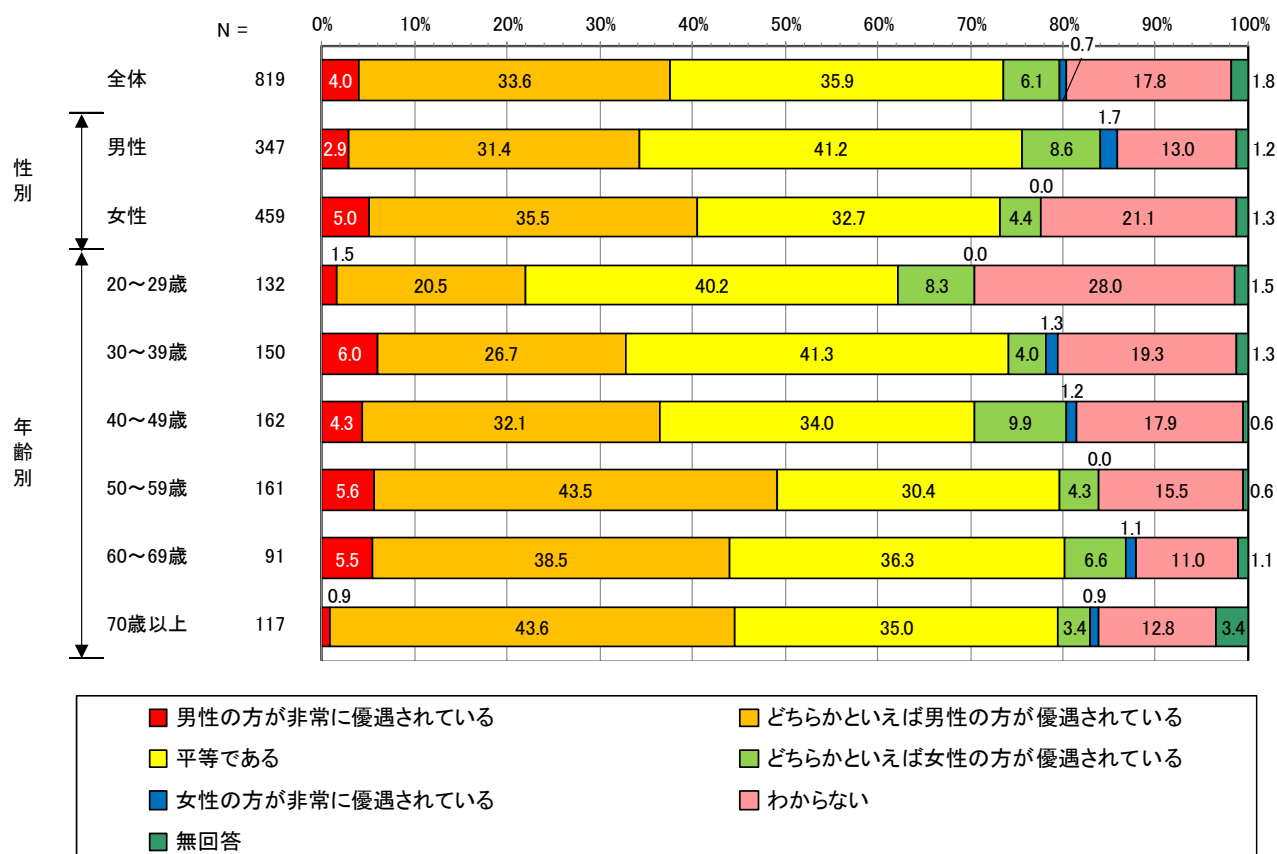
【千葉県調査（令和元年度）との比較】

単位：％

	有効回答数 (件)	男性の方が非常に 優遇されている	どちらかといえば男性の 方が優遇されている	平等である	どちらかといえば女性の 方が優遇されている	女性の方が非常に 優遇されている	わからない	無回答
匝瑳市	819	8.1	34.6	42.0	4.5	1.3	8.1	1.5
千葉県	756	7.7	37.7	40.2	7.8	1.1	3.3	2.2

千葉県調査と比較すると、大きな差異はみられません。

B. 地域活動の場では



【全 体】

「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」をあわせた“男性の方が優遇されている”の割合が 37.6%、「平等である」の割合が 35.9%、「どちらかといえば女性の方が優遇されている」と「女性の方が非常に優遇されている」をあわせた“女性の方が優遇されている”の割合が 6.8%となっています。

【性 別】

性別でみると、女性に比べ、男性で「平等である」、「女性の方が優遇されている」の割合が高くなっています。また、男性に比べ、女性で“男性の方が優遇されている”の割合が高く、約 4 割となっています。

【年齢別】

年齢別でみると、他に比べ、50～59 歳で“男性の方が優遇されている”の割合が高く、約 5 割となっています。また、20～29 歳、30～39 歳で「平等である」の割合が高く、約 4 割となっています。

【前回調査（平成 25 年度）との比較】

単位：％

	有効回答数 (件)	男性の方が非常に 優遇されている	どちらかといえば男性の 方が優遇されている	平等である	どちらかといえば女性の 方が優遇されている	女性の方が非常に 優遇されている	わからない	無回答
令和2年度調査	819	4.0	33.6	35.9	6.1	0.7	17.8	1.8
平成 25 年度調査	705	11.9	35.3	30.8	4.8	0.7	14.3	2.1

平成 25 年度調査と比較すると、「男性の方が優遇されている」が 9.6 ポイント減少し、「平等である」が 5.1 ポイント増加しています。

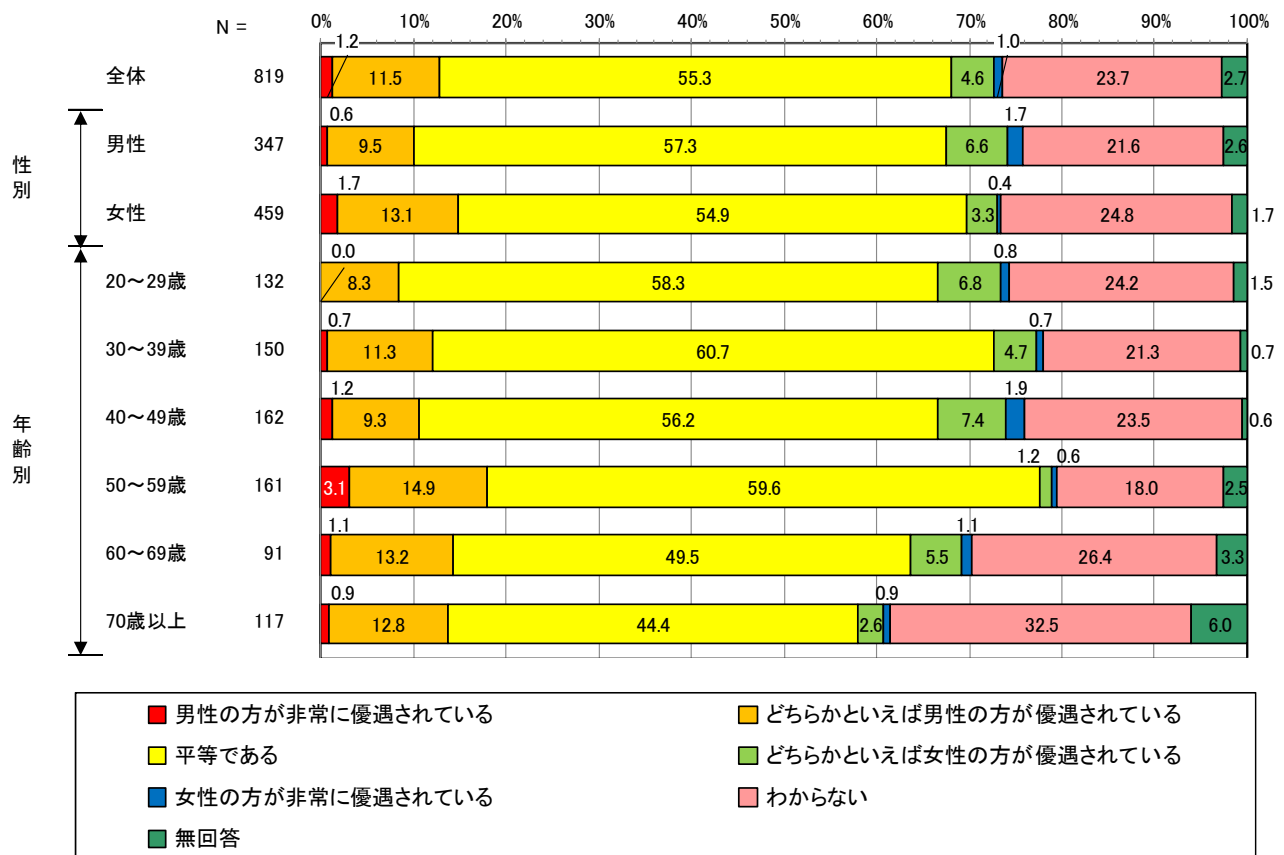
【千葉県調査（令和元年度）との比較】

単位：％

	有効回答数 (件)	男性の方が非常に 優遇されている	どちらかといえば男性の 方が優遇されている	平等である	どちらかといえば女性の 方が優遇されている	女性の方が非常に 優遇されている	わからない	無回答
匝瑳市	819	4.0	33.6	35.9	6.1	0.7	17.8	1.8
千葉県	756	4.9	28.2	43.4	7.7	0.5	13.2	2.1

千葉県調査と比較すると、千葉県に比べ「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が 5.4 ポイント高く、「平等である」が 7.5 ポイント低くなっています。

C. 学校教育の場では



【全 体】

「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」をあわせた“男性の方が優遇されている”の割合が12.7%、「平等である」の割合が55.3%、「どちらかといえば女性の方が優遇されている」と「女性の方が非常に優遇されている」をあわせた“女性の方が優遇されている”の割合が5.6%となっています。

【性 別】

性別でみると、男女で大きな差異はみられません。

【年齢別】

年齢別でみると、他に比べ、50～59歳で“男性の方が優遇されている”の割合が高く、約2割となっています。また、60～69歳、70歳以上で「平等である」の割合が低く、5割未満となっています。

【前回調査（平成 25 年度）との比較】

単位：％

区分	有効回答数（件）	男性の方が非常に 優遇されている	どちらかといえば男性の 方が優遇されている	平等である	どちらかといえば女性の 方が優遇されている	女性の方が非常に 優遇されている	わからない	無回答
令和2年度調査	819	1.2	11.5	55.3	4.6	1.0	23.7	2.7
平成 25 年度調査	705	2.4	9.8	57.3	4.0	1.3	21.6	3.7

平成 25 年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。

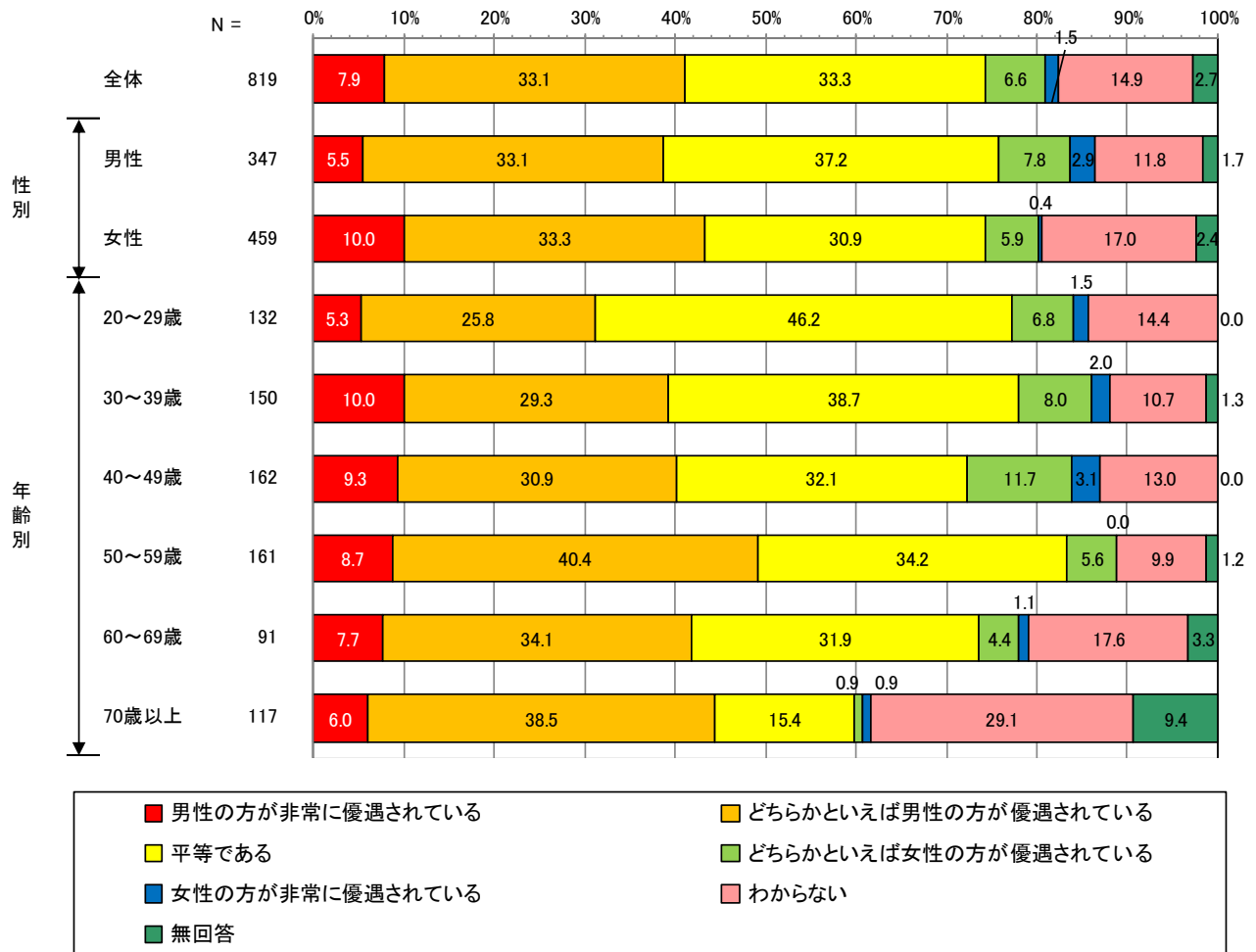
【千葉県調査（令和元年度）との比較】

単位：％

区分	有効回答数（件）	男性の方が非常に 優遇されている	どちらかといえば男性の 方が優遇されている	平等である	どちらかといえば女性の 方が優遇されている	女性の方が非常に 優遇されている	わからない	無回答
匝瑳市	819	1.2	11.5	55.3	4.6	1.0	23.7	2.7
千葉県	756	3.0	19.0	51.5	3.0	0.4	19.2	3.8

千葉県調査と比較すると、千葉県に比べ、“男性の方が優遇されている”が 9.3 ポイント低くなっています。

D. 職場では



【全 体】

「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」をあわせた“男性の方が優遇されている”の割合が41.0%、「平等である」の割合が33.3%、「どちらかといえば女性の方が優遇されている」と「女性の方が非常に優遇されている」をあわせた“女性の方が優遇されている”の割合が8.1%となっています。

【性 別】

性別でみると、女性に比べ、男性で「平等である」の割合が高く、約4割となっています。

【年齢別】

年齢別でみると、年齢が低くなるにつれ「平等である」の割合が高くなっており、20～29歳で4割台半ばとなっています。また、他に比べ、50～59歳で“男性の方が優遇されている”の割合が高く、約5割となっています。

【前回調査（平成 25 年度）との比較】

単位：％

	有効回答数 (件)	男性の方が非常に 優遇されている	どちらかといえば男性の 方が優遇されている	平等である	どちらかといえば女性の 方が優遇されている	女性の方が非常に 優遇されている	わからない	無回答
令和2年度調査	819	7.9	33.1	33.3	6.6	1.5	14.9	2.7
平成 25 年度調査	705	13.0	36.9	23.8	6.8	2.3	14.0	3.1

平成 25 年度調査と比較すると、「男性の方が非常に優遇されている」が 5.1 ポイント減少し、「平等である」が 9.5 ポイント増加しています。

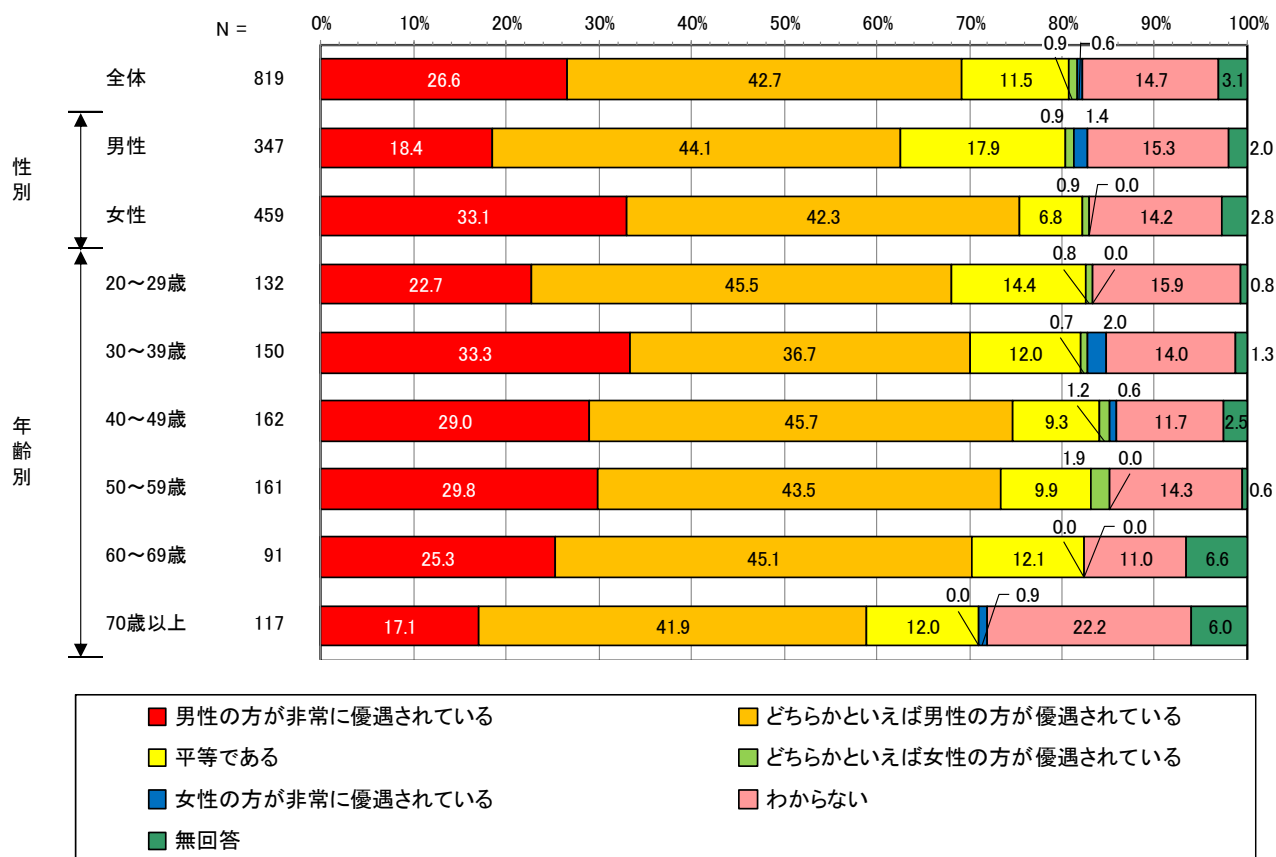
【千葉県調査（令和元年度）との比較】

単位：％

	有効回答数 (件)	男性の方が非常に 優遇されている	どちらかといえば男性の 方が優遇されている	平等である	どちらかといえば女性の 方が優遇されている	女性の方が非常に 優遇されている	わからない	無回答
匝瑳市	819	7.9	33.1	33.3	6.6	1.5	14.9	2.7
千葉県	756	11.9	49.9	19.7	5.2	1.1	9.0	3.3

千葉県調査と比較すると、“男性の方が優遇されている”が 20.8 ポイント低く、「平等である」が 13.6 ポイント高くなっています。

E. 政治の場では



【全 体】

「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」をあわせた“男性の方が優遇されている”の割合が69.3%、「平等である」の割合が11.5%、「どちらかといえば女性の方が優遇されている」と「女性の方が非常に優遇されている」をあわせた“女性の方が優遇されている”の割合が1.5%となっています。

【性 別】

性別でみると、女性に比べ、男性で「平等である」の割合が高く、約2割となっています。また、男性に比べ、女性で“男性の方が優遇されている”の割合が高く、7割台半ばとなっています。

【年齢別】

年齢別でみると、他に比べ、40～49歳、50～59歳で“男性の方が優遇されている”の割合が高く、7割台半ばとなっています。

【前回調査（平成 25 年度）との比較】

単位：％

	有効回答数 (件)	男性の方が非常に 優遇されている	どちらかといえば男性の 方が優遇されている	平等である	どちらかといえば女性の 方が優遇されている	女性の方が非常に 優遇されている	わからない	無回答
令和2年度調査	819	26.6	42.7	11.5	0.9	0.6	14.7	3.1
平成 25 年度調査	705	27.4	39.3	13.5	0.7	0.7	16.3	2.1

平成 25 年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。

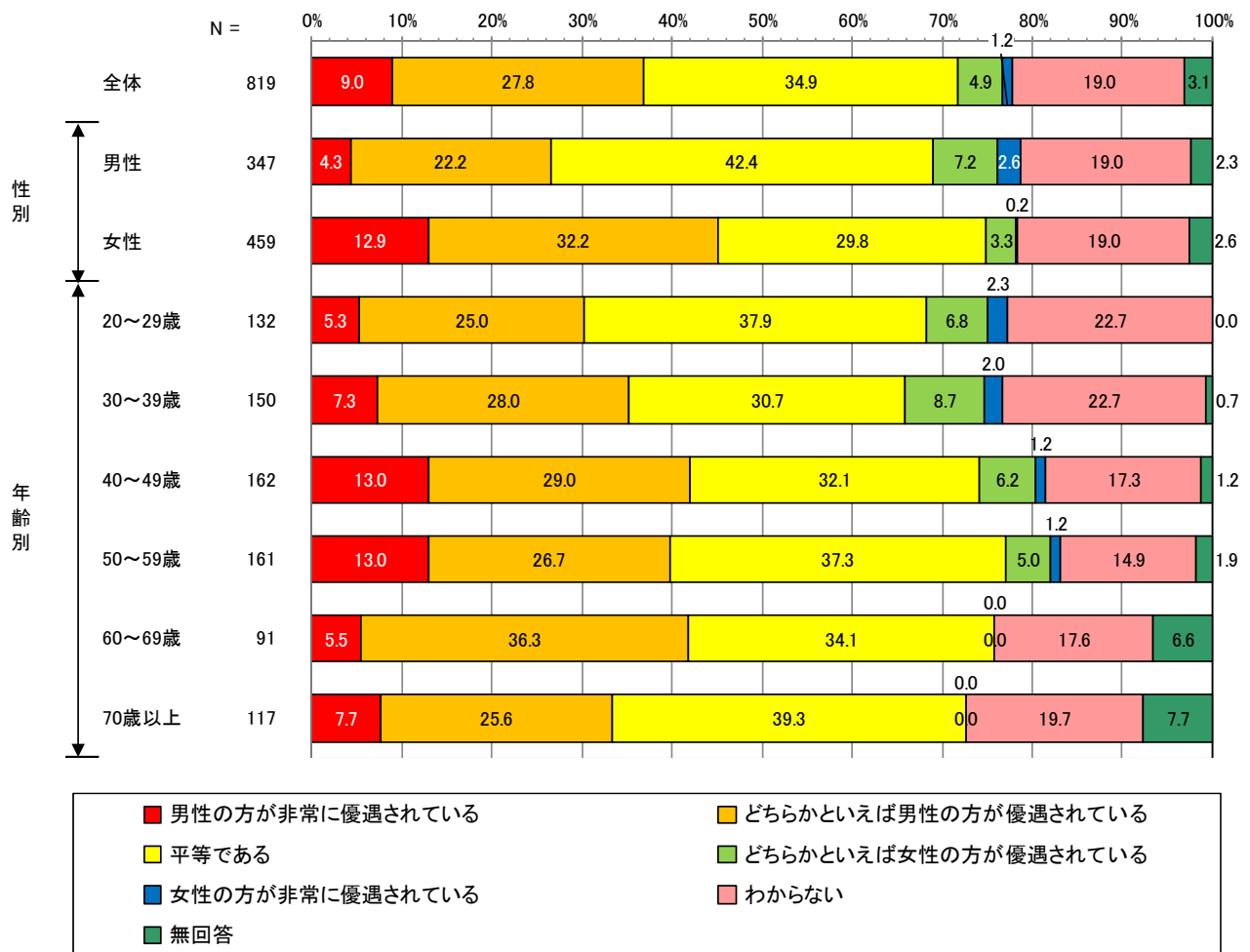
【千葉県調査（令和元年度）との比較】

単位：％

	有効回答数 (件)	男性の方が非常に 優遇されている	どちらかといえば男性の 方が優遇されている	平等である	どちらかといえば女性の 方が優遇されている	女性の方が非常に 優遇されている	わからない	無回答
匝瑳市	819	26.6	42.7	11.5	0.9	0.6	14.7	3.1
千葉県	756	33.2	43.0	11.8	1.1	0.5	8.1	2.4

千葉県調査と比較すると、千葉県に比べ、“男性の方が優遇されている”が 6.9 ポイント低くなっています。

F. 法律や制度上では



【全 体】

「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」をあわせた“男性の方が優遇されている”の割合が36.8%、「平等である」の割合が34.9%、「どちらかといえば女性の方が優遇されている」と「女性の方が非常に優遇されている」をあわせた“女性の方が優遇されている”の割合が6.1%となっています。

【性 別】

性別でみると、女性に比べ、男性で「平等である」、「女性の方が優遇されている」の割合が高くなっています。また、男性に比べ、女性で“男性の方が優遇されている”の割合が高く、4割台半ばとなっています。

【年齢別】

年齢別でみると、他に比べ、40～49歳から60～69歳で“男性の方が優遇されている”の割合が高く、約4割となっています。

【前回調査（平成 25 年度）との比較】

単位：％

	有効回答数 (件)	男性の方が非常に 優遇されている	どちらかといえば男性の 方が優遇されている	平等である	どちらかといえば女性の 方が優遇されている	女性の方が非常に 優遇されている	わからない	無回答
令和2年度調査	819	9.0	27.8	34.9	4.9	1.2	19.0	3.1
平成 25 年度調査	705	10.2	26.0	36.5	5.4	1.7	17.4	2.8

平成 25 年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。

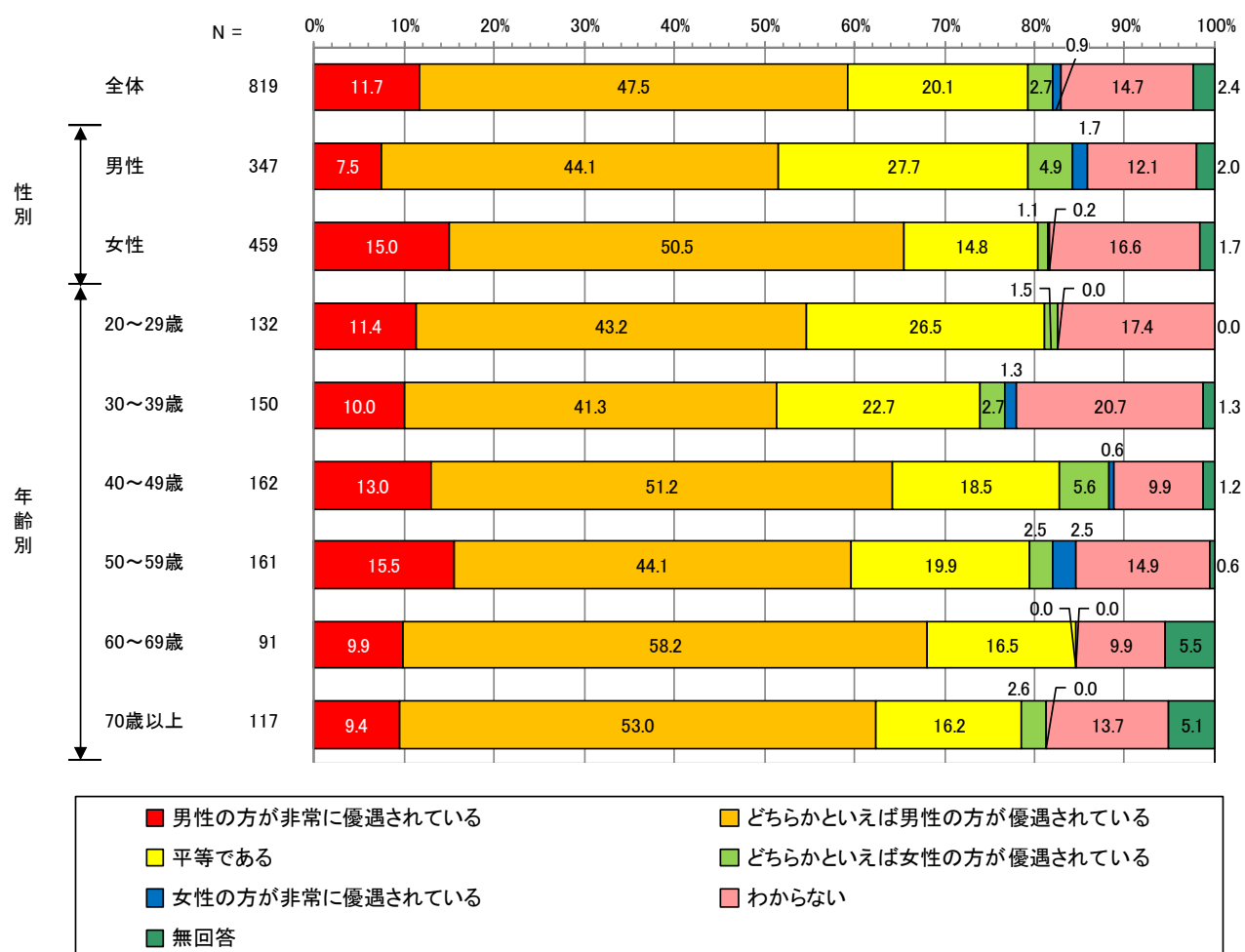
【千葉県調査（令和元年度）との比較】

単位：％

	有効回答数 (件)	男性の方が非常に 優遇されている	どちらかといえば男性の 方が優遇されている	平等である	どちらかといえば女性の 方が優遇されている	女性の方が非常に 優遇されている	わからない	無回答
匝瑳市	819	9.0	27.8	34.9	4.9	1.2	19.0	3.1
千葉県	756	8.6	33.3	37.6	5.2	1.1	11.1	3.2

千葉県調査と比較すると、千葉県に比べ、“男性の方が優遇されている”が 5.1 ポイント低くなっています。

G. 社会通念・慣習では



【全 体】

「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」をあわせた“男性の方が優遇されている”の割合が 59.2%、「平等である」の割合が 20.1%、「どちらかといえば女性の方が優遇されている」と「女性の方が非常に優遇されている」をあわせた“女性の方が優遇されている”の割合が 3.6%となっています。

【性 別】

性別でみると、女性に比べ、男性で「平等である」、「女性の方が優遇されている」の割合が高くなっています。また、男性に比べ、女性で“男性の方が優遇されている”の割合が高く、6割台半ばとなっています。

【年齢別】

年齢別でみると、年齢が低くなるにつれ「平等である」の割合が高くなる傾向がみられ、20～29歳で2割台半ばとなっています。また、他に比べ、60～69歳で“男性の方が優遇されている”の割合が高く、約7割となっています。

【前回調査（平成 25 年度）との比較】

単位：％

	有効回答数 (件)	男性の方が非常に 優遇されている	どちらかといえば男性の 方が優遇されている	平等である	どちらかといえば女性の 方が優遇されている	女性の方が非常に 優遇されている	わからない	無回答
令和2年度調査	819	11.7	47.5	20.1	2.7	0.9	14.7	2.4
平成 25 年度調査	705	18.4	46.8	14.8	3.7	1.1	13.0	2.1

平成 25 年度調査と比較すると、「男性の方が非常に優遇されている」が 6.7 ポイント減少し、「平等である」が 5.3 ポイント増加しています。

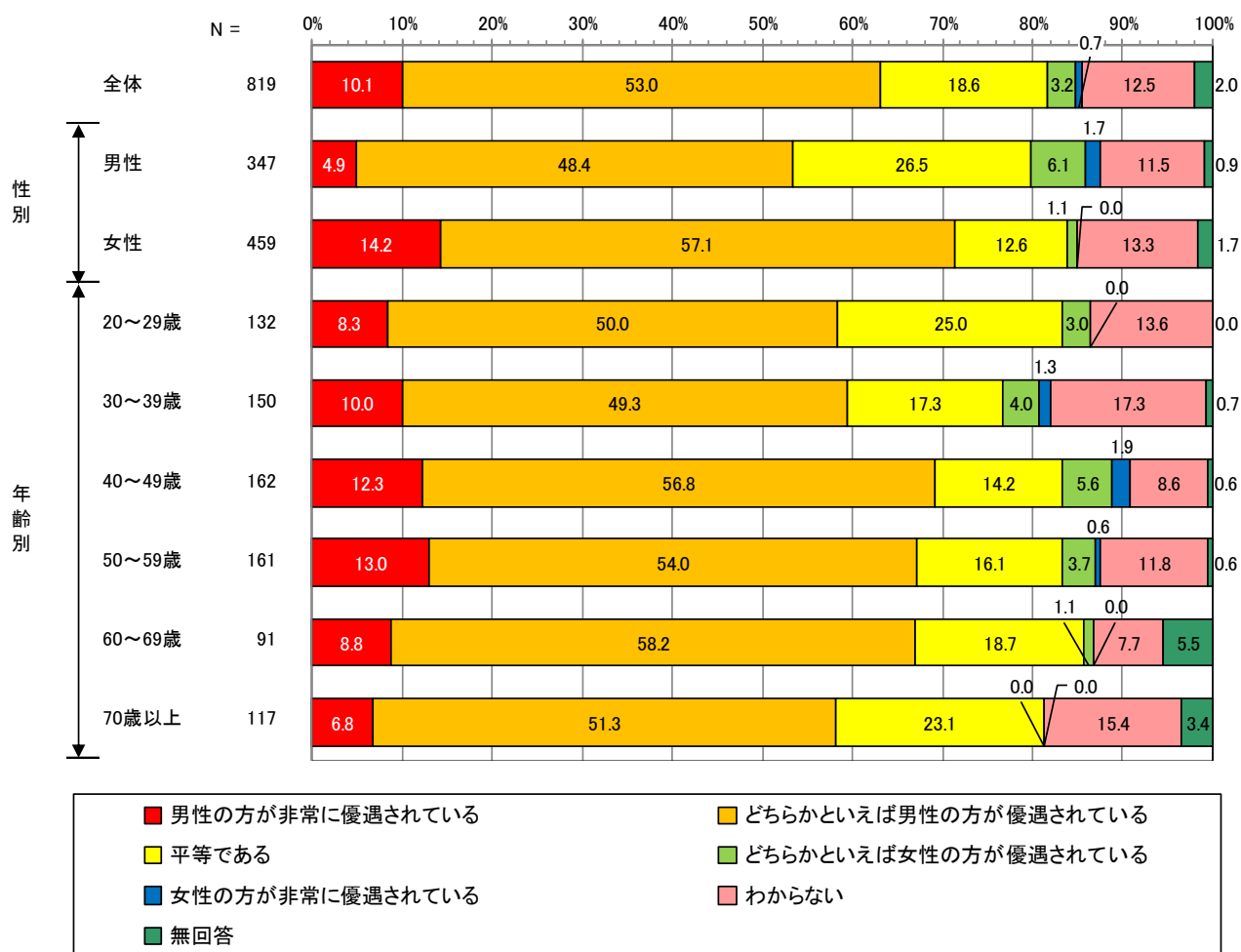
【千葉県調査（令和元年度）との比較】

単位：％

	有効回答数 (件)	男性の方が非常に 優遇されている	どちらかといえば男性の 方が優遇されている	平等である	どちらかといえば女性の 方が優遇されている	女性の方が非常に 優遇されている	わからない	無回答
匝瑳市	819	11.7	47.5	20.1	2.7	0.9	14.7	2.4
千葉県	756	21.2	55.4	13.6	1.7	0.4	5.7	2.0

千葉県調査と比較すると、千葉県に比べ、「男性の方が優遇されている」が 17.4 ポイント低く、「平等である」が 6.5 ポイント高くなっています。

H. 社会全体では



【全 体】

「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」をあわせた“男性の方が優遇されている”の割合が63.1%、「平等である」の割合が18.6%、「どちらかといえば女性の方が優遇されている」と「女性の方が非常に優遇されている」をあわせた“女性の方が優遇されている”の割合が3.9%となっています。

【性 別】

性別でみると、女性に比べ、男性で「平等である」、「女性の方が優遇されている」の割合が高くなっています。また、男性に比べ、女性で“男性の方が優遇されている”の割合が高く、約7割となっています。

【年齢別】

年齢別でみると、他に比べ、40～49歳から60～69歳で“男性の方が優遇されている”の割合が高く、約7割となっています。また、20～29歳、70歳以上で「平等である」の割合が高く、2割台半ばとなっています。

【前回調査（平成 25 年度）との比較】

単位：％

	有効回答数 (件)	男性の方が非常に 優遇されている	どちらかといえば男性の 方が優遇されている	平等である	どちらかといえば女性の 方が優遇されている	女性の方が非常に 優遇されている	わからない	無回答
令和2年度調査	819	10.1	53.0	18.6	3.2	0.7	12.5	2.0
平成 25 年度調査	705	13.9	51.2	17.6	3.7	1.3	10.6	1.7

平成 25 年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。

【千葉県調査（令和元年度）との比較】

単位：％

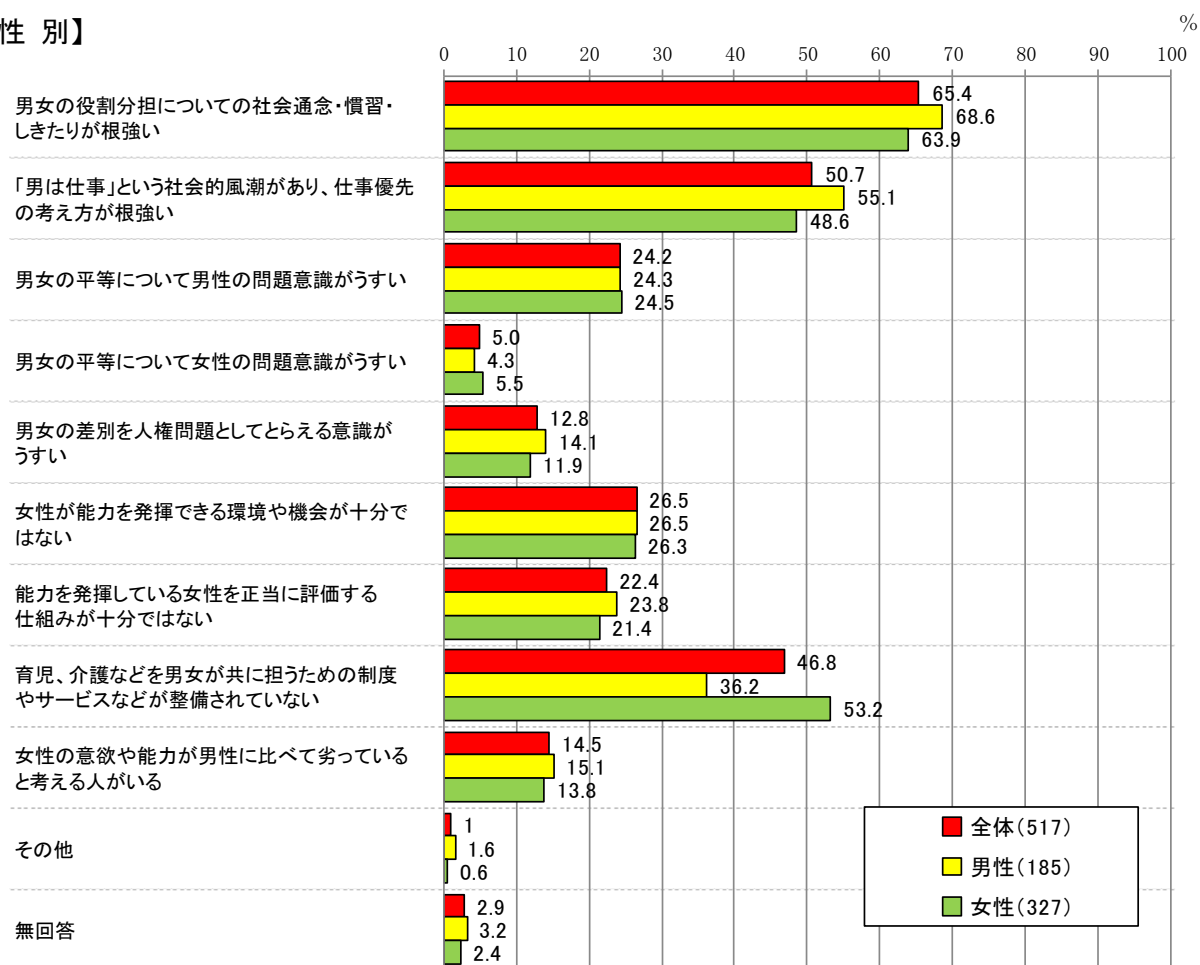
	有効回答数 (件)	男性の方が非常に 優遇されている	どちらかといえば男性の 方が優遇されている	平等である	どちらかといえば女性の 方が優遇されている	女性の方が非常に 優遇されている	わからない	無回答
匝瑳市	819	10.1	53.0	18.6	3.2	0.7	12.5	2.0
千葉県	756	8.7	63.1	13.6	5.3	0.5	4.5	4.2

千葉県調査と比較すると、千葉県に比べ、“男性の方が優遇されている”が8.7ポイント低く、「平等である」が5.0ポイント高くなっています。

問1の「H. 社会全体では」の項目で、「男性の方が非常に優遇されている」または「どちらかといえば男性の方が優遇されている」と回答した方のみお答えください。

問1-1 社会全体の中で、男性のほうが優遇されていると思う原因は何だと思いますか。

【性別】



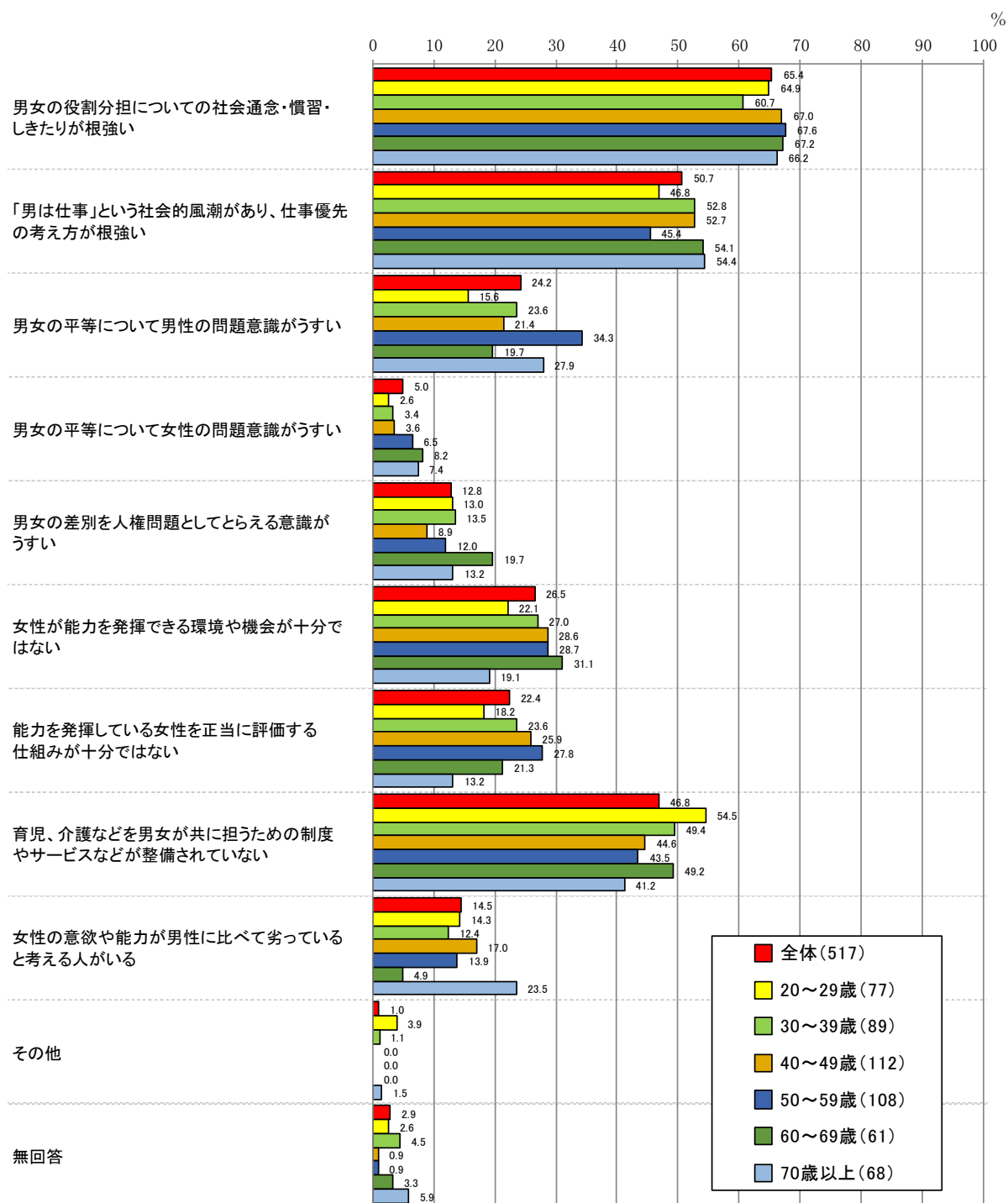
【全体】

「男女の役割分担についての社会通念・慣習・しきたりが根強い」の割合が65.4%と最も高く、次いで「『男は仕事』という社会的風潮があり、仕事優先の考え方が根強い」の割合が50.7%、「育児、介護などを男女が共に担うための制度やサービスなどが整備されていない」の割合が46.8%となっています。

【性別】

性別でみると、女性に比べ、男性で「『男は仕事』という社会的風潮があり、仕事優先の考え方が根強い」の割合が高く、5割台半ばとなっています。また、男性に比べ、女性で「育児、介護などを男女が共に担うための制度やサービスなどが整備されていない」の割合が高く、約5割となっています。

【年齢別】



【年齢別】

年齢別でみると、他に比べ、50～59歳で「男女の平等について男性の問題意識がうすい」の割合が高く、3割台半ばとなっています。また、70歳以上で「女性の意欲や能力が男性に比べて劣っていると思う人がいる」の割合が高く、約2割となっています。

【前回調査（平成 25 年度）との比較】

単位：％

	有効回答数（件）	男女の役割分担についての社会通念・慣習・しきたりが根強い	「男は仕事」という社会的風潮があり、仕事優先の考え方が根強い	男女の平等について男性の課題意識がうすい	男女の平等について女性の課題意識がうすい	男女の差別を人権問題としてとらえる意識がうすい	女性が能力を発揮できる環境や機会が十分ではない	能力を発揮している女性を正當に評価する仕組みが十分ではない	育児、介護などを男女が共に担うための制度やサービスなどが整備されていない
令和2年度調査	517	65.4	50.7	24.2	5.0	12.8	26.5	22.4	46.8
平成 25 年度調査	459	66.0	58.2	20.7	5.7	12.9	32.0	24.8	50.5

	女性の意欲や能力が男性に比べて劣っていると考える人がいる	その他	無回答
令和2年度調査	14.5	1.0	2.9
平成 25 年度調査	12.6	0.9	2.0

平成 25 年度調査と比較すると、「『男は仕事』という社会的風潮があり、仕事優先の考え方が根強い」が 7.5 ポイント、「女性が能力を発揮できる環境や機会が十分ではない」が 5.5 ポイント減少しています。

問2 あなたは、次のA～Iのそれぞれの用語についてご存知ですか。
(それぞれ1つに○)

【全 体】

『セクハラ（セクシャル・ハラスメント）』『DV（ドメスティック・バイオレンス）』で「よく知っている」と「少しは知っている」をあわせた“知っている”の割合が高く、約9割となっています。また、『男女雇用機会均等法』では“知っている”の割合が5割を超えています。

一方、『女子差別撤廃条約』『ポジティブ・アクション（積極的改善措置）』で「知らない」の割合が高く、5割を超えています。

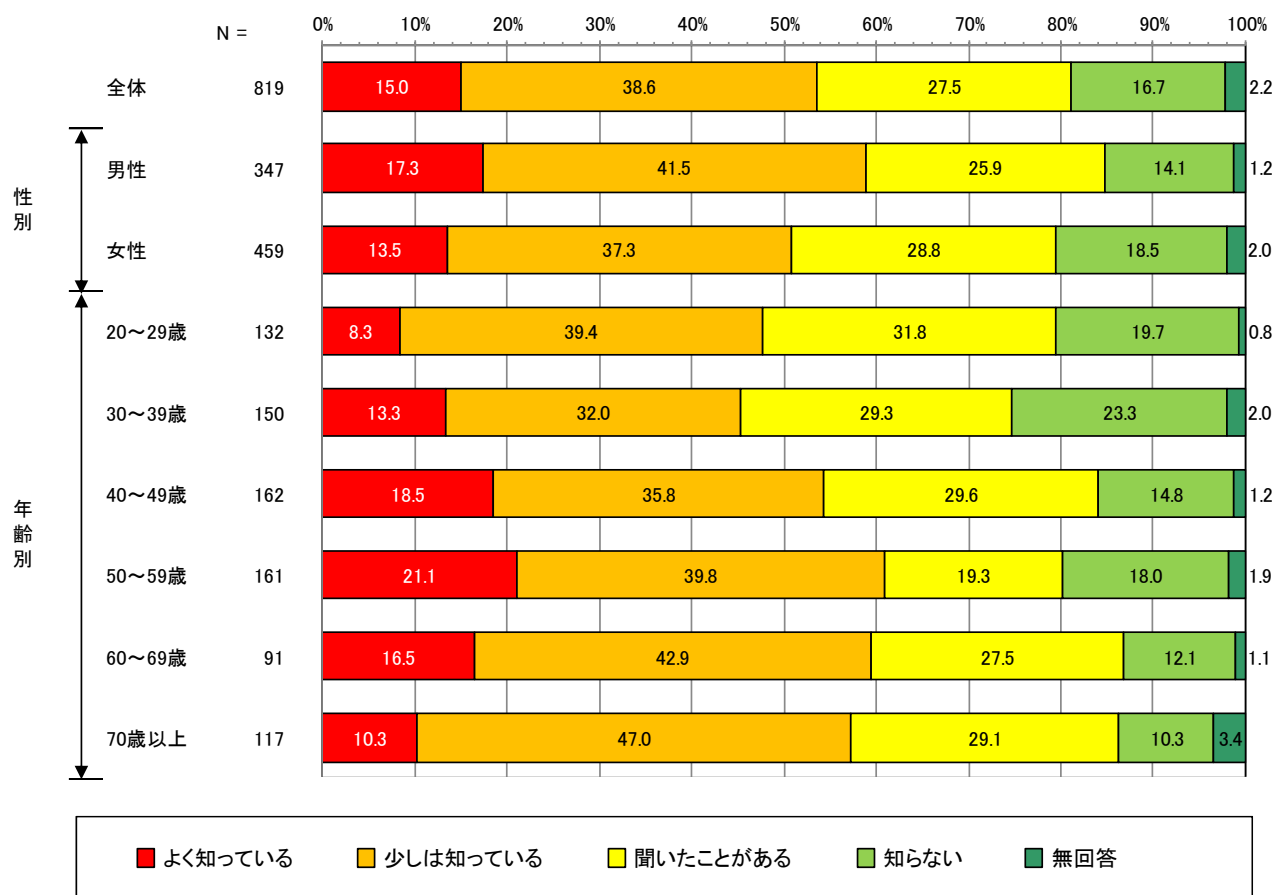
【性 別】

性別でみると、多くの項目で男女での差異は小さいものの、『男女雇用機会均等法』では男性で、『ジェンダー』では女性で“知っている”の割合が高くなっています。

【年齢別】

年齢別でみると、他に比べ、40～49歳、50～59歳で『女子差別撤廃条約』の認知度が低く、40～49歳では『ポジティブ・アクション（積極的改善措置）』の認知度が低くなっています。

A. 男女雇用機会均等法



【全 体】

「よく知っている」と「少しは知っている」をあわせた“知っている”の割合が 53.6%、「聞いたことがある」の割合が 27.5%、「知らない」の割合が 16.7%となっています。

【性 別】

性別でみると、女性に比べ、男性で“知っている”の割合が高く、約 6 割となっています。

【年齢別】

年齢別でみると、49 歳以下に比べ、50 歳以上で“知っている”の割合が高く、約 6 割となっています。

また、20～29 歳、30～39 歳で「知らない」の割合が高く、約 2 割となっています。

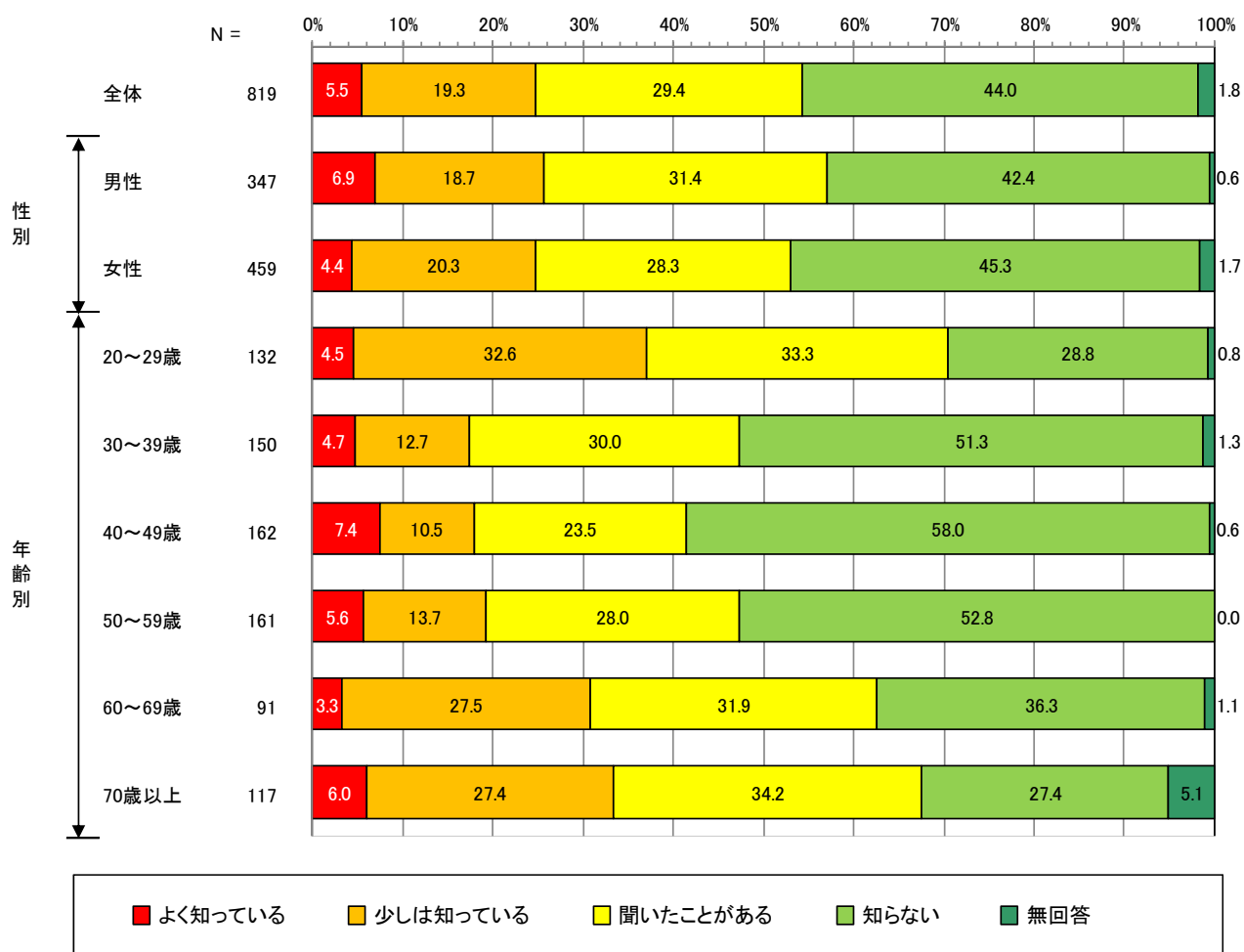
【前回調査（平成 25 年度）との比較】

単位：％

	有効回答数 (件)	よく知っている	少しは知っている	聞いたことがある	知らない	無回答
令和2年度調査	819	15.0	38.6	27.5	16.7	2.2
平成 25 年度調査	705	24.0	37.7	22.4	13.9	2.0

平成 25 年度調査と比較すると、“知っている”が 8.1 ポイント減少し、「聞いたことがある」が 5.1 ポイント増加しています。

B. 男女共同参画社会基本法



【全 体】

“知っている”の割合が24.8%、「聞いたことがある」の割合が29.4%、「知らない」の割合が44.0%となっています。

【性 別】

性別でみると、男女で大きな差異はみられません。

【年齢別】

年齢別でみると、他に比べ、20～29歳で“知っている”の割合が高く、約4割となっています。また、40～49歳で「知らない」の割合が高く、約6割となっています。

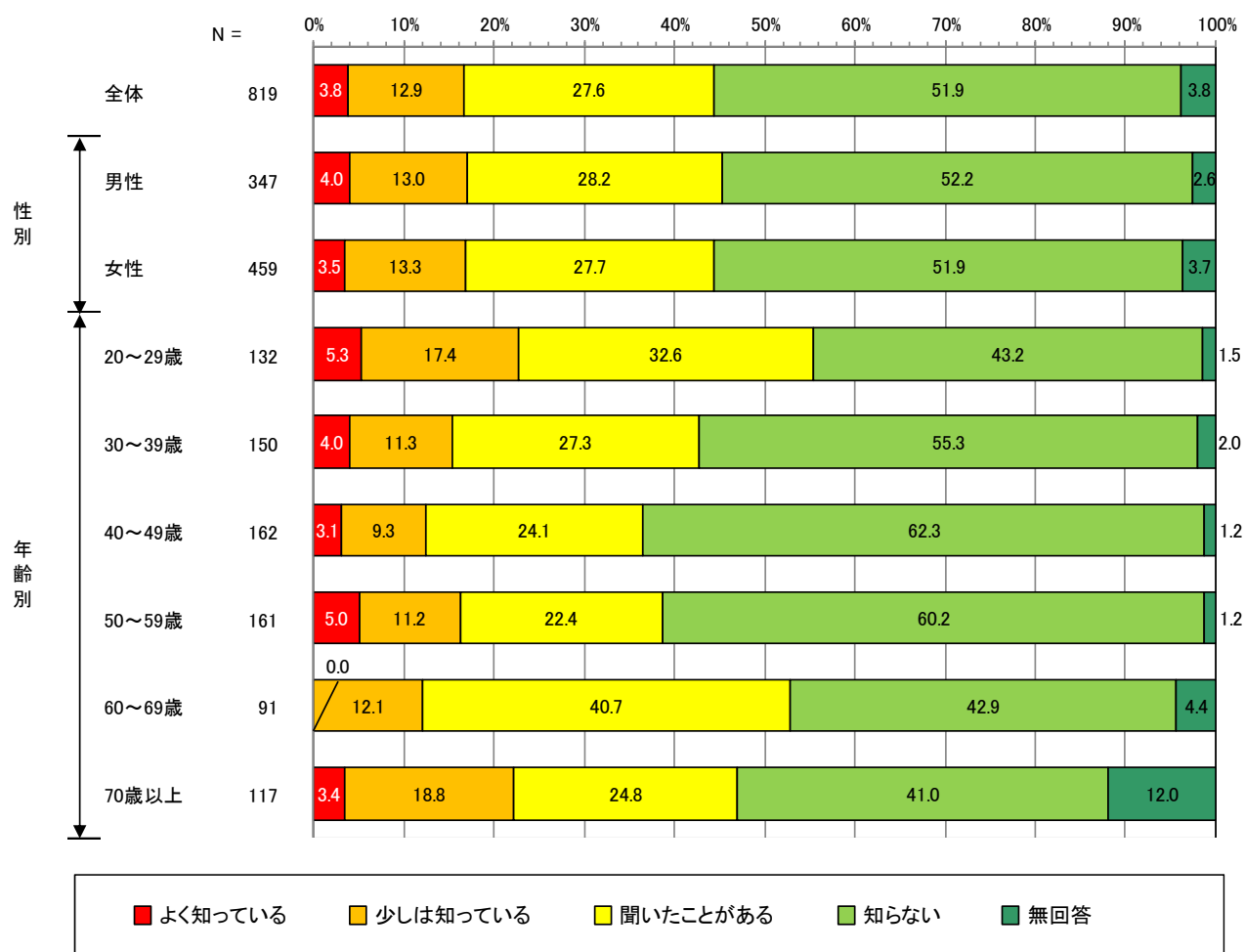
【前回調査（平成 25 年度）との比較】

単位：％

	有効 回答数 (件)	よく 知っている	少しは 知っている	聞いた ことがある	知らない	無 回答
令和2年度調査	819	5.5	19.3	29.4	44.0	1.8
平成 25 年度調査	705	6.4	17.6	30.9	42.7	2.4

平成 25 年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。

C. 女子差別撤廃条約



【全 体】

“知っている”の割合が16.7%、「聞いたことがある」の割合が27.6%、「知らない」の割合が51.9%となっています。

【性 別】

性別でみると、男女で大きな差異はみられません。

【年齢別】

年齢別でみると、他に比べ、20～29歳で“知っている”の割合が高く、約2割となっています。また、40～49歳、50～59歳で「知らない」の割合が高く、約6割となっています。

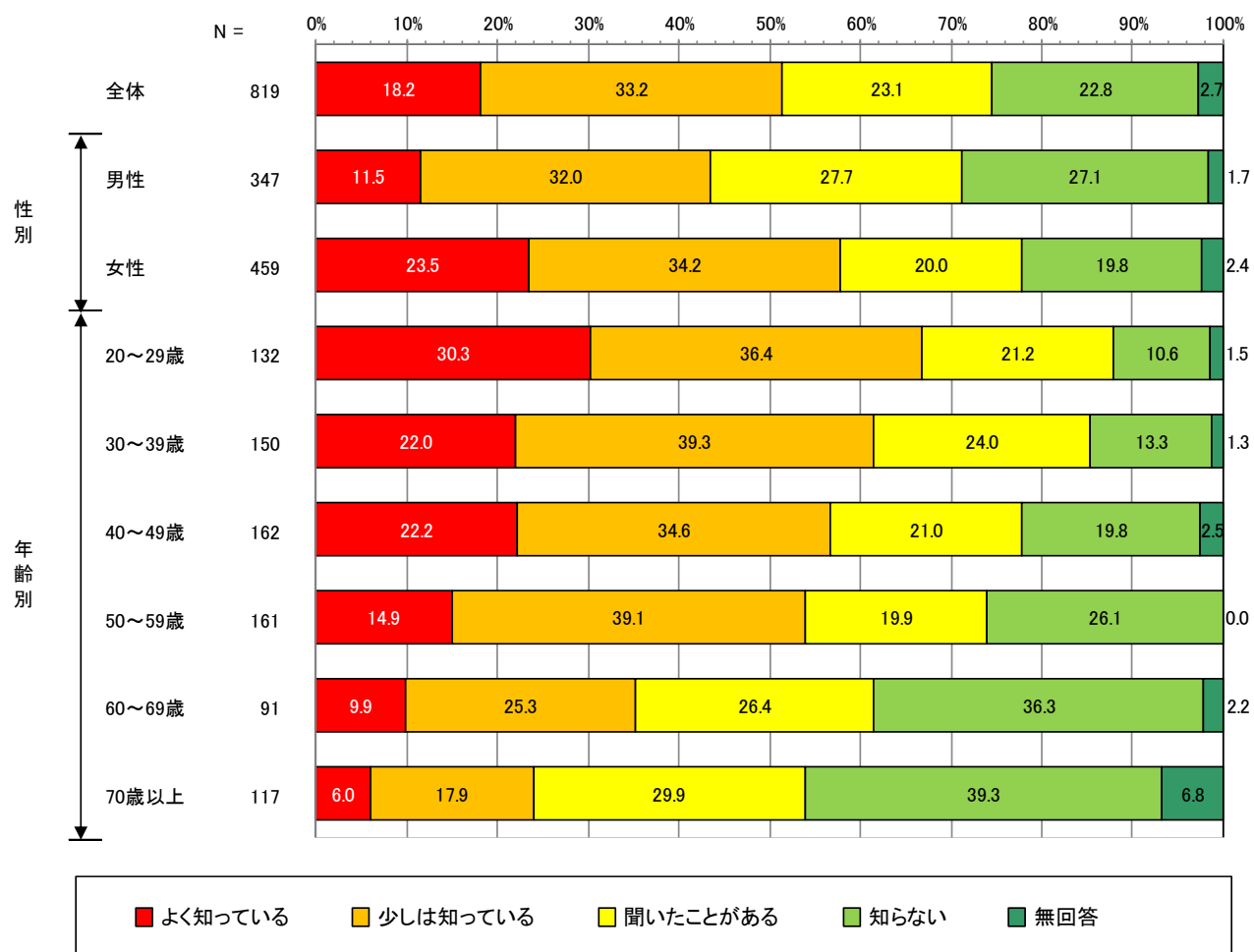
【前回調査（平成 25 年度）との比較】

単位：％

	有効回答数 (件)	よく知っている	少しは知っている	聞いたことがある	知らない	無回答
令和2年度調査	819	3.8	12.9	27.6	51.9	3.8
平成 25 年度調査	705	3.1	14.0	27.5	52.9	2.4

平成 25 年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。

D. ジェンダー（社会的・文化的につくられた性別）



【全 体】

“知っている”の割合が51.4%、「聞いたことがある」の割合が23.1%、「知らない」の割合が22.8%となっています。

【性 別】

性別でみると、女性に比べ、男性で「聞いたことがある」「知らない」の割合が高くなっています。また、男性に比べ、女性で“知っている”の割合が高く、約6割となっています。

【年齢別】

年齢別でみると、年齢が低くなるにつれ“知っている”の割合が高くなる傾向がみられ、20～29歳で6割台半ばとなっています。

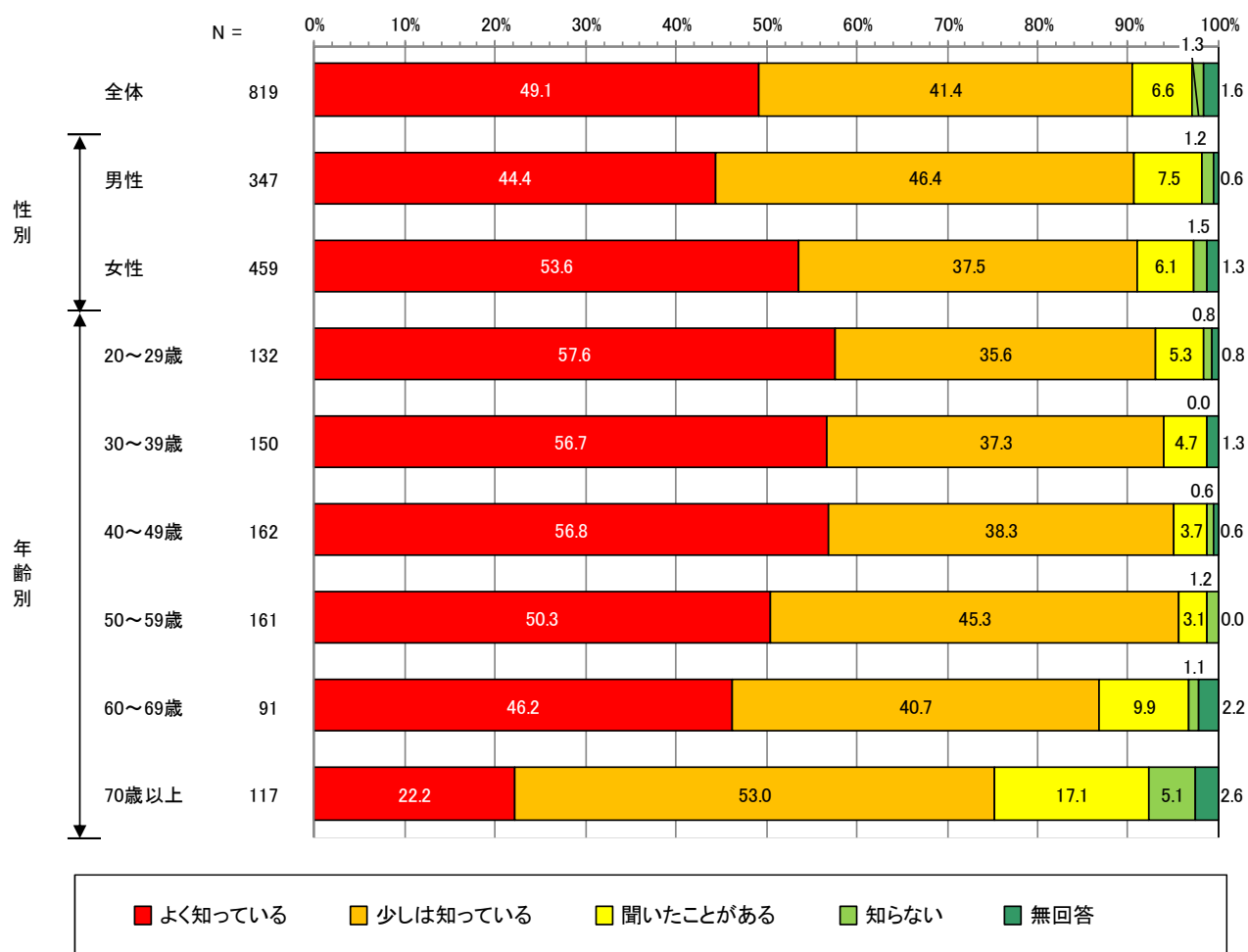
【前回調査（平成 25 年度）との比較】

単位：％

	有効回答数 (件)	よく知っている	少しは知っている	聞いたことがある	知らない	無回答
令和2年度調査	819	18.2	33.2	23.1	22.8	2.7
平成 25 年度調査	705	7.8	12.9	17.9	56.6	4.8

平成 25 年度調査と比較すると、「知らない」が 33.8 ポイント減少し、“知っている”が 30.7 ポイント、「聞いたことがある」が 5.2 ポイント増加しています。

E. セクハラ（セクシャル・ハラスメント）



【全 体】

“知っている”の割合が90.5%、「聞いたことがある」の割合が6.6%、「知らない」の割合が1.3%となっています。

【性 別】

性別でみると、男女で大きな差異はみられません。

【年齢別】

年齢別でみると、59歳以下に比べ、60歳以上で“知っている”の割合が低く、70歳以上で7割台半ばとなっています。

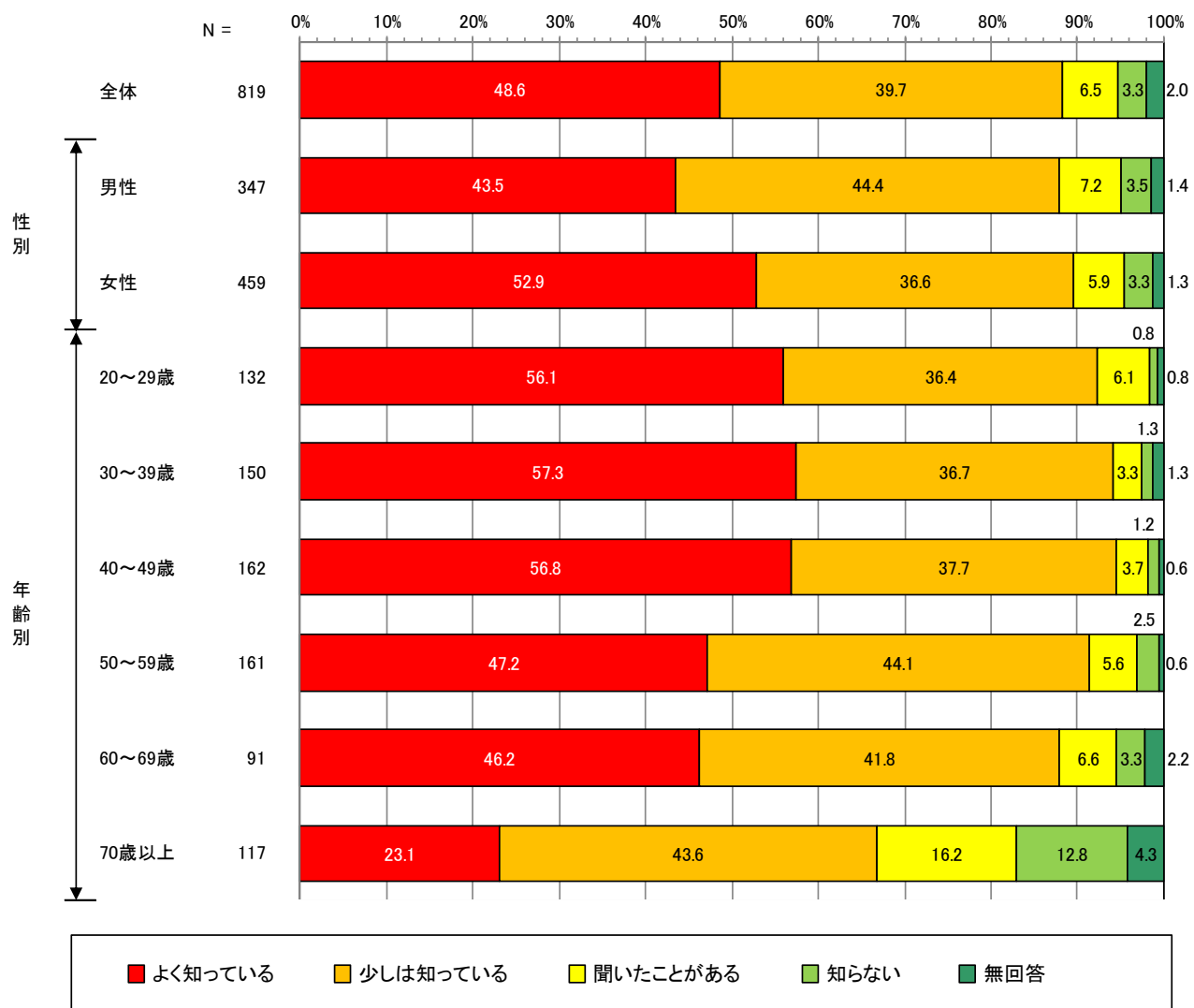
【前回調査（平成 25 年度）との比較】

単位：％

	有効回答数 (件)	よく知っている	少しは知っている	聞いたことがある	知らない	無回答
令和2年度調査	819	49.1	41.4	6.6	1.3	1.6
平成 25 年度調査	705	60.0	32.5	4.8	1.0	1.7

平成 25 年度調査と比較すると、「よく知っている」が 10.9 ポイント減少し、「少しは知っている」が 8.9 ポイント増加しています。

F. DV（ドメスティック・バイオレンス）



【全 体】

“知っている”の割合が88.3%、「聞いたことがある」の割合が6.5%、「知らない」の割合が3.3%となっています。

【性 別】

性別でみると、男女で大きな差異はみられません。

【年齢別】

年齢別でみると、69歳以下に比べ、70歳以上で“知っている”の割合が低く、6割台半ばとなっています。

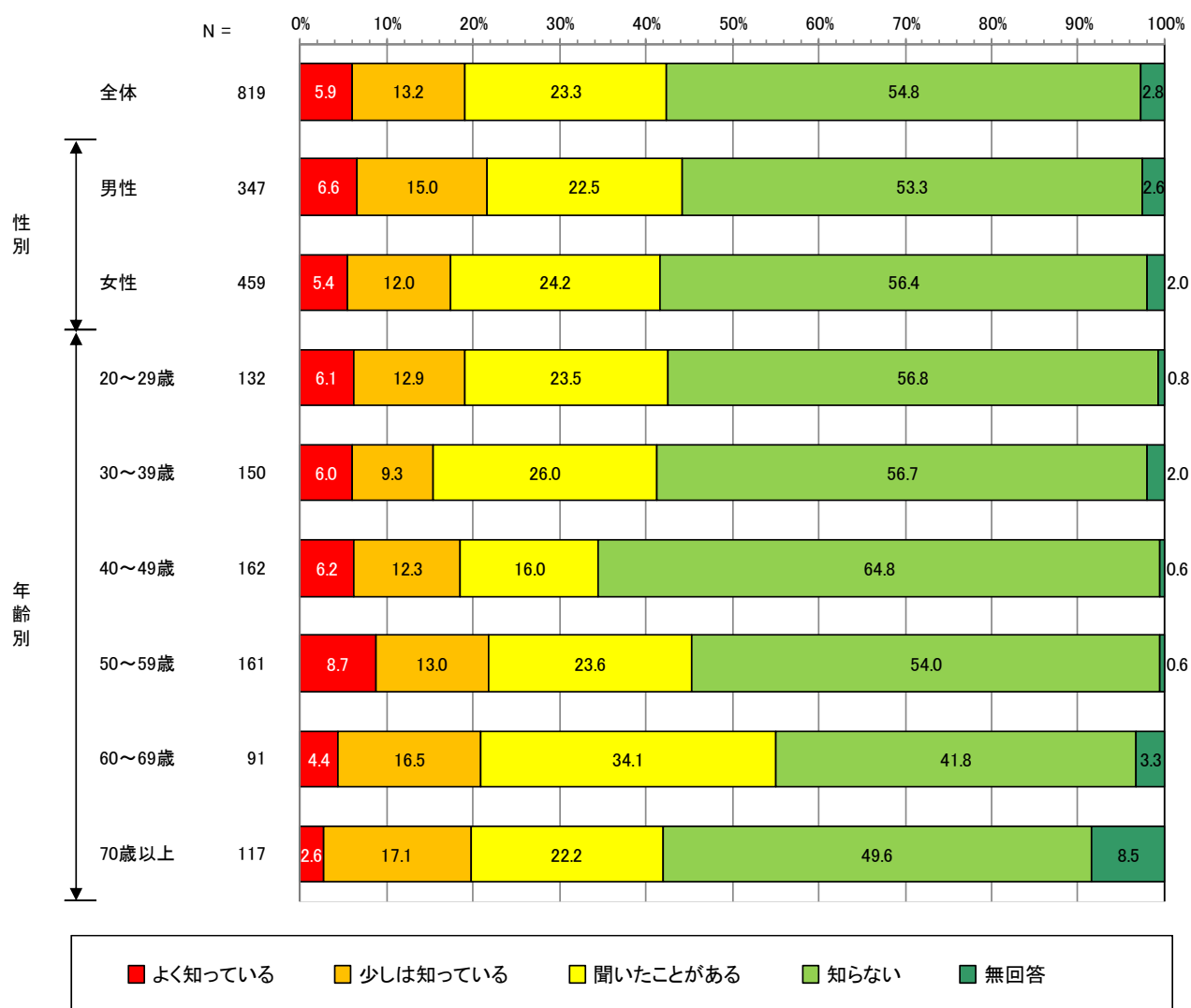
【前回調査（平成 25 年度）との比較】

単位：％

	有効回答数 (件)	よく知っている	少しは知っている	聞いたことがある	知らない	無回答
令和2年度調査	819	48.6	39.7	6.5	3.3	2.0
平成 25 年度調査	705	56.7	31.2	6.7	3.7	1.7

平成 25 年度調査と比較すると、「よく知っている」が 8.1 ポイント減少し、「少しは知っている」が 8.5 ポイント増加しています。

G. ポジティブ・アクション（積極的改善措置）



【全 体】

“知っている”の割合が19.1%、「聞いたことがある」の割合が23.3%、「知らない」の割合が54.8%となっています。

【性 別】

性別でみると、男女で大きな差異はみられません。

【年齢別】

年齢別でみると、他に比べ、40～49歳で「知らない」の割合が高く、6割台半ばとなっています。

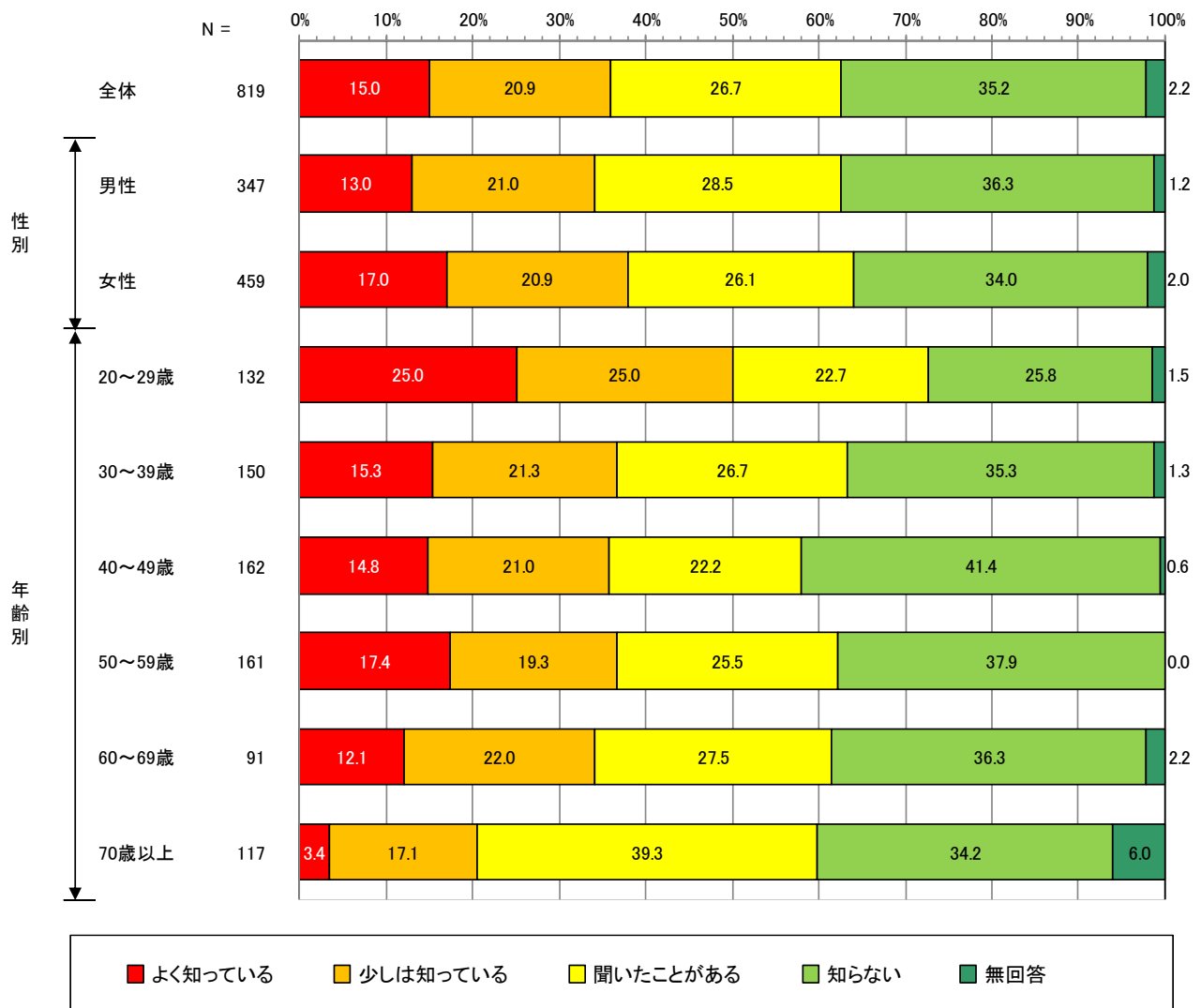
【前回調査（平成 25 年度）との比較】

単位：％

	有効回答数 (件)	よく知っている	少しは知っている	聞いたことがある	知らない	無回答
令和2年度調査	819	5.9	13.2	23.3	54.8	2.8
平成 25 年度調査	705	7.5	11.3	24.0	54.2	3.0

平成 25 年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。

H. ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）



【全 体】

“知っている”の割合が35.9%、「聞いたことがある」の割合が26.7%、「知らない」の割合が35.2%となっています。

【性 別】

性別でみると、男女で大きな差異はみられません。

【年齢別】

年齢別でみると、他に比べ、20～29歳で“知っている”の割合が高く、5割となっています。また、40～49歳、50～59歳で「知らない」の割合が高く、約4割となっています。

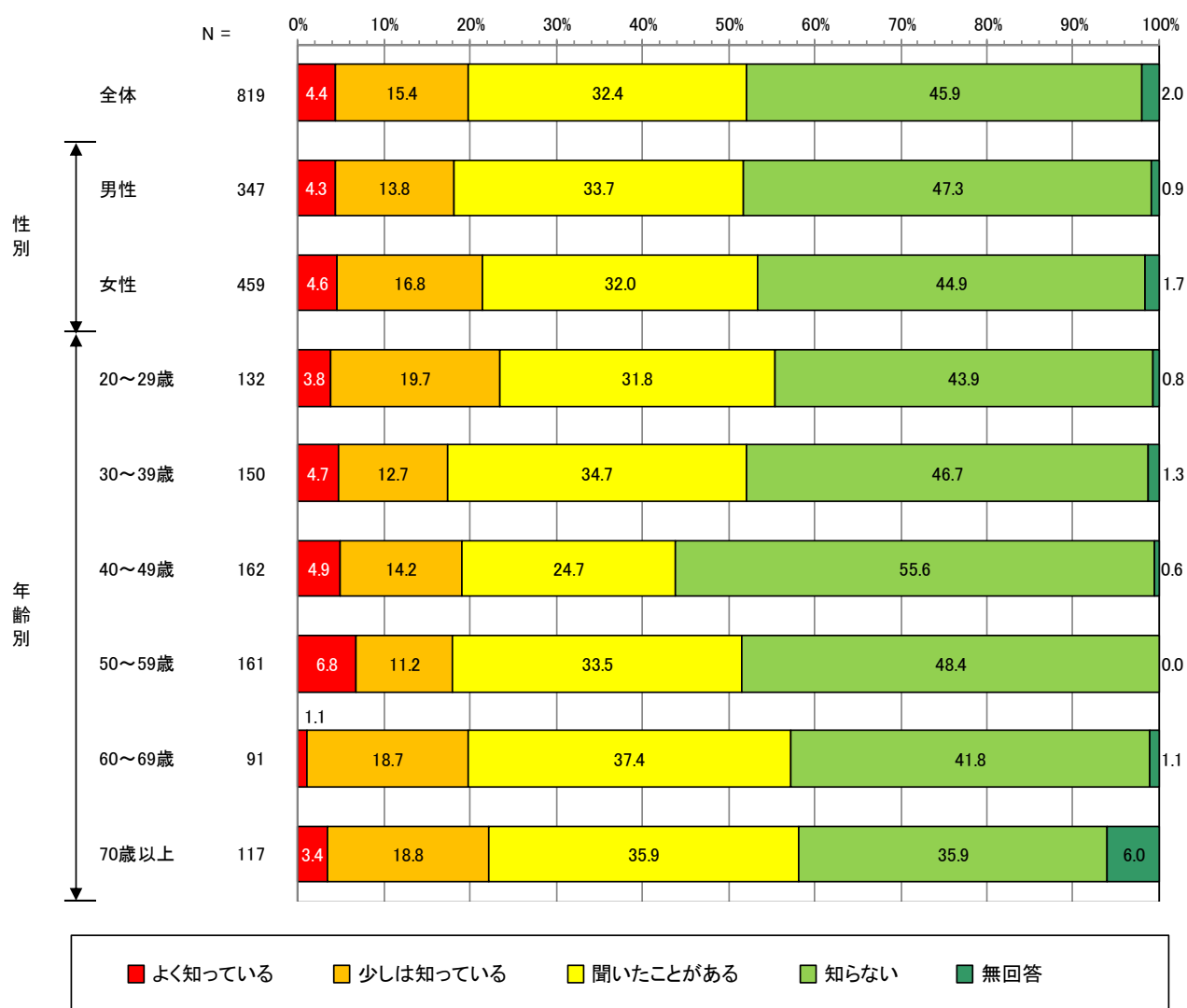
【前回調査（平成 25 年度）との比較】

単位：％

	有効回答数 (件)	よく知っている	少しは知っている	聞いたことがある	知らない	無回答
令和2年度調査	819	15.0	20.9	26.7	35.2	2.2
平成 25 年度調査	705	9.9	16.2	27.5	43.7	2.7

平成 25 年度調査と比較すると、「知らない」が 8.5 ポイント減少し、“知っている”が 9.8 ポイント増加しています。

I. 女性活躍推進法



【全 体】

“知っている”の割合が19.8%、「聞いたことがある」の割合が32.4%、「知らない」の割合が45.9%となっています。

【性 別】

性別でみると、男女で大きな差異はみられません。

【年齢別】

年齢別でみると、他に比べ、40～49歳で「知らない」の割合が高く、5割台半ばとなっています。

3 男女の役割分担について

問3 次に掲げる考え方について、あなたはどのように思いますか。（それぞれ1つに○）

【全 体】

『男は仕事、女は家庭』では、「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」をあわせた“そう思わない”の割合が高く、約6割となっています。

また、『性別にかかわらず、個性と能力を重視したほうがよい』『性別にかかわらず、家事をこなしたり、職業技術を身につけることが必要である』では、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」をあわせた“そう思う”の割合が高く、約9割となっています。

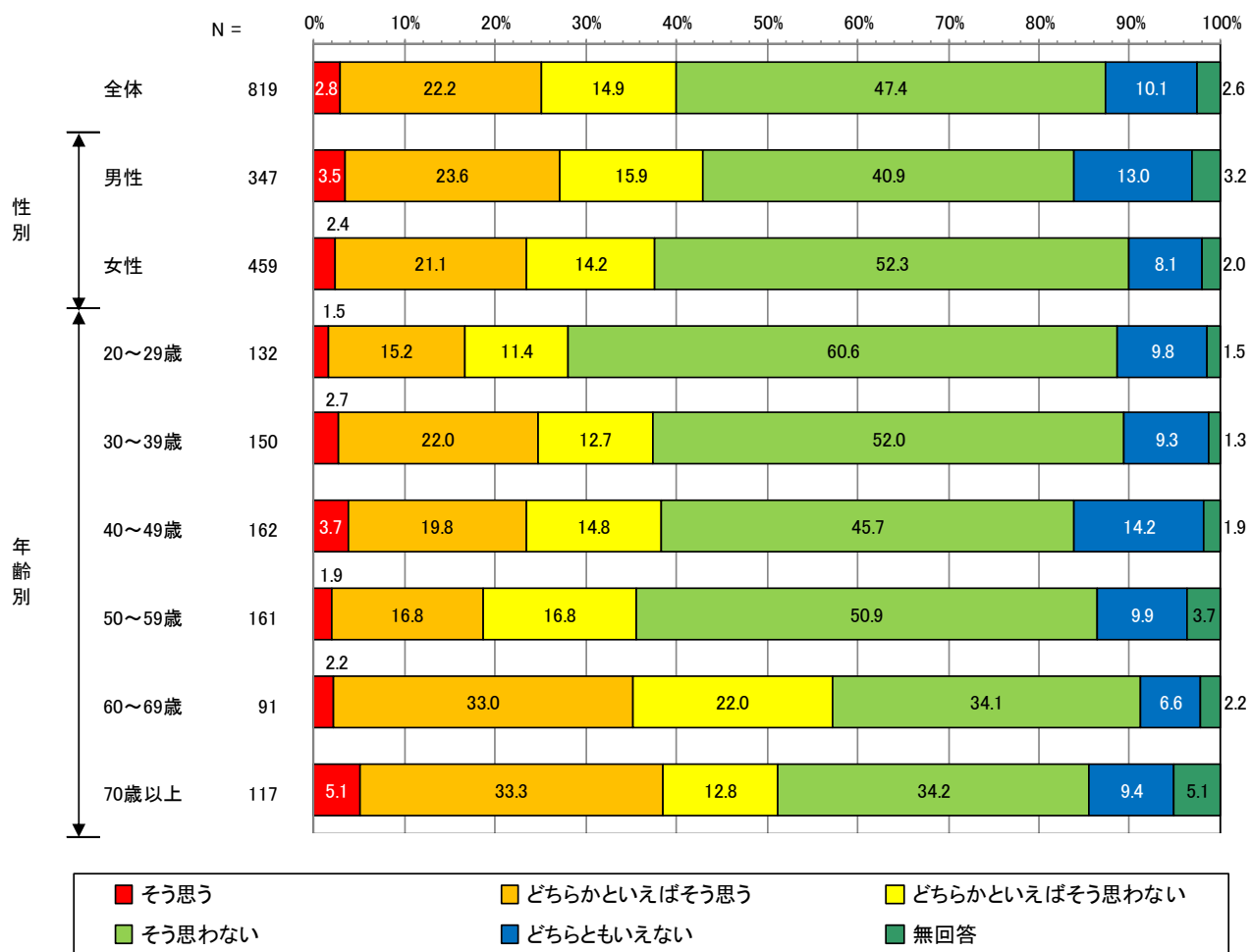
【性 別】

性別でみると、『性別にかかわらず、個性と能力を重視したほうがよい』では、性別による差は小さい一方、女性では『男は仕事、女は家庭』での“そう思わない”の割合が、『性別にかかわらず、家事をこなしたり、職業技術を身につけることが必要である』では“そう思う”の割合が高くなっています。

【年齢別】

年齢別でみると、『男は仕事、女は家庭』では、年齢が高くなるにつれ“そう思う”の割合が高くなる傾向がみられます。一方、『性別にかかわらず、個性と能力を重視したほうがよい』『性別にかかわらず、家事をこなしたり、職業技術を身につけることが必要である』では、年齢が低くなるにつれ“そう思う”の割合が高くなっています。

A. 男は仕事、女は家庭



【全 体】

「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」をあわせた“そう思う”の割合が25.0%、「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」をあわせた“そう思わない”の割合が62.3%、「どちらともいえない」の割合が10.1%となっています。

【性 別】

性別でみると、男性に比べ、女性で“そう思わない”の割合が高く、6割台半ばとなっています。

【年齢別】

年齢別でみると、年齢が高くなるにつれ“そう思う”の割合が高くなる傾向がみられ、70歳以上で約4割となっています。また、他に比べ、20～29歳、50～59歳で“そう思わない”の割合が高く、約7割となっています。

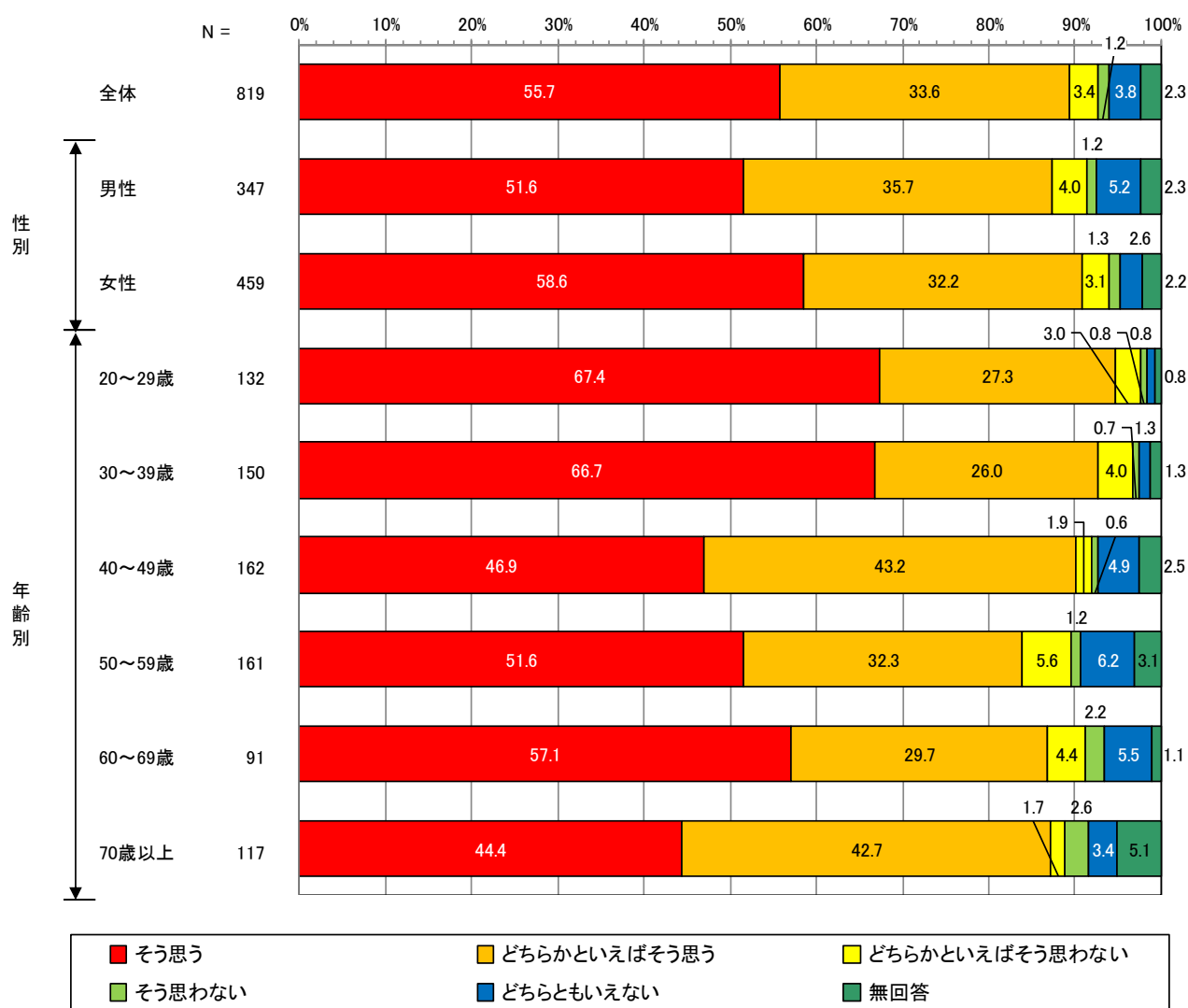
【前回調査（平成 25 年度）との比較】

単位：％

	有効回答数 (件)	そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらかといえば そう思わない	そう思わない	どちらとも いえない	無回答
令和2年度調査	819	2.8	22.2	14.9	47.4	10.1	2.6
平成 25 年度調査	705	3.5	28.8	11.3	40.1	14.8	1.4

平成 25 年度調査と比較すると、“そう思う”が 7.3 ポイント減少し、“そう思わない”が 10.9 ポイント増加しています。

B. 性別にかかわらず、個性と能力を重視したほうがよい



【全 体】

「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」をあわせた“そう思う”の割合が 89.3%、「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」をあわせた“そう思わない”の割合が 4.6%、「どちらともいえない」の割合が 3.8%となっています。

【性 別】

性別でみると、男女で大きな差異はみられません。

【年齢別】

年齢別でみると、他に比べ、20~29歳で“そう思う”の割合が高く、9割台半ばとなっています。

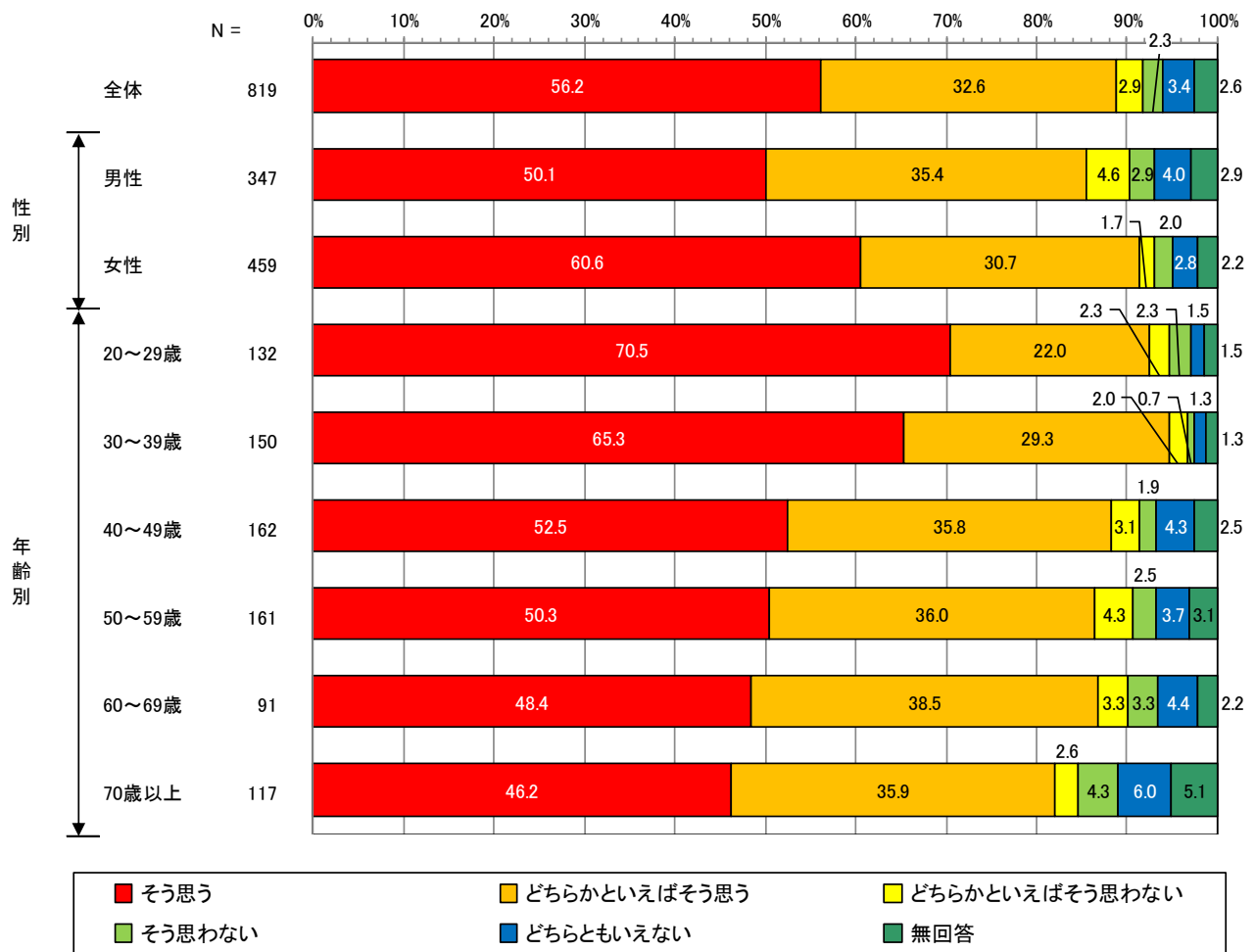
【前回調査（平成 25 年度）との比較】

単位：％

	有効回答数 (件)	そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらかといえば そう思わない	そう思わない	どちらとも いえない	無回答
令和2年度調査	819	55.7	33.6	3.4	1.2	3.8	2.3
平成 25 年度調査	705	54.6	34.6	3.4	0.9	4.8	1.7

平成 25 年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。

C. 性別にかかわらず、家事をこなしたり、職業技術を身につけることが必要である



【全 体】

「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」をあわせた“そう思う”の割合が88.8%、「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」をあわせた“そう思わない”の割合が5.2%、「どちらともいえない」の割合が3.4%となっています。

【性 別】

性別でみると、男性に比べ、女性で“そう思う”の割合が高く、約9割となっています。

【年齢別】

年齢別でみると、年齢が低くなるにつれ“そう思う”の割合が高くなる傾向がみられ、20~29歳、30~39歳で9割を超えています。

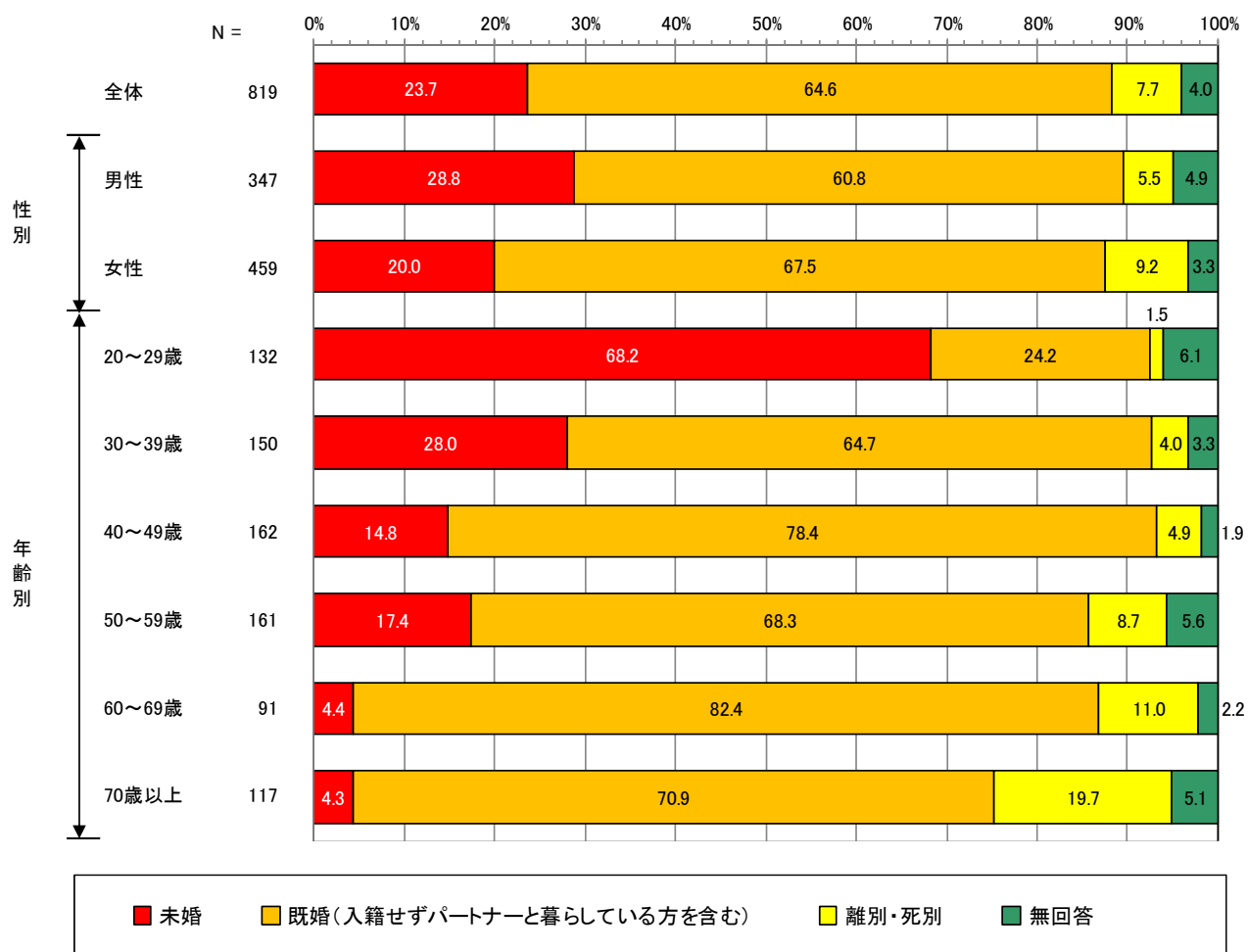
【前回調査（平成 25 年度）との比較】

単位：％

	有効回答数 (件)	そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらかといえば そう思わない	そう思わない	どちらとも いえない	無回答
令和2年度調査	819	56.2	32.6	2.9	2.3	3.4	2.6
平成 25 年度調査	705	48.5	40.7	4.5	1.4	3.7	1.1

平成 25 年度調査と比較すると、「そう思う」が 7.7 ポイント増加し、「どちらかといえばそう思う」が 8.1 ポイント減少しています。

問4 あなたは結婚されていますか。(1つに○)



【全 体】

「既婚(入籍せずパートナーと暮らしている方を含む)」の割合が64.6%と最も高く、次いで「未婚」の割合が23.7%となっています。

【性 別】

性別でみると、女性に比べ、男性で「未婚」の割合が高く、約3割となっています。また、男性に比べ、女性で「既婚(入籍せずパートナーと暮らしている方を含む)」の割合が高く、約7割となっています。

【年齢別】

年齢別でみると、他に比べ、60～69歳で「既婚(入籍せずパートナーと暮らしている方を含む)」の割合が高く、約8割となっています。

【前回調査（平成 25 年度）との比較】

単位：％

	有効回答数 (件)	未婚	既婚（入籍せずパートナーと暮らしている方を含む）	離別・死別	無回答
令和2年度調査	819	23.7	64.6	7.7	4.0
平成 25 年度調査	705	22.6	67.0	8.1	2.4

平成 25 年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。

問4で「既婚」と回答した方のみお答えください。

問4－1 あなたの家庭では、次のA～Lのそれぞれの項目について、どなたの役割になっていますか。（それぞれ1つに○）

【全 体】

『地域行事などへの参加』では「主に夫」の割合が最も高く、『子どもの勉強やしつけ』では「家族で分担」の割合が最も高いものの、その他のすべての項目では「主に妻」の割合が高くなっており、特に『食事のしたく』では約8割となっています。

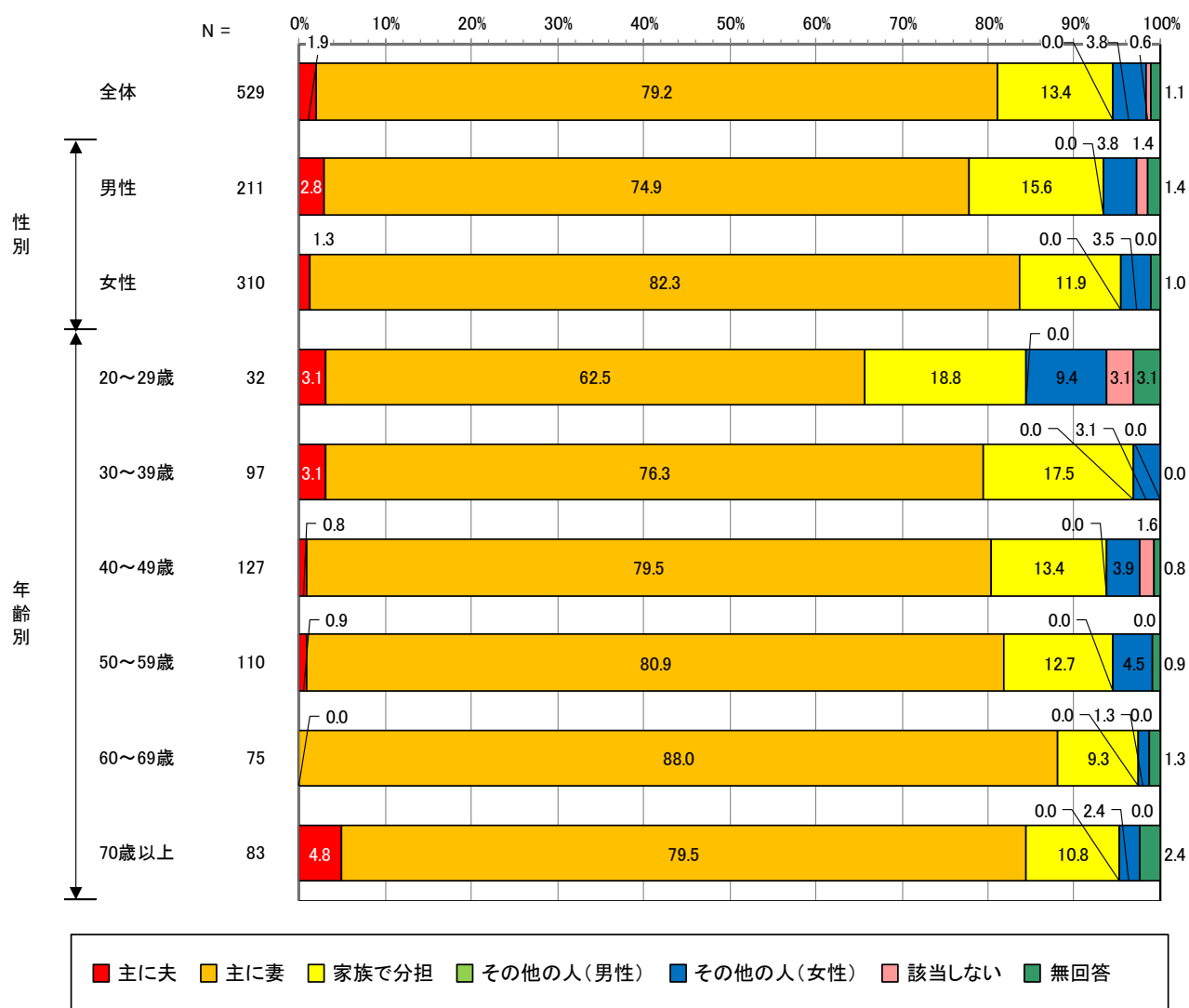
【性 別】

性別でみると、すべての項目で、男性に比べ、女性で「主に妻」の割合が高くなっています。

【年 齢 別】

年齢別でみると、『食事の後片付け』『洗濯』で50～59歳、60～69歳で「主に妻」の割合が高くなっています。また、子育て世代である30～39歳、40～49歳では『子どもの勉強やしつけ』『学校行事への参加』で「主に妻」の割合が高くなっています。

A. 食事のしたく



【全 体】

「主に妻」の割合が 79.2%と最も高く、次いで「家族で分担」の割合が 13.4%となっています。

【性 別】

性別でみると、男性に比べ、女性で「主に妻」の割合が高く、約 8 割となっています。

【年 齢 別】

年齢別でみると、69 歳以下で年齢が高くなるにつれ「主に妻」の割合が高くなる傾向がみられ、60～69 歳で約 9 割となっています。また、他に比べ、20～29 歳、30～39 歳で「家族で分担」の割合が高く、約 2 割となっています。

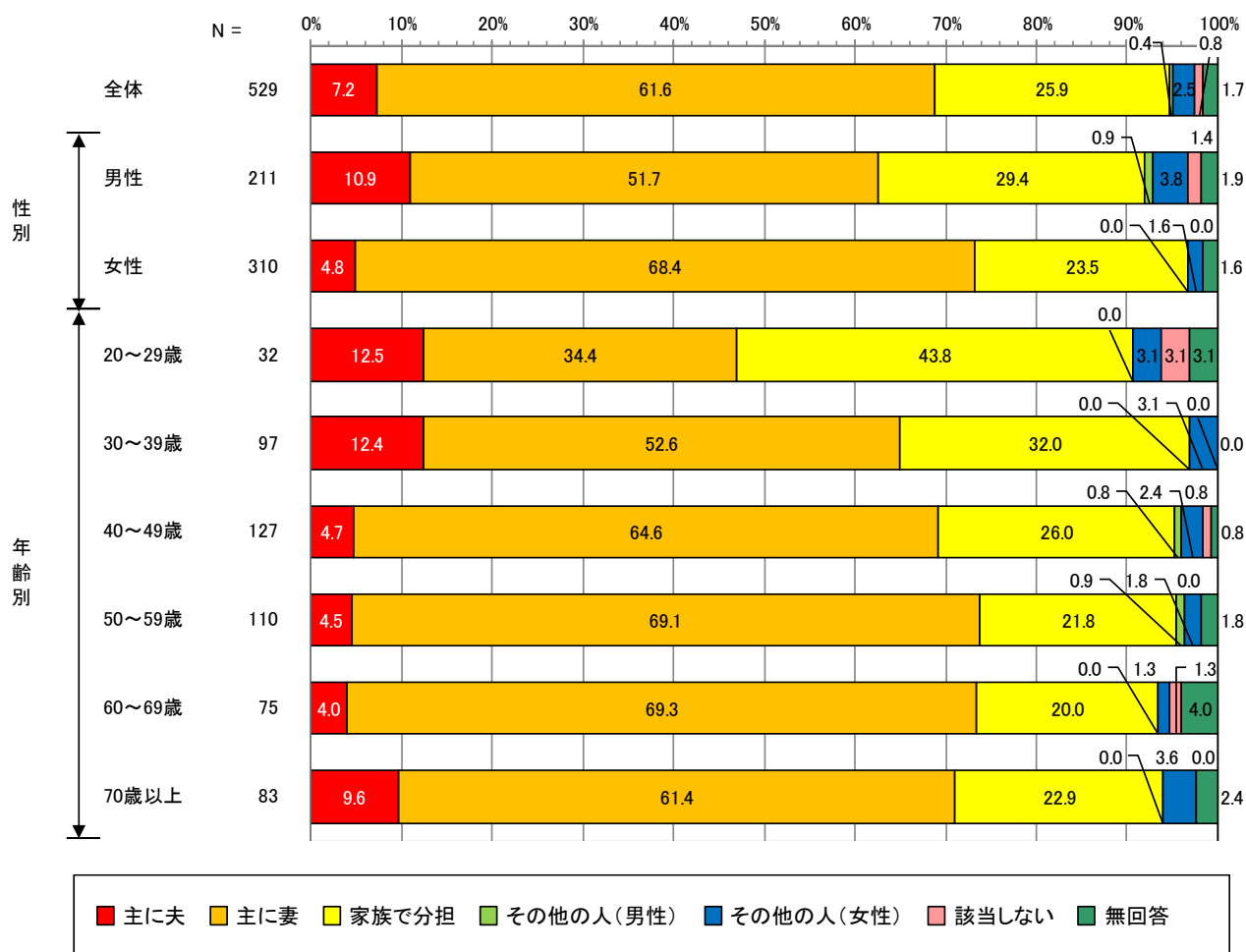
【前回調査（平成 25 年度）との比較】

単位：％

	有効回答数 (件)	主に夫	主に妻	家族で分担	その他の人 (男性)	その他の人 (女性)	該当しない	無回答
令和2年度調査	529	1.9	79.2	13.4	—	3.8	0.6	1.1
平成 25 年度調査	473	1.7	85.6	11.4	—	4.0	0.2	—

平成 25 年度調査と比較すると、「主に妻」が 6.4 ポイント減少しています。

B. 食事の後片付け



【全 体】

「主に妻」の割合が 61.6%と最も高く、次いで「家族で分担」の割合が 25.9%となっています。

【性 別】

性別でみると、女性に比べ、男性で「主に夫」「家族で分担」の割合が高くなっています。また、男性に比べ、女性で「主に妻」の割合が高く、約 7 割となっています。

【年齢別】

年齢別でみると、他に比べ、50～59 歳、60～69 歳で「主に妻」の割合が高く、約 7 割となっています。また、20～29 歳で「家族で分担」の割合が高く、約 4 割となっています。

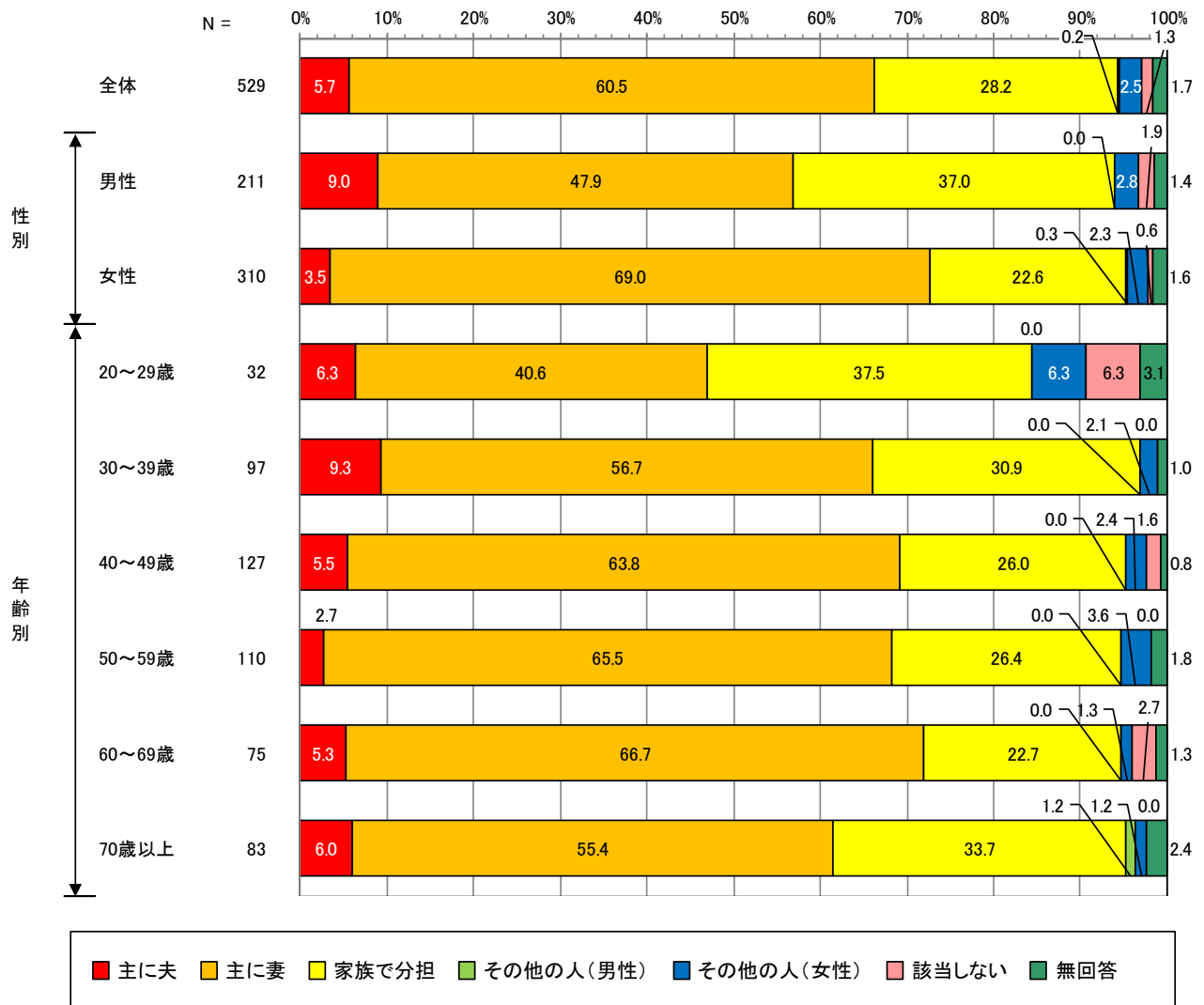
【前回調査（平成 25 年度）との比較】

単位：％

	有効回答数 (件)	主に夫	主に妻	家族で 分担	その他の人 (男性)	その他の人 (女性)	該当しない	無回答
令和2年度調査	529	7.2	61.6	25.9	0.4	2.5	0.8	1.7
平成 25 年度調査	473	3.4	75.1	22.2	0.2	2.1	0.2	—

平成 25 年度調査と比較すると、「主に妻」が 13.5 ポイント減少しています。

C. 掃除



【全 体】

「主に妻」の割合が 60.5%と最も高く、次いで「家族で分担」の割合が 28.2%となっています。

【性 別】

性別でみると、女性に比べ、男性で「主に夫」「家族で分担」の割合が高くなっています。また、男性に比べ、女性で「主に妻」の割合が高く、約 7 割となっています。

【年齢別】

年齢別でみると、他に比べ、20～29 歳で「家族で分担」の割合が高く、約 4 割となっています。

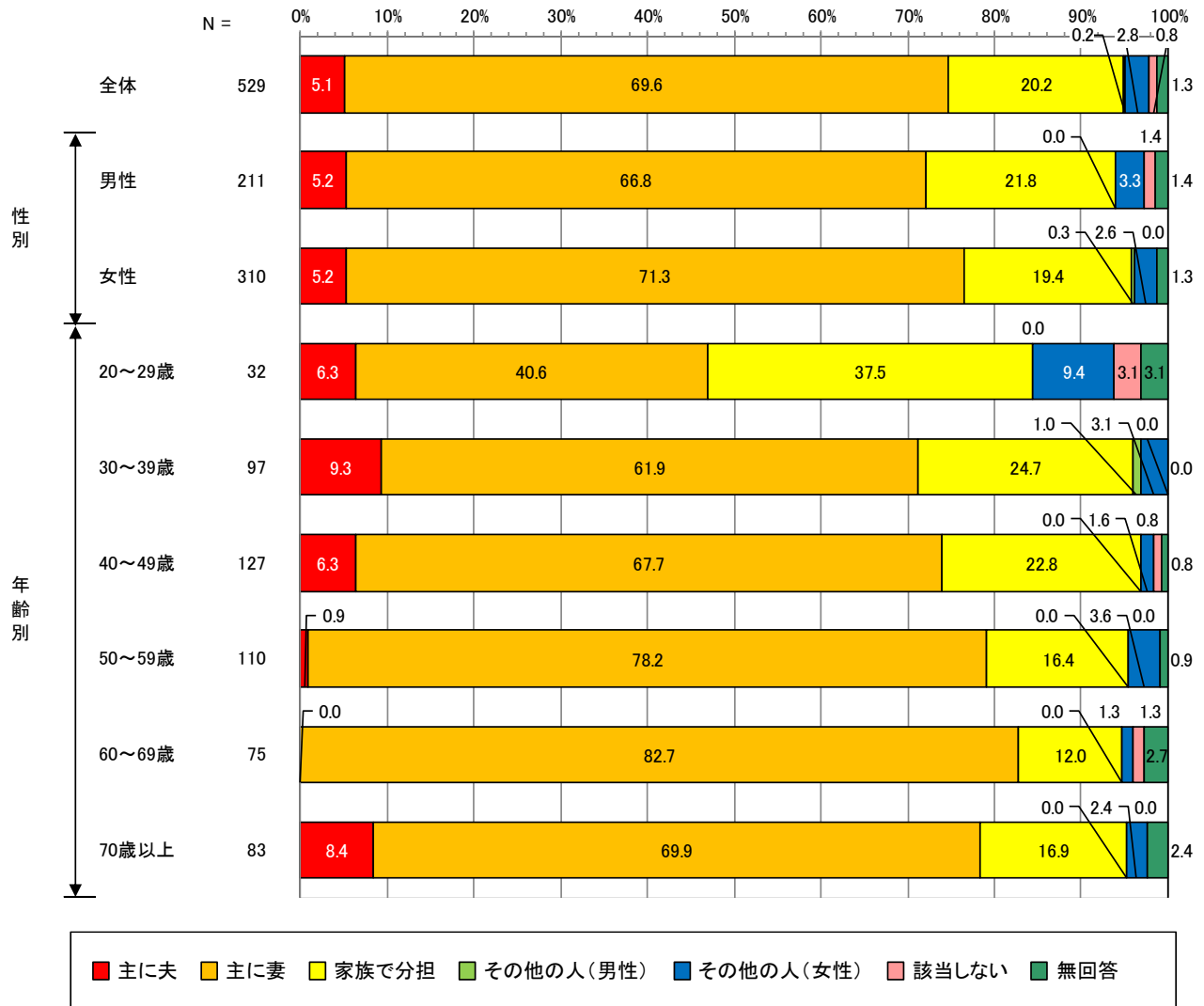
【前回調査（平成 25 年度）との比較】

単位：％

	有効回答数 (件)	主に夫	主に妻	家族で分担	その他の人 (男性)	その他の人 (女性)	該当しない	無回答
令和2年度調査	529	5.7	60.5	28.2	0.2	2.5	1.3	1.7
平成 25 年度調査	473	3.4	68.1	27.9	0.2	2.7	0.4	—

平成 25 年度調査と比較すると、「主に妻」が 7.6 ポイント減少しています。

D. 洗濯



【全 体】

「主に妻」の割合が 69.6%と最も高く、次いで「家族で分担」の割合が 20.2%となっています。

【性 別】

性別でみると、男女で大きな差異はみられません。

【年齢別】

年齢別でみると、他に比べ、50～59 歳、60～69 歳で「主に妻」の割合が高く、約 8 割となっています。また、20～29 歳で「家族で分担」の割合が高く、約 4 割となっています。

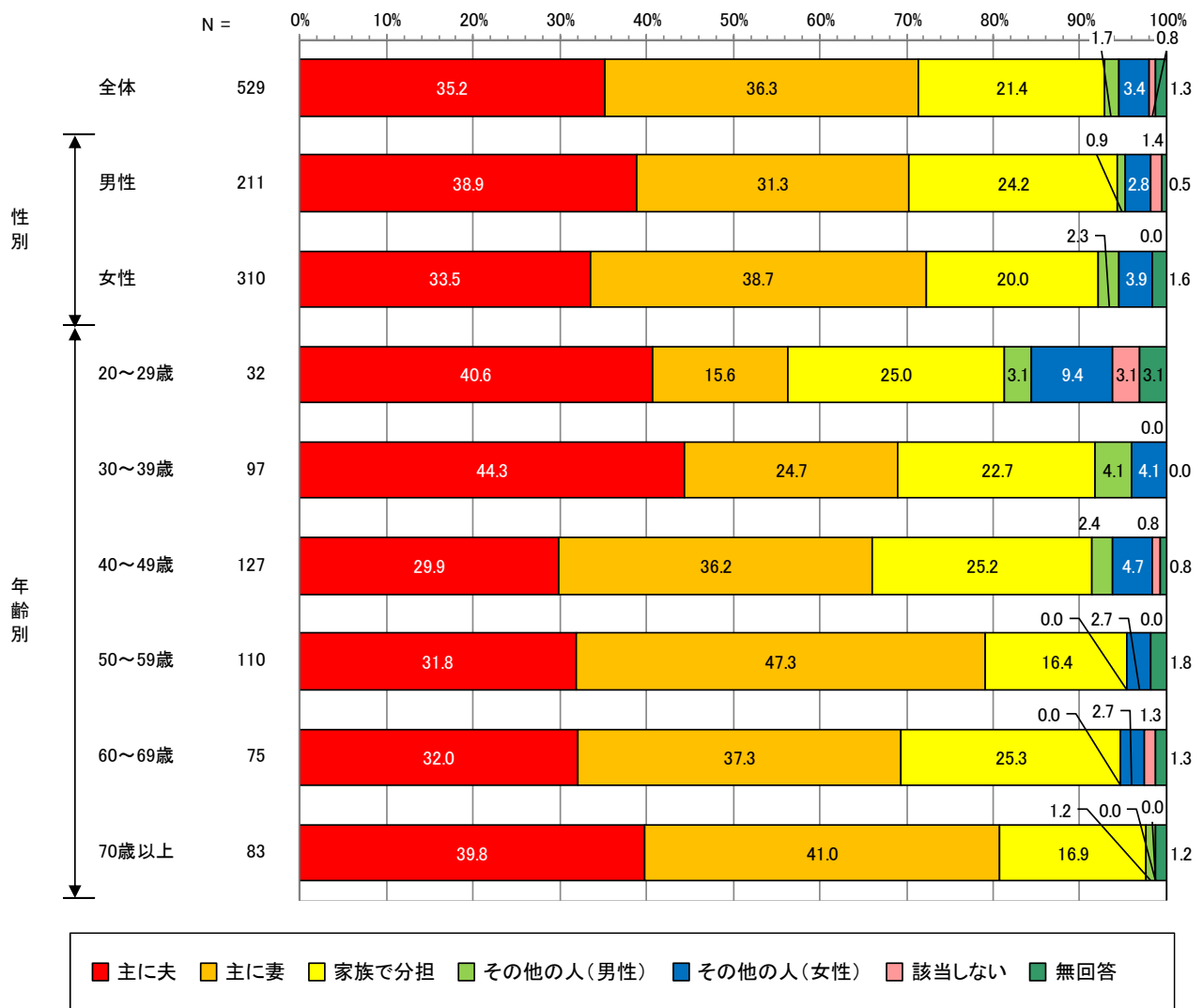
【前回調査（平成 25 年度）との比較】

単位：％

	有効回答数 (件)	主に夫	主に妻	家族で 分担	その他 の人 (男性)	その他 の人 (女性)	該当 しない	無回 答
令和2年度調査	529	5.1	69.6	20.2	0.2	2.8	0.8	1.3
平成 25 年度調査	473	1.7	83.7	13.7	0.2	3.2	0.4	—

平成 25 年度調査と比較すると、「主に妻」が 14.1 ポイント減少し、「家族で分担」が 6.5 ポイント増加しています。

E. ごみ出し



【全 体】

「主に妻」の割合が36.3%と最も高く、次いで「主に夫」の割合が35.2%、「家族で分担」の割合が21.4%となっています。

【性 別】

性別でみると、女性に比べ、男性で「主に夫」の割合が高く、約4割となっています。また、男性に比べ、女性で「主に妻」の割合が高く、約4割となっています。

【年齢別】

年齢別でみると、他に比べ、30～39歳で「主に夫」の割合が高く、4割台半ばとなっています。また、50～59歳で「主に妻」の割合が高く、約5割となっています。

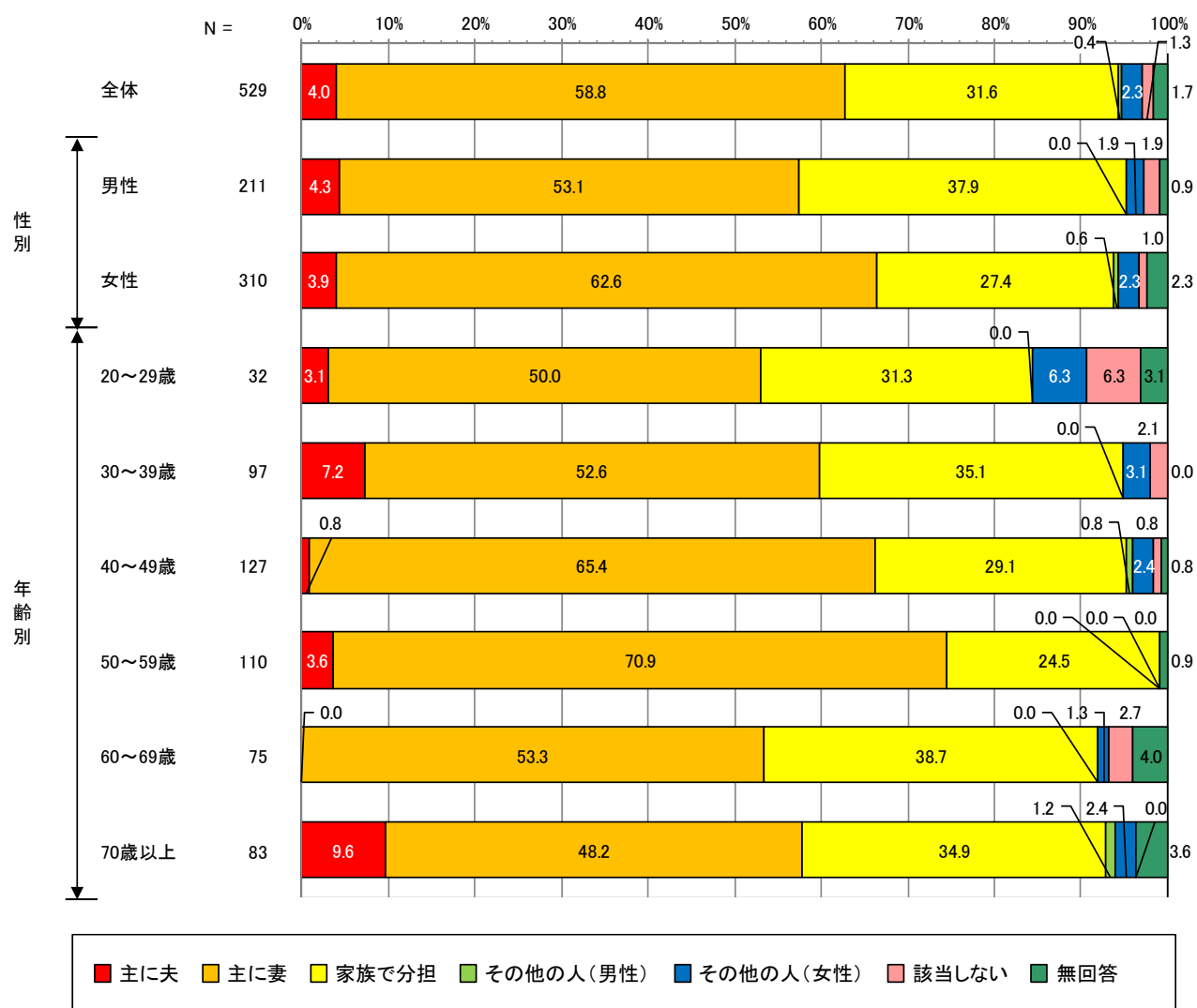
【前回調査（平成 25 年度）との比較】

単位：％

	有効回答数 (件)	主に夫	主に妻	家族で分担	その他の人 (男性)	その他の人 (女性)	該当しない	無回答
令和2年度調査	529	35.2	36.3	21.4	1.7	3.4	0.8	1.3
平成 25 年度調査	473	28.5	41.2	25.2	3.6	3.6	0.8	—

平成 25 年度調査と比較すると、「主に夫」が 6.7 ポイント増加しています。

F. 食料品・日用品の買い物



【全 体】

「主に妻」の割合が 58.8%と最も高く、次いで「家族で分担」の割合が 31.6%となっています。

【性 別】

性別でみると、女性に比べ、男性で「家族で分担」の割合が高く、約 4 割となっています。また、男性に比べ、女性で「主に妻」の割合が高く、約 6 割となっています。

【年齢別】

年齢別でみると、他に比べ、50～59 歳で「主に妻」の割合が高く、約 7 割となっています。また、60～69 歳で「家族で分担」の割合が高く、約 4 割となっています。

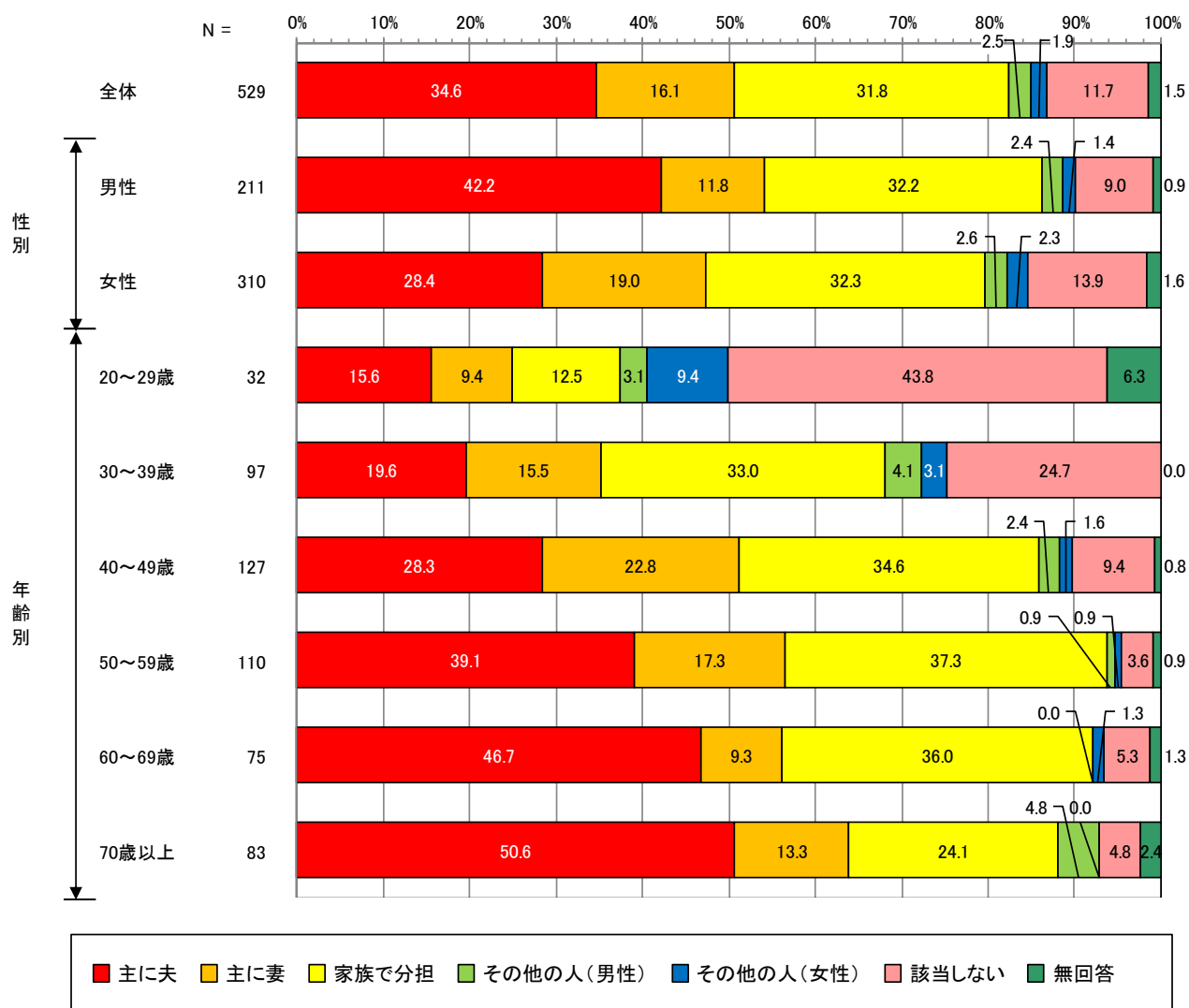
【前回調査（平成 25 年度）との比較】

単位：％

	有効回答数 (件)	主に夫	主に妻	家族で分担	その他の人 (男性)	その他の人 (女性)	該当しない	無回答
令和2年度調査	529	4.0	58.8	31.6	0.4	2.3	1.3	1.7
平成 25 年度調査	473	3.4	64.3	29.6	0.4	3.2	1.9	—

平成 25 年度調査と比較すると、「主に妻」が 5.5 ポイント減少しています。

G. 地域行事などへの参加



【全 体】

「主に夫」の割合が34.6%と最も高く、次いで「家族で分担」の割合が31.8%、「主に妻」の割合が16.1%となっています。

【性 別】

性別でみると、女性に比べ、男性で「主に夫」の割合が高く、約4割となっています。また、男性に比べ、女性で「主に妻」の割合が高く、約2割となっています。

【年齢別】

年齢別でみると、年齢が高くなるにつれ「主に夫」の割合が高く、70歳以上で約5割となっています。また、40～49歳で「主に妻」の割合が高く、約2割となっています。

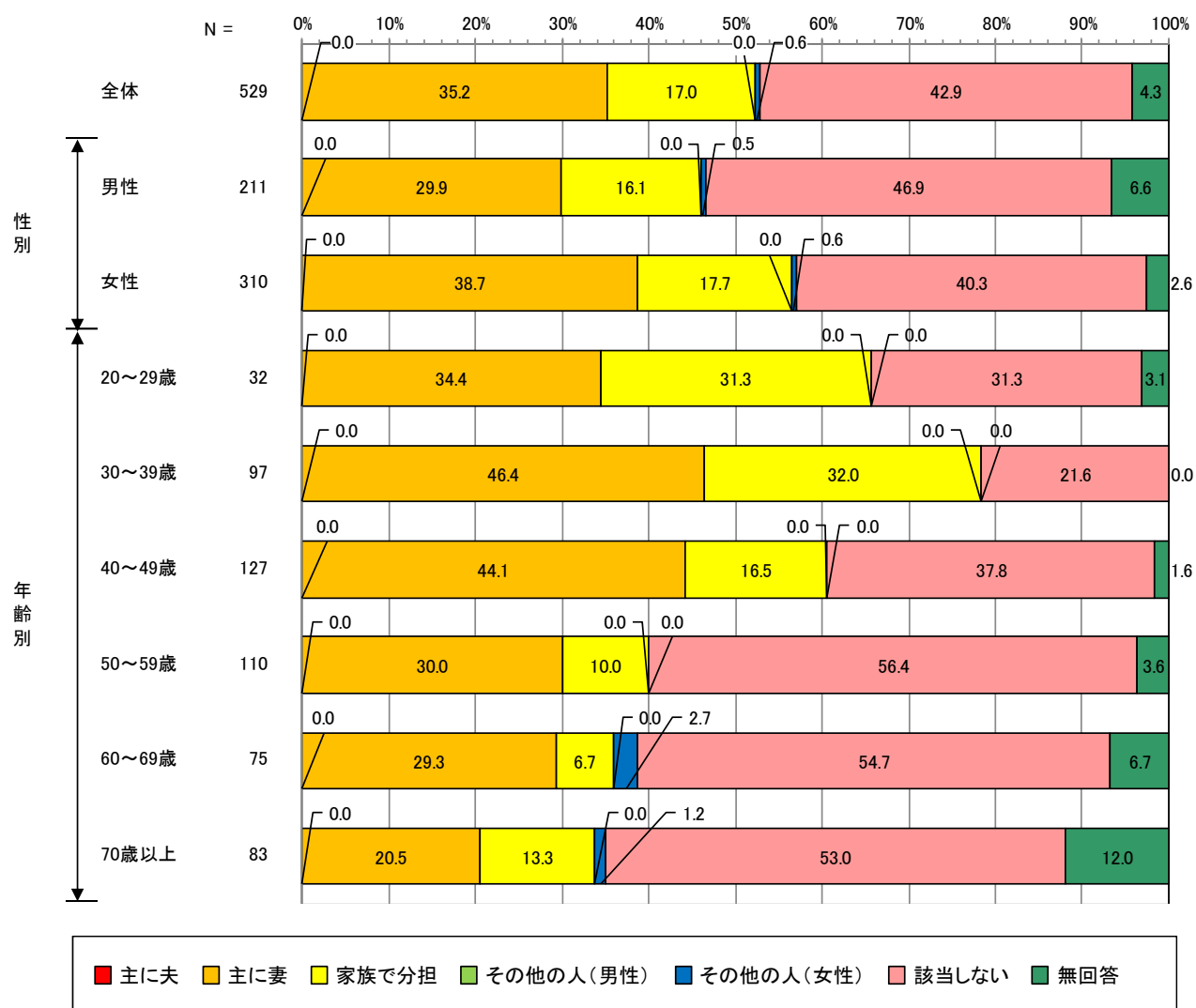
【前回調査（平成 25 年度）との比較】

単位：％

	有効回答数 (件)	主に夫	主に妻	家族で分担	その他の人 (男性)	その他の人 (女性)	該当しない	無回答
令和2年度調査	529	34.6	16.1	31.8	2.5	1.9	11.7	1.5
平成 25 年度調査	473	37.2	15.6	37.2	3.4	0.6	8.7	—

平成 25 年度調査と比較すると、「家族で分担」が 5.4 ポイント減少しています。

H. 乳幼児の世話



【全 体】

「該当しない」を除くと、「主に妻」の割合が35.2%と最も高く、次いで「家族で分担」の割合が17.0%となっています。

【性 別】

性別でみると、男性に比べ、女性で「主に妻」の割合が高く、約4割となっています。

【年齢別】

年齢別でみると、他に比べ、30～39歳、40～49歳で「主に妻」の割合が高く、4割台半ばとなっています。また、20～29歳、30～39歳で「家族で分担」の割合が高く、約3割となっています。

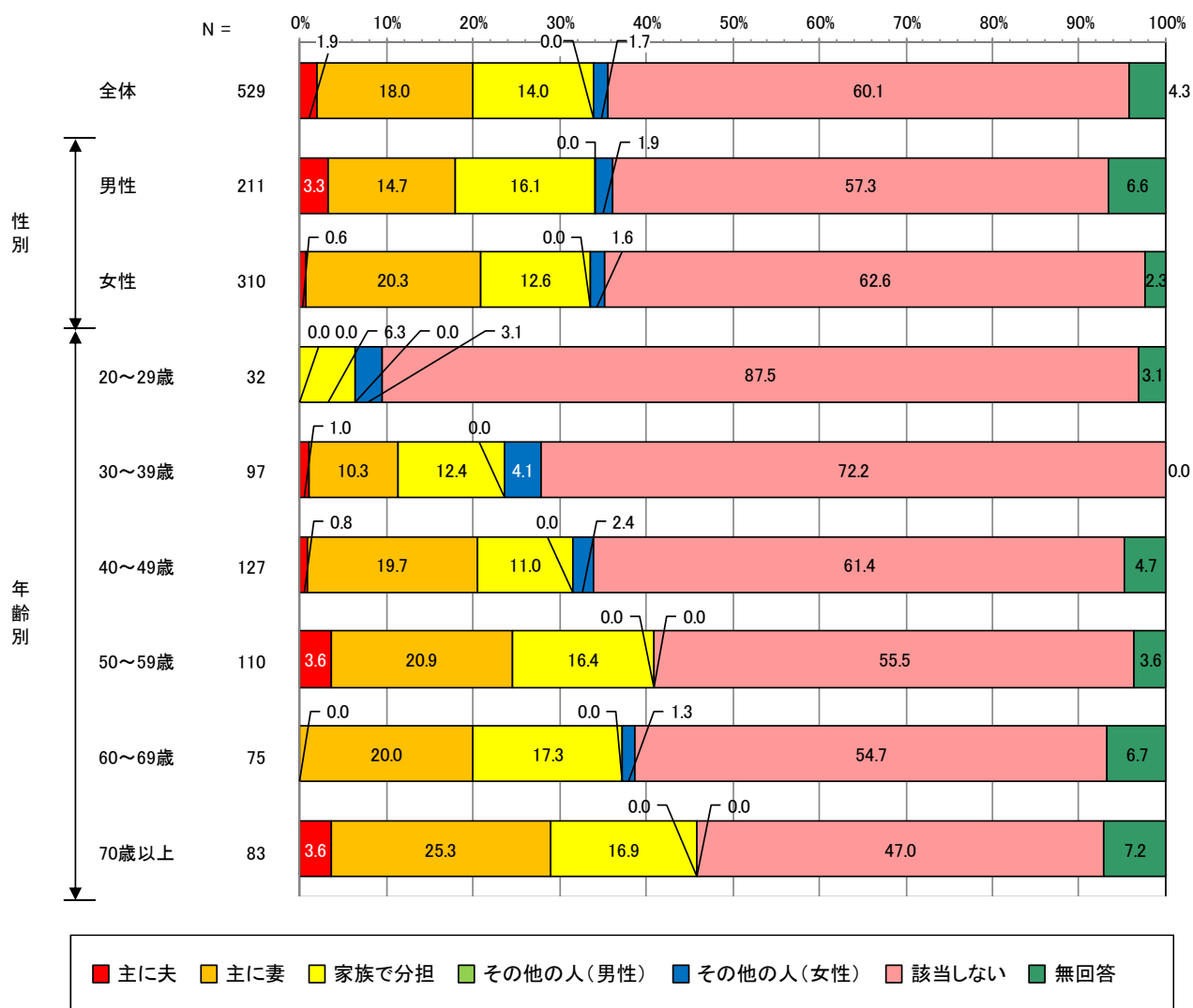
【前回調査（平成 25 年度）との比較】

単位：％

	有効回答数 (件)	主に夫	主に妻	家族で分担	その他の人 (男性)	その他の人 (女性)	該当しない	無回答
令和2年度調査	529	—	35.2	17.0	—	0.6	42.9	4.3
平成 25 年度調査	473	—	39.1	15.4	—	2.1	40.4	—

平成 25 年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。

I. 家族の介護



【全 体】

「該当しない」を除くと、「主に妻」の割合が 18.0%と最も高く、次いで「家族で分担」の割合が 14.0%となっています。

【性 別】

性別でみると、男性に比べ、女性で「主に妻」の割合が高く、約 2 割となっています。

【年齢別】

年齢別でみると、年齢が高くなるにつれ「主に妻」の割合が高くなる傾向がみられ、70 歳以上で 2 割台半ばとなっています。

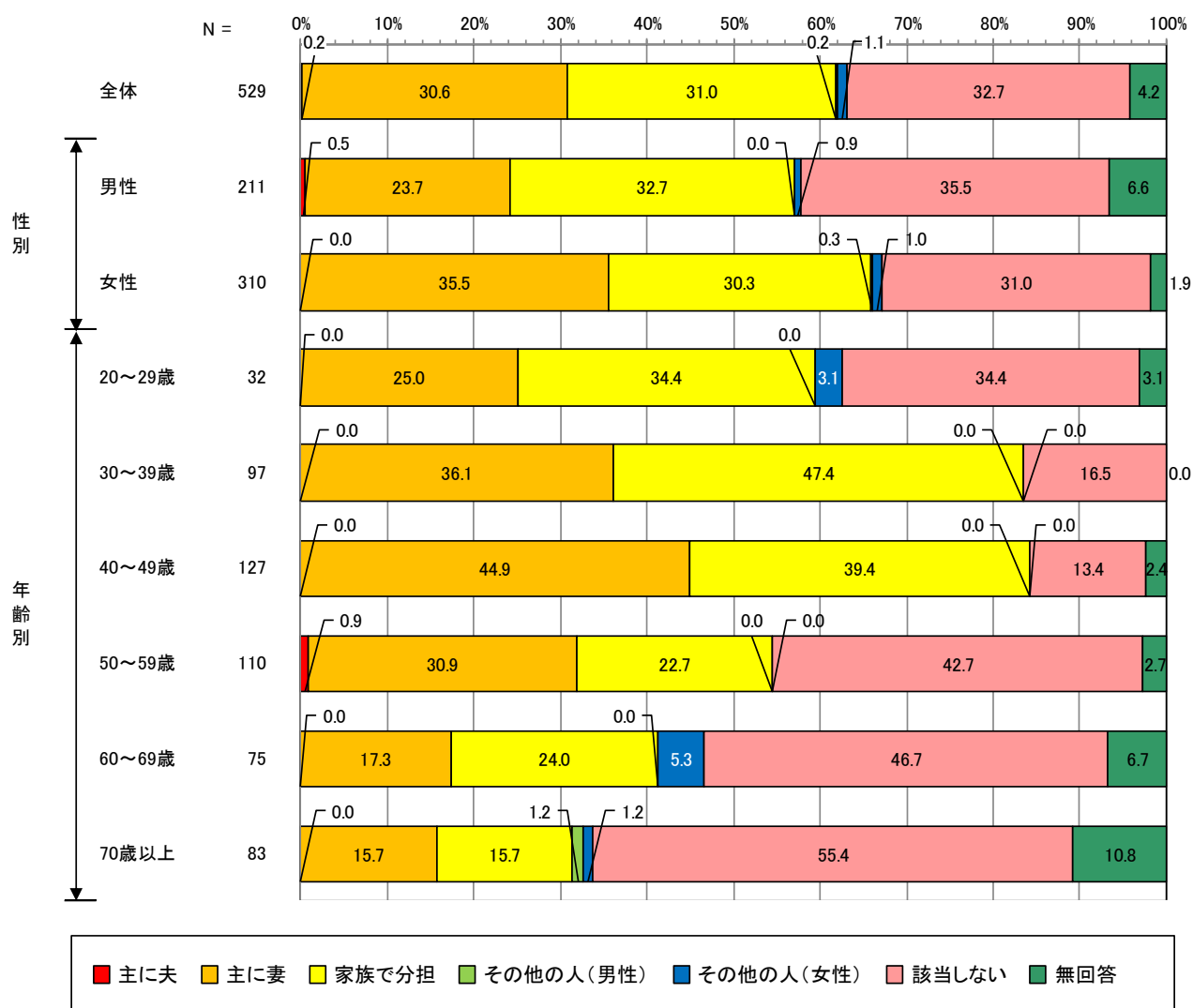
【前回調査（平成 25 年度）との比較】

単位：％

	有効回答数 (件)	主に夫	主に妻	家族で分担	その他の人 (男性)	その他の人 (女性)	該当しない	無回答
令和2年度調査	529	1.9	18.0	14.0	—	1.7	60.1	4.3
平成 25 年度調査	473	0.8	22.6	14.6	0.2	1.7	57.7	—

平成 25 年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。

J. 子どもの勉強やしつけ



【全 体】

「該当しない」を除くと、「家族で分担」の割合が 31.0%と最も高く、次いで「主に妻」の割合が 30.6%となっています。

【性 別】

性別でみると、男性に比べ、女性で「主に妻」の割合が高く、3割台半ばとなっています。

【年齢別】

年齢別でみると、他に比べ、30～39歳で「家族で分担」の割合が高く、約5割となっています。また、40～49歳で「主に妻」の割合が高く、4割台半ばとなっています。

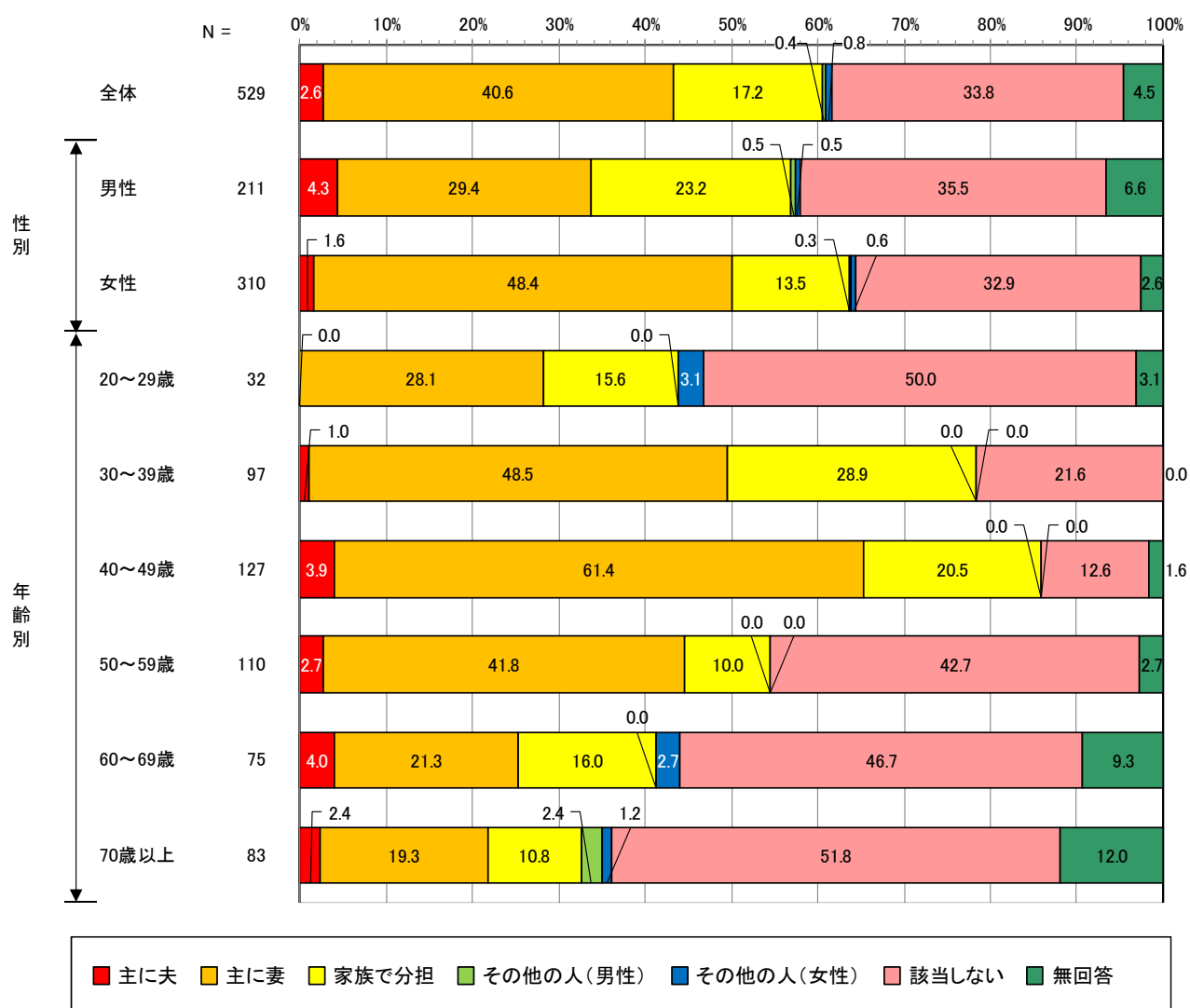
【前回調査（平成 25 年度）との比較】

単位：％

	有効回答数 (件)	主に夫	主に妻	家族で分担	その他の人 (男性)	その他の人 (女性)	該当しない	無回答
令和2年度調査	529	0.2	30.6	31.0	0.2	1.1	32.7	4.2
平成 25 年度調査	473	3.0	32.3	28.5	0.2	2.5	31.1	—

平成 25 年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。

K. 学校行事への参加



【全 体】

「該当しない」を除くと、「主に妻」の割合が 40.6%と最も高く、次いで「家族で分担」の割合が 17.2%となっています。

【性 別】

性別でみると、女性に比べ、男性で「家族で分担」の割合が高く、約 2 割となっています。また、男性に比べ、女性で「主に妻」の割合が高く、約 5 割となっています。

【年齢別】

年齢別でみると、他に比べ、40～49 歳で「主に妻」の割合が高く、約 6 割となっています。また、30～39 歳で「家族で分担」の割合が高く、約 3 割となっています。

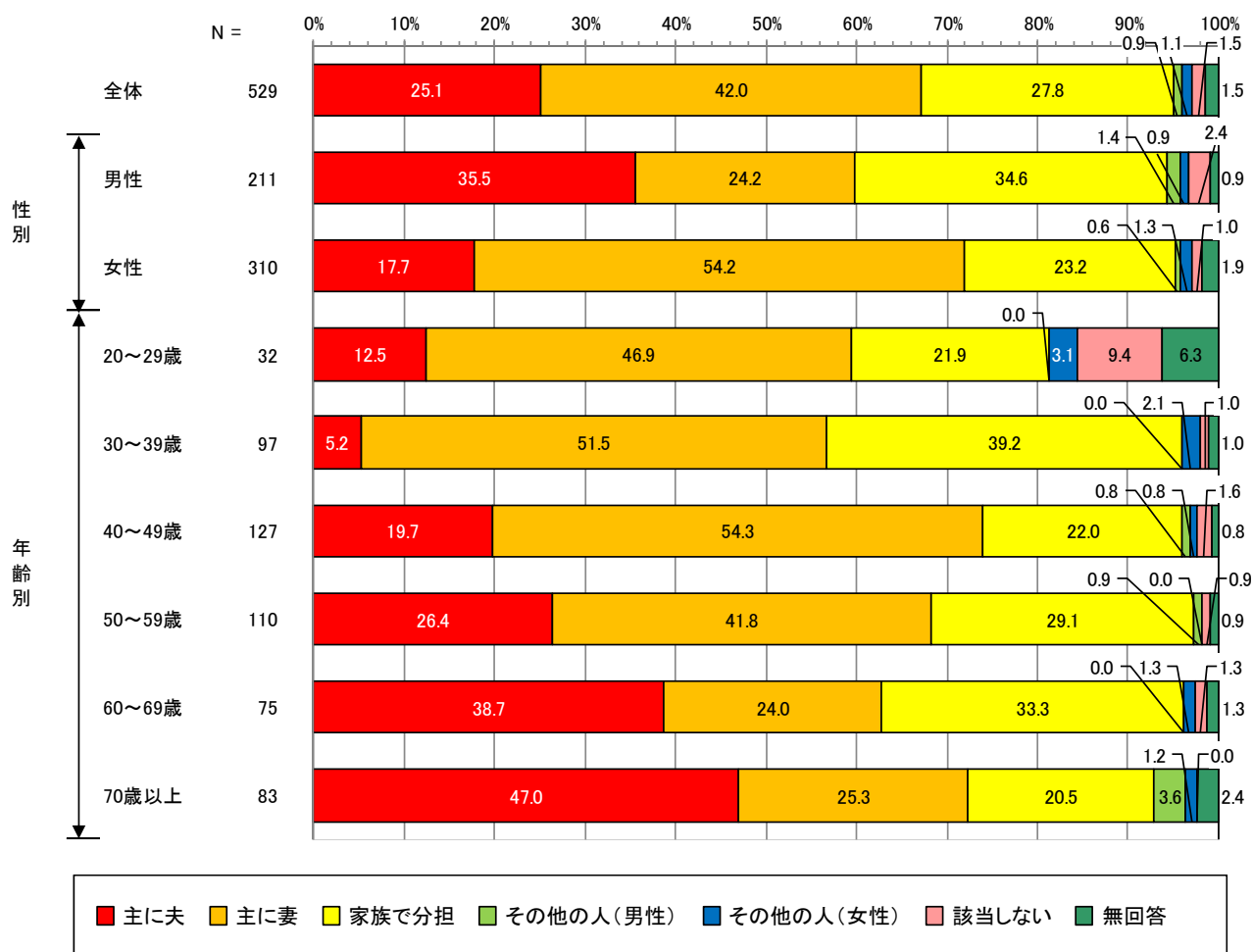
【前回調査（平成 25 年度）との比較】

単位：％

	有効回答数 (件)	主に夫	主に妻	家族で分担	その他の人 (男性)	その他の人 (女性)	該当しない	無回答
令和2年度調査	529	2.6	40.6	17.2	0.4	0.8	33.8	4.5
平成 25 年度調査	473	3.0	37.8	19.2	—	2.7	34.5	—

平成 25 年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。

L. 役所等への用事・書類の作成



【全 体】

「主に妻」の割合が42.0%と最も高く、次いで「家族で分担」の割合が27.8%、「主に夫」の割合が25.1%となっています。

【性 別】

性別でみると、女性に比べ、男性で「主に夫」「家族で分担」の割合が高くなっています。また、男性に比べ、女性で「主に妻」の割合が高く、5割台半ばとなっています。

【年齢別】

年齢別でみると、年齢が高くなるにつれ「主に夫」の割合が高くなる傾向がみられ、70歳以上で約5割となっています。また、他に比べ、40～49歳で「主に妻」の割合が高く、5割台半ばとなっています。

問4で「既婚」と回答した方のみお答えください。

問4－2 あなたの家庭では、次のA～Lのそれぞれの項目について、あなたはどなたの役割になることが理想と考えますか。（それぞれ1つに○）

【全 体】

すべての項目で「家族で分担」の割合が最も高くなっており、特に『掃除』では約7割と高くなっています。しかし、『食事のしたく』『洗濯』『食料品・日用品の買い物』では「主に妻」の割合が約3割から4割を占めています。

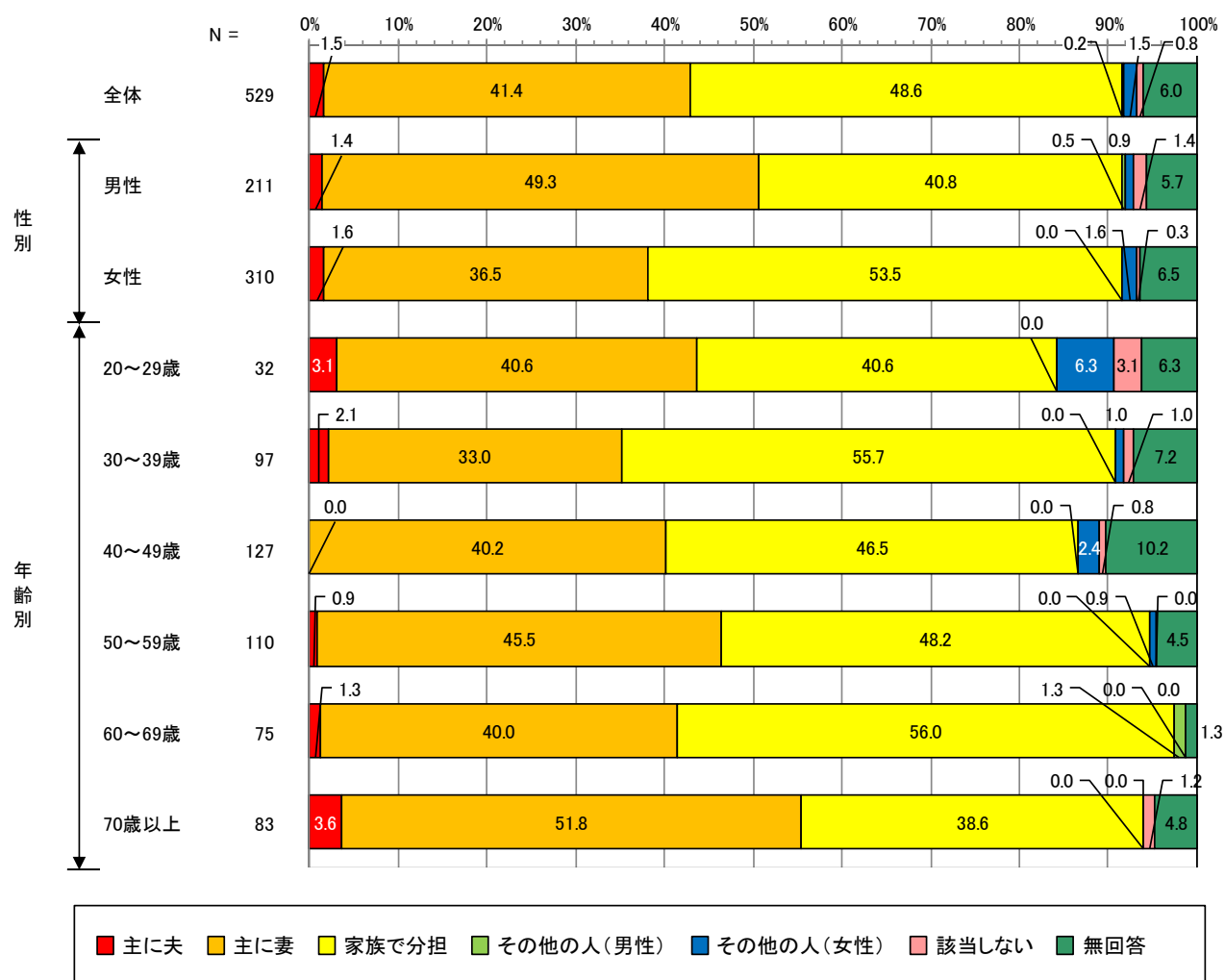
【性 別】

性別でみると、『食事のしたく』『食事の後片付け』『掃除』『洗濯』『ごみ出し』といった日常の家事では、男性で「主に妻」の割合が高く、女性では「家族で分担」の割合が高くなっています。

【年 齢 別】

年齢別でみると、『食事のしたく』『食事の後片付け』『掃除』『洗濯』といった日常の家事では、年齢が高くなるにつれ「主に妻」の割合が高くなっています。また、『乳幼児の世話』『子どもの勉強やしつけ』『学校行事への参加』といった育児にまつわるものは、年齢が低くなるにつれ「家族で分担」の割合が高くなる傾向がみられます。

A. 食事のしたく



【全 体】

「家族で分担」の割合が 48.6%と最も高く、次いで「主に妻」の割合が 41.4%となっています。

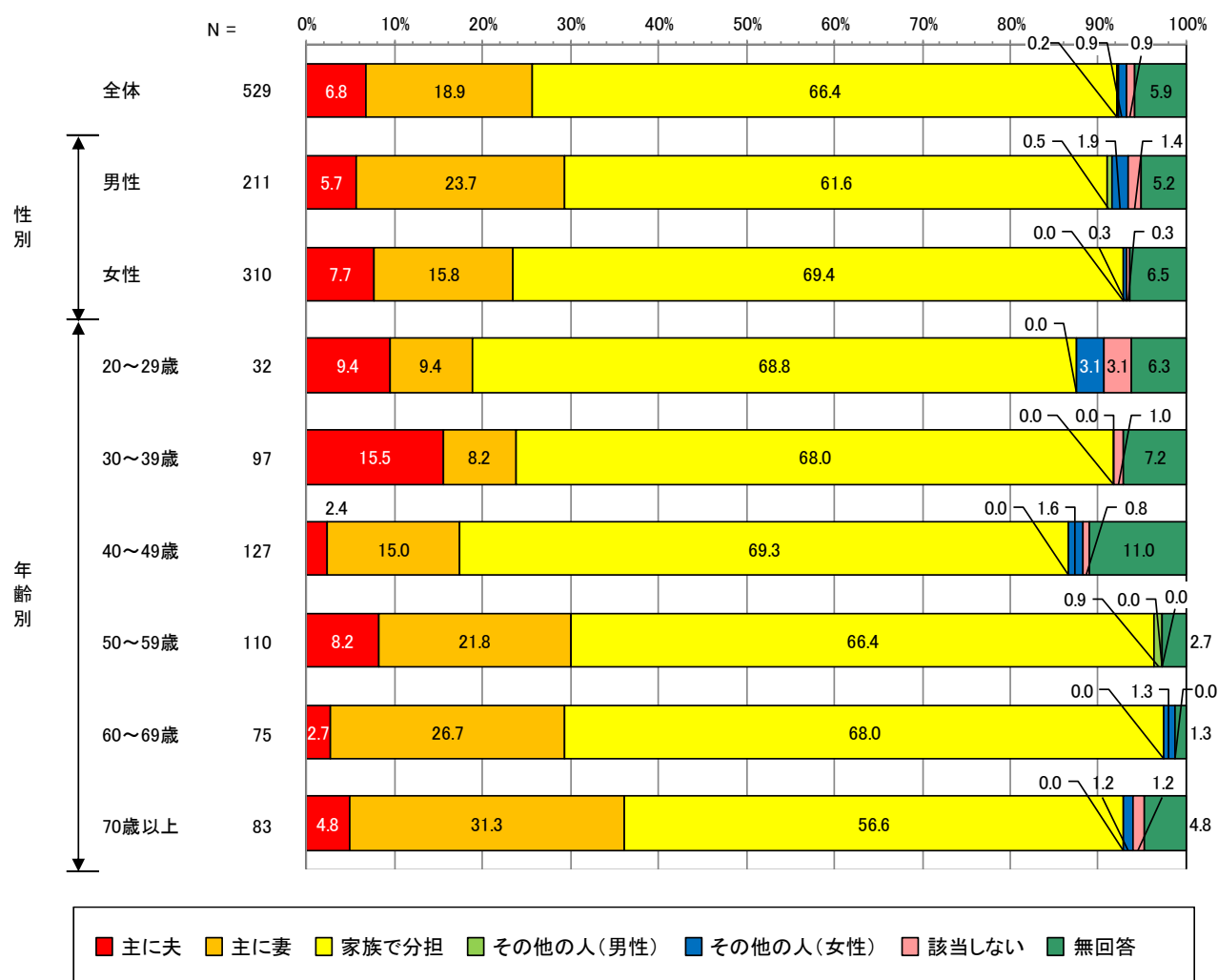
【性 別】

性別でみると、女性に比べ、男性で「主に妻」の割合が高く、約 5 割となっています。また、男性に比べ、女性で「家族で分担」の割合が高く、約 5 割となっています。

【年齢別】

年齢別でみると、他に比べ、70 歳以上で「主に妻」の割合が高く、約 5 割となっています。また、30～39 歳、60～69 歳で「家族で分担」の割合が高く、5 割台半ばとなっています。

B. 食事の後片付け



【全 体】

「家族で分担」の割合が 66.4%と最も高く、次いで「主に妻」の割合が 18.9%となっています。

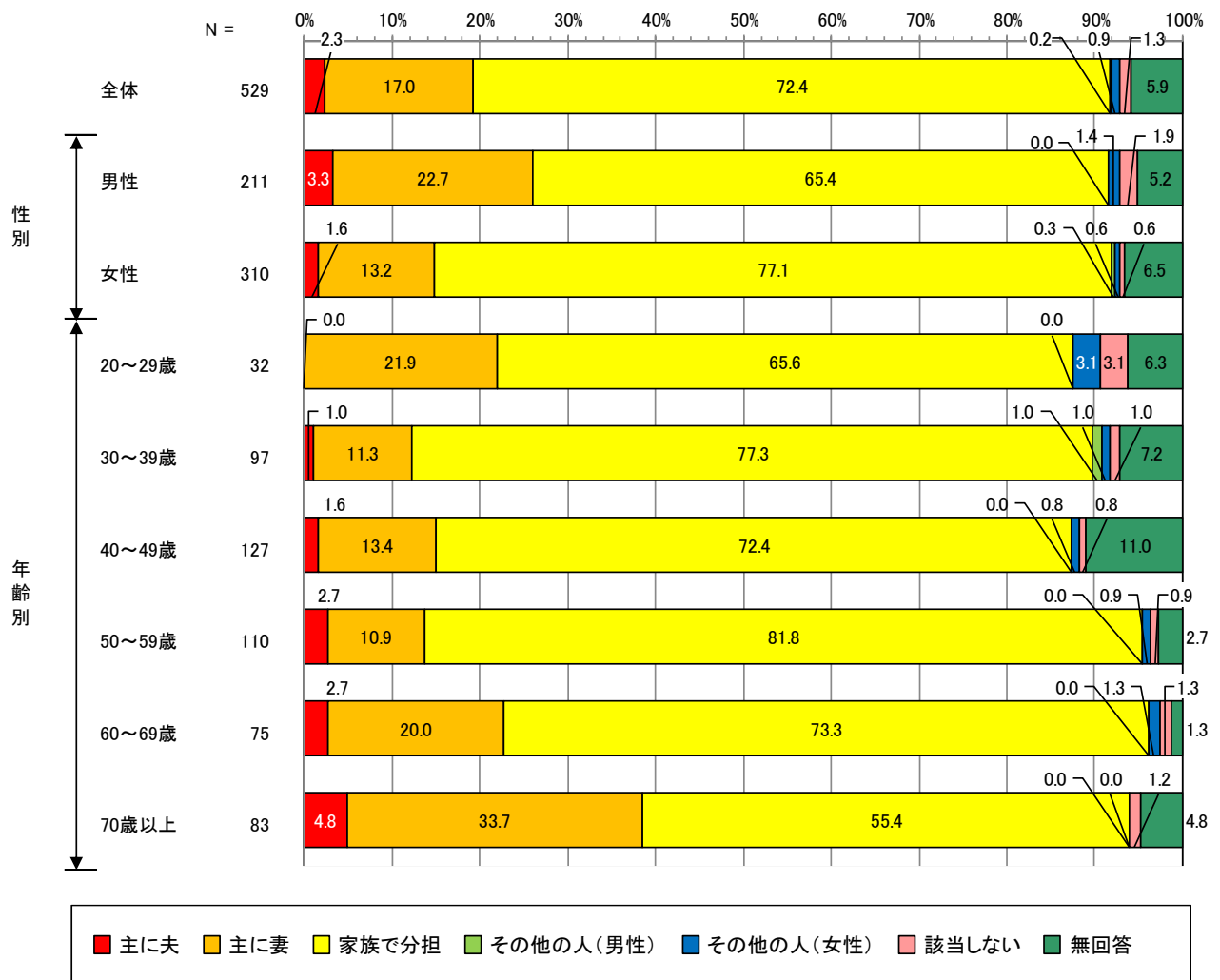
【性 別】

性別でみると、女性に比べ、男性で「主に妻」の割合が高く、約 2 割となっています。また、男性に比べ、女性で「家族で分担」の割合が高く、約 7 割となっています。

【年齢別】

年齢別でみると、年齢が高くなるにつれ「主に妻」の割合が高くなる傾向がみられ、70 歳以上で約 3 割となっています。また、30～39 歳で「主に夫」の割合が高く、1 割台半ばとなっています。

C. 掃除



【全 体】

「家族で分担」の割合が 72.4%と最も高く、次いで「主に妻」の割合が 17.0%となっています。

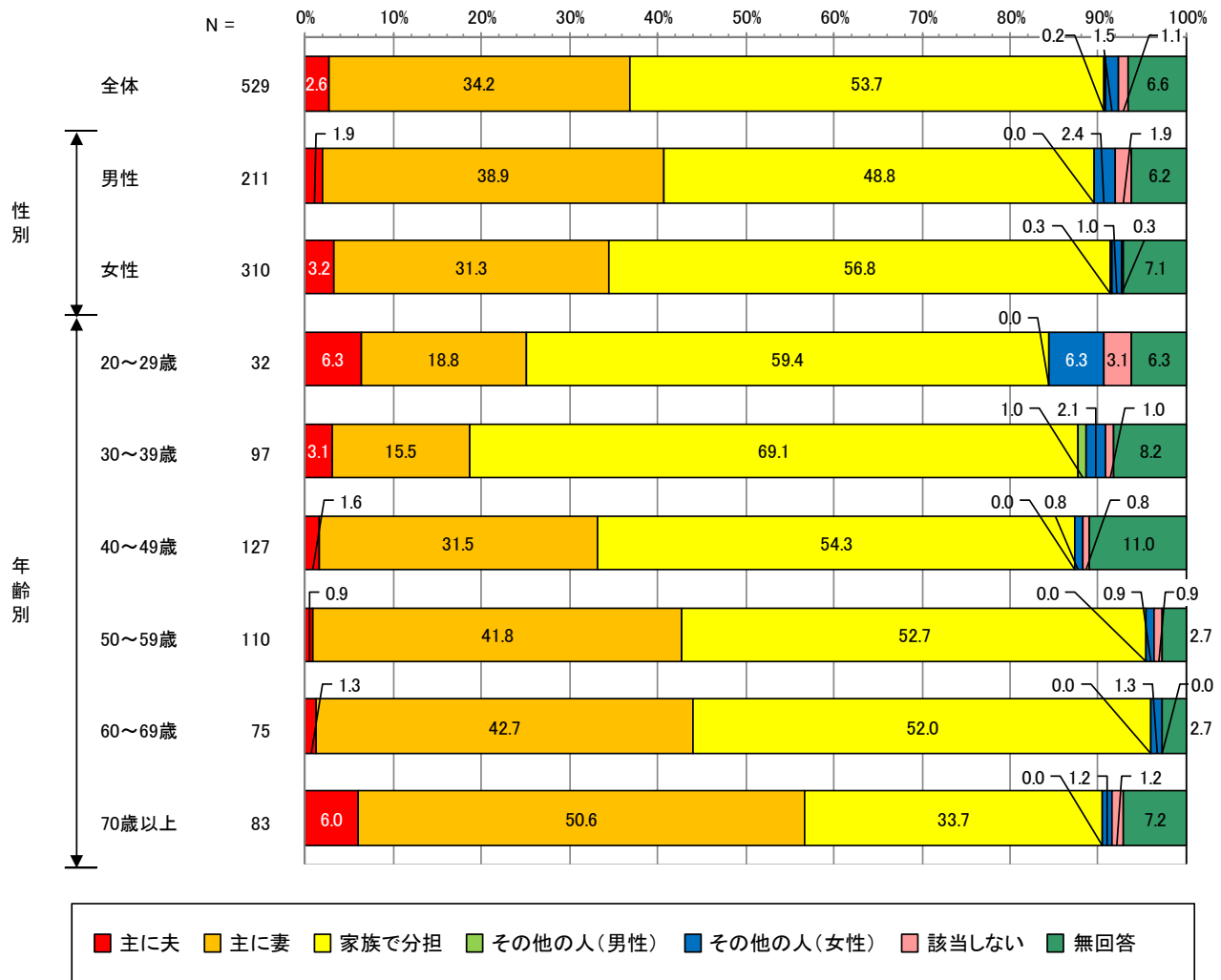
【性 別】

性別でみると、女性に比べ、男性で「主に妻」の割合が高く、約 2 割となっています。また、男性に比べ、女性で「家族で分担」の割合が高く、約 8 割となっています。

【年齢別】

年齢別でみると、他に比べ、70 歳以上で「主に妻」の割合が高く、約 3 割となっています。また、50～59 歳で「家族で分担」の割合が高く、約 8 割となっています。

D. 洗濯



【全 体】

「家族で分担」の割合が 53.7%と最も高く、次いで「主に妻」の割合が 34.2%となっています。

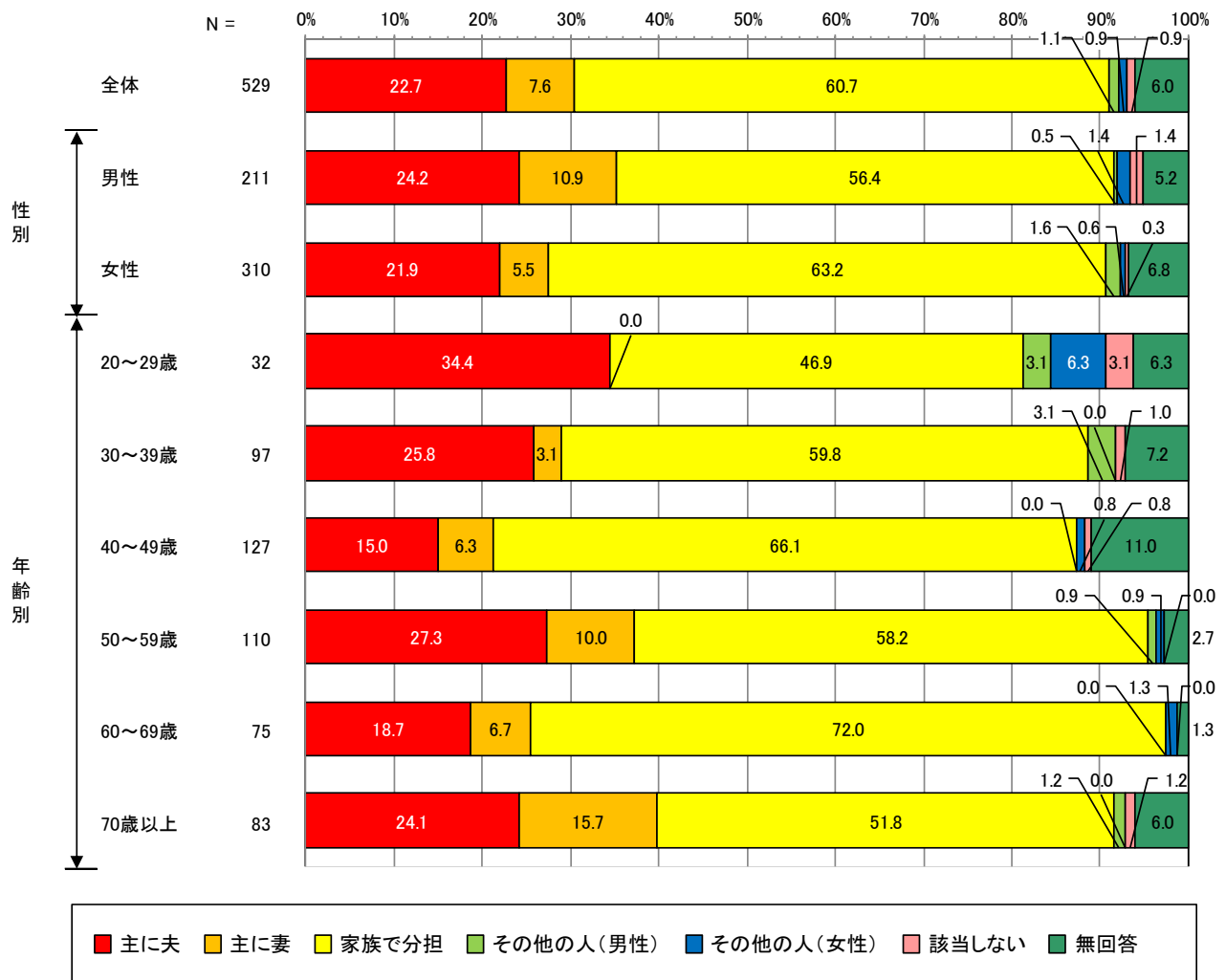
【性 別】

性別でみると、女性に比べ、男性で「主に妻」の割合が高く、約4割となっています。また、男性に比べ、女性で「家族で分担」の割合が高く、5割台半ばとなっています。

【年齢別】

年齢別でみると、年齢が高くなるにつれ「主に妻」の割合が高くなる傾向がみられ、70歳以上で約5割となっています。また、30～39歳で「家族で分担」の割合が高く、約7割となっています。

E. ごみ出し



【全 体】

「家族で分担」の割合が 60.7%と最も高く、次いで「主に夫」の割合が 22.7%となっています。

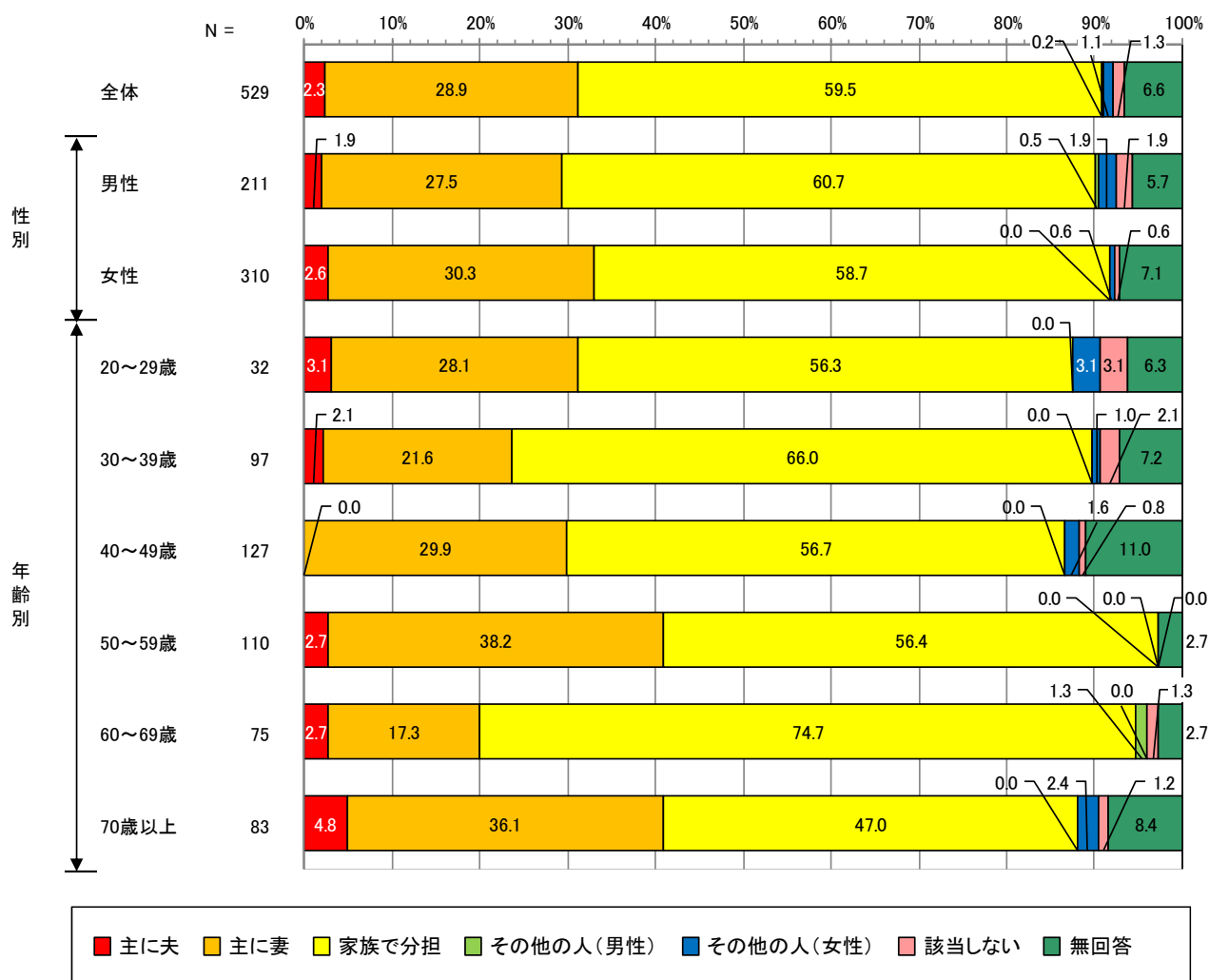
【性 別】

性別でみると、女性に比べ、男性で「主に妻」の割合が高く、約 1 割となっています。また、男性に比べ、女性で「家族で分担」の割合が高く、約 6 割となっています。

【年齢別】

年齢別でみると、他に比べ、60～69 歳で「家族で分担」の割合が高く、約 7 割となっています。また、20～29 歳で「主に夫」の割合が、70 歳以上で「主に妻」の割合が高くなっています。

F. 食料品・日用品の買い物



【全 体】

「家族で分担」の割合が 59.5%と最も高く、次いで「主に妻」の割合が 28.9%となっています。

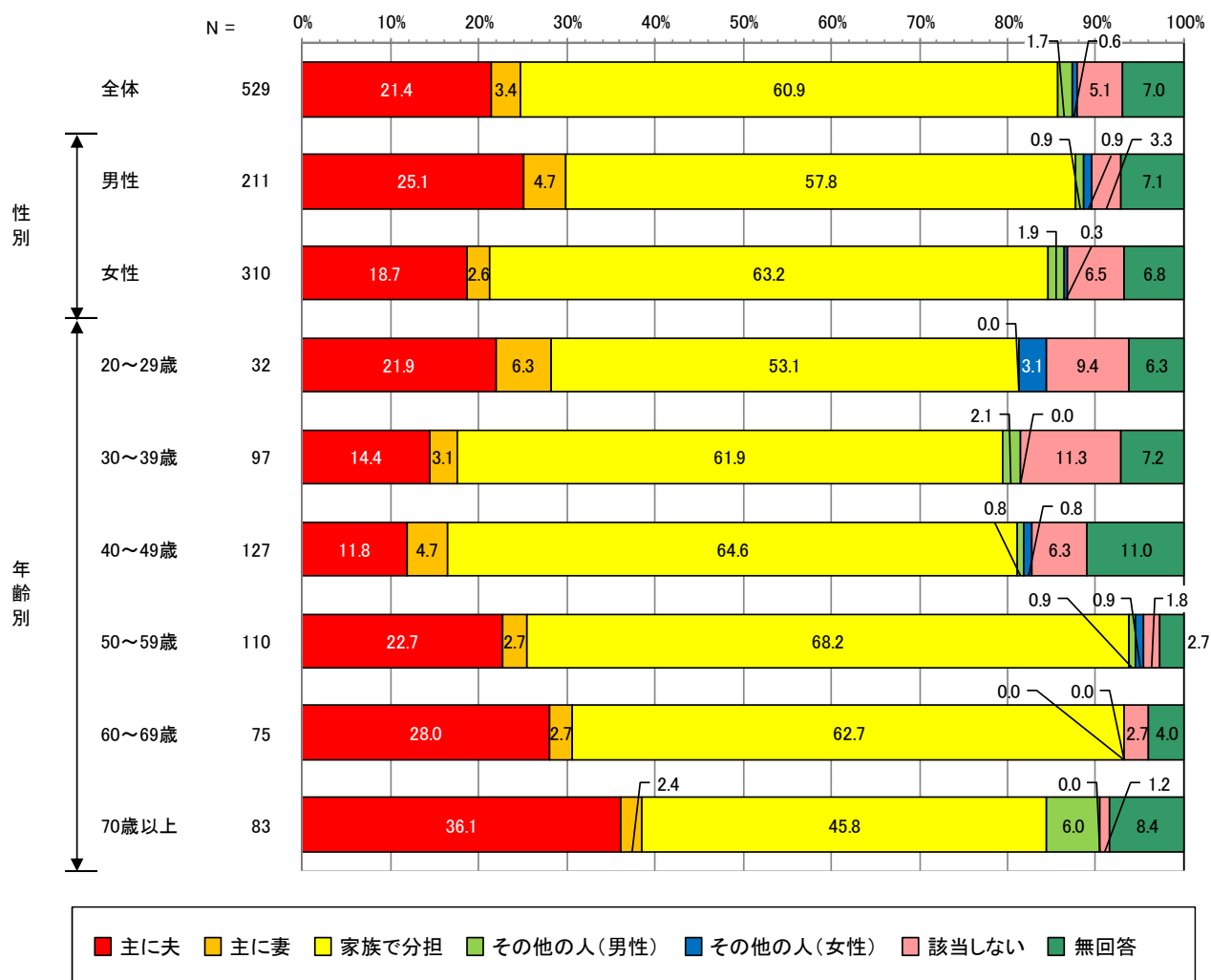
【性 別】

性別でみると、男女で大きな差異はみられません。

【年齢別】

年齢別でみると、他に比べ、60~69歳で「家族で分担」の割合が高く、7割台半ばとなっています。また、50~59歳で「主に妻」の割合が高く、約4割となっています。

G. 地域行事などへの参加



【全 体】

「家族で分担」の割合が 60.9%と最も高く、次いで「主に夫」の割合が 21.4%となっています。

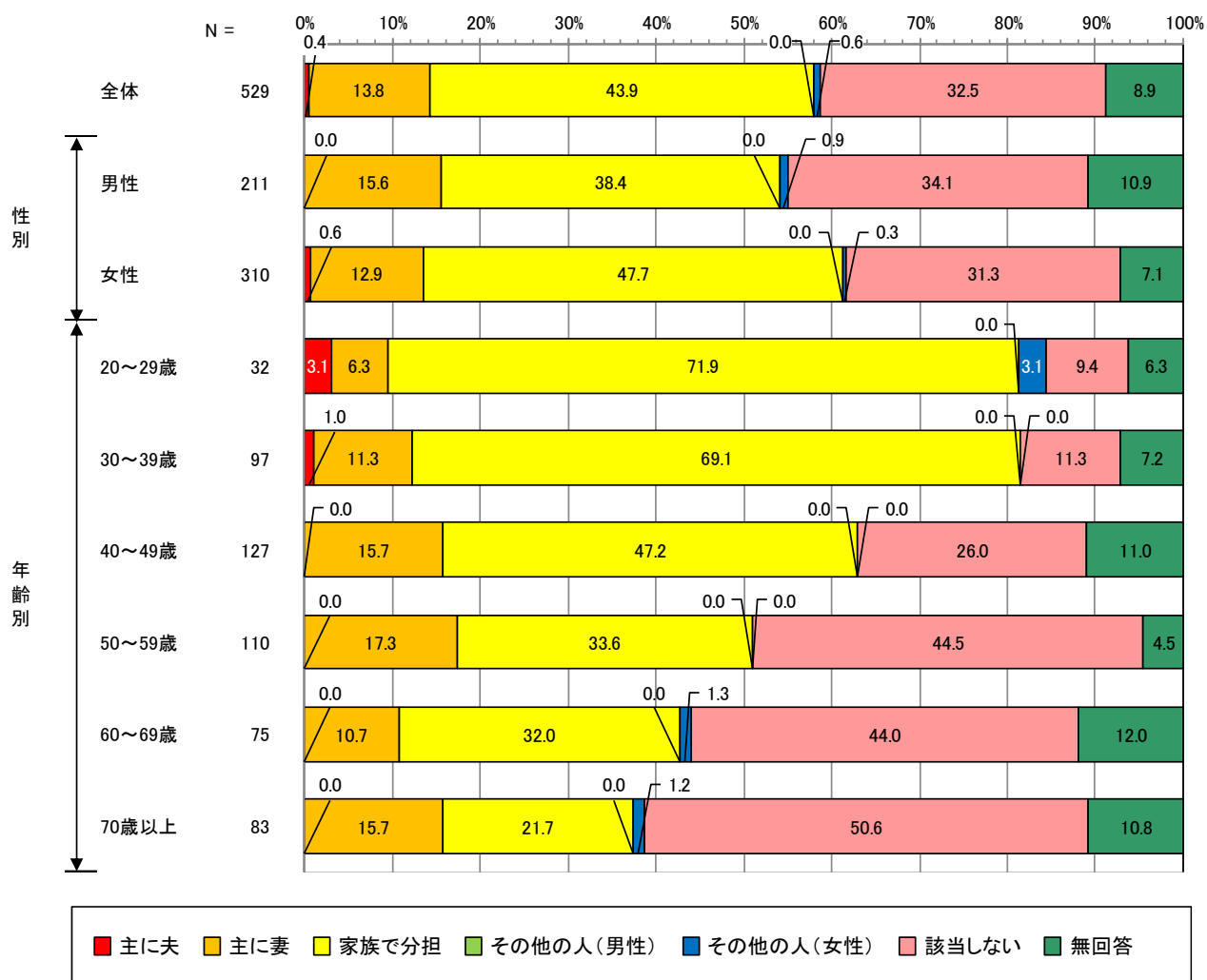
【性 別】

性別でみると、女性に比べ、男性で「主に夫」の割合が高く、2割台半ばとなっています。また、男性に比べ、女性で「家族で分担」の割合が高く、6割を超えています。

【年齢別】

年齢別でみると、他に比べ、70歳以上で「主に夫」の割合が高く、3割台半ばとなっています。また、50～59歳で「家族で分担」の割合が高く、約7割となっています。

H. 乳幼児の世話



【全 体】

「該当しない」を除くと、「家族で分担」の割合が 43.9%と最も高く、次いで「主に妻」の割合が 13.8%となっています。

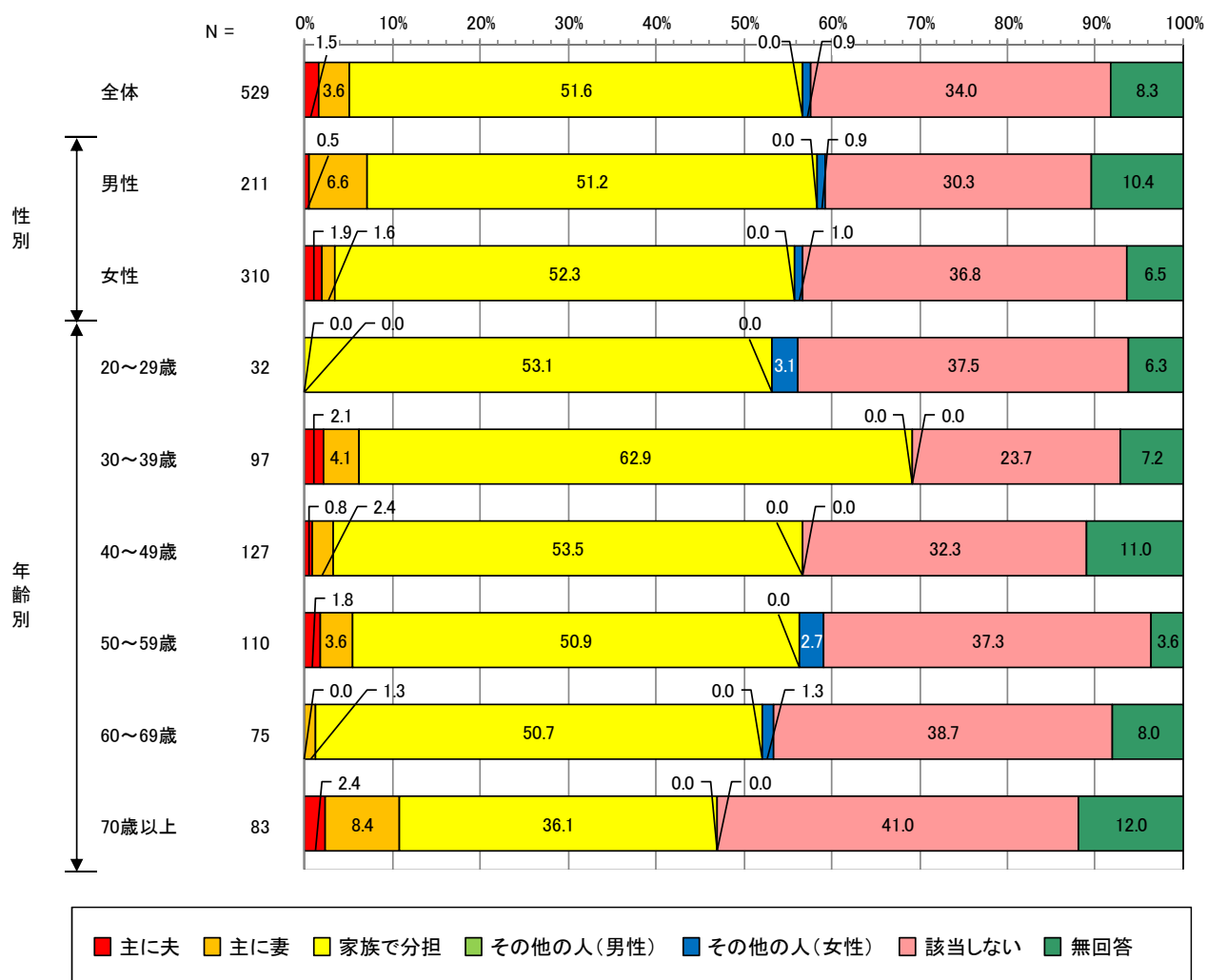
【性 別】

性別でみると、男性に比べ、女性で「家族で分担」の割合が高く、約 5 割となっています。

【年齢別】

年齢別でみると、年齢が低くなるにつれ「家族で分担」の割合が高くなる傾向がみられ、20～29 歳、30～39 歳で約 7 割となっています。

I. 家族の介護



【全 体】

「該当しない」を除くと、「家族で分担」の割合が51.6%と最も高くなっています。

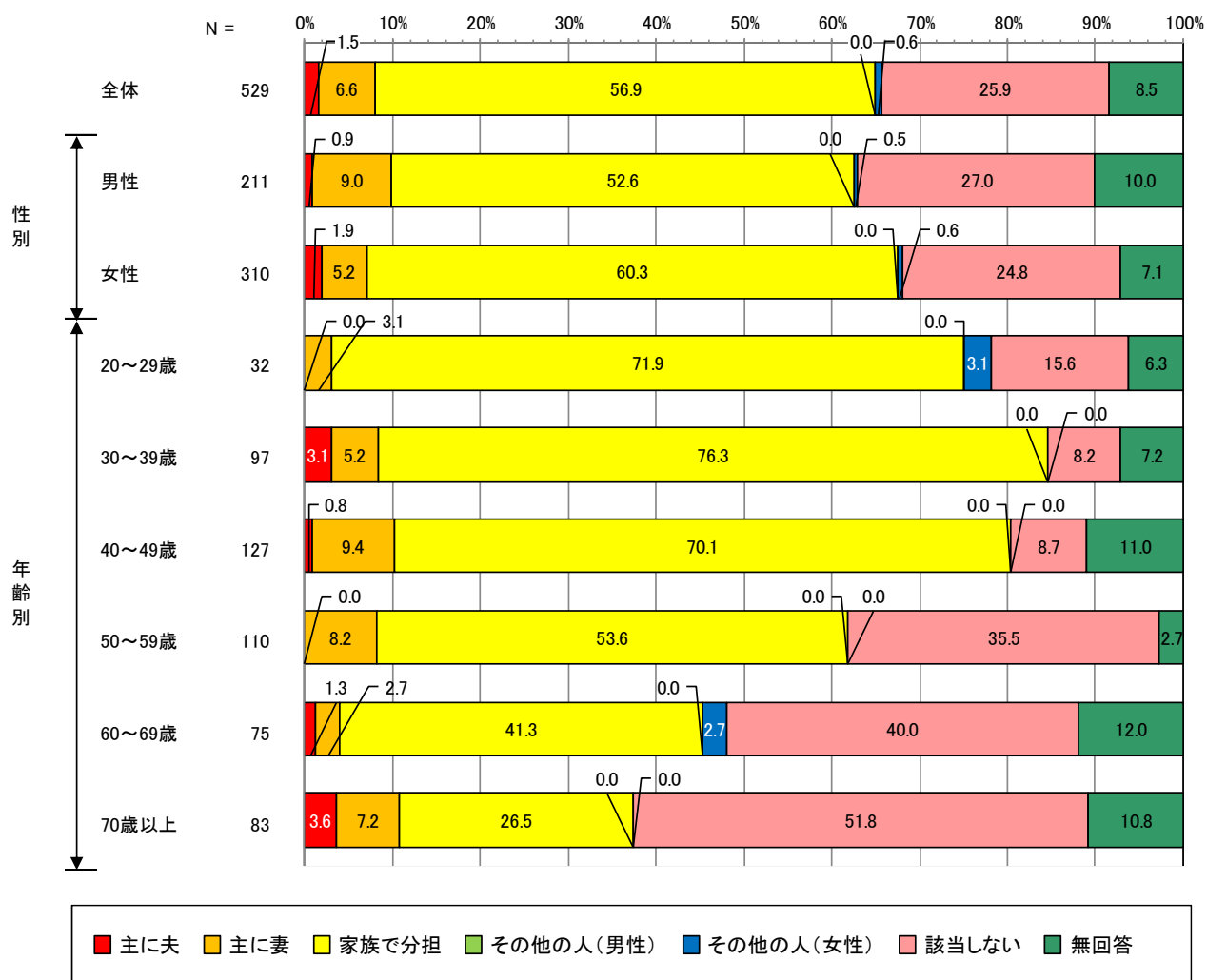
【性 別】

性別でみると、女性に比べ、男性で「主に妻」の割合が高くなっています。

【年齢別】

年齢別でみると、他に比べ、30～39歳で「家族で分担」の割合が高く、約6割となっています。

J. 子どもの勉強やしつけ



【全 体】

「該当しない」を除くと、「家族で分担」の割合が56.9%と最も高くなっています。

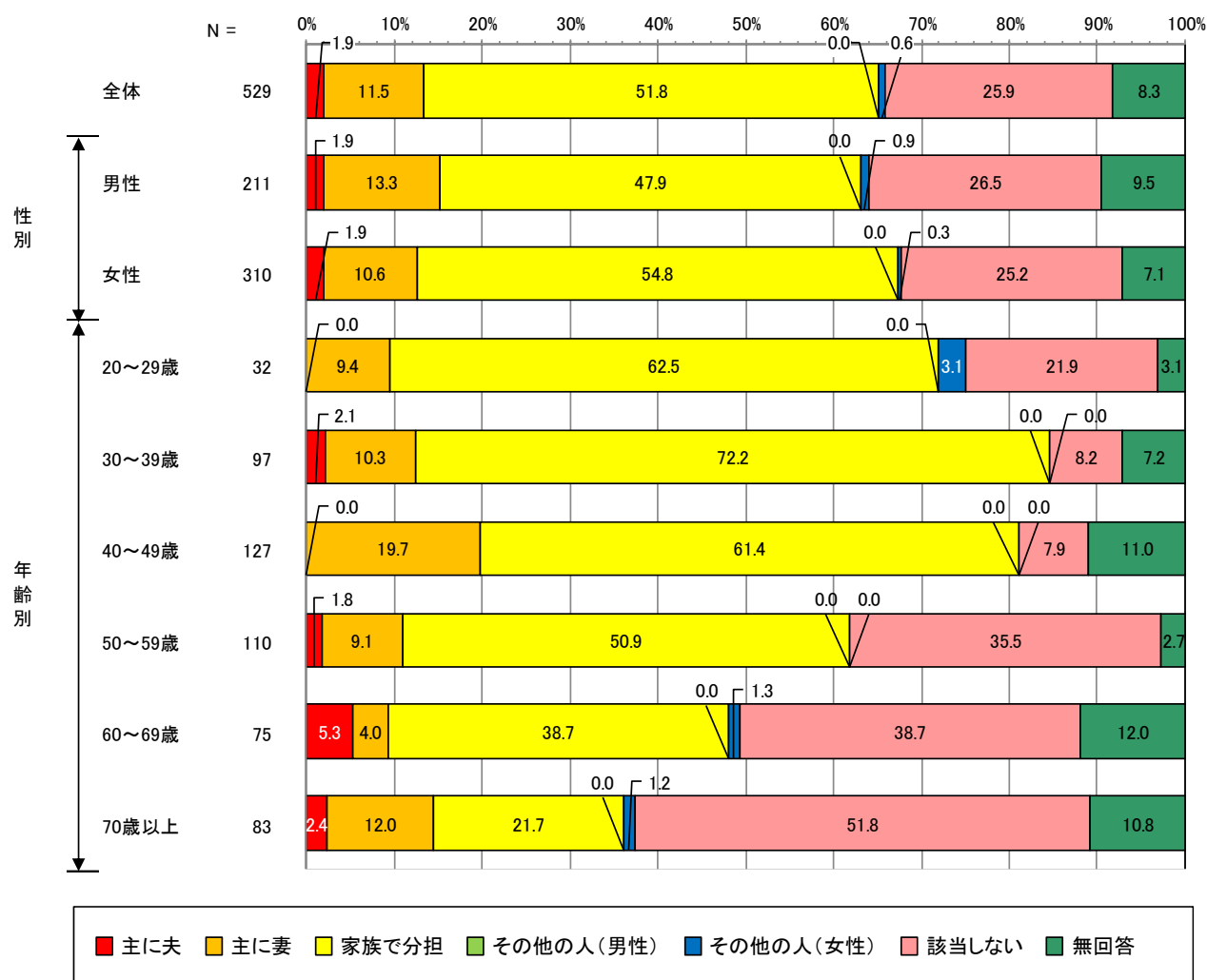
【性 別】

性別でみると、男性に比べ、女性で「家族で分担」の割合が高く、約6割となっています。

【年齢別】

年齢別でみると、年齢が低くなるにつれ「家族で分担」の割合が高くなる傾向がみられ、30～39歳で7割台半ばとなっています。

K. 学校行事への参加



【全 体】

「該当しない」を除くと、「家族で分担」の割合が 51.8%と最も高く、次いで「主に妻」の割合が 11.5%となっています。

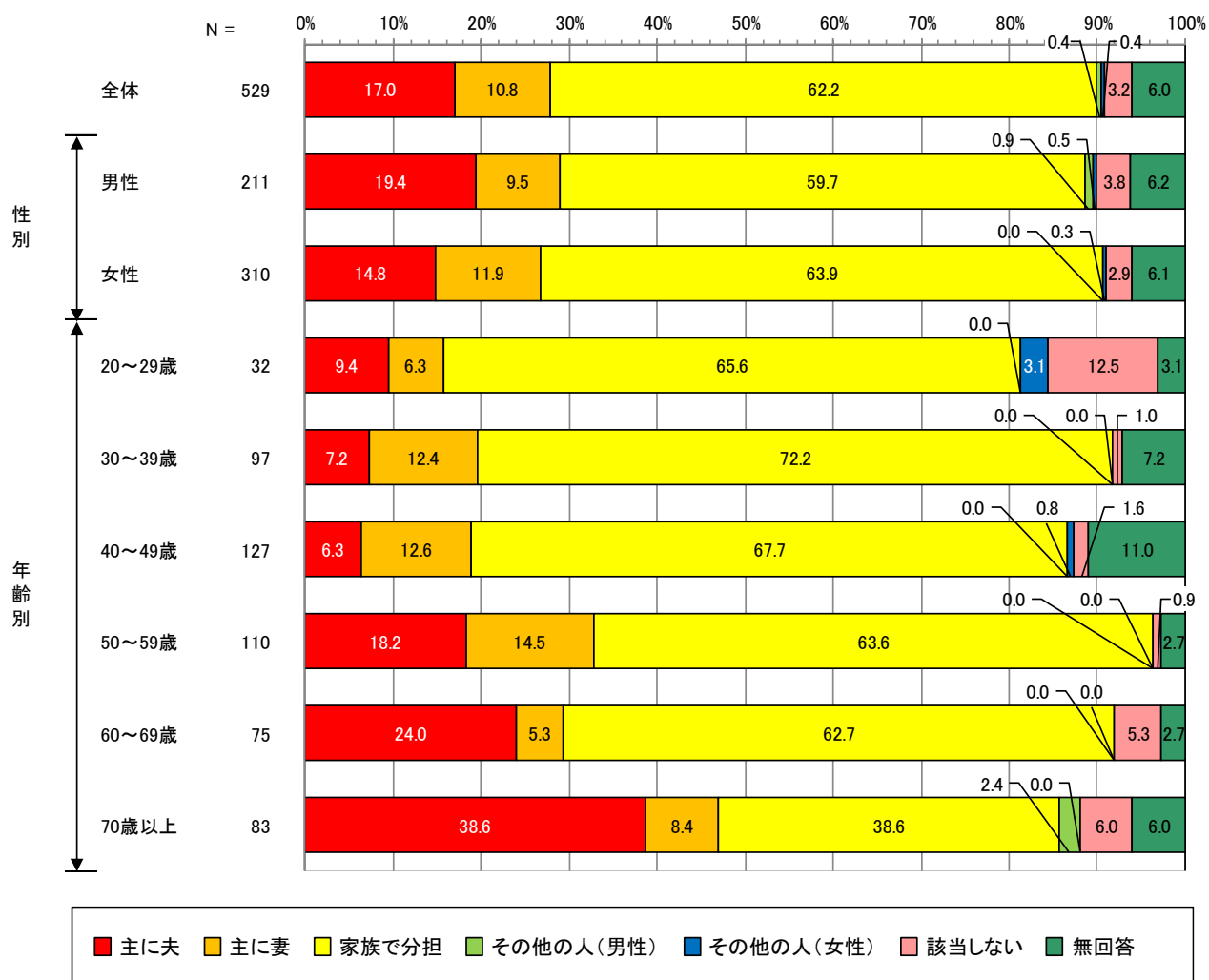
【性 別】

性別でみると、男性に比べ、女性で「家族で分担」の割合が高く、5 割台半ばとなっています。

【年齢別】

年齢別でみると、30 歳以上で年齢が低くなるにつれ「家族で分担」の割合が高くなる傾向がみられ、30～39 歳で約 7 割となっています。また、他に比べ、40～49 歳で「主に妻」の割合が高く、約 2 割となっています。

L. 役所等への用事・書類の作成



【全 体】

「家族で分担」の割合が62.2%と最も高く、次いで「主に夫」の割合が17.0%、「主に妻」の割合が10.8%となっています。

【性 別】

性別でみると、男女で大きな差異はみられません。

【年齢別】

年齢別でみると、30歳以上で年齢が低くなるにつれ「家族で分担」の割合が高くなる傾向がみられ、30～39歳、40～49歳で約7割となっています。また、年齢が高くなるにつれ「主に夫」の割合が高くなる傾向がみられ、70歳以上で約4割となっています。

<問４－１、問４－２の現実と理想の比較>

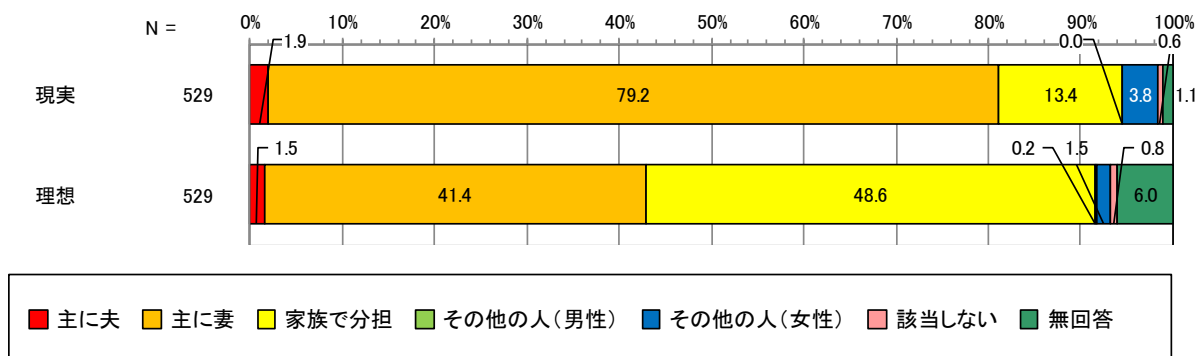
『食事のしたく』『食事の後片付け』『掃除』『洗濯』『ごみ出し』『食料品・日用品の買い物』といった、日常家事では、理想では「家族で分担」が最も高くなっているものの、現実では「主に妻」が最も高くなっており、「主に妻」の割合について理想と現実の差が 30 ポイントから 40 ポイントみられます。

加えて『乳幼児の世話』『家族の介護』『子どもの勉強やしつけ』『学校行事への参加』といった育児・介護についても、理想では「家族で分担」の割合が高いものの、現実では「主に妻」の割合が高くなっており、日常家事や育児・介護では理想と現実の乖離が顕著になっています。

『子どもの勉強やしつけ』では、理想では「家族で分担」が半数以上となっているものの、現実では「主に妻」「家族で分担」が同程度となっており、ここでも日常家事ほどではないものの、理想と現実の乖離がみられます。

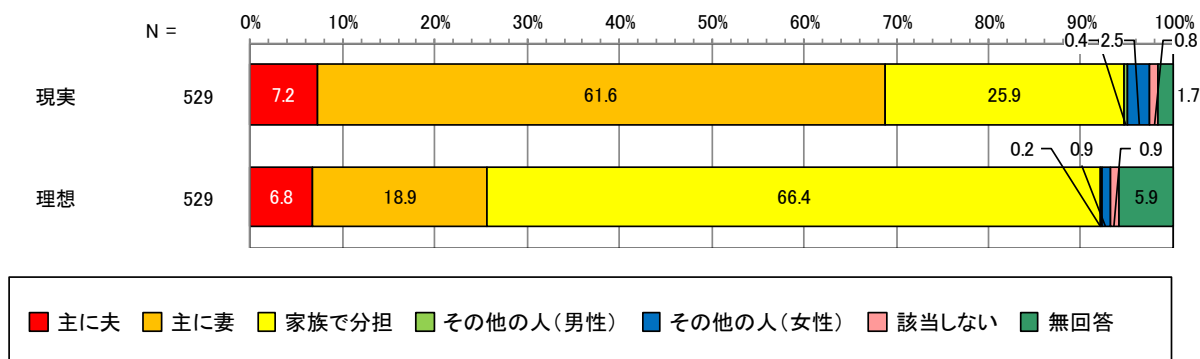
『地域行事などへの参加』では、「家族で分担」の割合は、理想で 60.9%と最も高いものの、現実では 31.8%にとどまり、「主に夫」が 34.6%で最も高くなっています。

A. 食事のしたく



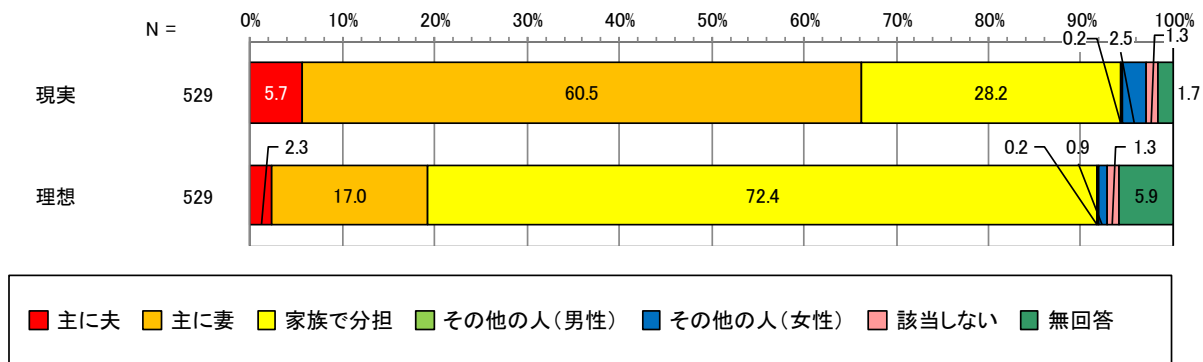
「家族で分担」は、理想では48.6%と最も高くなっているものの、現実には13.4%と、理想よりも35.2ポイント低くなっています。一方、「主に妻」は、理想では41.4%であるのに対し、現実では79.2%と最も高く、また理想よりも37.8ポイント高くなっており、妻が食事のしたくを担っている家庭が多いことが伺えます。

B. 食事の後片付け



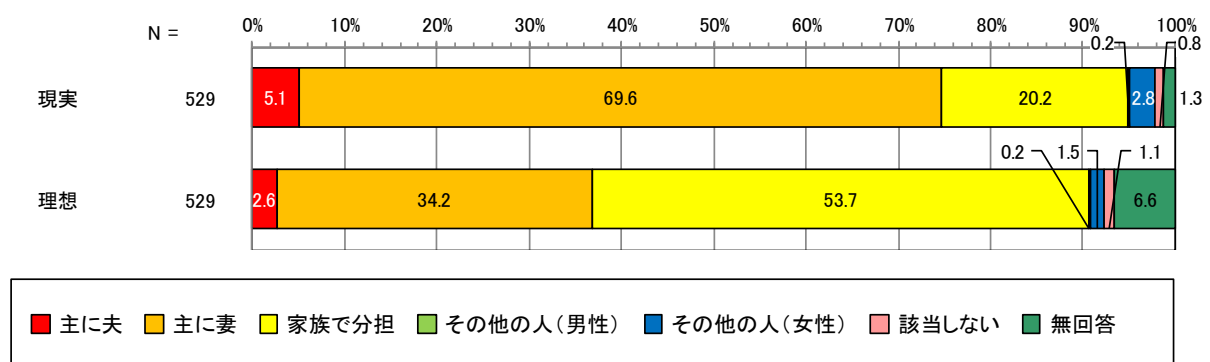
「家族で分担」は、理想では66.4%と最も高くなっているものの、現実には25.9%と、理想よりも40.5ポイント低くなっています。一方、「主に妻」は、理想では18.9%であるのに対し、現実では61.6%と最も高く、また理想よりも42.7ポイント高くなっており、妻が食事の後片付けを担っている家庭が多いことが伺えます。

C. 掃除



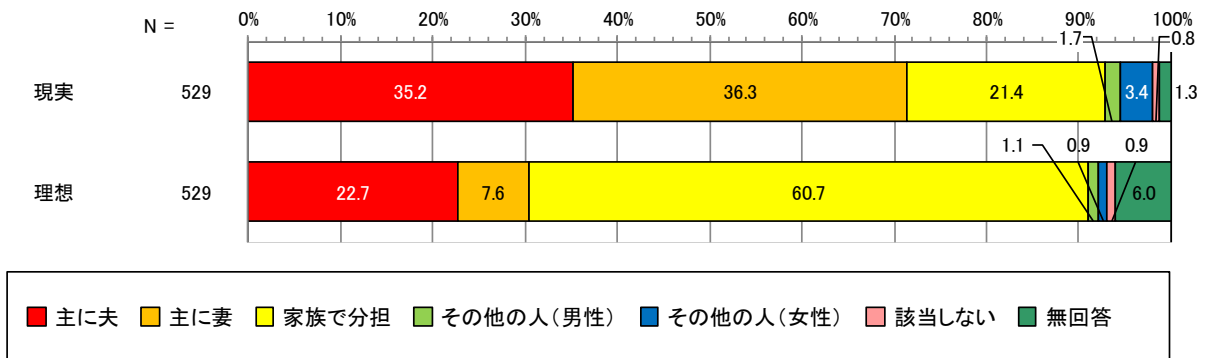
「家族で分担」は、理想では 72.4%と最も高くなっているものの、現実には 28.2%と、理想よりも 44.2 ポイント低くなっています。一方、「主に妻」は、理想では 17.0%であるのに対し、現実では 60.5%と最も高く、また理想よりも 43.5 ポイント高くなっており、妻が掃除を担っている家庭が多いことが伺えます。

D. 洗濯



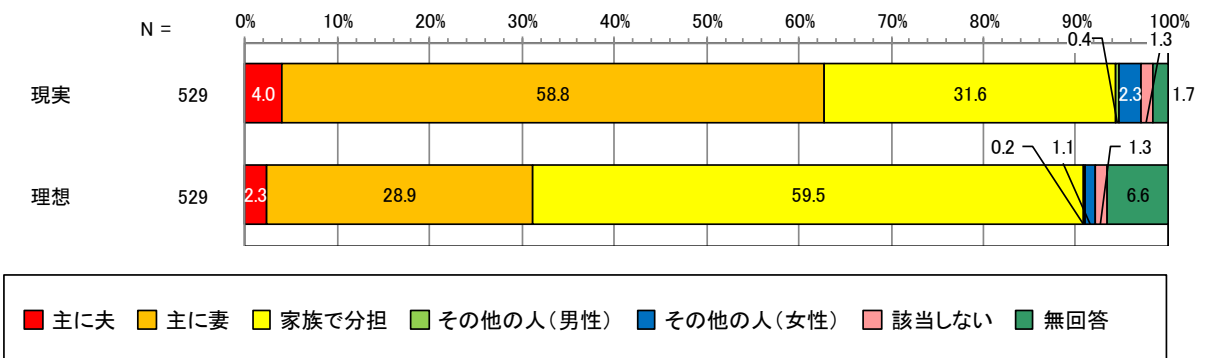
「家族で分担」は、理想では 53.7%と最も高くなっているものの、現実には 20.2%と、理想よりも 33.5 ポイント低くなっています。一方、「主に妻」は、理想では 34.2%であるのに対し、現実では 69.6%と最も高く、また理想よりも 35.4 ポイント高くなっており、妻が洗濯を担っている家庭が多いことが伺えます。

E. ごみ出し



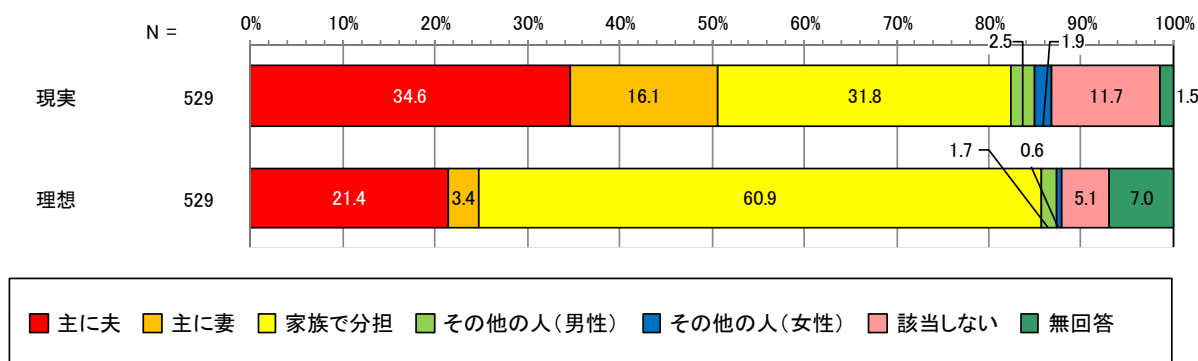
「家族で分担」は、理想では60.7%と最も高くなっているものの、現実には21.4%と、理想よりも39.3ポイント低くなっています。一方、「主に妻」は、理想では7.6%であるのに対し、現実では36.3%と最も高く、また、理想よりも28.7ポイント高くなっており、妻がごみ出しを担っている家庭が多いことが伺えます。「主に夫」は、理想で22.7%、現実で35.2%と理想よりも現実で高くなっています。

F. 食料品・日用品の買い物



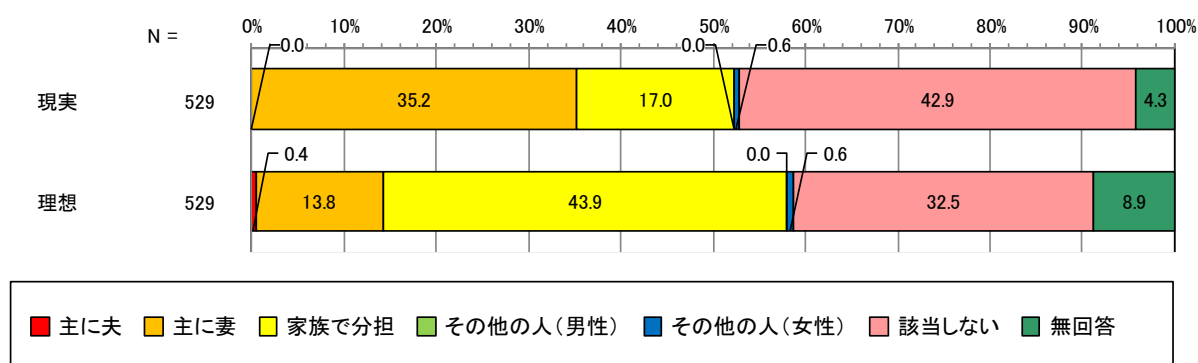
「家族で分担」は、理想では59.5%と最も高くなっているものの、現実には31.6%と、理想よりも27.9ポイント低くなっています。一方、「主に妻」は、理想では28.9%であるのに対し、現実では58.8%と最も高く、また、理想よりも29.9ポイント高くなっており、妻が食料品・日用品の買い物を担っている家庭が多いことが伺えます。

G. 地域行事などへの参加



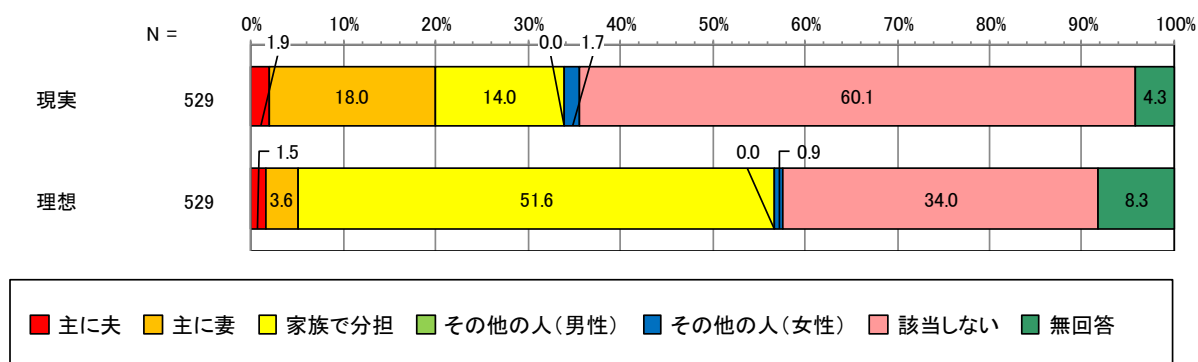
「家族で分担」は、理想では 60.9%と最も高くなっているものの、現実には 31.8%と、理想よりも 29.1 ポイント低くなっています。一方、「主に夫」は、理想では 21.4%であるのに対し、現実では 34.6%と最も高く、また、理想よりも 13.2 ポイント高くなっています。

H. 乳幼児の世話



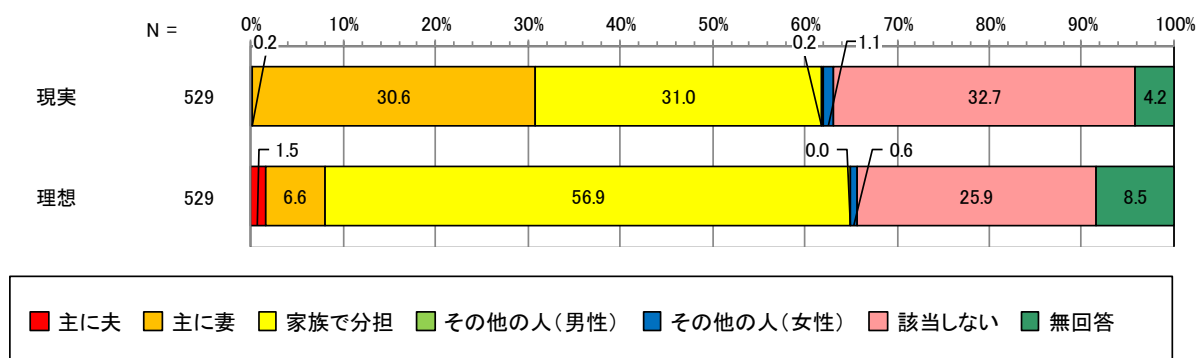
「家族で分担」は、理想では 43.9%と最も高くなっているものの、現実には 17.0%と、理想よりも 26.9 ポイント低くなっています。一方、「主に妻」は、理想では 13.8%であるのに対し、現実では 35.2%と最も高く、また、理想よりも 21.4 ポイント高くなっており、妻が乳幼児の世話を担っている家庭が多いことが伺えます。

I. 家族の介護



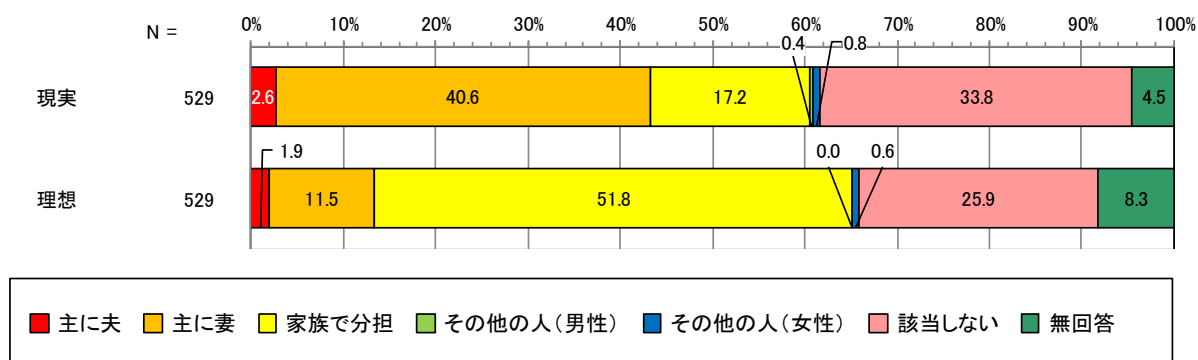
「家族で分担」は、理想では 51.6%と最も高くなっているものの、現実には 14.0%と、理想よりも 37.6 ポイント低くなっています。一方、「主に妻」は、理想では 3.6%であるのに対し、現実では 18.0%と最も高く、また、理想よりも 14.4 ポイント高くなっており、妻が家族の介護を担っている家庭が多いことが伺えます。

J. 子どもの勉強やしつけ



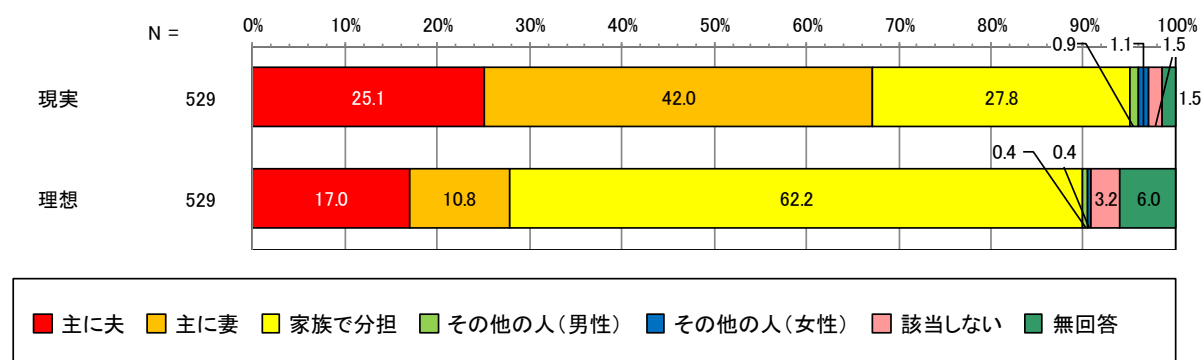
「家族で分担」は、理想では 56.9%と最も高くなっている一方、現実には 31.0%と、最も高くなっているものの、理想よりも 25.9 ポイント低くなっています。また、「主に妻」は、理想では 6.6%となっているものの、現実では 30.6%と第2位と高く、また、理想に比べ 24.0 ポイント高くなっています。

K. 学校行事への参加



「家族で分担」は、理想では 51.8%と最も高くなっているものの、現実には 17.2%と、理想よりも 34.6 ポイント低くなっています。一方、「主に妻」は、理想では 11.5%であるのに対し、現実では 40.6%と最も高く、また、理想よりも 29.1 ポイント高くなっており、妻が学校行事への参加を担っている家庭が多いことが伺えます。

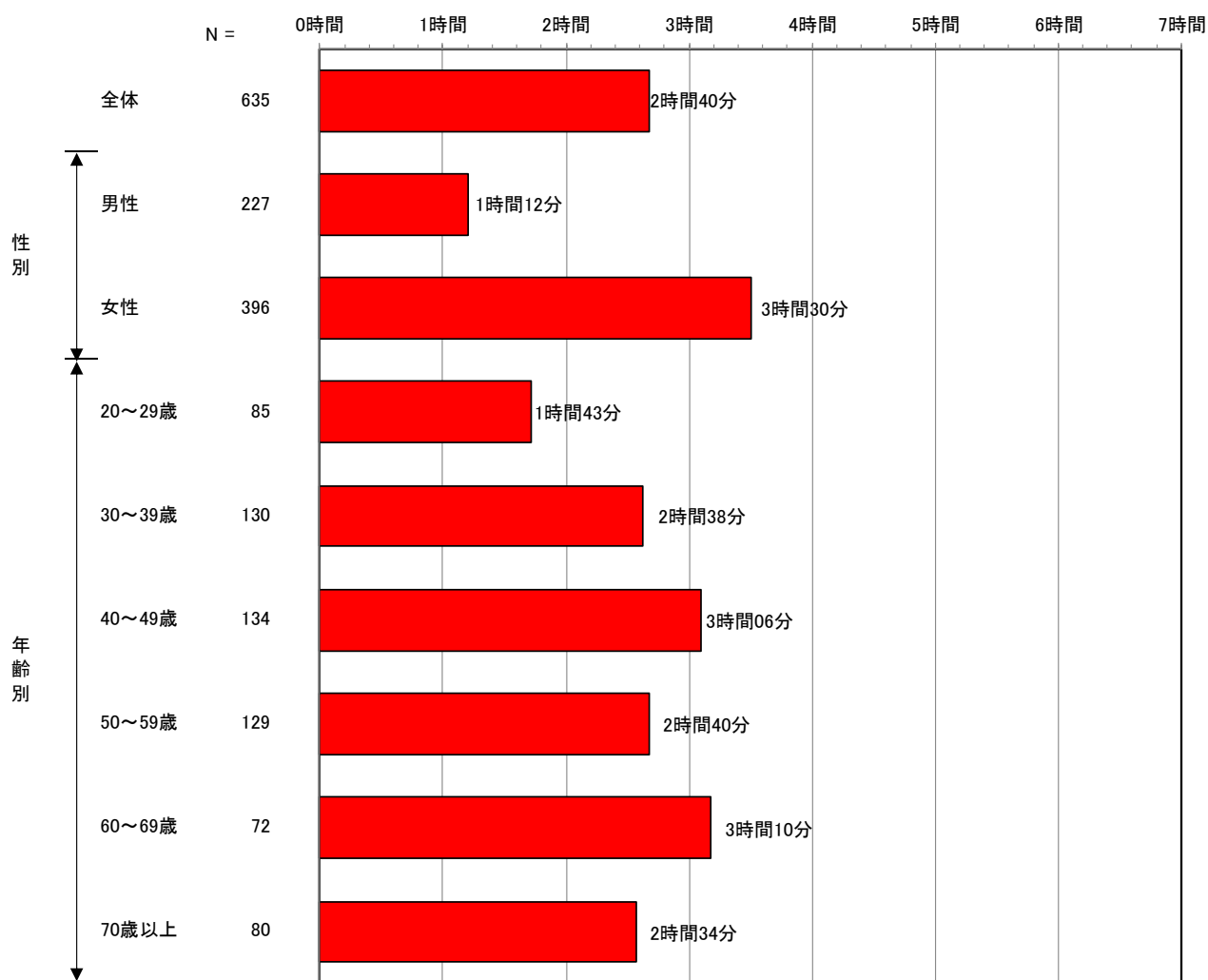
L. 役所等への用事・書類の作成



「家族で分担」は、理想では 62.2%と最も高くなっているものの、現実には 27.8%と、理想よりも 34.4 ポイント低くなっています。一方、「主に妻」は、理想では 10.8%であるのに対し、現実では 42.0%と最も高く、また、理想よりも 31.2 ポイント高くなっており、妻が役所等への用事・書類の作成を担っている家庭が多いことが伺えます。

問5 あなたが平日、次のことに使う時間はどれくらいですか。__に時間をご記入ください。

1. 家事の時間



※無回答、0分を除く

【全 体】

家事の時間は、全体では2時間40分となっています。

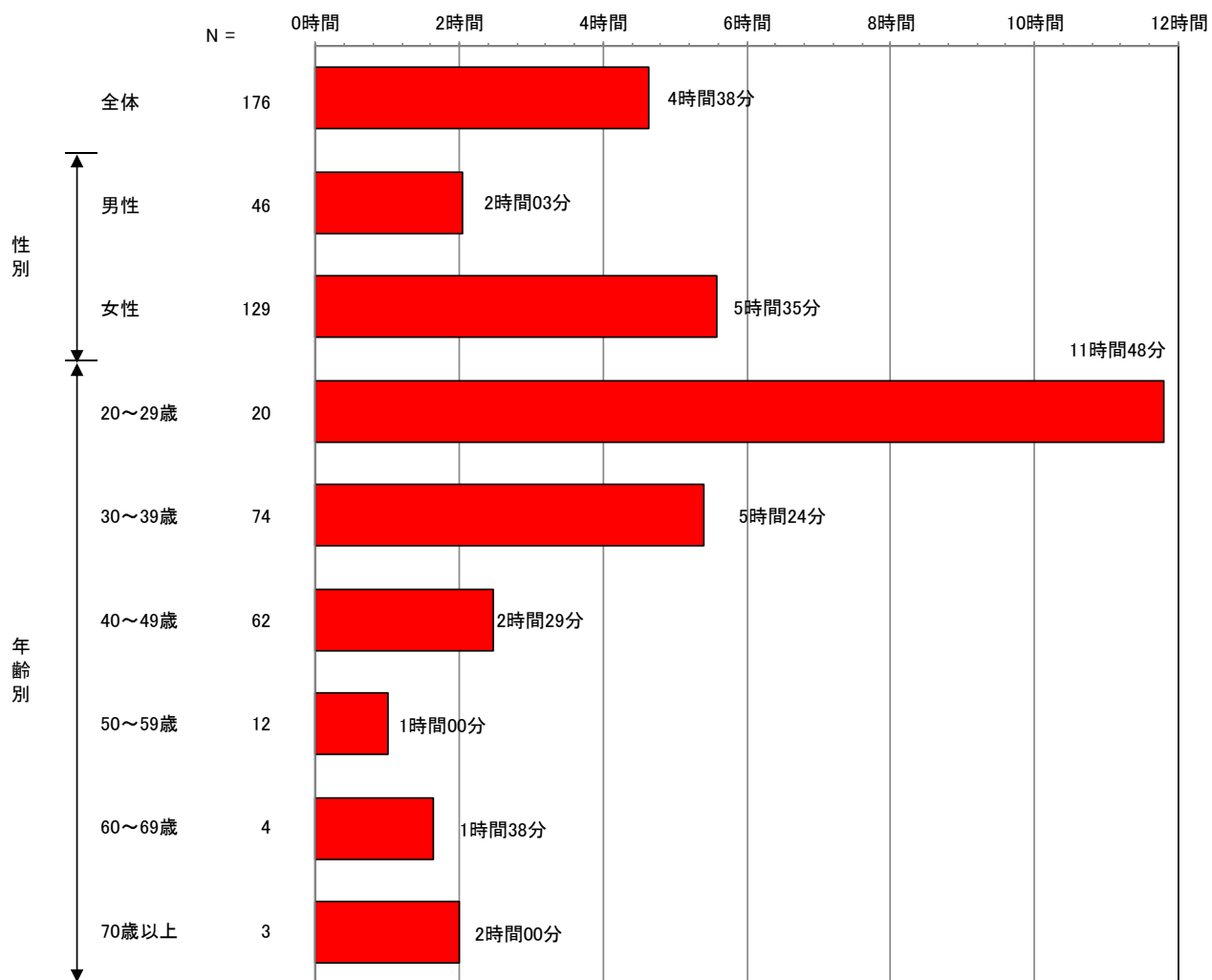
【性 別】

性別でみると、男性よりも女性が2時間18分長くなっています。

【年齢別】

年齢別でみると、他に比べ、20～29歳では家事の時間が短く、2時間未満となっています。一方、40～49歳、60～69歳では家事の時間が3時間以上と長くなっています。

2. 育児の時間



※無回答、0分を除く

【全 体】

育児の時間は、全体では4時間38分となっています。

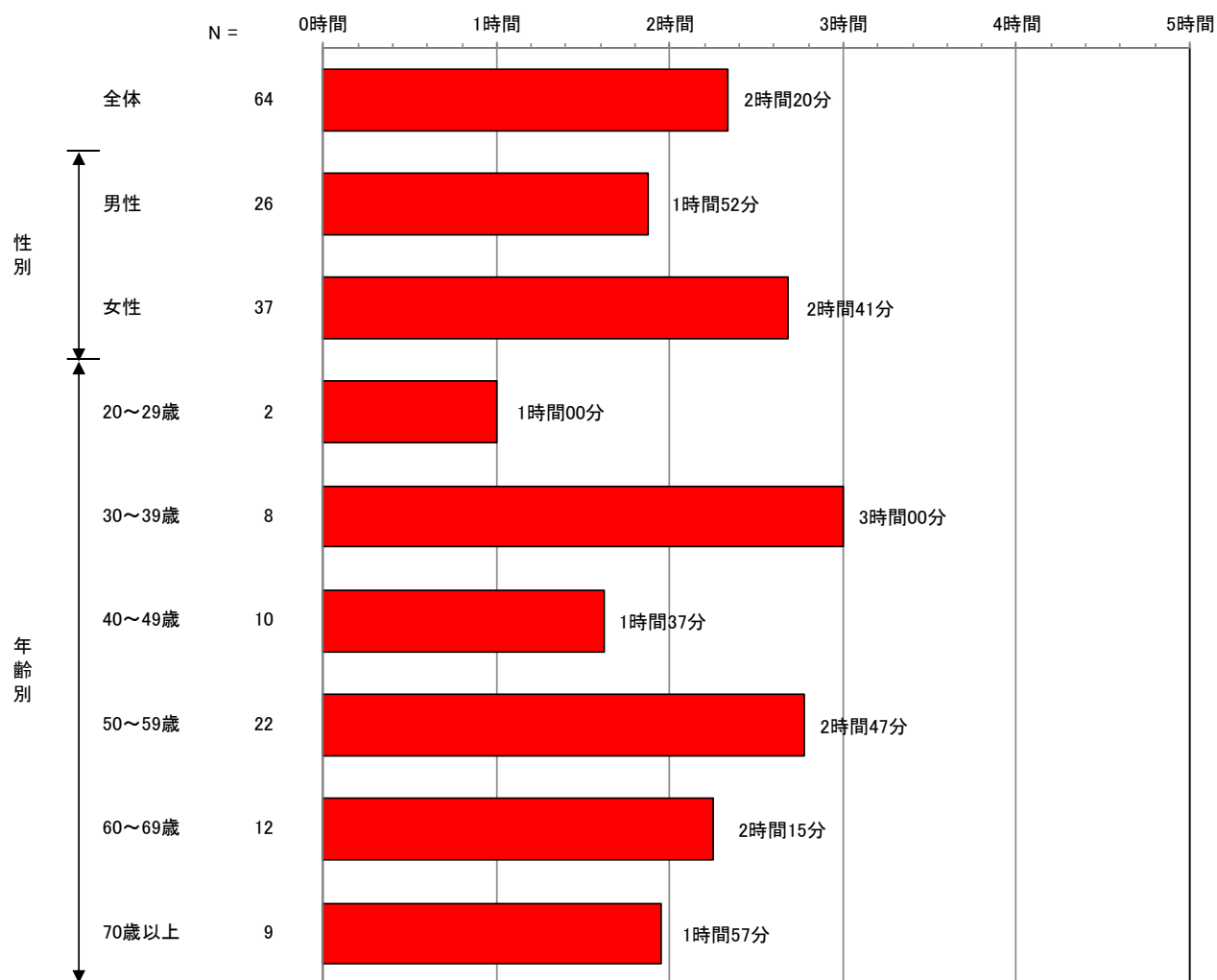
【性 別】

性別でみると、男性よりも女性が3時間32分長くなっています。

【年齢別】

年齢別でみると、他に比べ、20～29歳では11時間48分と長くなっています。

3. 介護の時間



※無回答、0分を除く

【全 体】

介護の時間は、全体では2時間20分となっています。

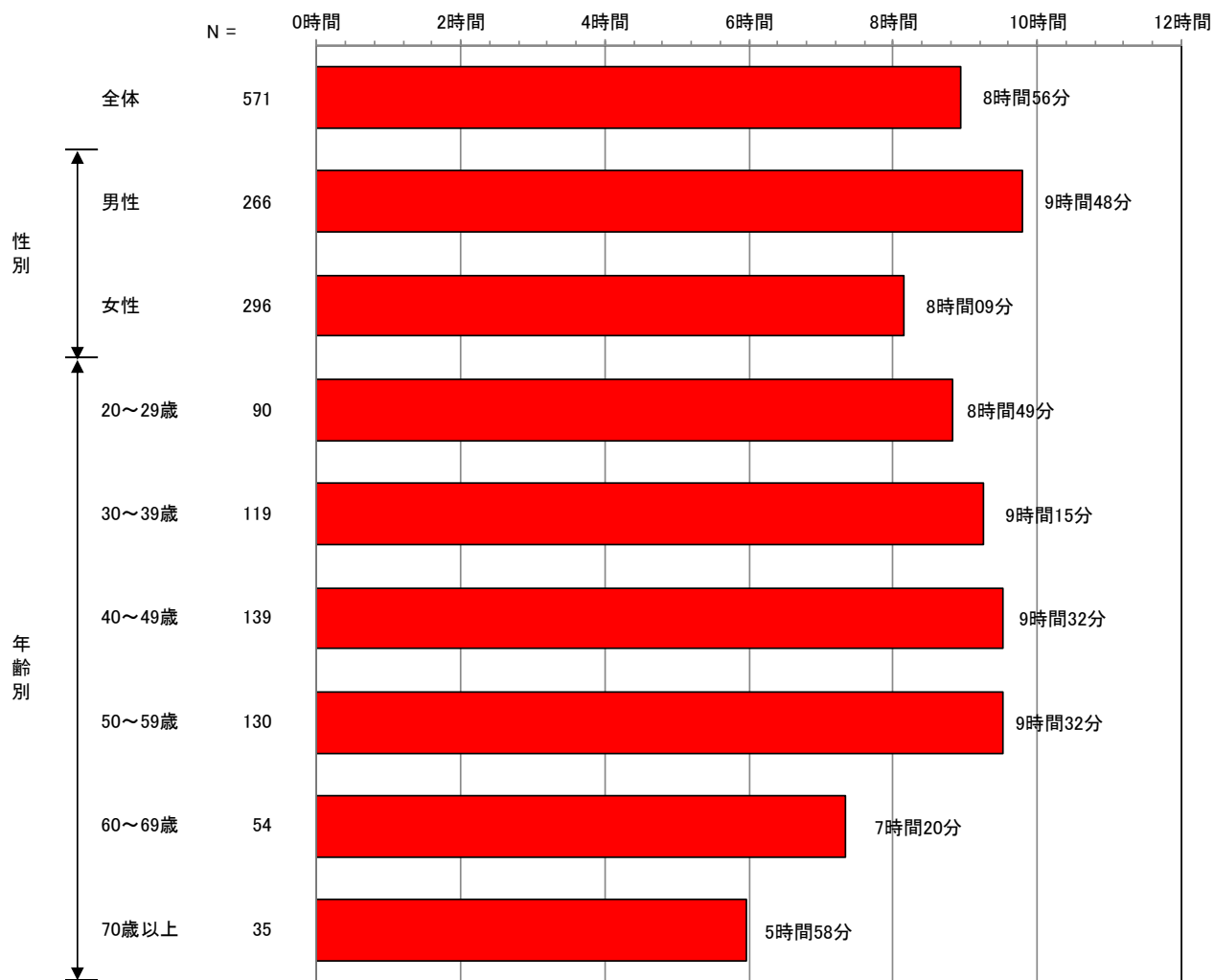
【性 別】

性別でみると、男性よりも女性が49分長くなっています。

【年齢別】

年齢別でみると、他に比べ、30～39歳では3時間00分と長くなっています。

4. 仕事の時間（通勤時間を含む）



※無回答、0分を除く

【全 体】

仕事の時間は、全体では8時間56分となっています。

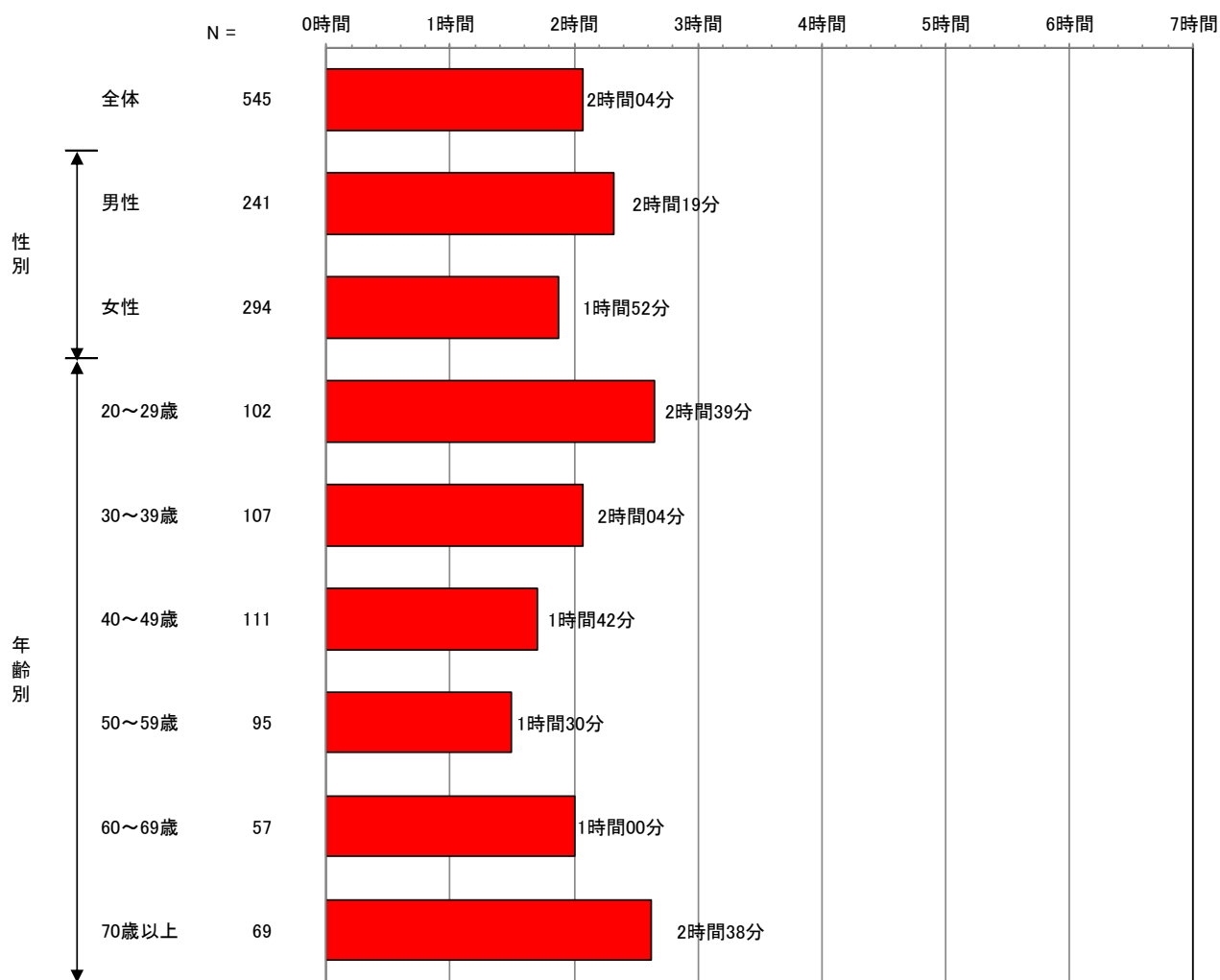
【性 別】

性別でみると、女性よりも男性が1時間39分長くなっています。

【年齢別】

年齢別でみると、他に比べ、30～39歳から50～59歳で9時間を超えており、長くなっています。

5. 趣味の時間



※無回答、0分を除く

【全 体】

趣味の時間は、全体では2時間04分となっています。

【性 別】

性別でみると、女性よりも男性が27分長くなっています。

【年齢別】

年齢別でみると、他に比べ、20～29歳、70歳以上で2時間30分以上と長くなっています。

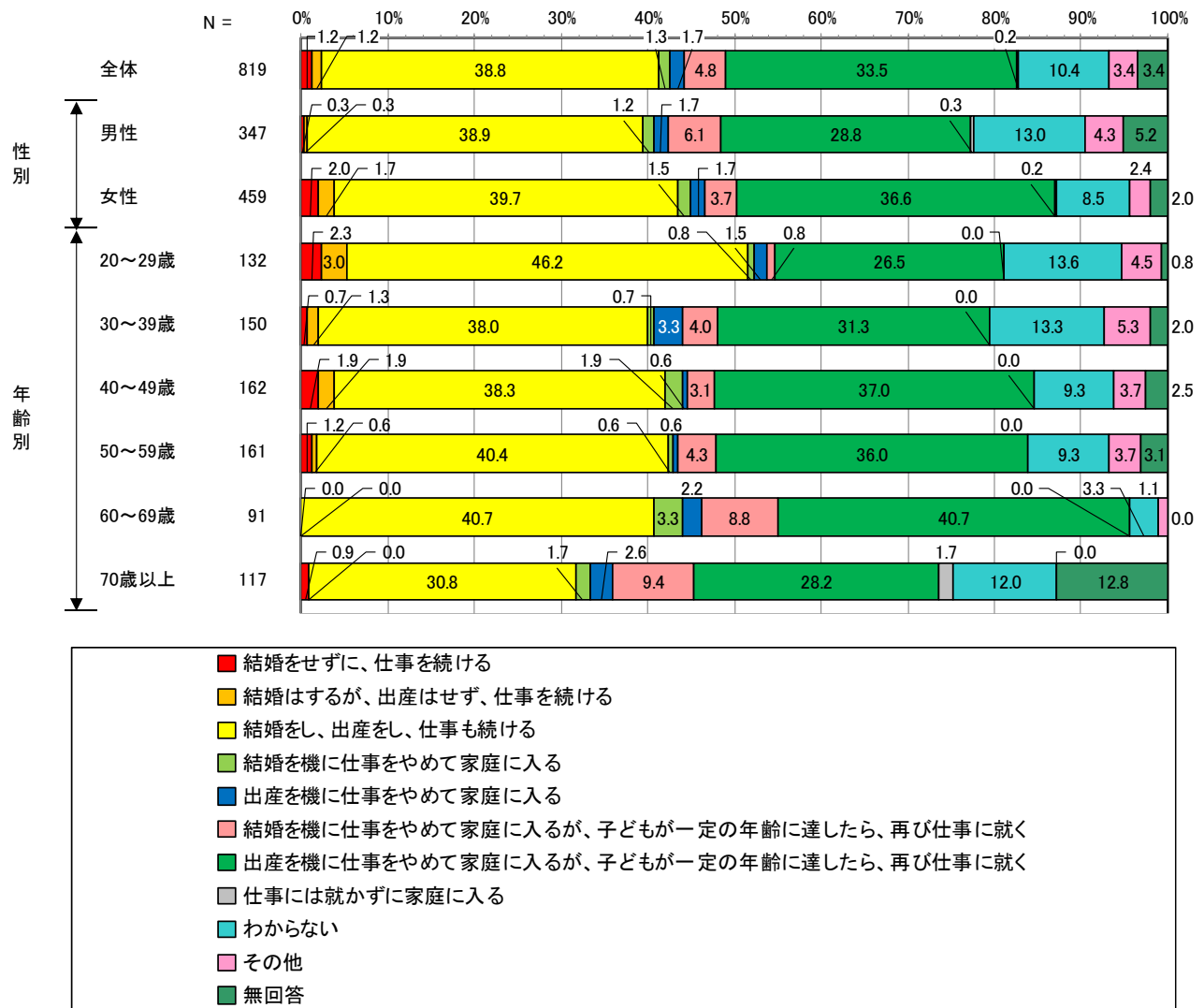
【前回調査（平成 25 年度）との比較】

	家事の時間	育児の時間	介護の時間	仕事の時間	趣味の時間
令和2年度調査	2 時間 40 分	4 時間 38 分	2 時間 20 分	8 時間 56 分	2 時間 04 分
平成 25 年度調査	2 時間 35 分	5 時間 6 分	1 時間 46 分	8 時間 49 分	1 時間 44 分

平成 25 年度調査と比較すると、育児の時間は 28 分減少し、介護の時間は 34 分、趣味の時間は 20 分増加しています。

4 仕事について

問6 あなたがお考えになる「女性の仕事や結婚についての理想像」は、次のどれに最も近いですか。（1つに○）



【全 体】

「結婚をし、出産をし、仕事も続ける」の割合が38.8%と最も高く、次いで「出産を機に仕事をやめて家庭に入るが、子どもが一定の年齢に達したら、再び仕事に就く」の割合が33.5%、「わからない」の割合が10.4%となっています。

【性 別】

性別でみると、男性に比べ、女性で「出産を機に仕事をやめて家庭に入るが、子どもが一定の年齢に達したら、再び仕事に就く」の割合が高く、3割台半ばとなっています。

【年齢別】

年齢別でみると、他に比べ、20～29歳で「結婚をし、出産をし、仕事も続ける」の割合が高く、4割台半ばとなっています。また、60～69歳で「出産を機に仕事をやめて家庭に入るが、子どもが一定の年齢に達したら、再び仕事に就く」の割合が高く、約4割となっています。

【前回調査（平成 25 年度）との比較】

単位：％

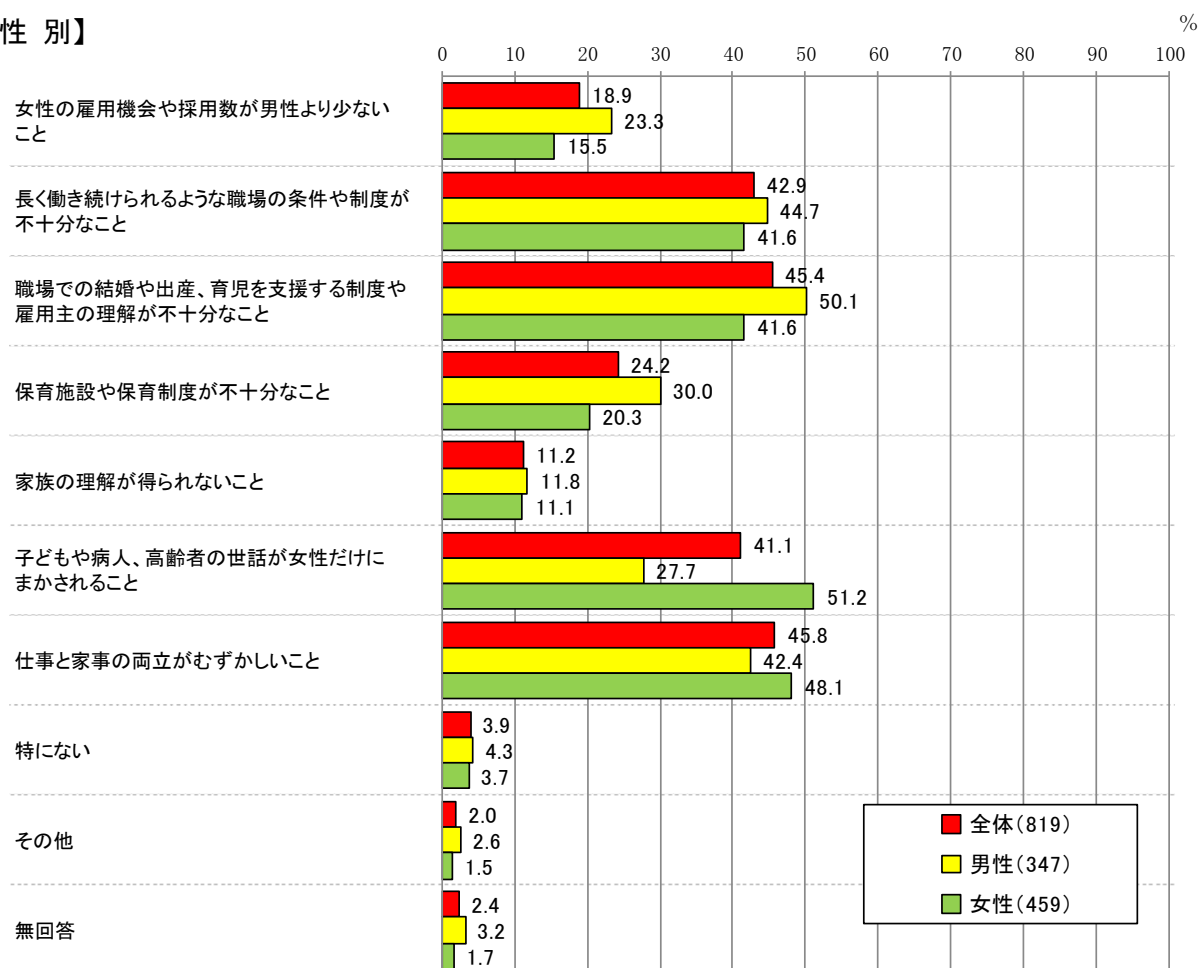
	有効回答数（件）	結婚をせずに、仕事を続ける	結婚はするが、出産はせず、仕事を続ける	結婚をし、出産をし、仕事も続ける	結婚を機に仕事をやめて家庭に入る	出産を機に仕事をやめて家庭に入る	結婚を機に仕事をやめて家庭に入るが、子どもが一定の年齢に達したら、再び仕事に就く	出産を機に仕事をやめて家庭に入るが、子どもが一定の年齢に達したら、再び仕事に就く	仕事には就かず家庭に入る
令和2年度調査	819	1.2	1.2	38.8	1.3	1.7	4.8	33.5	0.2
平成 25 年度調査	705	0.7	0.3	38.9	2.7	2.1	7.9	36.7	0.3

	わからない	その他	無回答
令和2年度調査	10.4	3.4	3.4
平成 25 年度調査	5.1	2.1	3.4

平成 25 年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。

問7 女性が仕事をもち続けるうえで、障害となっているものは何だと思いますか。
(3つまでに○)

【性別】



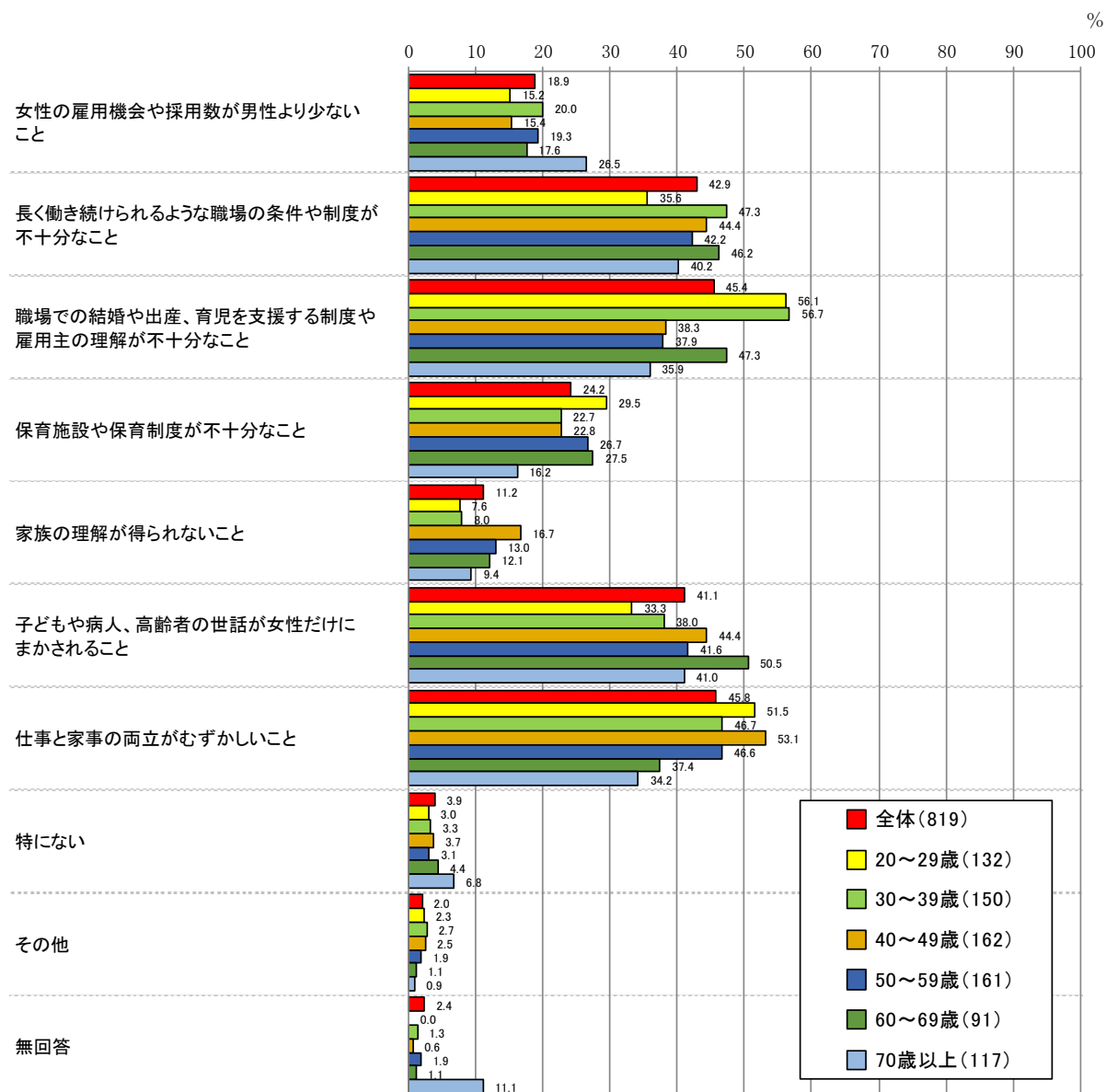
【全体】

「仕事と家事の両立がむずかしいこと」の割合が45.8%と最も高く、次いで「職場での結婚や出産、育児を支援する制度や雇用主の理解が不十分なこと」の割合が45.4%、「長く働き続けられるような職場の条件や制度が不十分なこと」の割合が42.9%となっています。

【性別】

性別でみると、女性に比べ、男性で「女性の雇用機会や採用数が男性より少ないこと」「職場での結婚や出産、育児を支援する制度や雇用主の理解が不十分なこと」「保育施設や保育制度が不十分なこと」の割合が高くなっています。また、男性に比べ、女性で「子どもや病人、高齢者の世話が女性だけにまかされること」「仕事と家事の両立がむずかしいこと」の割合が高くなっています。

【年齢別】



【年齢別】

年齢別でみると、他に比べ、20～29歳、30～39歳で「職場での結婚や出産、育児を支援する制度や雇用主の理解が不十分なこと」の割合が高く、5割台半ばとなっています。また、60～69歳で「子どもや病人、高齢者の世話が女性だけにまかされること」の割合が、20～29歳、40～49歳で「仕事と家事の両立がむずかしいこと」の割合が高く、約5割となっています。

【前回調査（平成 25 年度）との比較】

単位：％

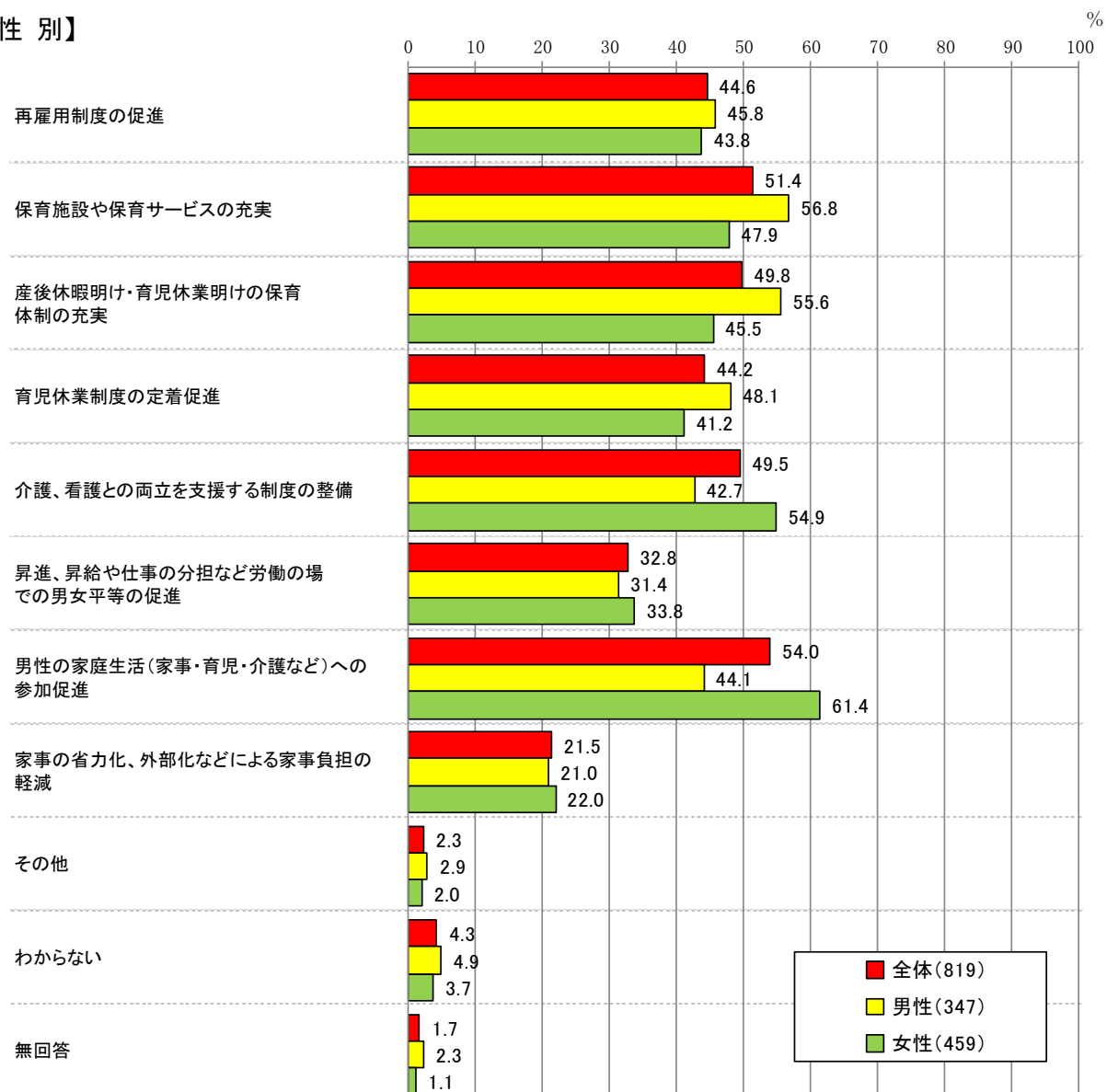
	有効回答数（件）	女性の雇用機会や採用数が男性より少ないこと	長く働き続けられるような職場の条件や制度が不十分なこと	職場での結婚や出産、育児を支援する制度や雇用主の理解が不十分なこと	保育施設や保育制度が不十分なこと	家族の理解が得られないこと	子どもや病人、高齢者の世話が女性だけにまかされること	仕事と家事の両立がむずかしいこと	特にない
令和2年度調査	819	18.9	42.9	45.4	24.2	11.2	41.1	45.8	3.9
平成 25 年度調査	705	18.6	50.6	47.8	30.2	7.5	39.0	43.0	3.1

	その他	無回答
令和2年度調査	2.0	2.4
平成 25 年度調査	1.8	3.4

平成 25 年度調査と比較すると、「長く働き続けられるような職場の条件や制度が不十分なこと」が 7.7 ポイント、「保育施設や保育制度が不十分なこと」が 6.0 ポイント減少しています。

問 8 雇用の場への女性の進出が進む中で、女性が働きやすい環境をつくるため、どのようなことが必要だと思いますか。（あてはまるものすべてに○）

【性 別】



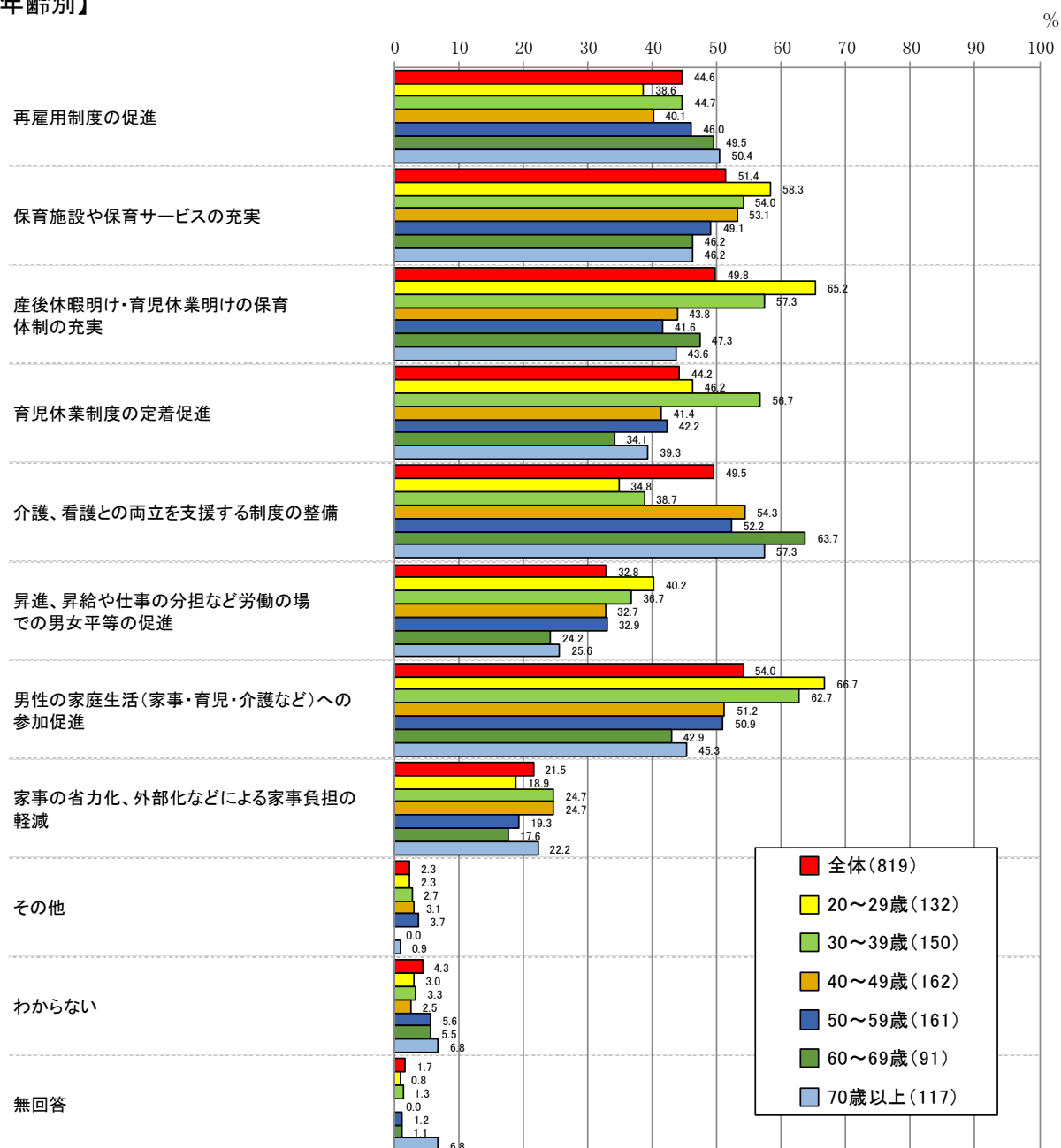
【全 体】

「男性の家庭生活（家事・育児・介護など）への参加促進」の割合が 54.0%と最も高く、次いで「保育施設や保育サービスの充実」の割合が 51.4%、「産後休暇明け・育児休業明けの保育体制の充実」の割合が 49.8%となっています。

【性 別】

性別でみると、女性に比べ、男性で「保育施設や保育サービスの充実」「産後休暇明け・育児休業明けの保育体制の充実」「育児休業制度の定着促進」の割合が高くなっています。また、男性に比べ、女性で「介護、看護との両立を支援する制度の整備」「男性の家庭生活（家事・育児・介護など）への参加促進」の割合が高くなっています。

【年齢別】



【年齢別】

年齢別でみると、年齢が低くなるにつれ「保育施設や保育サービスの充実」「産後休暇明け・育児休業明けの保育体制の充実」「男性の家庭生活（家事・育児・介護など）への参加促進」の割合が高くなる傾向がみられます。また、他に比べ、60～69歳で「介護、看護との両立を支援する制度の整備」の割合が高く、約6割となっています。

【前回調査（平成 25 年度）との比較】

単位：％

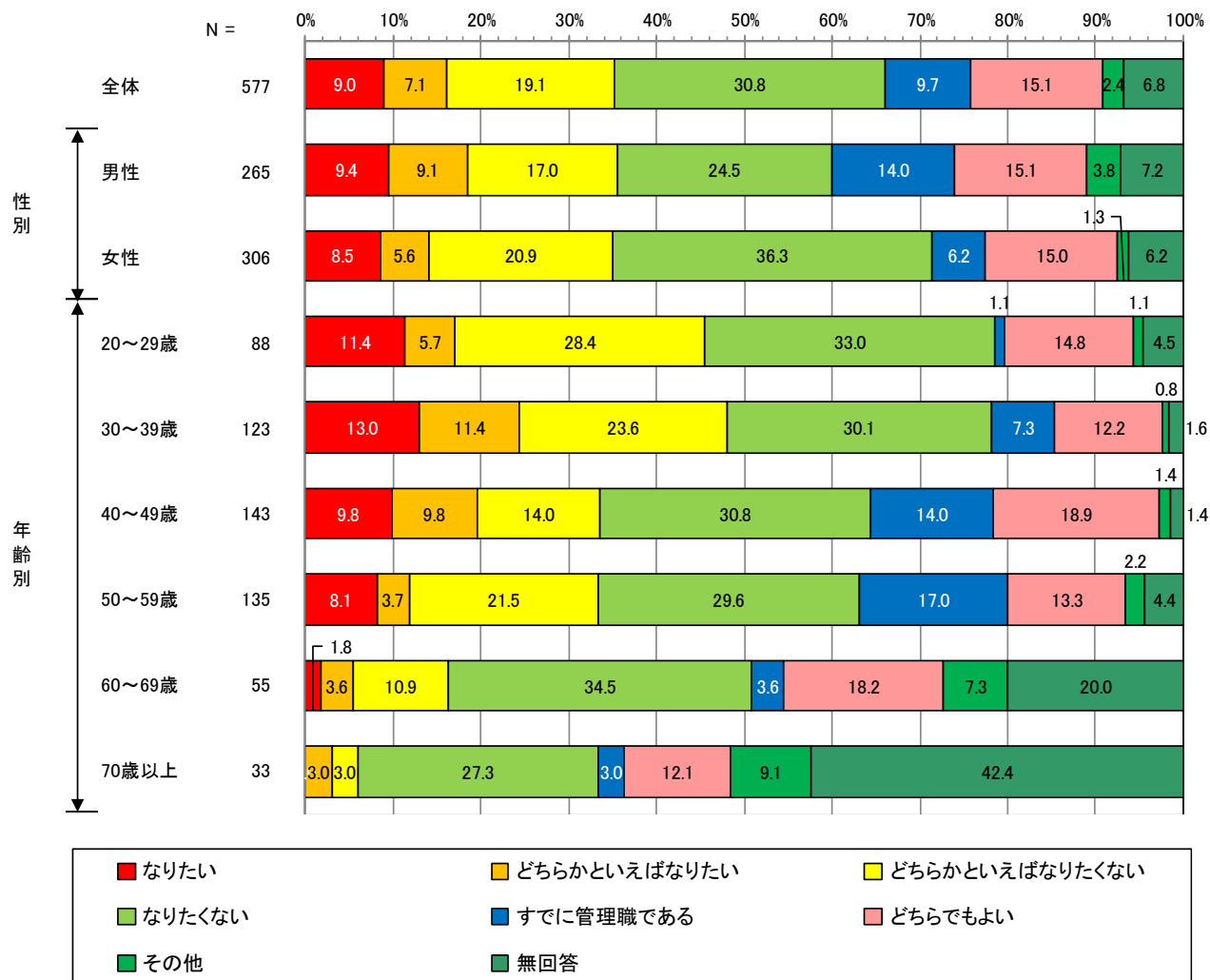
	有効回答数（件）	再雇用制度の促進	保育施設や保育サービスの充実	産後休暇明け・育児休業明けの 保育体制の充実	育児休業制度の定着促進	介護、看護との両立を支援する 制度の整備	昇進、昇給や仕事の分担など労働 の場での男女平等の促進	男性の家庭生活（家事・育児・ 介護など）への参加促進	家事の省力化、外部化などによる 家事負担の軽減
令和2年度調査	819	44.6	51.4	49.8	44.2	49.5	32.8	54.0	21.5
平成 25 年度調査	705	50.4	54.6	48.1	48.8	48.8	28.5	50.1	15.7

	その他	わからない	無回答
令和2年度調査	2.3	4.3	1.7
平成 25 年度調査	1.8	4.5	3.1

平成 25 年度調査と比較すると、「再雇用制度の促進」が 5.8 ポイント減少し、「家事の省力化、外部化などによる家事負担の軽減」が 5.8 ポイント増加しています。

問9・問10は、現在、働いている方のみお答えください。

問9 あなたは機会があれば管理職になりたいと思いますか。(1つに○)



【全 体】

「なりたくない」と「どちらかといえばなりたくない」をあわせた「なりたくない」の割合が 49.9%、「どちらかといえばなりたくない」と「なりたくない」をあわせた「なりたくない」の割合が 49.9%、「どちらでもよい」の割合が 15.1%となっています。

【性 別】

性別でみると、男性に比べ、女性で「なりたくない」の割合が高く、約 6 割となっています。

【年齢別】

年齢別でみると、他に比べ、30~39 歳で「なりたくない」の割合が高く、2 割台半ばとなっています。また、20~29 歳で「なりたくない」の割合が高く、約 6 割となっています。

【性・年齢別】

単位：％

	回答者数 (件)	なりたい	どちらかといえば なりたい	どちらかといえば なりたくない	なりたくない	すでに管理職である	どちらでもよい	その他	無回答
男性 20～29 歳	33	24.2	6.1	27.3	21.2	—	15.2	3.0	3.0
30～39 歳	57	10.5	17.5	19.3	24.6	12.3	15.8	—	—
40～49 歳	60	11.7	13.3	13.3	20.0	18.3	16.7	3.3	3.3
50～59 歳	71	4.2	4.2	21.1	26.8	22.5	14.1	2.8	4.2
60～69 歳	24	4.2	4.2	4.2	29.2	8.3	16.7	12.5	20.8
70 歳以上	20	—	—	5.0	30.0	5.0	10.0	10.0	40.0
女性 20～29 歳	54	3.7	5.6	29.6	40.7	1.9	13.0	—	5.6
30～39 歳	65	15.4	6.2	27.7	35.4	3.1	9.2	1.5	1.5
40～49 歳	83	8.4	7.2	14.5	38.6	10.8	20.5	—	—
50～59 歳	61	11.5	3.3	21.3	32.8	11.5	13.1	1.6	4.9
60～69 歳	30	—	3.3	16.7	36.7	—	20.0	3.3	20.0
70 歳以上	13	—	7.7	—	23.1	—	15.4	7.7	46.2

【性・年齢別】

性・年齢別でみると、女性で年齢が低くなるにつれ“なりたくない”の割合が高くなる傾向がみられ、女性の20～29歳で約7割となっています。また、他に比べ、男性の20～29歳、30～39歳で“なりたい”の割合が高く、約3割となっています。

【前回調査（平成25年度）との比較】

単位：％

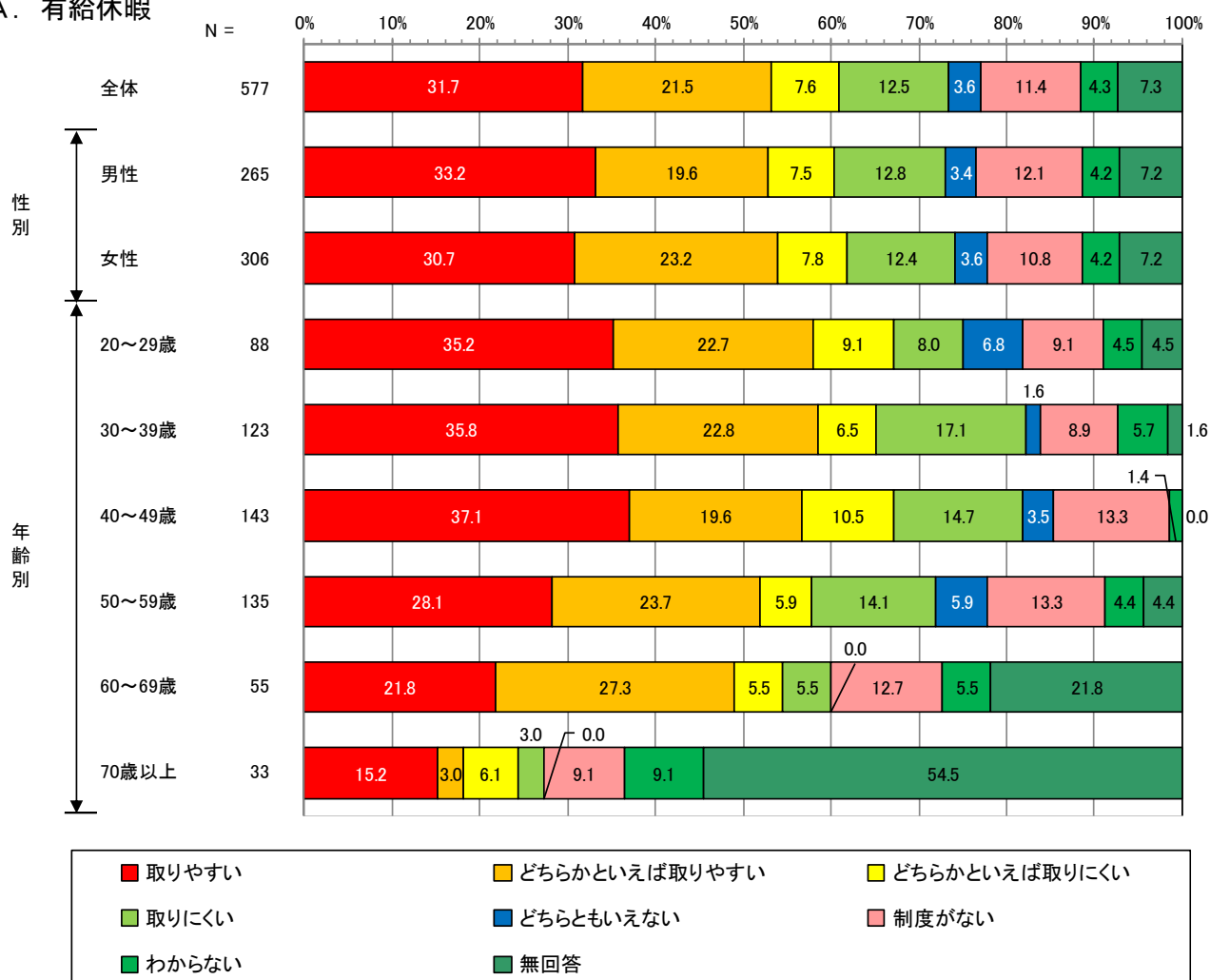
	有効回答数 (件)	なりたい	どちらかといえば なりたい	どちらかといえば なりたくない	なりたくない	すでに管理職である	どちらでもよい	その他	無回答
令和2年度調査	577	9.0	7.1	19.1	30.8	9.7	15.1	2.4	6.8
平成25年度調査	501	8.0	10.8	15.0	23.6	14.6	21.0	2.8	9.4

平成25年度調査と比較すると、“なりたくない”が11.3ポイント増加しています。

問9・問10は、現在、働いている方のみお答えください。

問10 あなたの職場では、有給休暇や育児休業などを取りやすい環境にありますか。
(それぞれ1つに○)

A. 有給休暇



【全 体】

「取りやすい」と「どちらかといえば取りやすい」をあわせた“取りやすい”の割合が53.2%、「どちらかといえば取りにくい」と「取りにくい」をあわせた“取りにくい”の割合が20.1%となっています。

【性 別】

性別でみると、男女で大きな差異はみられません。

【年齢別】

年齢別でみると、年齢が低くなるにつれ“取りやすい”の割合が高くなる傾向がみられ、20～29歳、30～39歳で約6割となっています。また、他に比べ、30～39歳、40～49歳で“取りにくい”の割合が高く、2割台半ばとなっています。

【職業別】

単位：％

	有効回答数 (件)	取りやすい	どちらかといえば 取りやすい	どちらかといえば 取りにくい	取りにくい	どちらともいえない	制度がない	わからない	無回答
農業	41	4.9	4.9	2.4	2.4	4.9	26.8	2.4	51.2
漁業	3	—	—	—	33.3	—	66.7	—	—
商工業	7	42.9	—	28.6	—	—	—	14.3	14.3
自営業	52	23.1	7.7	5.8	13.5	—	28.8	7.7	13.5
会社員	257	37.0	25.3	9.3	17.1	3.9	5.4	1.6	0.4
公務員・団体職員	73	39.7	35.6	8.2	12.3	2.7	—	—	1.4
パート・アルバイトなど	123	30.9	20.3	5.7	8.1	4.9	16.3	10.6	3.3
その他	21	19.0	9.5	4.8	—	4.8	19.0	9.5	33.3

【職業別】

職業別でみると、他に比べ、公務員・団体職員で“取りやすい”の割合が高く、7割台半ばとなっています。一方、会社員で“取りにくい”の割合が高く、2割台半ばとなっています。

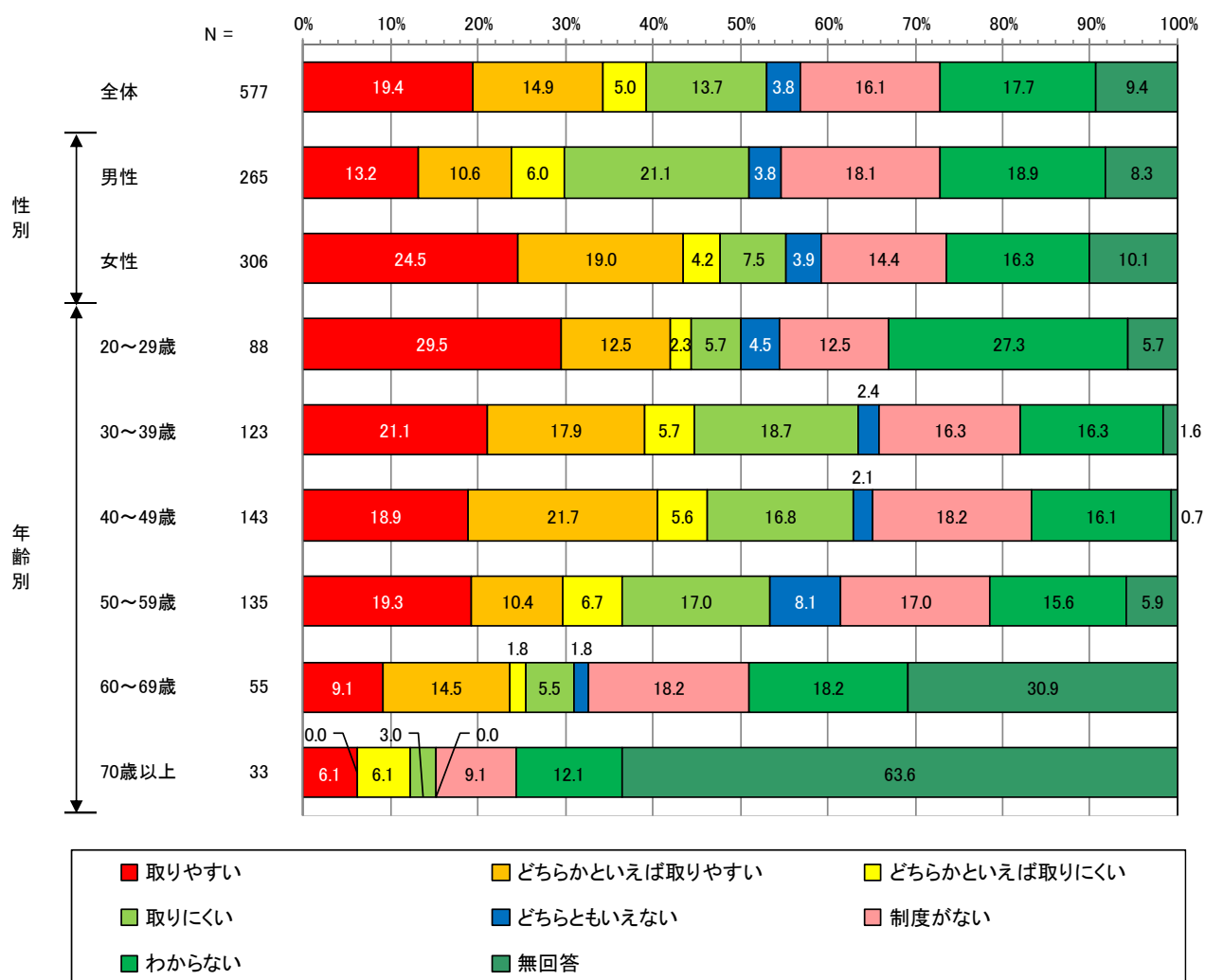
【前回調査（平成 25 年度）との比較】

単位：％

	有効回答数 (件)	取りやすい	どちらかといえば 取りやすい	どちらかといえば 取りにくい	取りにくい	どちらともいえない	制度がない	わからない	無回答
令和2年度調査	577	31.7	21.5	7.6	12.5	3.6	11.4	4.3	7.3
平成 25 年度調査	501	19.4	19.4	11.8	16.0	5.2	17.0	3.0	12.4

平成 25 年度調査と比較すると、“取りやすい”が 14.4 ポイント増加し、“取りにくい”が 7.7 ポイント減少しています。また、「制度がない」が 5.6 ポイント減少しています。

B. 育児休業



【全 体】

「取りやすい」と「どちらかといえば取りやすい」をあわせた“取りやすい”の割合が 34.3%、「どちらかといえば取りにくい」と「取りにくい」をあわせた“取りにくい”の割合が 18.7%となっています。

【性 別】

性別でみると、女性に比べ、男性で“取りにくい”の割合が高く、約3割となっています。また、男性に比べ、女性で“取りやすい”の割合が高く、約4割となっています。

【年齢別】

年齢別でみると、他に比べ、20～29歳から40～49歳で“取りやすい”の割合が高く、約4割となっています。また、30～39歳から50～59歳で“取りにくい”の割合が高く、2割を超えています。

【職業別】

単位：％

	有効回答数 (件)	取りやすい	どちらかといえば 取りやすい	どちらかといえば 取りにくい	取りにくい	どちらともいえない	制度がない	わからない	無回答
農業	41	2.4	2.4	2.4	2.4	2.4	26.8	9.8	51.2
自営業	52	13.5	5.8	5.8	17.3	1.9	32.7	7.7	15.4
会社員	257	20.6	14.8	5.8	20.6	5.1	12.1	19.5	1.6
公務員・団体職員	73	37.0	32.9	5.5	13.7	4.1	1.4	4.1	1.4
パート・アルバイトなど	123	17.1	14.6	3.3	3.3	3.3	20.3	28.5	9.8
その他	21	14.3	9.5	4.8	—	—	28.6	9.5	33.3

【職業別】

職業別でみると、他に比べ、公務員・団体職員で“取りやすい”の割合が高く、約7割となっています。また、自営業、会社員で“取りにくい”の割合が高く、2割台半ばとなっています。

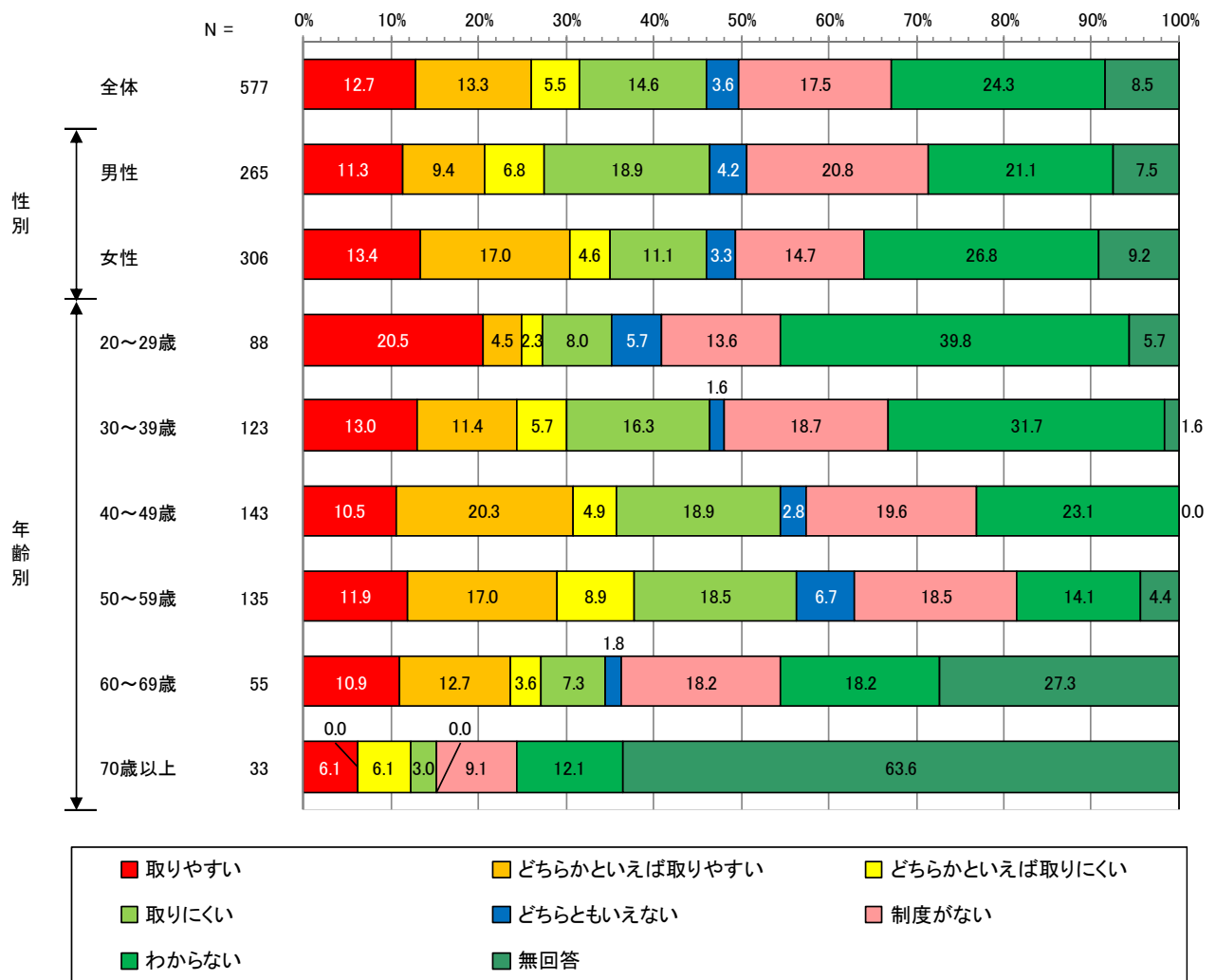
【前回調査（平成 25 年度）との比較】

単位：％

	有効回答数 (件)	取りやすい	どちらかといえば 取りやすい	どちらかといえば 取りにくい	取りにくい	どちらともいえない	制度がない	わからない	無回答
令和2年度調査	577	19.4	14.9	5.0	13.7	3.8	16.1	17.7	9.4
平成 25 年度調査	501	14.8	11.4	8.6	12.8	4.2	22.0	14.2	16.2

平成 25 年度調査と比較すると、“取りやすい”が 8.1 ポイント増加しています。また、「制度がない」が 5.9 ポイント減少しています。

C. 介護休業



【全 体】

「取りやすい」と「どちらかといえば取りやすい」をあわせた“取りやすい”の割合が 26.0%、「どちらかといえば取りにくい」と「取りにくい」をあわせた“取りにくい”の割合が 20.1%となっています。

【性 別】

性別でみると、女性に比べ、男性で“取りにくい”の割合が高く、2割台半ばとなっています。また、男性に比べ、女性で“取りやすい”の割合が高く、約3割となっています。

【年齢別】

年齢別でみると、他に比べ、40～49歳、50～59歳で“取りやすい”の割合が高く、約3割となっています。また、50～59歳で“取りにくい”の割合が高く、約3割となっています。

【職業別】

単位：％

	有効回答数 (件)	取りやすい	どちらかといえば 取りやすい	どちらかといえば 取りにくい	取りにくい	どちらともいえない	制度がない	わからない	無回答
農業	41	2.4	4.9	2.4	2.4	—	26.8	9.8	51.2
漁業	3	—	—	—	33.3	—	66.7	—	—
商工業	7	—	—	—	14.3	—	14.3	57.1	14.3
自営業	52	15.4	7.7	3.8	13.5	3.8	32.7	7.7	15.4
会社員	257	13.2	9.7	7.0	21.0	4.7	14.0	29.2	1.2
公務員・団体職員	73	16.4	35.6	8.2	19.2	4.1	1.4	13.7	1.4
パート・アルバイトなど	123	13.0	14.6	3.3	4.9	3.3	22.0	32.5	6.5
その他	21	9.5	9.5	4.8	—	—	28.6	14.3	33.3

【職業別】

職業別でみると、他に比べ、公務員・団体職員で“取りやすい”の割合が高く、約5割となっています。また、会社員、公務員・団体職員で“取りにくい”の割合が高く、約3割となっています。

【前回調査（平成 25 年度）との比較】

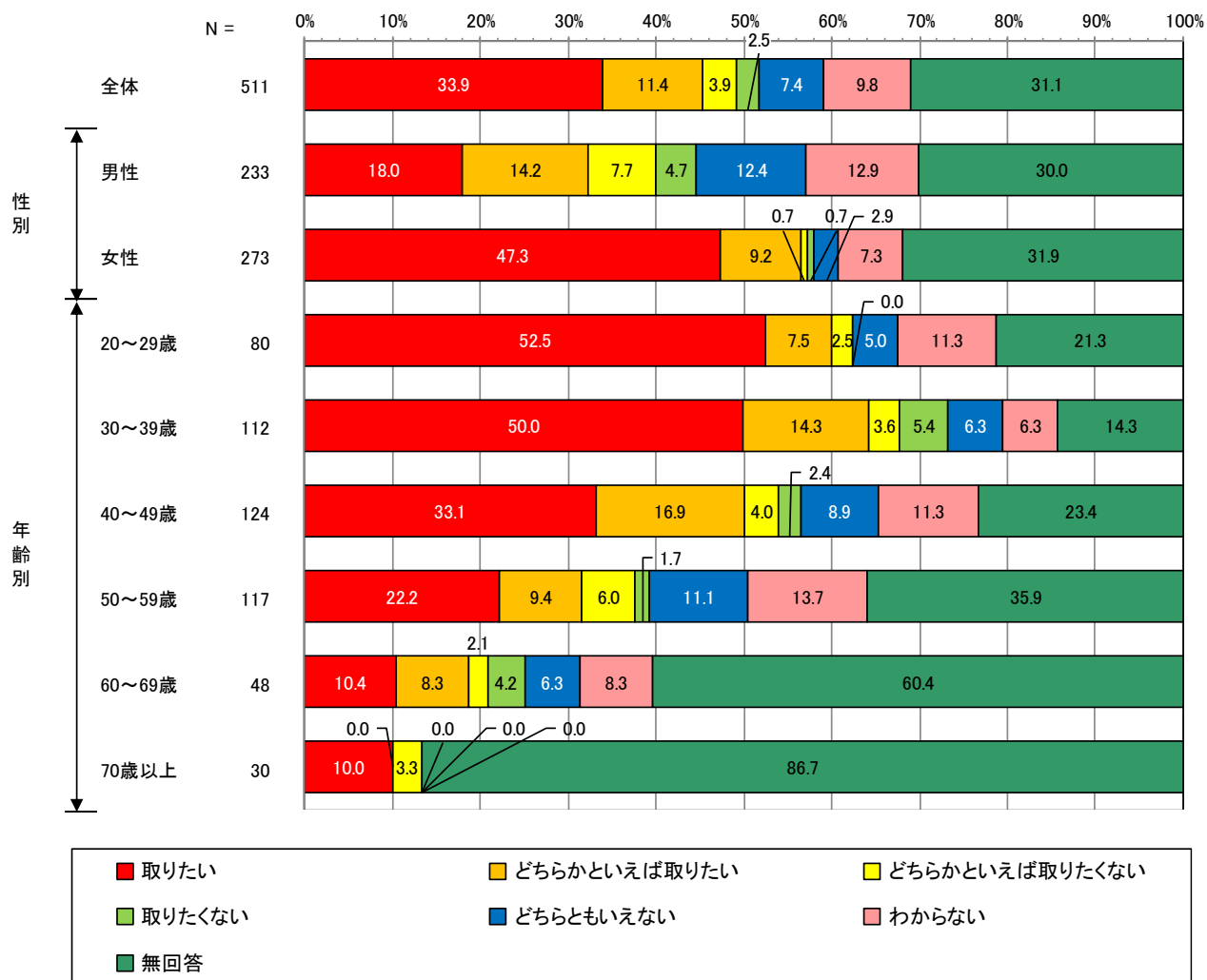
単位：％

	有効回答数 (件)	取りやすい	どちらかといえば 取りやすい	どちらかといえば 取りにくい	取りにくい	どちらともいえない	制度がない	わからない	無回答
令和2年度調査	577	12.7	13.3	5.5	14.6	3.6	17.5	24.3	8.5
平成 25 年度調査	501	7.8	8.4	8.8	15.4	4.0	23.8	20.0	16.0

平成 25 年度調査と比較すると、“取りやすい”が 9.8 ポイント増加しています。また、「制度がない」が 6.3 ポイント減少しています。

現在、働いている方で職場に育児休業制度がある方のみお答えください。

問 11 あなたは、機会があれば育児休業を取りたいと思いますか。（1つに○）



【全 体】

「取りたい」と「どちらかといえば取りたい」をあわせた“取りたい”の割合が45.3%、「どちらかといえば取りたくない」と「取りたくない」をあわせた“取りたくない”の割合が6.4%、「どちらともいえない」の割合が7.4%となっています。

【性 別】

性別でみると、女性に比べ、男性で“取りたくない”の割合が高く、約1割となっています。また、男性に比べ、女性で“取りたい”の割合が高く、5割台半ばとなっています。

【年齢別】

年齢別でみると、他に比べ、30~39歳で“取りたい”の割合が高く、6割台半ばとなっています。

【職業別】

単位：％

	有効回答数 (件)	取りたい	どちらかといえば 取りたい	どちらかといえば 取りたくない	取りたくない	どちらともいえない	わからない	無回答
農業	30	10.0	3.3	—	—	3.3	3.3	80.0
漁業	1	—	—	—	—	—	—	100.0
商工業	7	28.6	—	—	—	14.3	—	57.1
自営業	37	16.2	2.7	2.7	—	5.4	5.4	67.6
会社員	243	39.1	15.2	4.1	3.7	8.6	11.1	18.1
公務員・団体職員	73	47.9	12.3	9.6	2.7	8.2	9.6	9.6
パート・アルバイトなど	103	27.2	9.7	1.9	1.9	6.8	10.7	41.7
その他	17	23.5	—	—	—	—	11.8	64.7

【職業別】

職業別でみると、他に比べ、公務員・団体職員で“取りたい”の割合が高く、約6割となっています。

【前回調査（平成 25 年度）との比較】

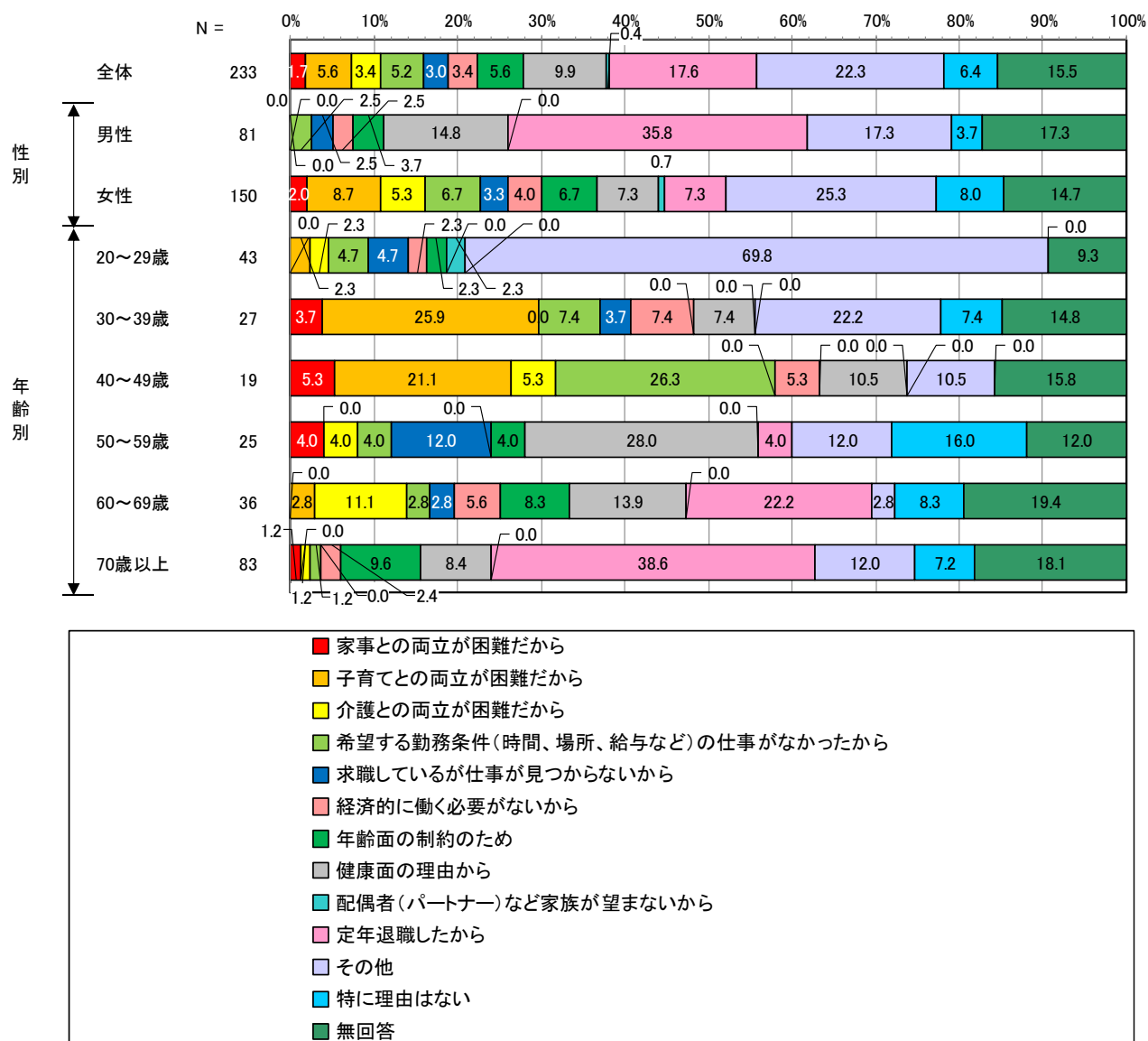
単位：％

	有効回答数 (件)	取りたい	どちらかといえば 取りたい	どちらかといえば 取りたくない	取りたくない	どちらともいえない	わからない	無回答
令和2年度調査	511	33.9	11.4	3.9	2.5	7.4	9.8	31.1
平成 25 年度調査	259	38.2	9.7	3.5	5.4	9.3	13.9	28.6

平成 25 年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。

現在、働いていない方のみお答えください。

問 12 あなたが働いていない理由は何ですか。（1つに○）



【全 体】

「定年退職したから」の割合が17.6%と最も高くなっています。

【性 別】

性別でみると、女性に比べ、男性で「健康面の理由から」「定年退職したから」の割合が高くなっています。また、男性に比べ、女性で「子育てとの両立が困難だから」「介護との両立が困難だから」の割合が高くなっています。

【年齢別】

年齢別でみると、他に比べ、70歳以上で「定年退職したから」の割合が高く、約4割となっています。また、30～39歳、40～49歳で「子育てとの両立が困難だから」の割合が、40～49歳で「希望する勤務条件（時間、場所、給与など）の仕事がなかったから」の割合が、50～59歳で「健康面の理由から」の割合が高く、約3割となっています。

【前回調査（平成 25 年度）との比較】

単位：％

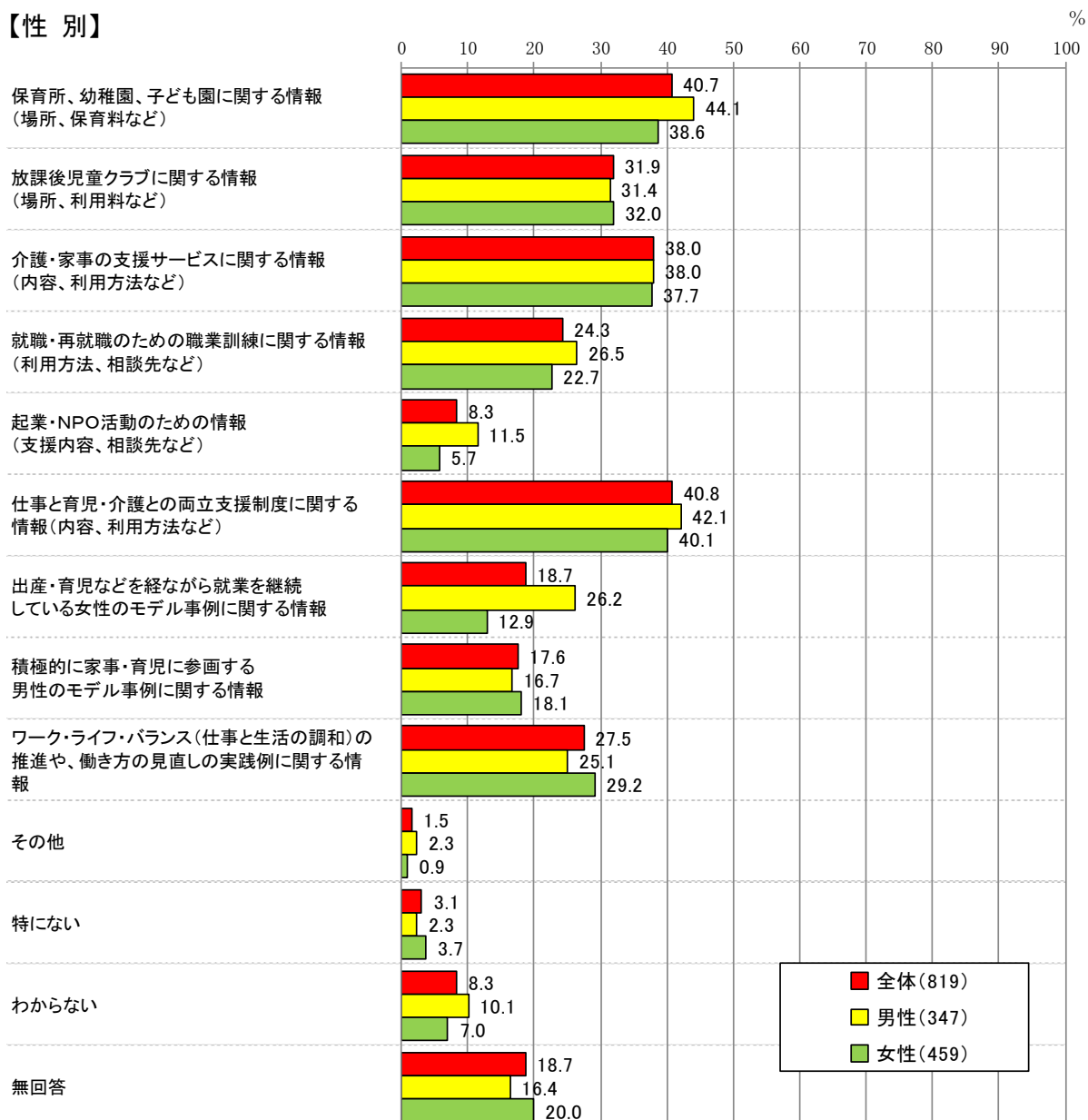
	有効回答数（件）	家事との両立が困難だから	子育てとの両立が困難だから	介護との両立が困難だから	希望する勤務条件（時間、場所、給与など）の仕事がなかったから	求職しているが仕事が見つからないから	経済的に働く必要がないから	年齢面の制約のため	健康面の理由から
令和2年度調査	233	1.7	5.6	3.4	5.2	3.0	3.4	5.6	9.9
平成 25 年度調査	184	4.3	10.3	4.3	7.1	6.0	3.3	10.9	15.8

	配偶者（パートナー）など家族が望まないから	定年退職したから	その他	特に理由はない	無回答
令和2年度調査	0.4	17.6	22.3	6.4	15.5
平成 25 年度調査	3.3	19.6	15.2	3.8	—

平成 25 年度調査と比較すると、「年齢面の制約のため」が 5.3 ポイント、「健康面の理由から」が 5.9 ポイント減少しています。

問 13 あなたは、女性が職場において活躍するために、どの情報が特に必要になると感じますか。（あてはまるものすべてに○）

【性 別】



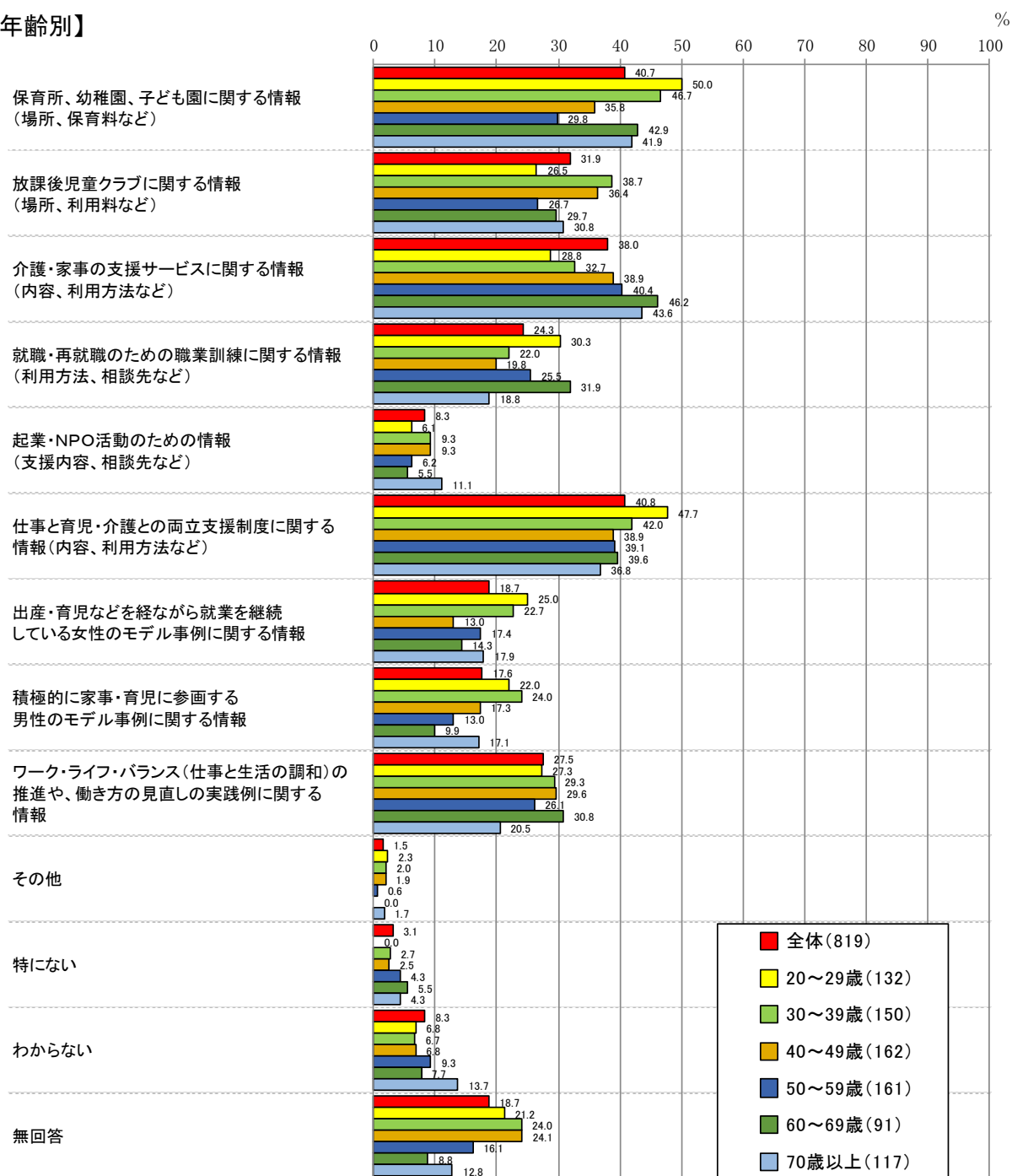
【全 体】

「仕事と育児・介護との両立支援制度に関する情報（内容、利用方法など）」の割合が 40.8%と最も高く、次いで「保育所、幼稚園、子ども園に関する情報（場所、保育料など）」の割合が 40.7%、「介護・家事の支援サービスに関する情報（内容、利用方法など）」の割合が 38.0%となっています。

【性 別】

性別でみると、女性に比べ、男性で「保育所、幼稚園、子ども園に関する情報（場所、保育料など）」「起業・NPO活動のための情報（支援内容、相談先など）」「出産・育児などを経ながら就業を継続している女性のモデル事例に関する情報」の割合が高くなっています。

【年齢別】



【年齢別】

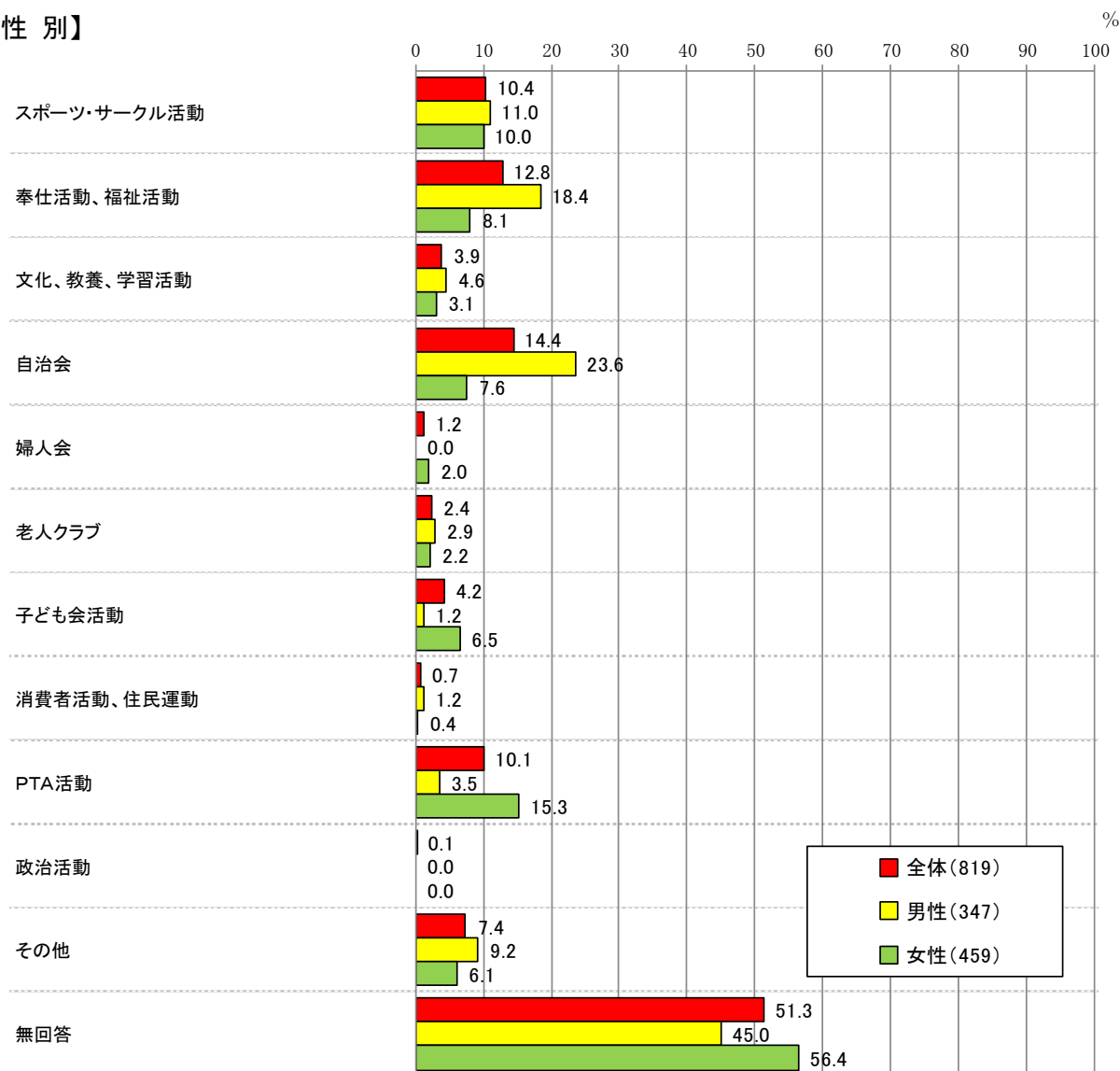
年齢別でみると、69歳以下で年齢が高くなるにつれ「介護・家事の支援サービスに関する情報（内容、利用方法など）」の割合が高くなる傾向がみられ、60～69歳で4割台半ばとなっています。また、他に比べ、20～29歳で「保育所、幼稚園、子ども園に関する情報（場所、保育料など）」「仕事と育児・介護との両立支援制度に関する情報（内容、利用方法など）」の割合が高く、約5割となっています。

5 社会への参画について

問 14 次の地域活動の中で、「現在参加しているもの」「今後参加したいもの」について、それぞれ選んでください。（あてはまるものすべてに○）

1. 現在参加している地域活動

【性 別】



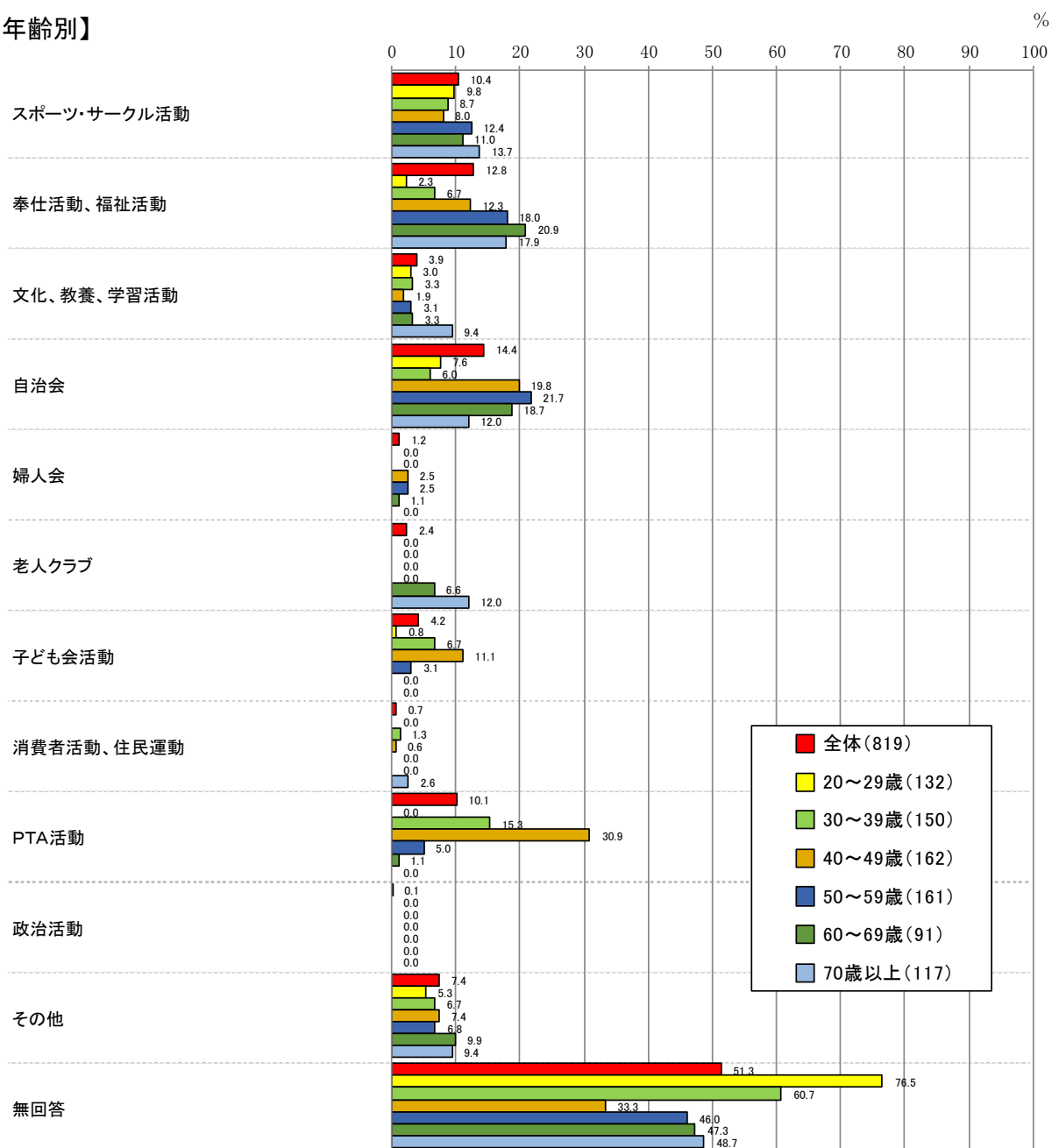
【全 体】

「自治会」の割合が14.4%と最も高く、次いで「奉仕活動、福祉活動」の割合が12.8%、「スポーツ・サークル活動」の割合が10.4%となっています。

【性 別】

性別でみると、女性に比べ、男性で「奉仕活動、福祉活動」「自治会」の割合が高くなっています。また、男性に比べ、女性で「子ども会活動」「PTA活動」の割合が高くなっています。

【年齢別】



【年齢別】

年齢別でみると、年齢が高くなるにつれ「スポーツ・サークル活動」「奉仕活動、福祉活動」の割合が高くなる傾向がみられます。また、他に比べ、40～49歳で「PTA活動」の割合が、40～49歳から60～69歳で「自治会」の割合が高くなっています。

【性・年齢別】

単位：％

	回答者数 (件)	スポーツ・サークル活動	奉仕活動、福祉活動	文化、教養、学習活動	自治会	婦人会	老人クラブ	子ども会活動	消費者活動、住民運動	P T A 活動	政治活動	その他	無回答
男性 20～29 歳	51	15.7	5.9	5.9	11.8	—	—	—	—	—	—	11.8	60.8
30～39 歳	60	11.7	11.7	3.3	5.0	—	—	1.7	3.3	5.0	—	8.3	60.0
40～49 歳	61	11.5	19.7	4.9	29.5	—	—	1.6	—	8.2	—	9.8	31.1
50～59 歳	77	6.5	23.4	1.3	39.0	—	—	2.6	—	3.9	—	7.8	40.3
60～69 歳	37	10.8	29.7	—	32.4	—	8.1	—	—	2.7	—	10.8	35.1
70 歳以上	61	11.5	21.3	11.5	21.3	—	11.5	—	3.3	—	—	8.2	42.6
女性 20～29 歳	80	6.3	—	1.3	5.0	—	—	1.3	—	—	—	1.3	86.3
30～39 歳	89	6.7	3.4	3.4	6.7	—	—	10.1	—	22.5	—	5.6	60.7
40～49 歳	101	5.9	7.9	—	13.9	4.0	—	16.8	1.0	44.6	—	5.9	34.7
50～59 歳	80	17.5	12.5	3.8	6.3	5.0	—	3.8	—	6.3	—	6.3	51.3
60～69 歳	53	11.3	15.1	5.7	9.4	1.9	5.7	—	—	—	—	9.4	54.7
70 歳以上	55	16.4	14.5	7.3	1.8	—	12.7	—	1.8	—	—	9.1	56.4

【性・年齢別】

性・年齢別でみると、女性の 40～49 歳で「P T A 活動」の割合が高く、4 割台半ばとなっています。また、男性の 50～59 歳で「自治会」の割合が、男性の 50 歳以上で「奉仕活動、福祉活動」の割合が高くなっています。

【前回調査（平成 25 年度）との比較】

単位：％

	有効回答数（件）	スポーツ・サークル活動	奉仕活動、福祉活動	文化、教養、学習活動	自治会	婦人会	老人クラブ	子ども会活動	消費者活動、住民運動
令和2年度調査	819	10.4	12.8	3.9	14.4	1.2	2.4	4.2	0.7
平成 25 年度調査	705	15.9	12.6	6.8	14.5	2.4	3.5	5.8	1.3

	PTA活動	政治活動	その他	無回答
令和2年度調査	10.1	0.1	7.4	51.3
平成 25 年度調査	8.8	0.9	2.1	52.5

平成 25 年度調査と比較すると、「スポーツ・サークル活動」が 5.5 ポイント減少しています。

2. 今後参加したい地域活動

【性別】



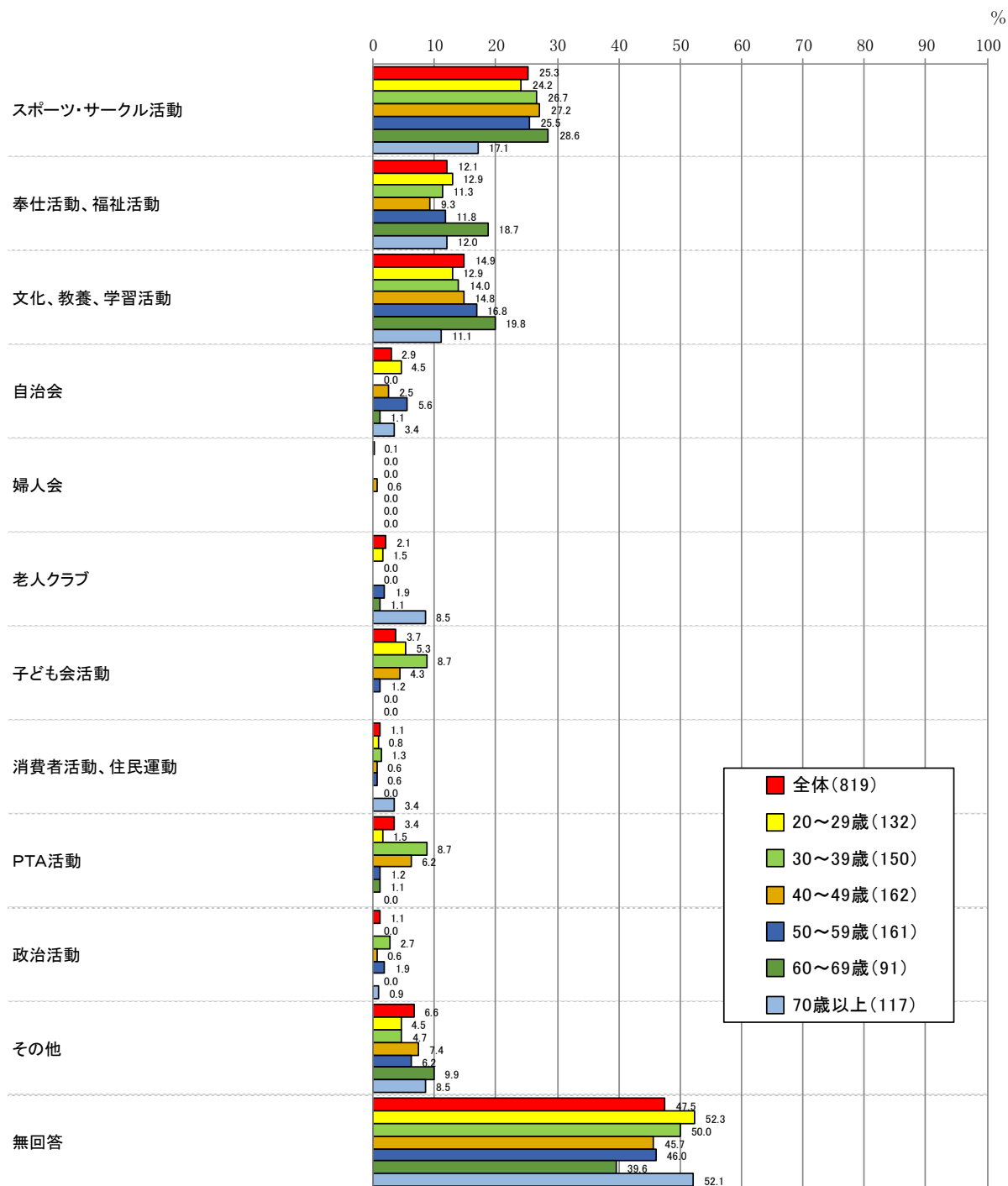
【全体】

「スポーツ・サークル活動」の割合が25.3%と最も高く、次いで「文化、教養、学習活動」の割合が14.9%、「奉仕活動、福祉活動」の割合が12.1%となっています。

【性別】

性別でみると、男性に比べ、女性で「スポーツ・サークル活動」の割合が高く、約3割となっています。

【年齢別】



【年齢別】

年齢別でみると、大きな差異はみられません。

【性・年齢別】

単位：％

	回答者数 (件)	スポーツ・サークル活動	奉仕活動、福祉活動	文化、教養、学習活動	自治会	婦人会	老人クラブ	子ども会活動	消費者活動、住民運動	PTA活動	政治活動	その他	無回答
男性 20～29 歳	51	25.5	13.7	13.7	5.9	—	3.9	5.9	2.0	2.0	—	7.8	47.1
30～39 歳	60	23.3	15.0	11.7	—	—	—	6.7	1.7	3.3	6.7	5.0	53.3
40～49 歳	61	19.7	8.2	14.8	1.6	—	—	1.6	1.6	1.6	1.6	11.5	47.5
50～59 歳	77	26.0	9.1	11.7	10.4	—	3.9	1.3	—	1.3	2.6	7.8	46.8
60～69 歳	37	16.2	8.1	16.2	2.7	—	2.7	—	—	2.7	—	16.2	43.2
70 歳以上	61	14.8	18.0	9.8	6.6	—	14.8	—	6.6	—	1.6	6.6	49.2
女性 20～29 歳	80	22.5	12.5	12.5	3.8	—	—	5.0	—	1.3	—	2.5	56.3
30～39 歳	89	29.2	9.0	15.7	—	—	—	10.1	1.1	12.4	—	4.5	47.2
40～49 歳	101	31.7	9.9	14.9	3.0	1.0	—	5.9	—	8.9	—	5.0	44.6
50～59 歳	80	23.8	13.8	21.3	1.3	—	—	1.3	1.3	1.3	1.3	5.0	46.3
60～69 歳	53	37.7	26.4	22.6	—	—	—	—	—	—	—	5.7	35.8
70 歳以上	55	20.0	5.5	12.7	—	—	1.8	—	—	—	—	9.1	56.4

【性・年齢別】

性・年齢別でみると、他に比べ、女性の 60～69 歳で「スポーツ・サークル活動」「奉仕活動、福祉活動」の割合が高くなっています。

【現在参加している地域活動別】

単位：％

	回答者数 (件)	スポーツ・ サークル活動	奉仕活動、 福祉活動	文化、教養、 学習活動	自治会	婦人会	老人クラブ	子ども会活動	消費者活動、 住民運動	PTA活動	政治活動	その他	無回答
スポーツ・ サークル活動	85	43.5	14.1	27.1	2.4	1.2	3.5	5.9	2.4	3.5	2.4	2.4	31.8
奉仕活動、 福祉活動	105	24.8	21.0	21.0	3.8	—	5.7	1.0	1.9	5.7	1.0	6.7	35.2
文化、教養、 学習活動	32	34.4	28.1	34.4	3.1	—	3.1	—	—	3.1	—	—	25.0
自治会	118	23.7	13.6	19.5	13.6	—	5.9	5.1	0.8	5.1	0.8	5.1	41.5
婦人会	10	40.0	40.0	40.0	—	10.0	—	20.0	—	10.0	—	10.0	—
老人クラブ	20	20.0	20.0	25.0	10.0	—	30.0	—	10.0	—	—	—	40.0
子ども会活動	34	44.1	17.6	14.7	2.9	2.9	—	20.6	—	14.7	—	2.9	38.2
消費者活動、 住民運動	6	33.3	66.7	33.3	16.7	—	16.7	16.7	16.7	—	16.7	—	—
PTA活動	83	31.3	12.0	12.0	3.6	1.2	—	7.2	1.2	19.3	1.2	3.6	39.8
政治活動	1	—	—	—	—	—	100.0	—	—	—	—	—	—
その他	61	14.8	3.3	14.8	1.6	—	—	4.9	—	—	—	60.7	6.6

現在参加している地域活動別でみると、他に比べ、スポーツ・サークル活動、婦人会、子ども会活動で「スポーツ・サークル活動」の割合が、婦人会で「奉仕活動、福祉活動」「文化、教養、学習活動」の割合が高く、約4割となっています。

【前回調査（平成 25 年度）との比較】

単位：％

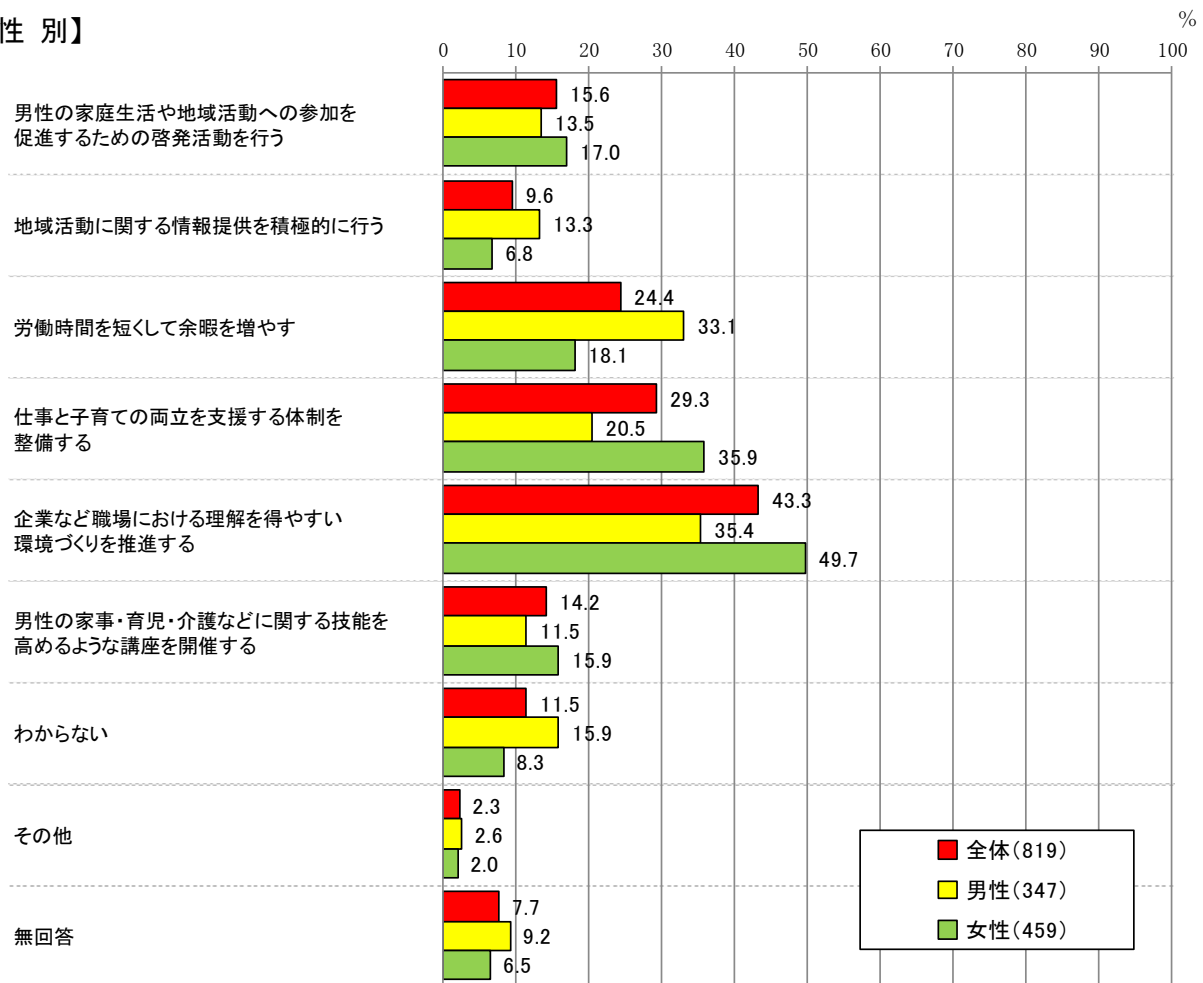
	有効回答数（件）	スポーツ・サークル活動	奉仕活動、福祉活動	文化、教養、学習活動	自治会	婦人会	老人クラブ	子ども会活動	消費者活動、住民運動
令和2年度調査	819	25.3	12.1	14.9	2.9	0.1	2.1	3.7	1.1
平成 25 年度調査	705	28.5	15.5	23.5	3.4	1.3	3.0	3.3	2.9

	PTA活動	政治活動	その他	無回答
令和2年度調査	3.4	1.1	6.6	47.5
平成 25 年度調査	2.1	1.4	0.7	46.8

平成 25 年度調査と比較すると、「文化、教養、学習活動」が 8.6 ポイント減少しています。

問 15 これまで男性は、比較的、家庭生活（家事・育児・介護など）や地域活動への参加が少なかったと言われていますが、男性の参加を促進するためには、どのようなことが必要だと思いますか。（2つまでに○）

【性 別】



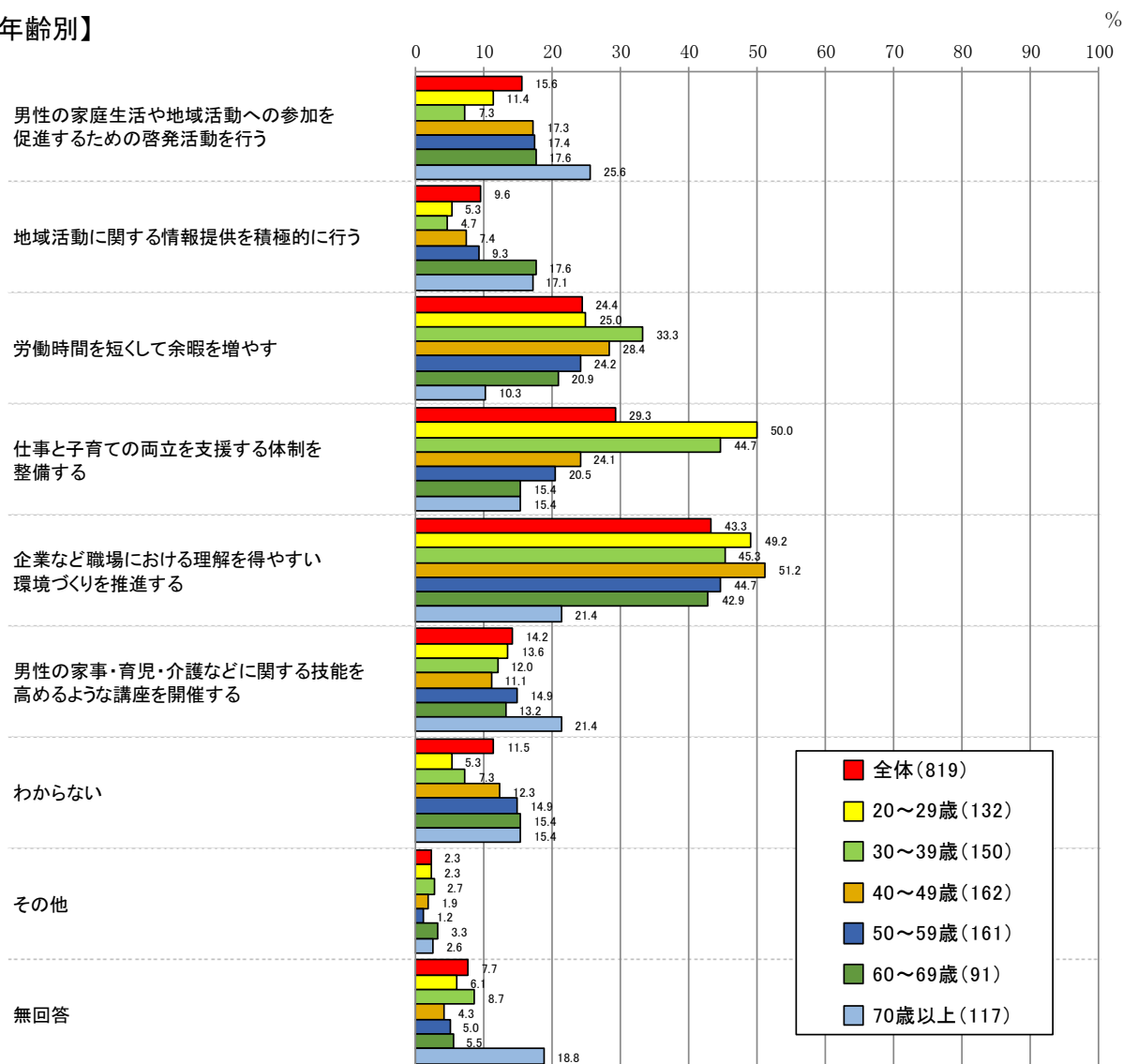
【全 体】

「企業など職場における理解を得やすい環境づくりを推進する」の割合が 43.3%と最も高く、次いで「仕事と子育ての両立を支援する体制を整備する」の割合が 29.3%、「労働時間を短くして余暇を増やす」の割合が 24.4%となっています。

【性 別】

性別でみると、女性に比べ、男性で「地域活動に関する情報提供を積極的に行う」「労働時間を短くして余暇を増やす」の割合が高くなっています。また、男性に比べ、女性で「仕事と子育ての両立を支援する体制を整備する」「企業など職場における理解を得やすい環境づくりを推進する」の割合が高くなっています。

【年齢別】



【年齢別】

年齢別でみると、年齢が低くなるにつれ「仕事と子育ての両立を支援する体制を整備する」の割合が高くなる傾向がみられ、20～29歳で5割となっています。また、他に比べ、20～29歳、40～49歳で「企業など職場における理解を得やすい環境づくりを推進する」の割合が高く、約5割となっています。

【前回調査（平成 25 年度）との比較】

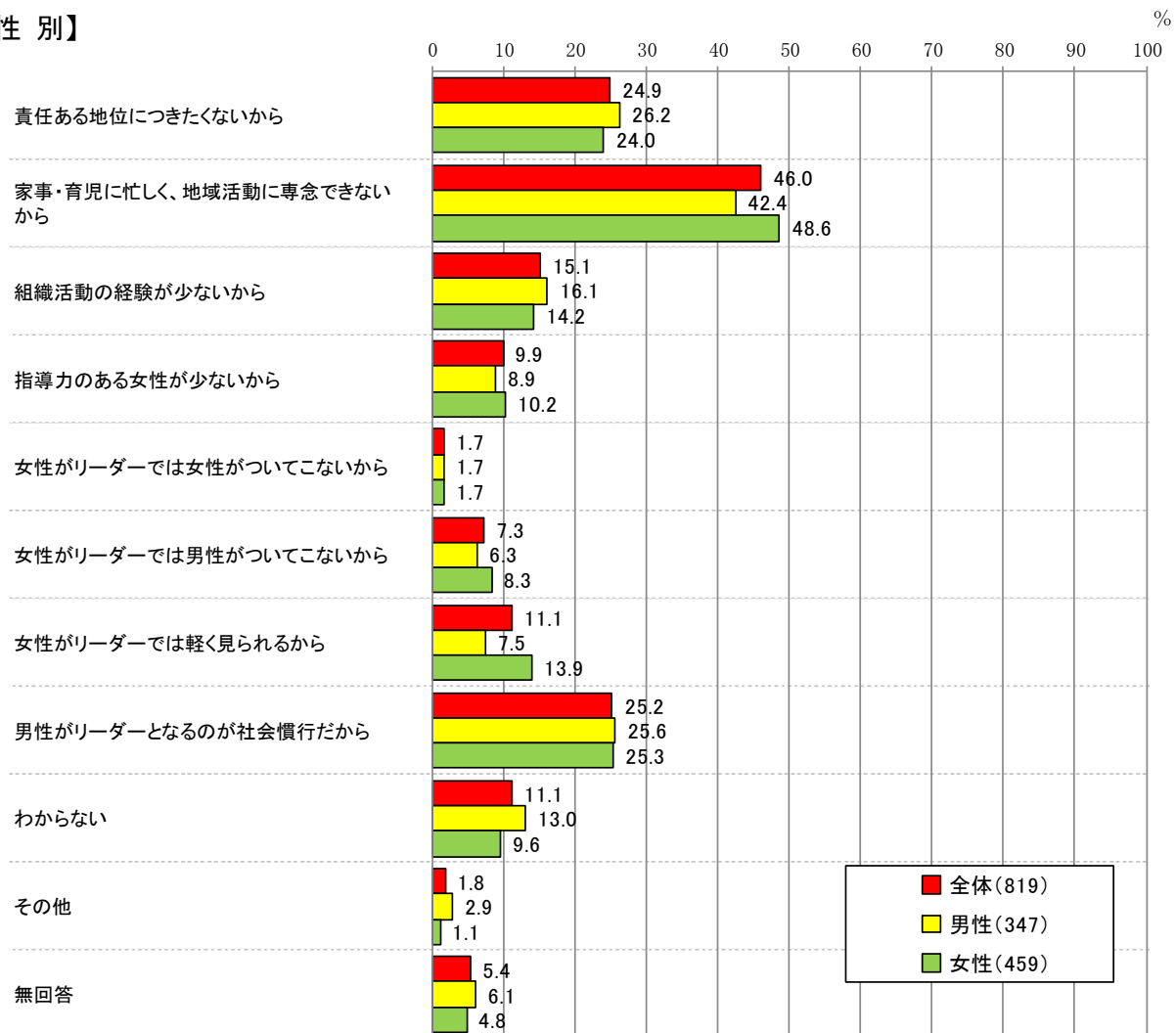
単位：％

	有効回答数（件）	男性の家庭生活や地域活動への参加を促進するための啓発活動を行う	地域活動に関する情報提供を積極的に行う	労働時間を短くして余暇を増やす	仕事と子育ての両立を支援する体制を整備する	企業など職場における理解を得やすい環境づくりを推進する	男性の家事・育児・介護などに関する技能を高めるような講座を開催する	わからない	その他	無回答
令和2年度調査	819	15.6	9.6	24.4	29.3	43.3	14.2	11.5	2.3	7.7
平成 25 年度調査	705	19.1	14.3	22.7	28.9	48.9	15.0	10.6	2.4	5.8

平成 25 年度調査と比較すると、「企業など職場における理解を得やすい環境づくりを推進する」が 5.6 ポイント減少しています。

問 16 自治会やPTAなどの活動で、女性のリーダーが少ないようですが、その原因は何だと思いますか。（2つまでに○）

【性 別】



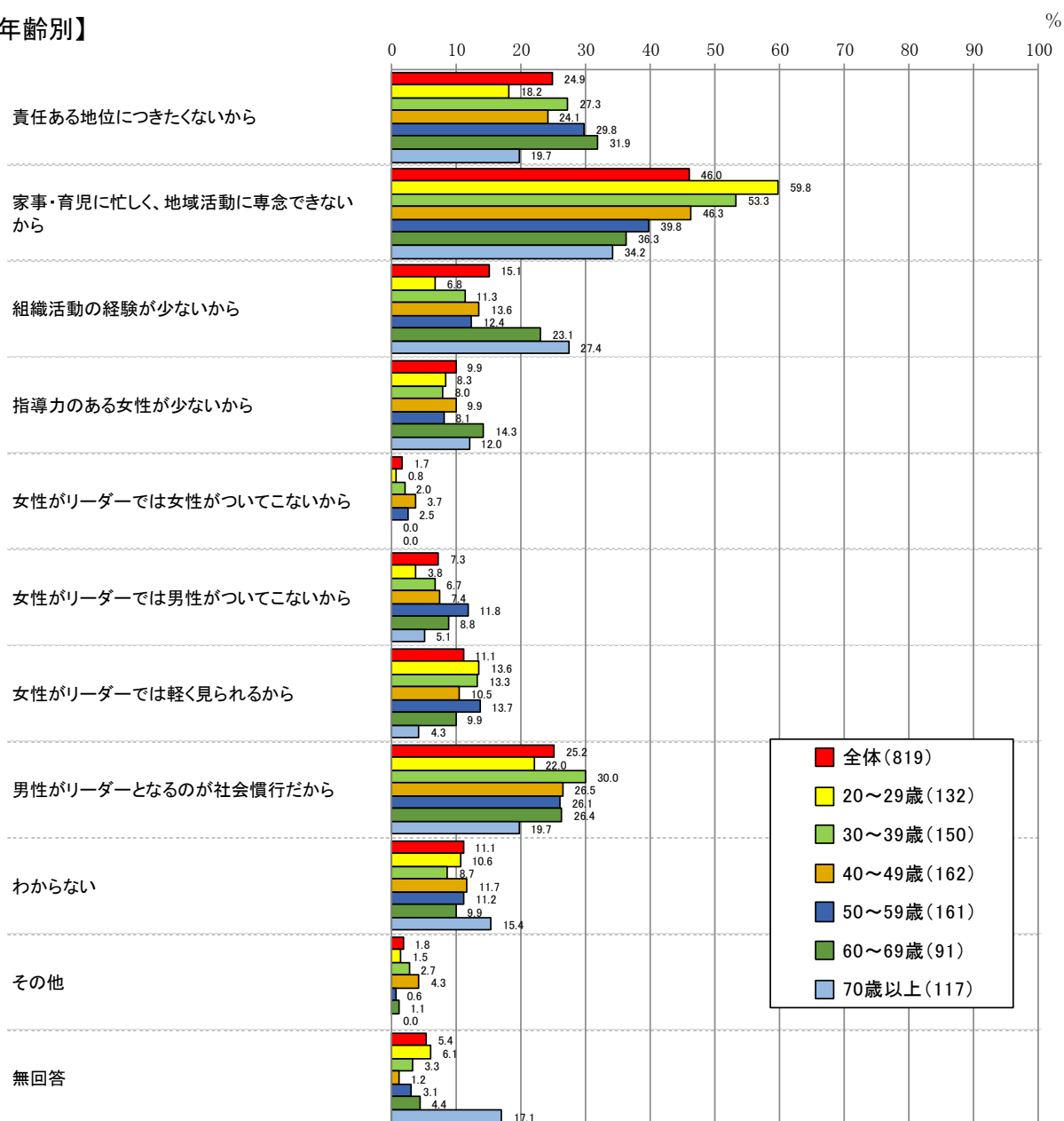
【全 体】

「家事・育児に忙しく、地域活動に専念できないから」の割合が46.0%と最も高く、次いで「男性がリーダーとなるのが社会慣行だから」の割合が25.2%、「責任ある地位につきたくないから」の割合が24.9%となっています。

【性 別】

性別でみると、男性に比べ、女性で「家事・育児に忙しく、地域活動に専念できないから」「女性がリーダーでは軽く見られるから」の割合が高くなっています。

【年齢別】



【年齢別】

年齢別でみると、年齢が低くなるにつれ「家事・育児に忙しく、地域活動に専念できないから」の割合が高くなる傾向がみられ、20～29歳で約6割となっています。一方、年齢が高くなるにつれ「組織活動の経験が少ないから」の割合が高くなる傾向がみられ、70歳以上で約3割となっています。

【前回調査（平成 25 年度）との比較】

単位：％

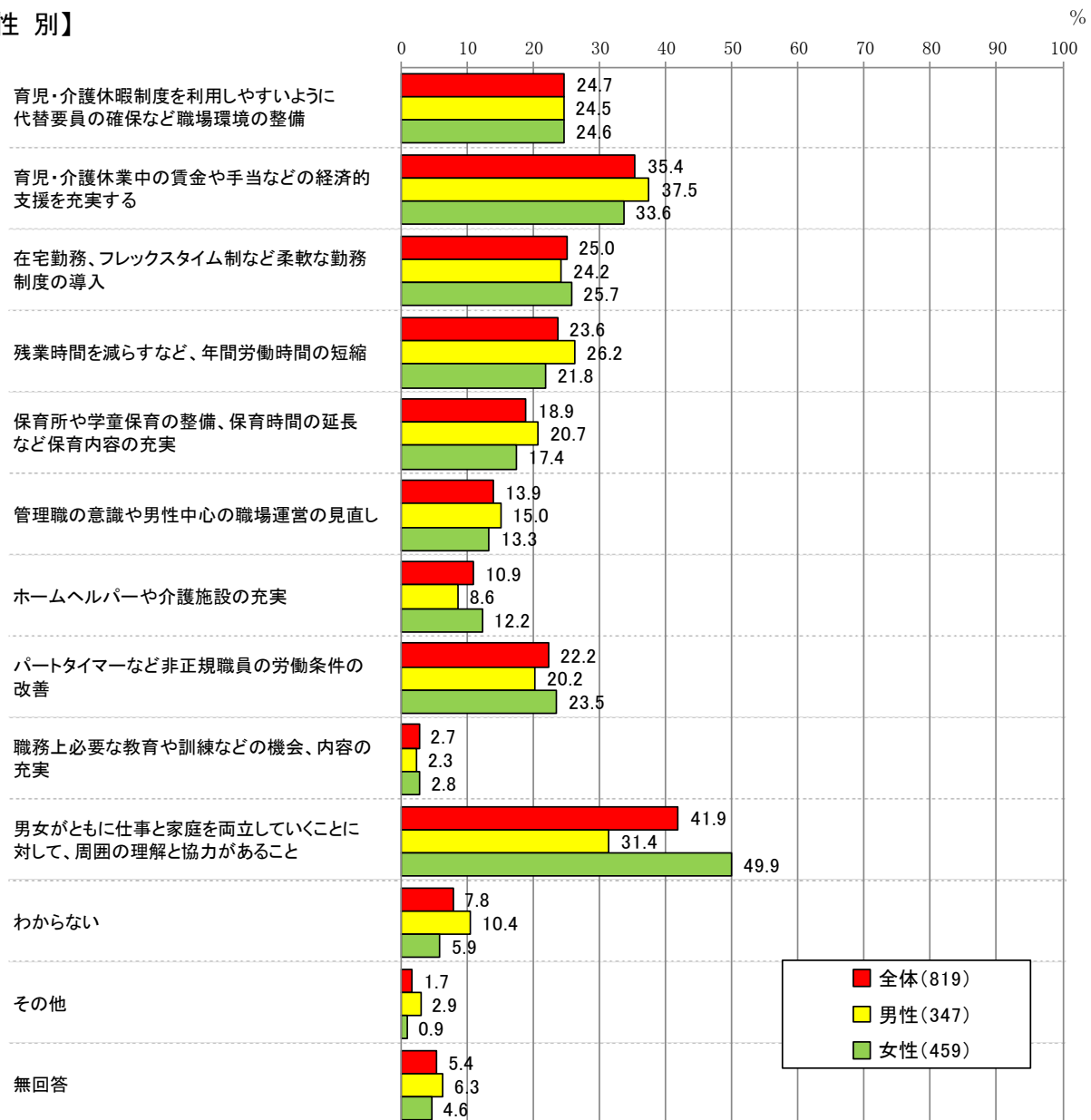
	有効回答数（件）	責任ある地位につきたくないから	家事・育児に忙しく、地域活動に専念できないから	組織活動の経験が少ないから	指導力のある女性が少ないから	女性がリーダーでは女性がついてこないから	女性がリーダーでは男性がついてこないから	女性がリーダーでは軽く見られるから	男性がリーダーとなるのが社会慣行だから
令和2年度調査	819	24.9	46.0	15.1	9.9	1.7	7.3	11.1	25.2
平成 25 年度調査	705	25.8	47.7	17.3	11.1	1.3	7.5	11.3	28.7

	わからない	その他	無回答
令和2年度調査	11.1	1.8	5.4
平成 25 年度調査	9.2	3.4	3.7

平成 25 年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。

問 17 あなたは、男女ともに「仕事と仕事以外の生活の調和」をはかり、充実した生活を送るために、どのようなことが必要だと思いますか。（3つまでに○）

【性 別】



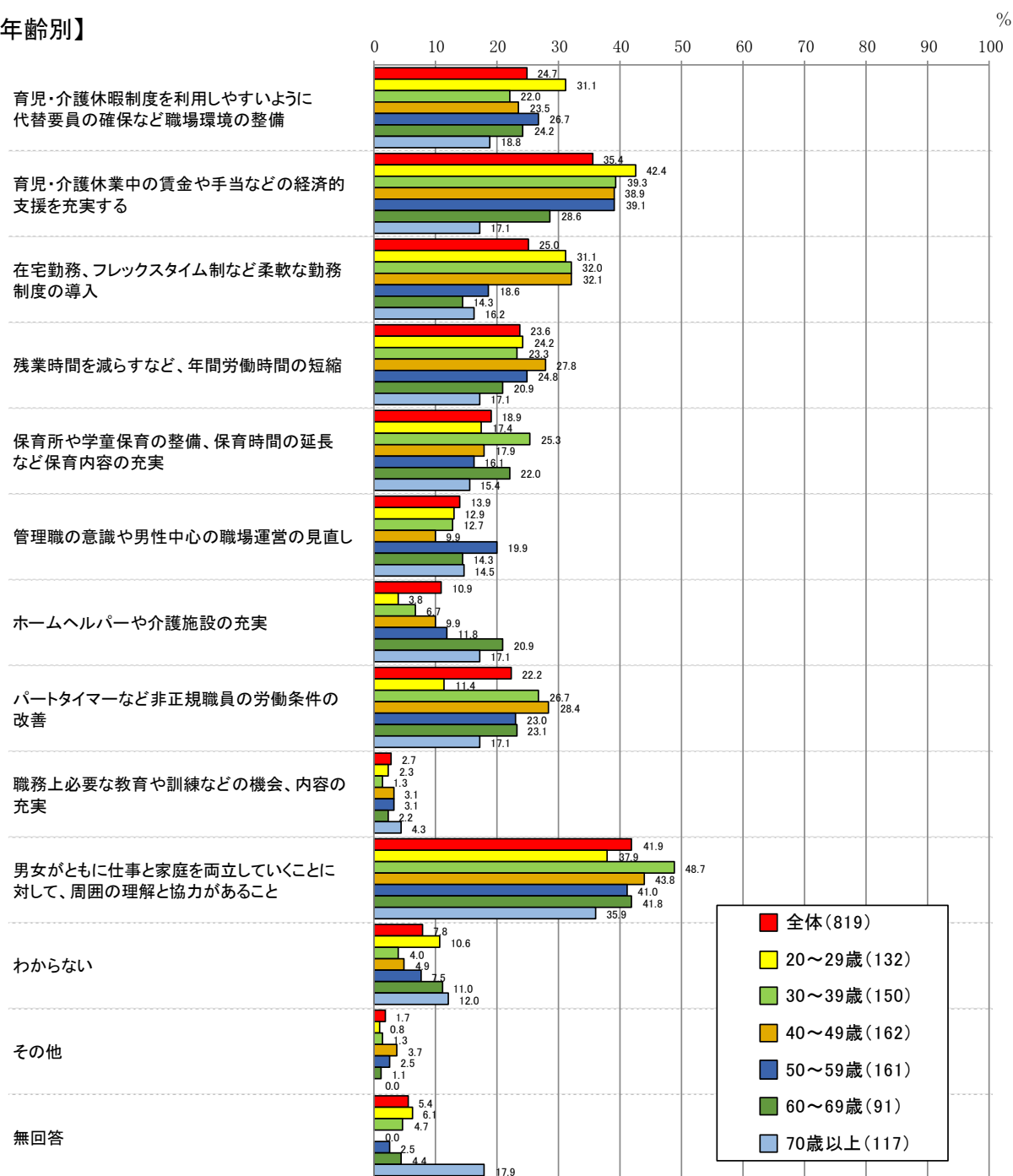
【全 体】

「男女がともに仕事と家庭を両立していくことに対して、周囲の理解と協力があること」の割合が 41.9%と最も高く、次いで「育児・介護休業中の賃金や手当などの経済的支援を充実する」の割合が 35.4%、「在宅勤務、フレックスタイム制など柔軟な勤務制度の導入」の割合が 25.0%となっています。

【性 別】

性別でみると、男性に比べ、女性で「男女がともに仕事と家庭を両立していくことに対して、周囲の理解と協力があること」の割合が高く、約 5 割となっています。

【年齢別】



【年齢別】

年齢別でみると、50歳以上に比べ、49歳以下で「在宅勤務、フレックスタイム制など柔軟な勤務制度の導入」の割合が高く、約3割となっています。また、59歳以下に比べ、60歳以上で「ホームヘルパーや介護施設の充実」の割合が高く、約2割となっています。

【職業別】

単位：％

	有効回答数（件）	育児・介護休業制度を利用しやすいように代替要員の確保など職場環境の整備	育児・介護休業中の賃金や手当などの経済的支援を充実する	在宅勤務、フレックスタイム制など柔軟な勤務制度の導入	残業時間を減らすなど、年間労働時間の短縮	実時間延長など保育内容の充実	保育所や学童保育の整備、保育時間の延長など保育内容の充実	管理職の意識や男性中心の職場運営の見直し	ホームヘルパーや介護施設の充実	パートタイマーなど非正規職員の労働条件の改善
農業	41	24.4	26.8	19.5	22.0	12.2	7.3	14.6	31.7	
漁業	3	33.3	66.7	—	33.3	66.7	—	—	33.3	
商工業	7	28.6	28.6	14.3	14.3	—	14.3	—	28.6	
自営業	52	25.0	26.9	19.2	26.9	21.2	7.7	7.7	13.5	
会社員	257	23.0	42.0	30.0	24.9	21.4	16.7	8.6	17.9	
公務員・団体職員	73	32.9	42.5	31.5	39.7	26.0	20.5	2.7	13.7	
専業主婦・主夫	79	22.8	32.9	29.1	30.4	12.7	7.6	15.2	22.8	
学生	32	34.4	25.0	28.1	25.0	21.9	18.8	6.3	6.3	
パート・アルバイトなど	123	23.6	39.0	17.9	14.6	19.5	11.4	17.9	39.8	
無職	122	23.0	23.8	22.1	15.6	13.1	13.9	15.6	19.7	
その他	21	9.5	33.3	14.3	14.3	23.8	23.8	—	28.6	

	職務上必要な教育や訓練などの機会、内容の充実	男女がともに仕事と家庭を両立していくことに対して、周囲の理解と協力があること	わからない	その他	無回答
農業	2.4	36.6	9.8	7.3	9.8
漁業	—	33.3	—	—	—
商工業	14.3	28.6	—	14.3	28.6
自営業	1.9	38.5	17.3	1.9	1.9
会社員	2.7	37.7	7.4	1.6	3.1
公務員・団体職員	—	56.2	1.4	1.4	—
専業主婦・主夫	—	54.4	6.3	—	3.8
学生	6.3	28.1	18.8	3.1	3.1
パート・アルバイトなど	2.4	51.2	2.4	0.8	3.3
無職	4.9	32.8	12.3	0.8	13.1
その他	4.8	38.1	9.5	4.8	19.0

【職業別】

職業別でみると、他に比べ、公務員・団体職員、専業主婦・主夫、パート・アルバイトなどで「男女がともに仕事と家庭を両立していくことに対して、周囲の理解と協力があること」の割合が高く、5割を超えています。

【前回調査（平成 25 年度）との比較】

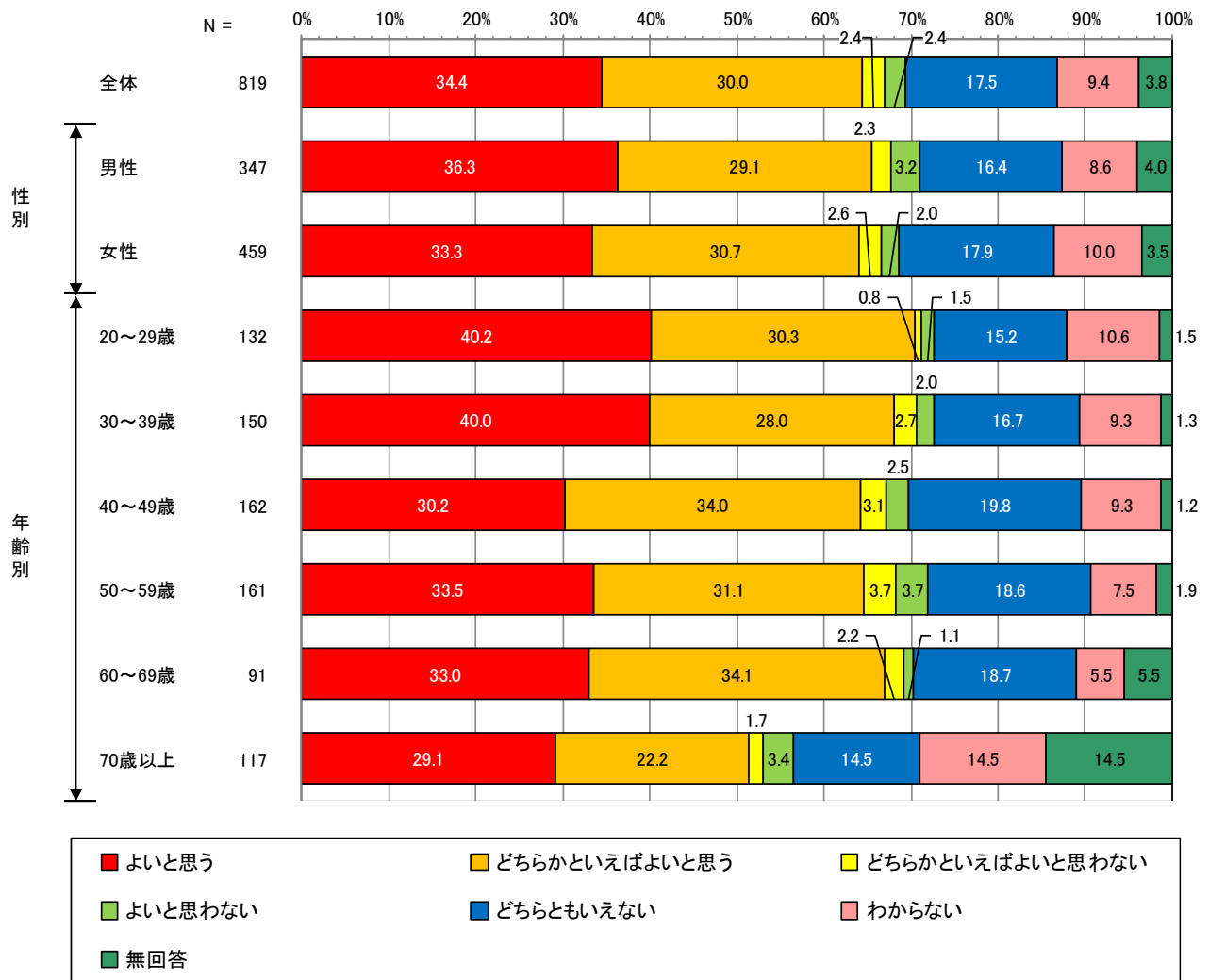
単位：％

	有効回答数（件）	育児・介護休業中の賃金や手当などの経済的支援を充実する	育児・介護休暇制度を利用しやすいように代替要員の確保など職場環境の整備	在宅勤務、フレックスタイム制など柔軟な勤務制度の導入	残業時間を減らすなど、年間労働時間の短縮	保育所や学童保育の整備、保育時間の延長など保育内容の充実	管理職の意識や男性中心の職場運営の見直し	ホームヘルパーや介護施設の充実	パートタイマーなど非正規職員の労働条件の改善
令和2年度調査	819	24.7	35.4	25.0	23.6	18.9	13.9	10.9	22.2
平成 25 年度調査	705	27.4	37.9	19.4	24.3	25.1	11.2	14.6	22.1

	職務上必要な教育や訓練などの機会、内容の充実	男女がともに仕事と家庭を両立していくことに対して、周囲の理解と協力があること	わからない	その他	無回答
令和2年度調査	2.7	41.9	7.8	1.7	5.4
平成 25 年度調査	2.4	43.3	6.7	1.3	5.2

平成 25 年度調査と比較すると、「保育所や学童保育の整備、保育時間の延長など保育内容の充実」が 6.2 ポイント減少し、「在宅勤務、フレックスタイム制など柔軟な勤務制度の導入」が 5.6 ポイント増加しています。

問 18 あなたは、今後、もっとさまざまな職業分野で指導的地位に占める女性の割合が増えたほうがよいと思いますか。（1つに○）



【全 体】

「よいと思う」と「どちらかといえばよいと思う」をあわせた“よいと思う”の割合が 64.4%、「どちらかといえばよいと思わない」と「よいと思わない」をあわせた“よいと思わない”の割合が 4.8%、「どちらともいえない」の割合が 17.5%となっています。

【性 別】

性別でみると、男女で大きな差異はみられません。

【年齢別】

年齢別でみると、他に比べ、20～29 歳、30～39 歳、60～69 歳で“よいと思う”の割合が高く、約 7 割となっています。

【前回調査（平成 25 年度）との比較】

単位：％

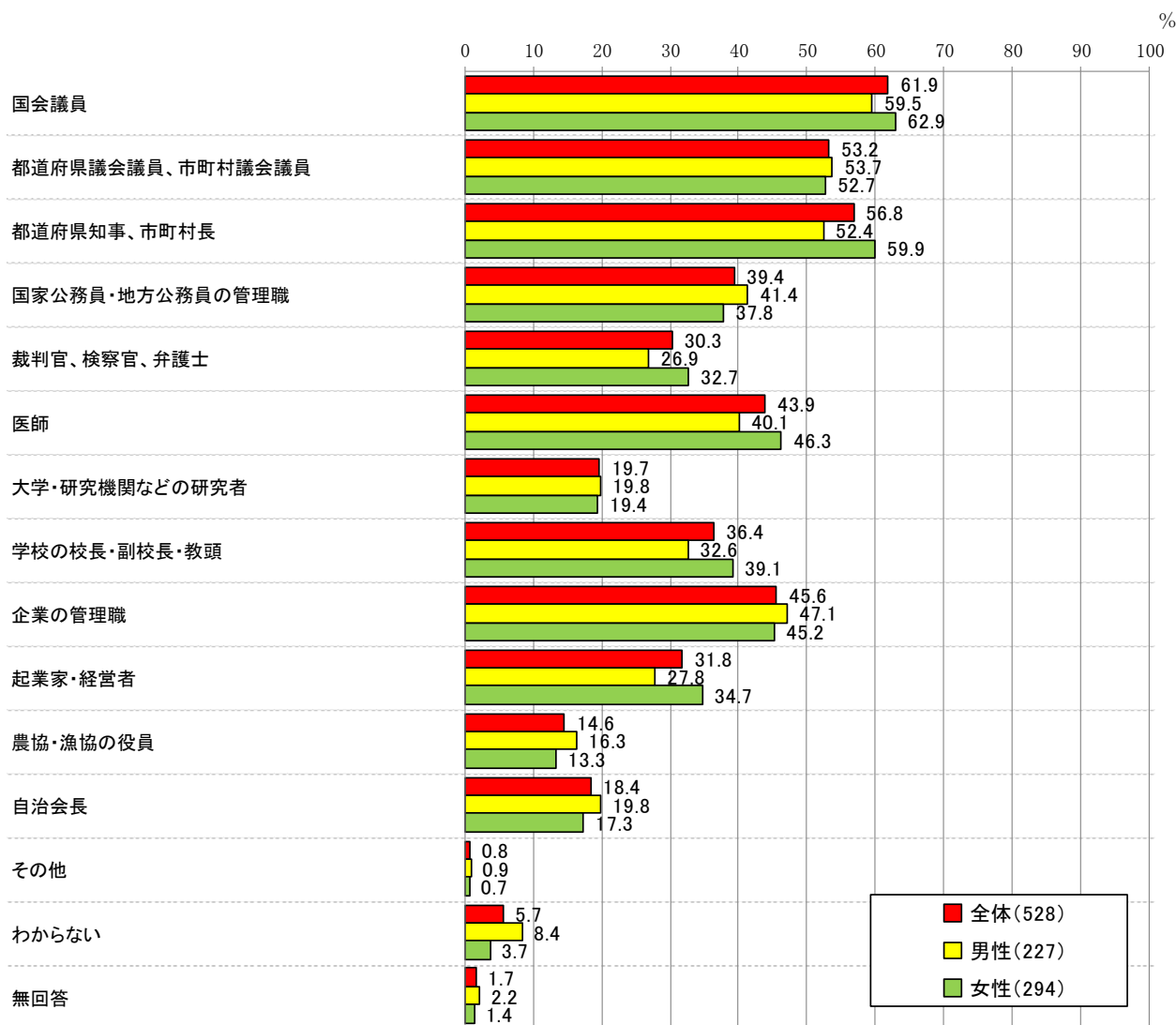
	有効回答数 (件)	よいと思う	どちらかといえば よいと思う	どちらかといえば よいと思わない	よいと思わない	どちらともいえない	わからない	無回答
令和2年度調査	819	34.4	30.0	2.4	2.4	17.5	9.4	3.8
平成 25 年度調査	705	37.2	28.9	2.7	2.0	19.6	6.7	3.0

平成 25 年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。

問18-1は、問18で「よいと思う」または「どちらかといえばよいと思う」と回答した方のみお答えください。

問18-1 次の職業や役職において、今後、女性の割合がもっと増えるほうがよいと思うのはどれですか。（あてはまるものすべてに○）

【性別】



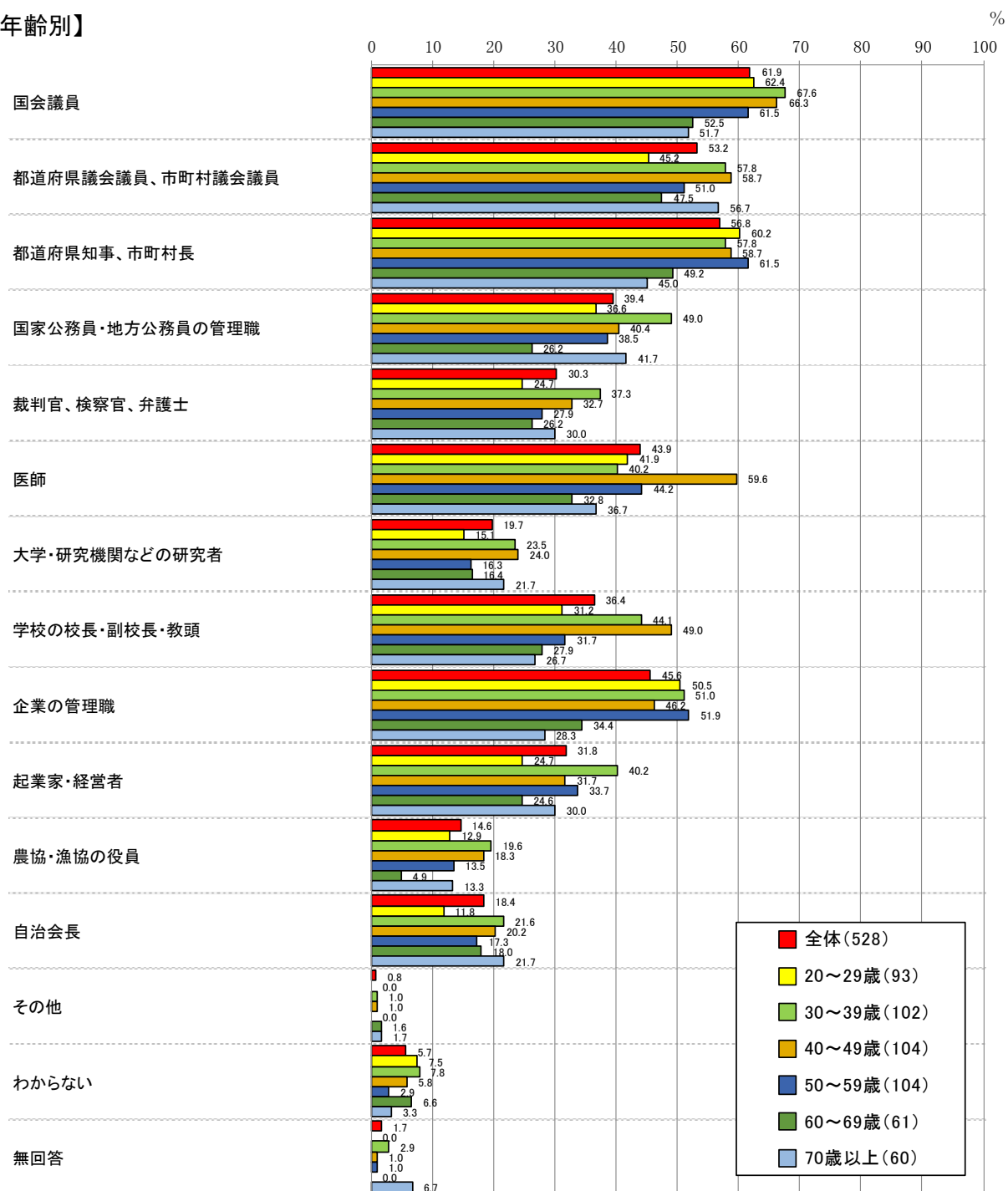
【全体】

「国会議員」の割合が61.9%と最も高く、次いで「都道府県知事、市町村長」の割合が56.8%、「都道府県議会議員、市町村議会議員」の割合が53.2%となっています。

【性別】

性別でみると、男性に比べ、女性で「都道府県知事、市町村長」「裁判官、検察官、弁護士」「医師」「学校の校長・副校長・教頭」「起業家・経営者」の割合が高くなっています。

【年齢別】



【年齢別】

年齢別でみると、他に比べ、30～39 歳、40～49 歳で「国会議員」の割合が高く、約 7 割となっています。また、40～49 歳で「医師」「学校の校長・副校長・教頭」の割合が高くなっています。

【前回調査（平成 25 年度）との比較】

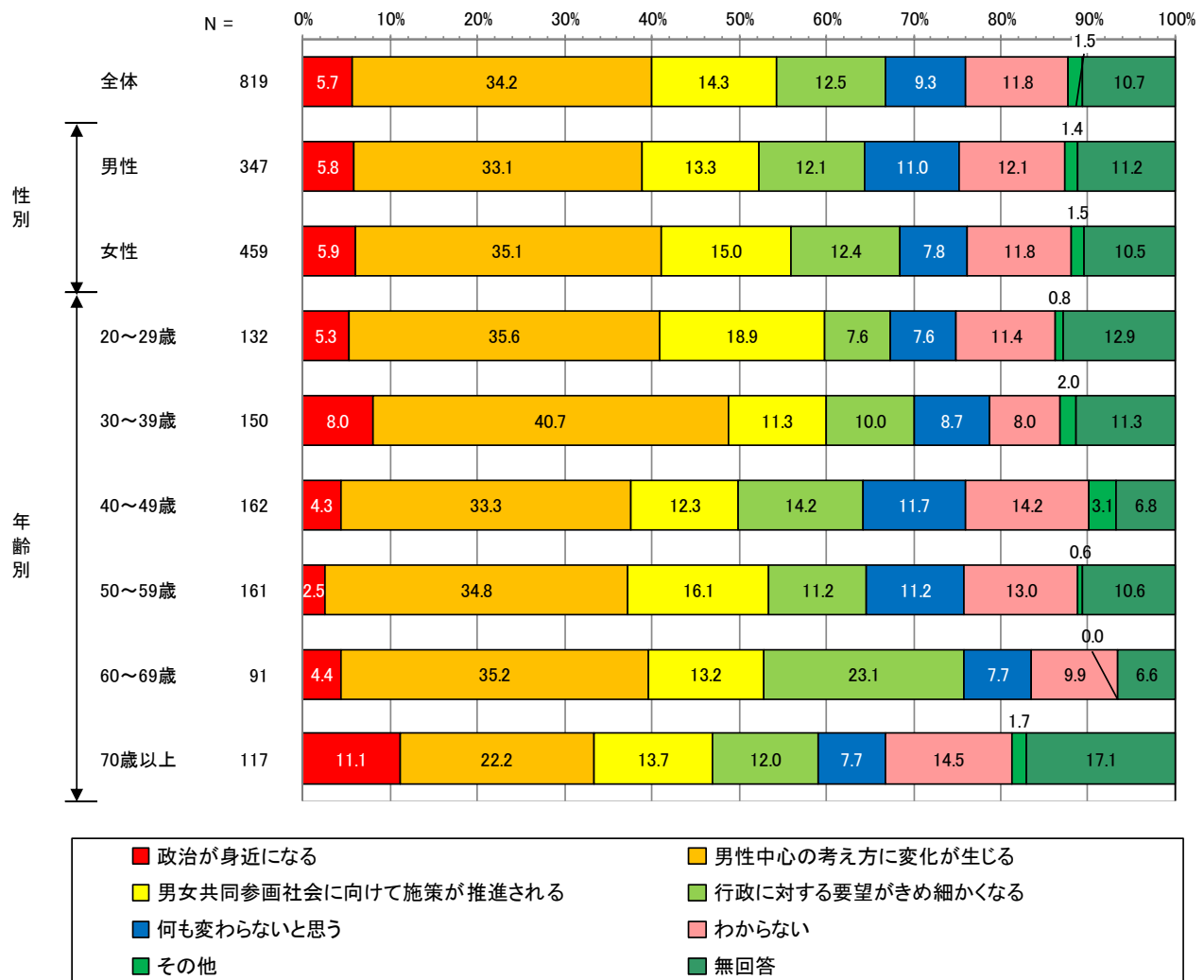
単位：％

	有効回答数（件）	国会議員	都道府県議会議員、市町村議会議員	都道府県知事、市町村長	国家公務員・地方公務員の管理職	裁判官、検察官、弁護士	医師	大学・研究機関などの研究者	学校の校長・副校長・教頭
令和2年度調査	528	61.9	53.2	56.8	39.4	30.3	43.9	19.7	36.4
平成 25 年度調査	466	48.3	47.2	41.2	36.9	30.0	48.3	18.5	37.3

	企業の管理職	起業家・経営者	農協・漁協の役員	自治会長	その他	わからない	無回答
令和2年度調査	45.6	31.8	14.6	18.4	0.8	5.7	1.7
平成 25 年度調査	47.6	32.4	16.5	20.2	1.1	8.4	1.1

平成 25 年度調査と比較すると、「国会議員」が 13.6 ポイント、「都道府県議会議員、市町村議会議員」が 6.0 ポイント、「都道府県知事、市町村長」が 15.6 ポイント増加しています。

問 19 政策決定の場へ女性の参画が増えることによって、社会がどう変化すると思いますか。（１つに○）



【全 体】

「男性中心の考え方に変化が生じる」の割合が 34.2%と最も高く、次いで「男女共同参画社会に向けて施策が推進される」の割合が 14.3%、「行政に対する要望がきめ細くなる」の割合が 12.5%となっています。

【性 別】

性別でみると、男女で大きな差異はみられません。

【年齢別】

年齢別でみると、他に比べ、30～39 歳で「男性中心の考え方に変化が生じる」の割合が高く、約 4 割となっています。また、60～69 歳で「行政に対する要望がきめ細くなる」の割合が高く、約 2 割となっています。

【前回調査（平成 25 年度）との比較】

単位：％

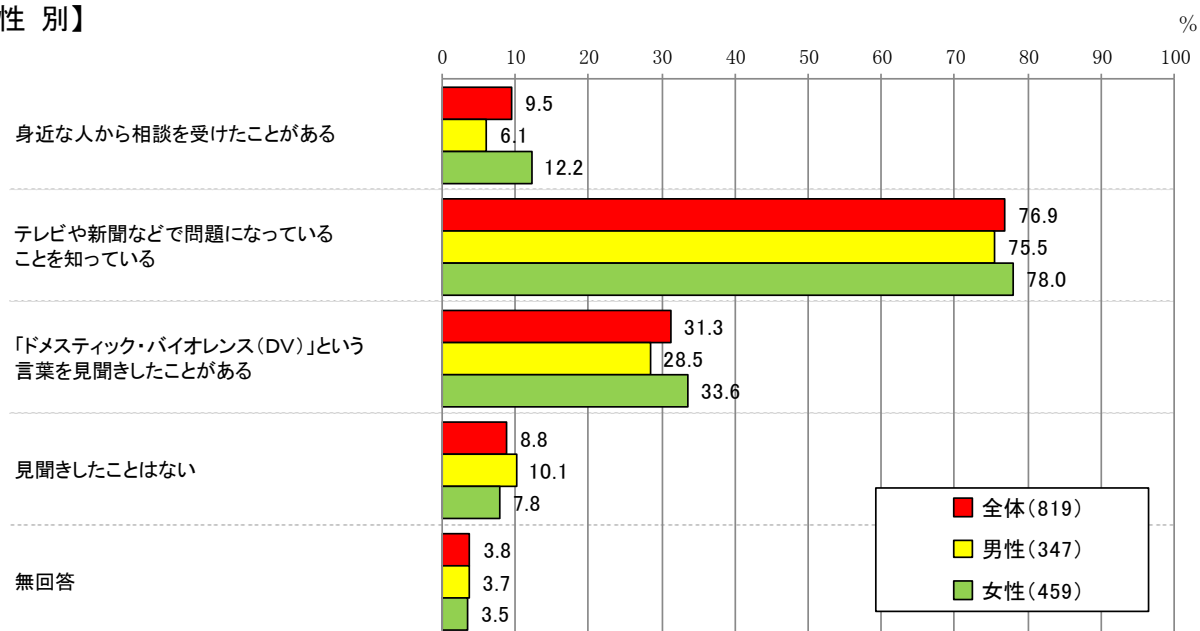
	有効回答数 (件)	政治が身近になる	男性中心の考え方に 変化が生じる	男女共同参画社会に 向けて施策が推進される	行政に対する要望が きめ細かくなる	何も変わらないと思う	わからない	その他	無回答
令和2年度調査	819	5.7	34.2	14.3	12.5	9.3	11.8	1.5	10.7
平成 25 年度調査	705	5.4	37.0	19.7	18.2	8.4	9.4	1.0	3.7

平成 25 年度調査と比較すると、「男女共同参画社会に向けて施策が推進される」が 5.4 ポイント、「行政に対する要望がきめ細かくなる」が 5.7 ポイント減少しています。

6 ドメスティック・バイオレンス（DV）について

問 20 あなたは、ドメスティック・バイオレンス（DV）について身近で見聞きしたことがありますか。（あてはまるものすべてに○）

【性 別】



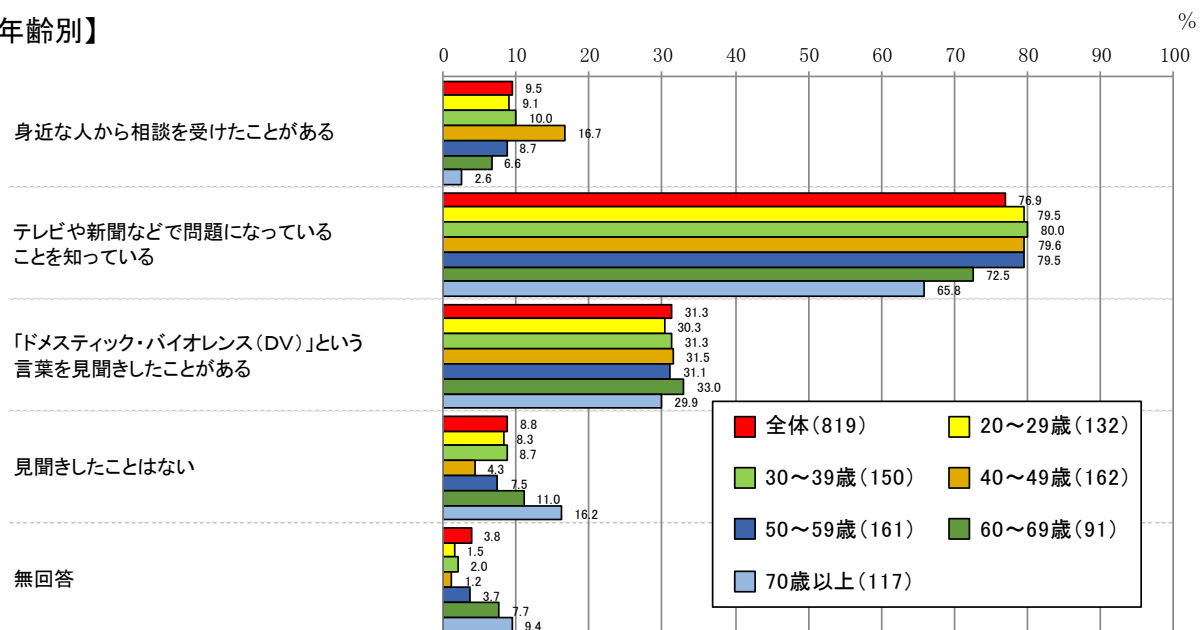
【全 体】

「テレビや新聞などで問題になっていることを知っている」の割合が76.9%と最も高く、次いで『ドメスティック・バイオレンス(DV)』という言葉を見聞きしたことがある」の割合が31.3%となっています。

【性 別】

性別でみると、男性に比べ、女性で「身近な人から相談を受けたことがある」「ドメスティック・バイオレンス（DV）」という言葉を見聞きしたことがある」の割合が高くなっています。

【年齢別】



【年齢別】

年齢別でみると、他に比べ、40～49 歳で「身近な人から相談を受けたことがある」の割合が高く、1 割台半ばとなっています。

【前回調査（平成 25 年度）との比較】

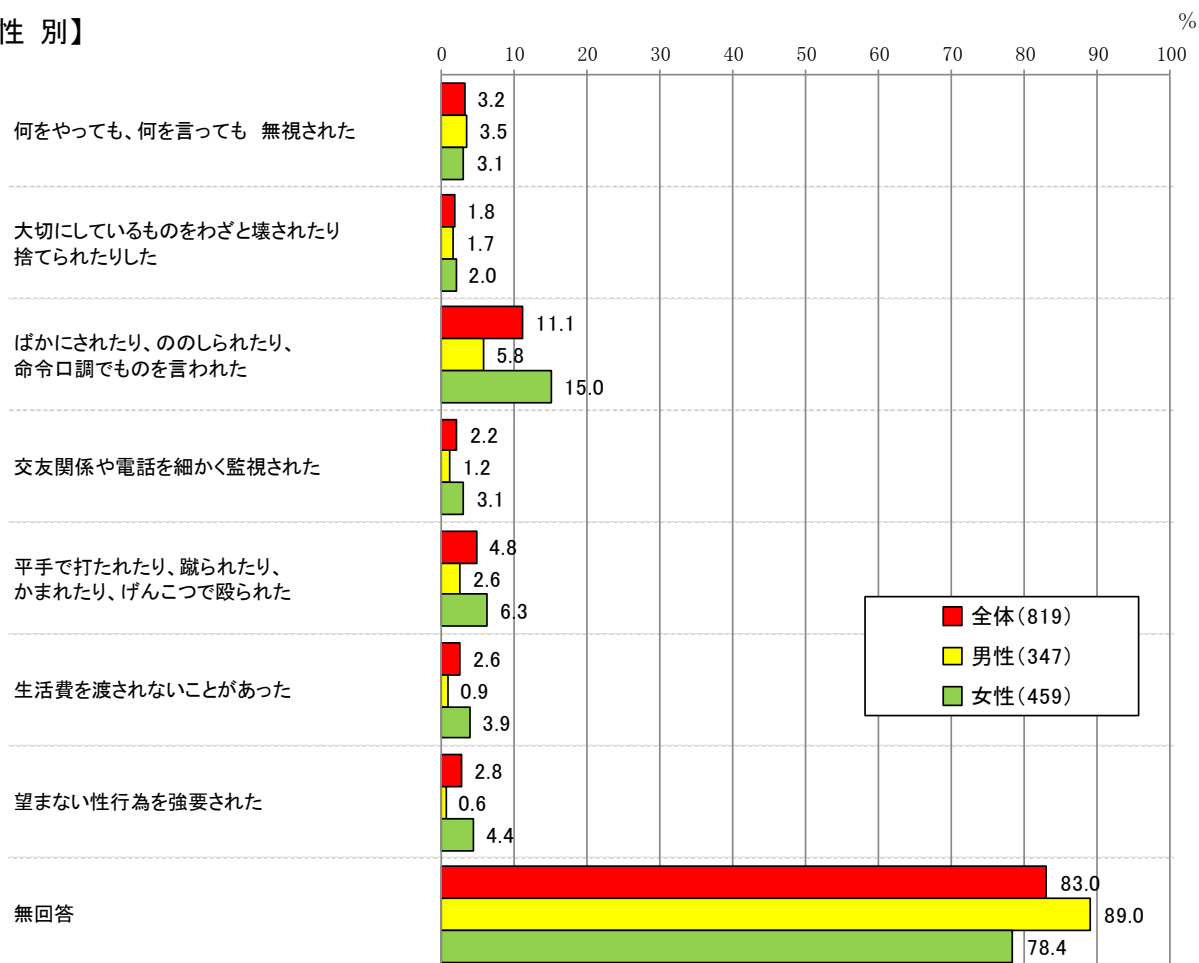
単位：％

	有効回答数 (件)	身近な人から相談を受けた ことがある	テレビや新聞などで問題にな っていることを知っている	「ドメスティック・バイオレン ス (DV)」という言葉を見聞 きたことがある	見聞きしたことはない	無回 答
令和2年度調査	819	9.5	76.9	31.3	8.8	3.8
平成 25 年度調査	705	9.9	76.5	36.0	9.5	2.7

平成 25 年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。

問 21 あなたは、次のような行為をパートナーから受けたことがありますか。

【性 別】



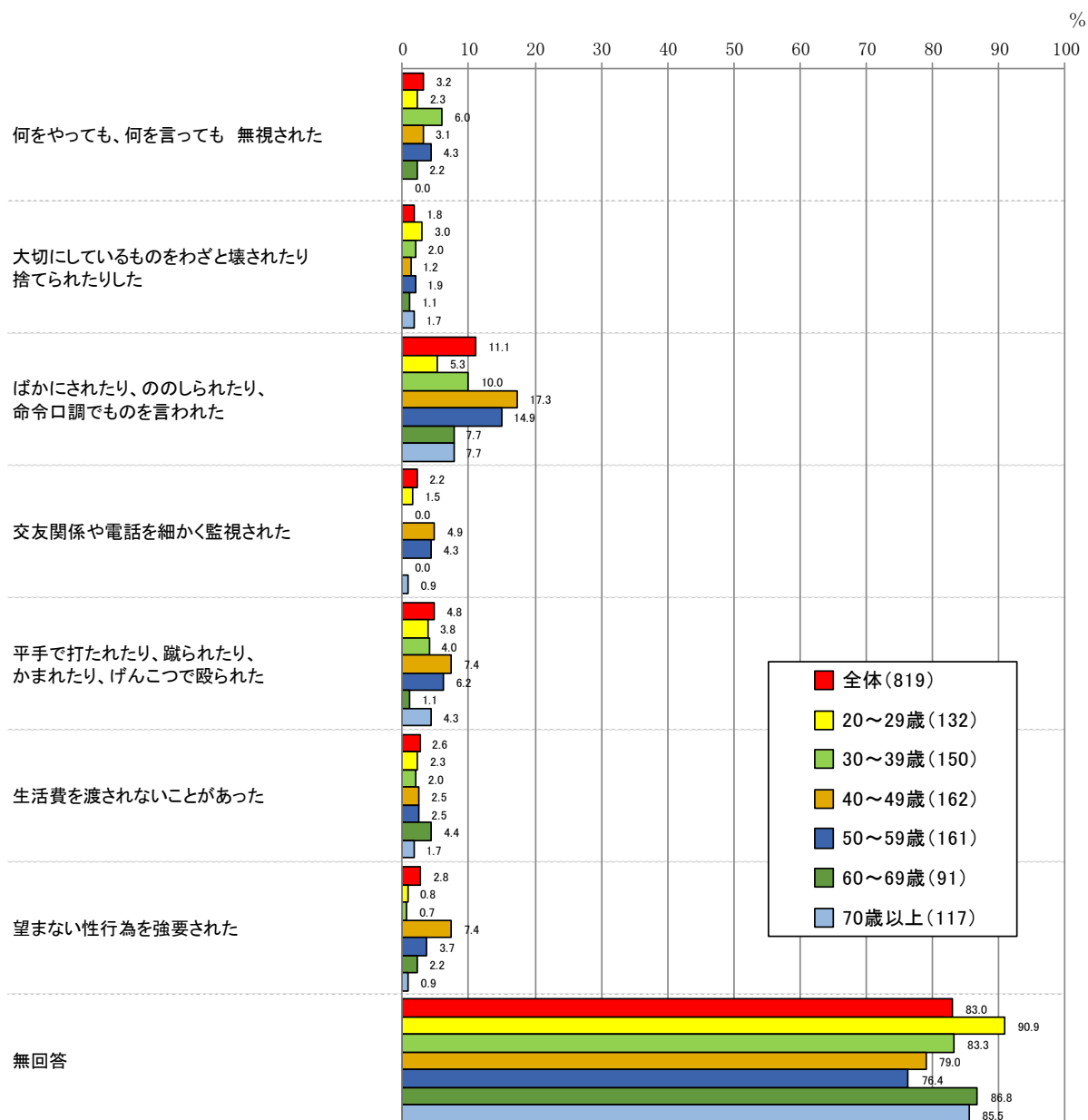
【全 体】

「ばかにされたり、ののしられたり、命令口調でものを言われた」の割合が 11.1%と最も高くなっています。

【性 別】

性別でみると、男性に比べ、女性で「ばかにされたり、ののしられたり、命令口調でものを言われた」の割合が高く、1割台半ばとなっています。

【年齢別】



【年齢別】

年齢別でみると、他に比べ、40～49歳で「ばかにされたり、ののしられたり、命令口調でものを言われた」の割合が高く、約2割となっています。

【前回調査（平成 25 年度）との比較】

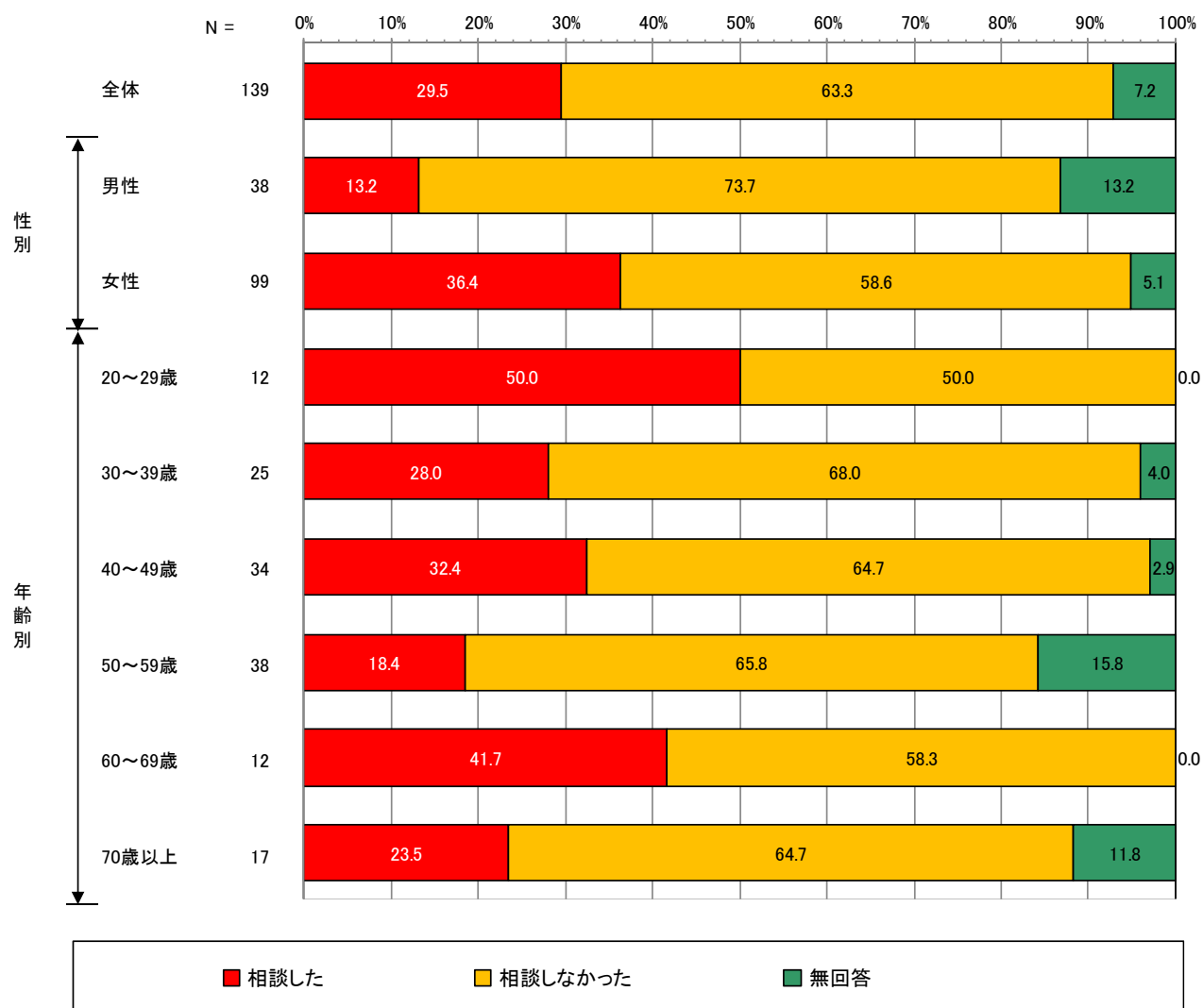
単位：％

	有効回答数（件）	何をやっても、何を言っても無視された	大切にしているものをわざと壊されたり捨てられたりした	ばかにされたり、ののしられたり、命令口調でものを言われた	交友関係や電話を細かく監視された	平手で打たれたり、蹴られたり、かまれたり、げんこつで殴られた	生活費を渡されないことがあった	望まない性行為を強要された	無回答
令和2年度調査	819	3.2	1.8	11.1	2.2	4.8	2.6	2.8	83.0
平成 25 年度調査	705	4.1	2.6	11.6	2.6	5.2	2.0	2.3	82.3

平成 25 年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。

問 21－1 は、問 21 で○が1つ以上あった方のみお答えください。

問 21－1 問 21 で挙げたような行為について誰か（どこか）に相談しましたか。
（1つに○）



【全 体】

「相談した」の割合が29.5%、「相談しなかった」の割合が63.3%となっています。

【性 別】

性別でみると、女性に比べ、男性で「相談しなかった」の割合が高く、約7割となっています。また、男性に比べ、女性で「相談した」の割合が高く、3割台半ばとなっています。

【年齢別】

年齢別でみると、他に比べ、20～29歳で「相談した」の割合が高く、5割となっています。また、30～39歳で「相談しなかった」の割合が高く、約7割となっています。

【前回調査（平成 25 年度）との比較】

単位：％

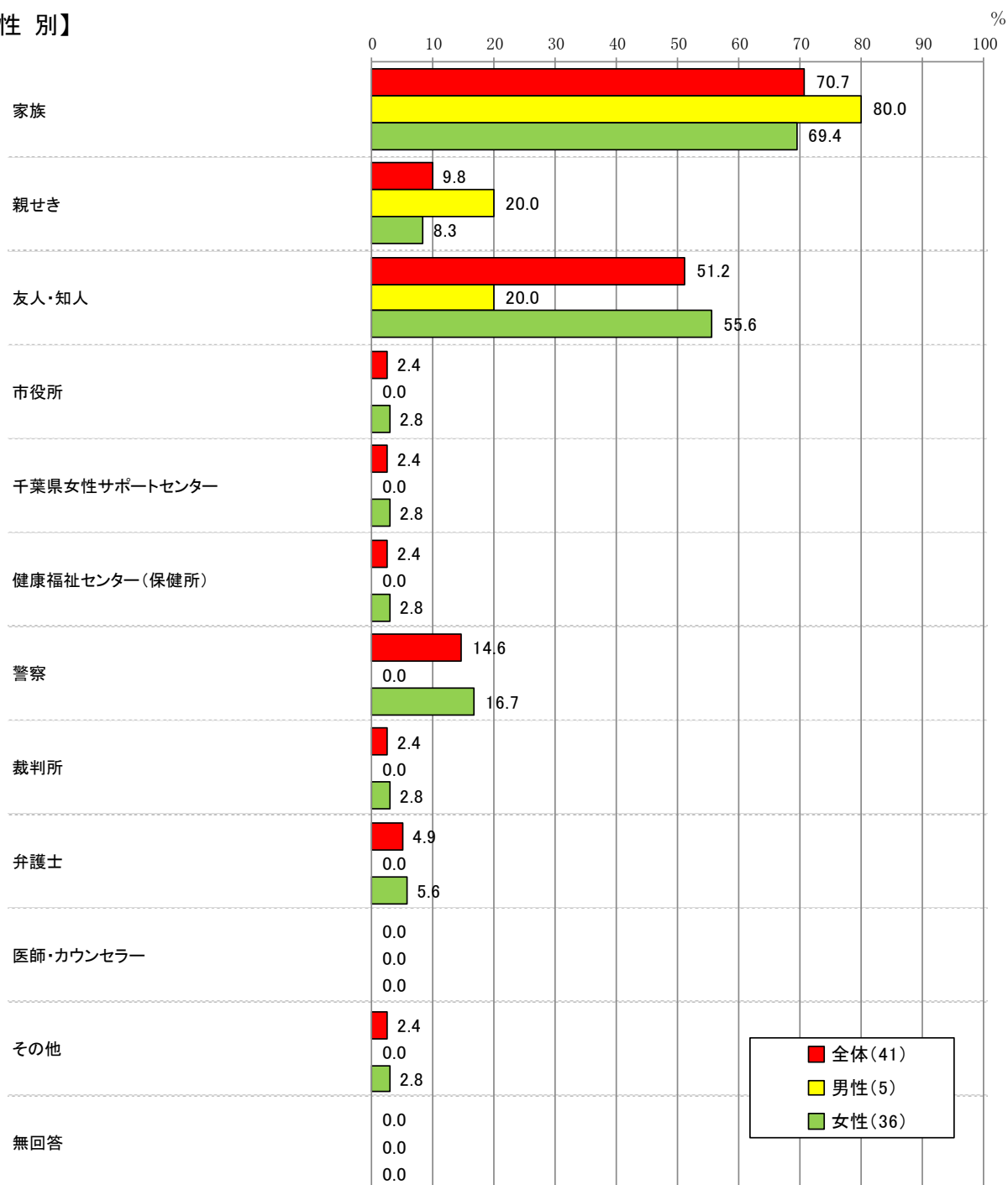
	有効回答数 (件)	相談した	相談しなかった	無回答
令和2年度調査	139	29.5	63.3	7.2
平成 25 年度調査	125	32.0	69.6	1.6

平成 25 年度調査と比較すると、「相談しなかった」が 6.3 ポイント減少しています。

問 21－2 は、問 21－1 で「相談した」と回答した方のみお答えください。

問 21－2 実際に誰（どこ）に相談しましたか。（あてはまるものすべてに○）

【性 別】



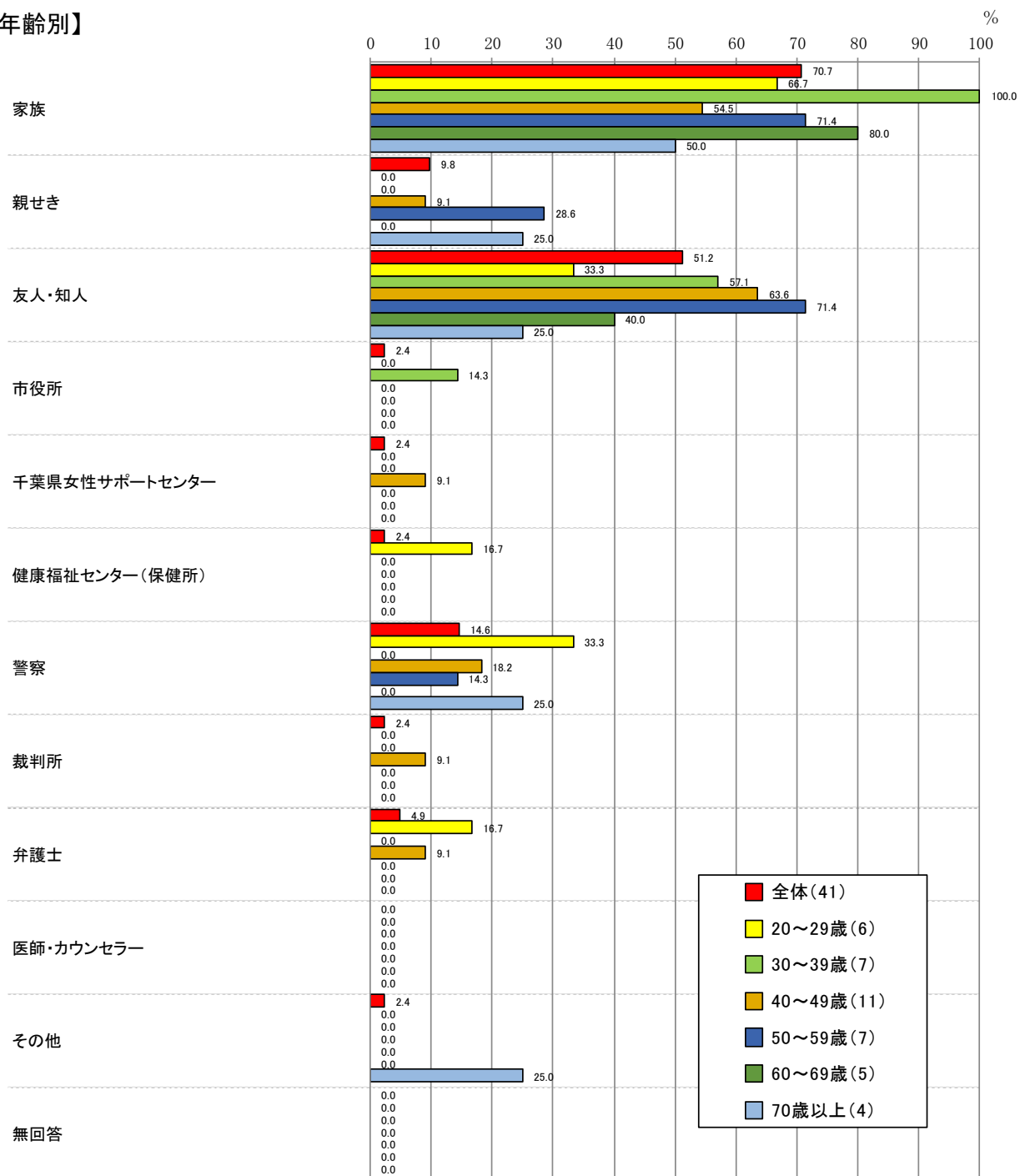
【全 体】

「家族」の割合が 70.7%と最も高く、次いで「友人・知人」の割合が 51.2%、「警察」の割合が 14.6%となっています。

【性 別】

性別では、有効回答数が少ないため、参考とします。

【年齢別】



【年齢別】

年齢別では、有効回答数が少ないため、参考とします。

【前回調査（平成 25 年度）との比較】

単位：％

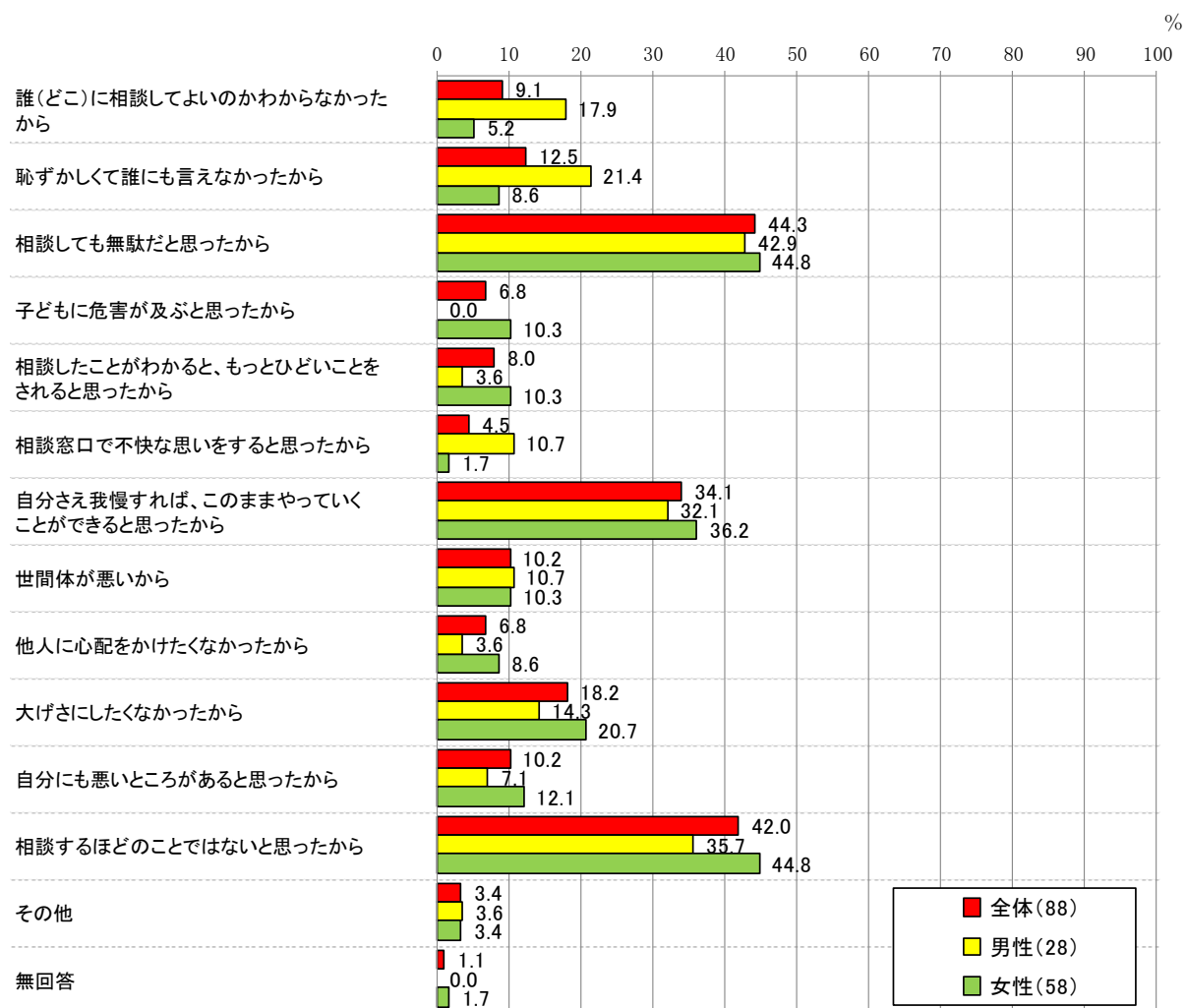
	有効回答数 (件)	家族	親せき	友人・知人	市役所	千葉県女性 サポートセンター	健康福祉センター (保健所)	警察	裁判所
令和2年度調査	41	70.7	9.8	51.2	2.4	2.4	2.4	14.6	2.4
平成 25 年度調査	40	55.0	17.5	70.0	—	5.0	2.5	7.5	7.5

	弁護士	医師・カウンセラー	その他	無回答
令和2年度調査	4.9	—	2.4	—
平成 25 年度調査	7.5	10.0	—	—

平成 25 年度調査と比較すると、「親せき」が 7.7 ポイント、「友人・知人」が 18.8 ポイント、「裁判所」が 5.1 ポイント、「医師・カウンセラー」が 10.0 ポイント減少し、「家族」が 15.7 ポイント、「警察」が 7.1 ポイント増加しています。

問 21－3 は、問 21－1 で「相談しなかった」と回答した方のみお答えください。

問 21－3 誰（どこ）にも相談しなかった理由は何ですか。
（あてはまるものすべてに○）



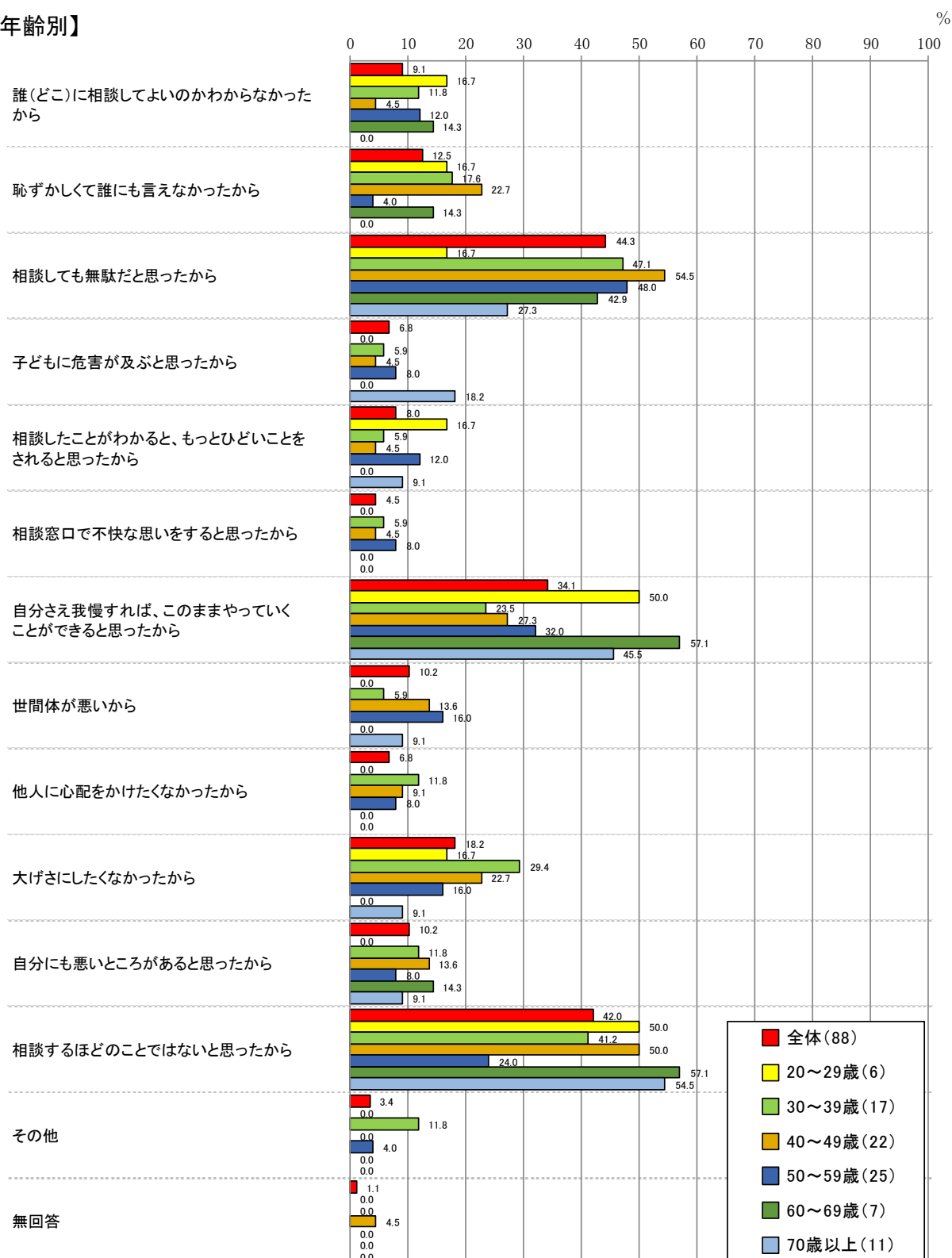
【全 体】

「相談しても無駄だと思ったから」の割合が 44.3%と最も高く、次いで「相談するほどのことではないと思ったから」の割合が 42.0%、「自分さえ我慢すれば、このままやっていくことができると思ったから」の割合が 34.1%となっています。

【性 別】

性別では、女性に比べ、男性で「誰（どこ）に相談してよいのかわからなかったから」「恥ずかしくて誰にも言えなかったから」「相談窓口で不快な思いをと思ったから」の割合が高くなっています。また、男性に比べ、女性で「子どもに危害が及ぶと思ったから」「相談したことがわかると、もっとひどいことをされと思ったから」「他人に心配をかけたくなかったから」「大きさにしたくなかったから」「自分にも悪いところがあると思ったから」「相談するほどのことではないと思ったから」の割合が高くなっています。

【年齢別】



【年齢別】

年齢別では、他に比べ、30～39歳で「大げさにしたくなかったから」の割合が、40～49歳で「恥ずかしくて誰にも言えなかったから」「相談しても無駄だと思ったから」の割合が高くなっています。

【前回調査（平成 25 年度）との比較】

単位：％

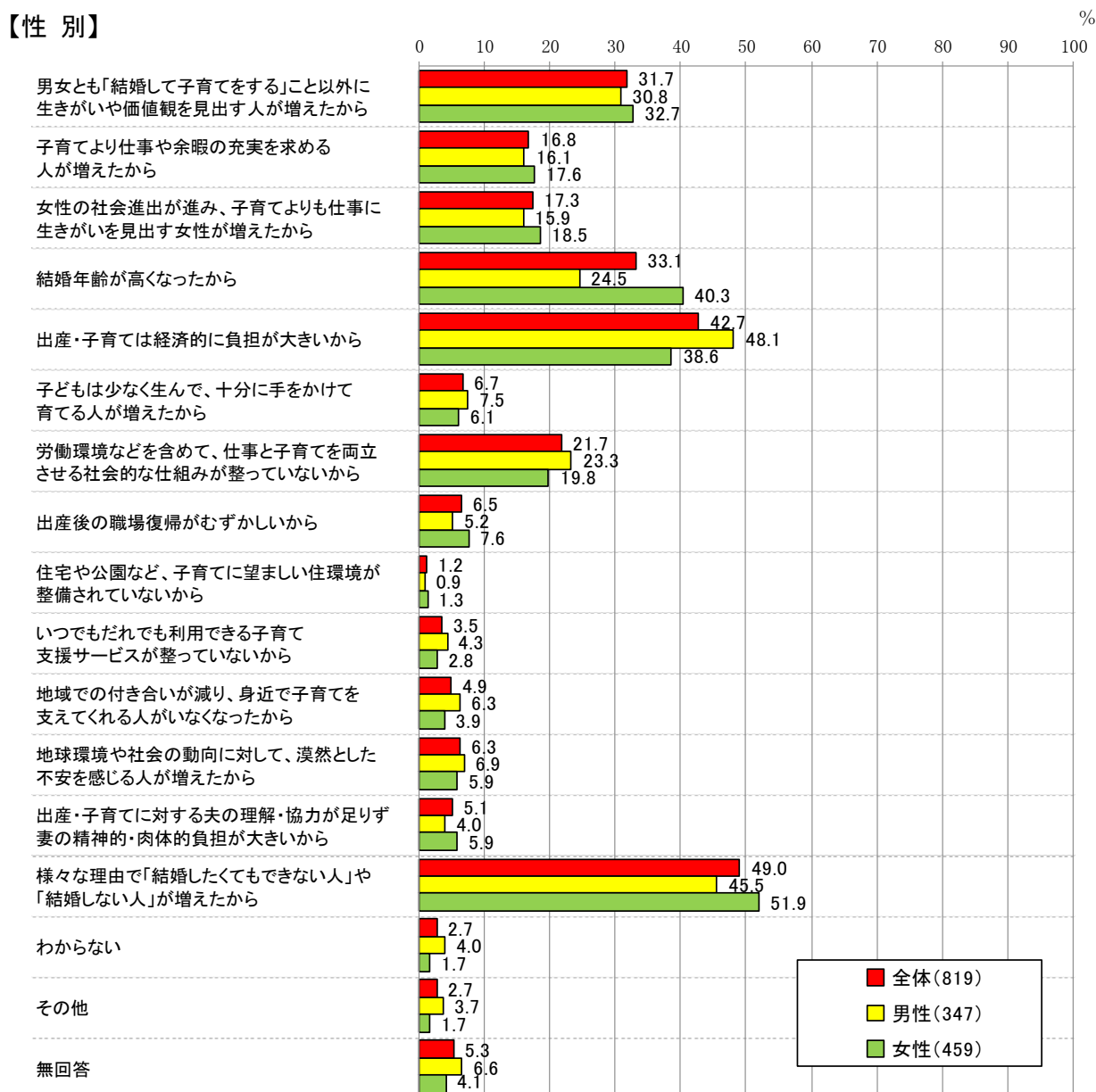
	有効回答数（件）	誰（どこ）に相談してよいかわからなかったから	恥ずかしくて誰にも言えなかったから	相談しても無駄だと思ったから	子どもに危害が及ぶと思ったから	相談したことがわかると、もっとひどいことをされると思ったから	相談窓口で不快な思いをすると思ったから	自分さえ我慢すれば、このままやっていくことができると思ったから	世間体が悪いから
令和2年度調査	88	9.1	12.5	44.3	6.8	8.0	4.5	34.1	10.2
平成 25 年度調査	87	11.5	14.9	34.5	—	5.7	6.9	31.0	6.9

	他人に心配をかけたくなかったから	大げさにしたくなかったから	自分にも悪いところがあると思ったから	相談するほどのことではないと思ったから	その他	無回答
令和2年度調査	6.8	18.2	10.2	42.0	3.4	1.1
平成 25 年度調査	8.0	17.2	25.3	44.8	3.4	—

平成 25 年度調査と比較すると、「相談しても無駄だと思ったから」が 9.8 ポイント、「子どもに危害が及ぶと思ったから」が 6.8 ポイント増加し、「自分にも悪いところがあると思ったから」が 15.1 ポイント減少しています。

7 少子化対策について

問 22 出生率が低くなった主な原因として何が考えられると思いますか。
(3つまでに○)



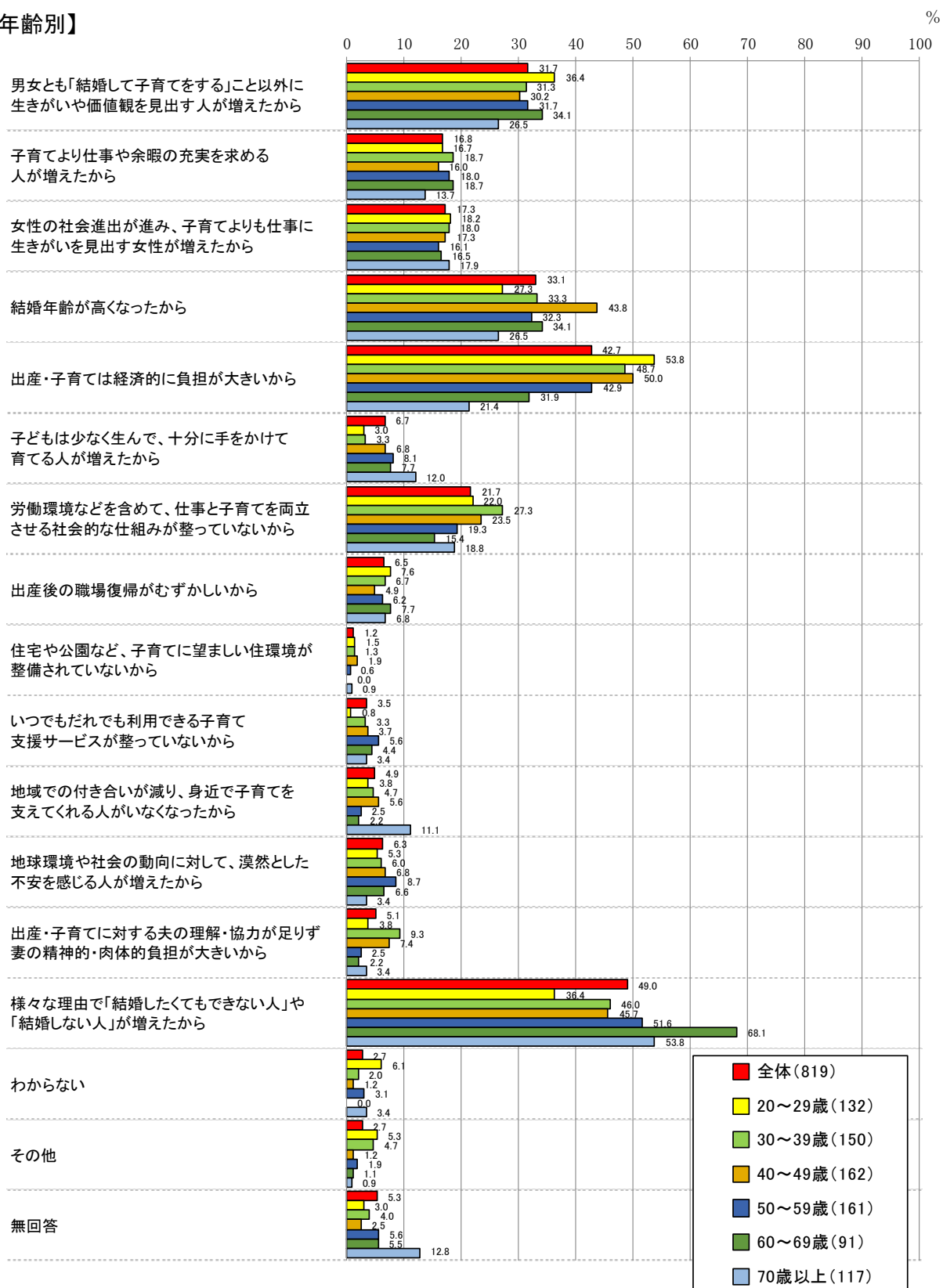
【全 体】

「様々な理由で『結婚したくてもできない人』や『結婚しない人』が増えたから」の割合が 49.0%と最も高く、次いで「出産・子育ては経済的に負担が大きいから」の割合が 42.7%、「結婚年齢が高くなったから」の割合が 33.1%となっています。

【性 別】

性別では、女性に比べ、男性で「出産・子育ては経済的に負担が大きいから」の割合が高く、約 5 割となっています。また、男性に比べ、女性で「結婚年齢が高くなったから」「様々な理由で『結婚したくてもできない人』や『結婚しない人』が増えたから」の割合が高くなっています。

【年齢別】



【年齢別】

年齢別では、年齢が低くなるにつれ「出産・子育ては経済的に負担が大きいため」の割合が高くなる傾向がみられ、20～29歳で5割台半ばとなっています。また、他に比べ、60～69歳で「様々な理由で『結婚したくてもできない人』や『結婚しない人』が増えたから」の割合が高く、約7割となっています。

【前回調査（平成 25 年度）との比較】

単位：％

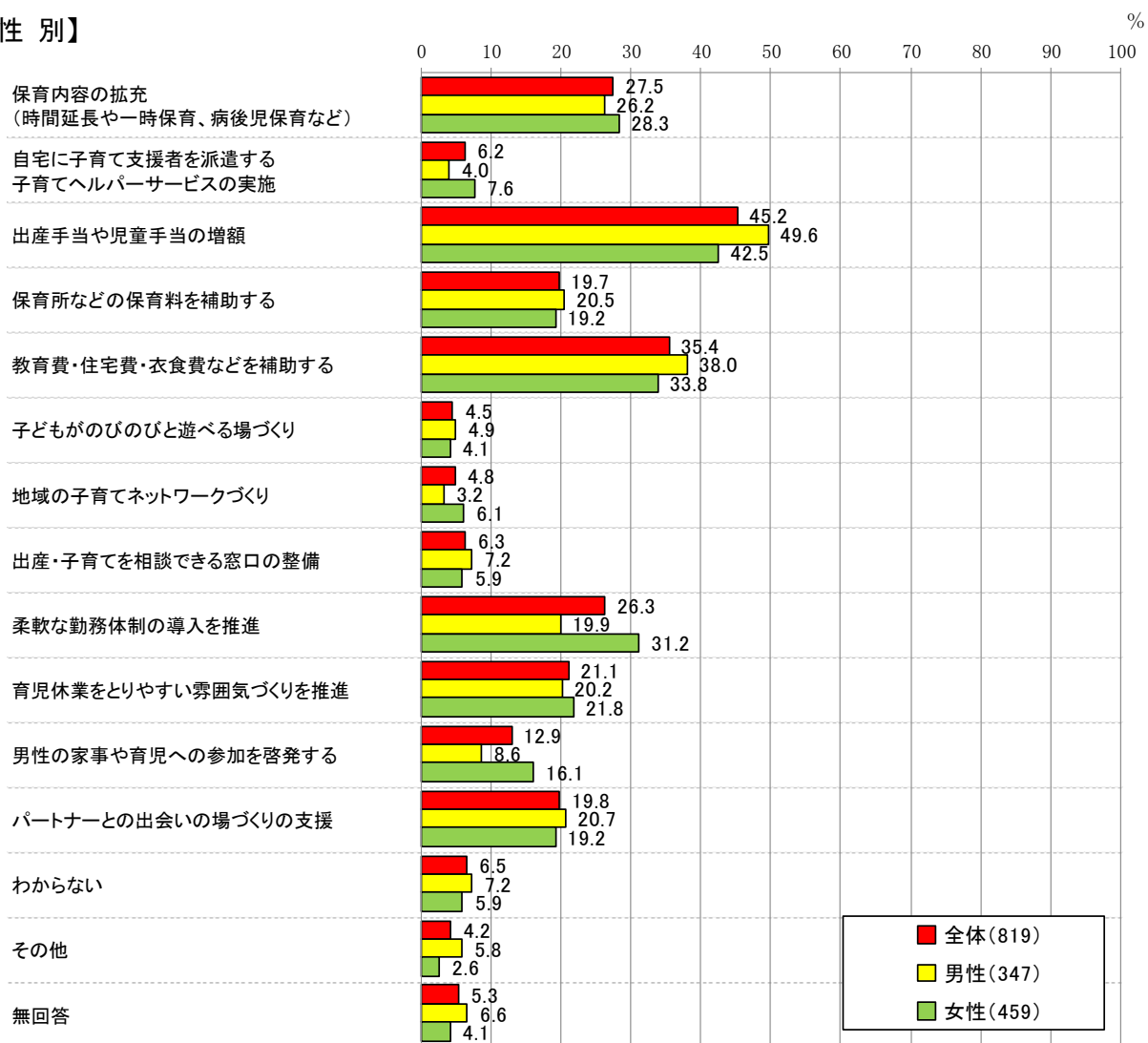
	有効回答数（件）	男女とも「結婚して子育てをする」こと以外に生きがいや価値観を見出す人が増えたから	子育てより仕事や余暇の充実を求める人が増えたから	女性の社会進出が進み、子育てよりも仕事に生きがいを見出す女性が増えたから	結婚年齢が高くなったから	出産・子育ては経済的に負担が大きいため	子どもは少なく生んで、十分に手をかけて育てる人が増えたから	労働環境などを含めて、仕事と子育てを両立させる社会的な仕組みが整っていないから	出産後の職場復帰がむずかしいから
令和2年度調査	819	31.7	16.8	17.3	33.1	42.7	6.7	21.7	6.5
平成 25 年度調査	705	26.7	17.4	23.4	37.9	38.9	9.1	22.3	11.2

	住宅や公園など、子育てに望ましい住環境が整備されていないから	いつでもだれでも利用できる子育て支援サービスが整っていないから	地域での付き合いが減り、身近で子育てを支えてくれる人がいなくなったから	地球環境や社会の動向に対して、漠然とした不安を感じる人が増えたから	出産・子育てに対する夫の理解・協力が足りず妻の精神的・肉体的負担が大きいため	様々な理由で「結婚したくてもできない人」や「結婚しない人」が増えたから	わからない	その他	無回答
令和2年度調査	1.2	3.5	4.9	6.3	5.1	49.0	2.7	2.7	5.3
平成 25 年度調査	1.3	4.1	5.4	7.4	5.0	48.5	3.3	2.8	2.8

平成 25 年度調査と比較すると、「男女とも『結婚して子育てをする』こと以外に生きがいや価値観を見出す人が増えたから」が 5.0 ポイント増加し、「女性の社会進出が進み、子育てよりも仕事に生きがいを見出す女性が増えたから」が 6.1 ポイント減少しています。

問 23 出生率を上げるために行政が推進すべき施策として何が重要だと思いますか。
(3つまでに○)

【性 別】



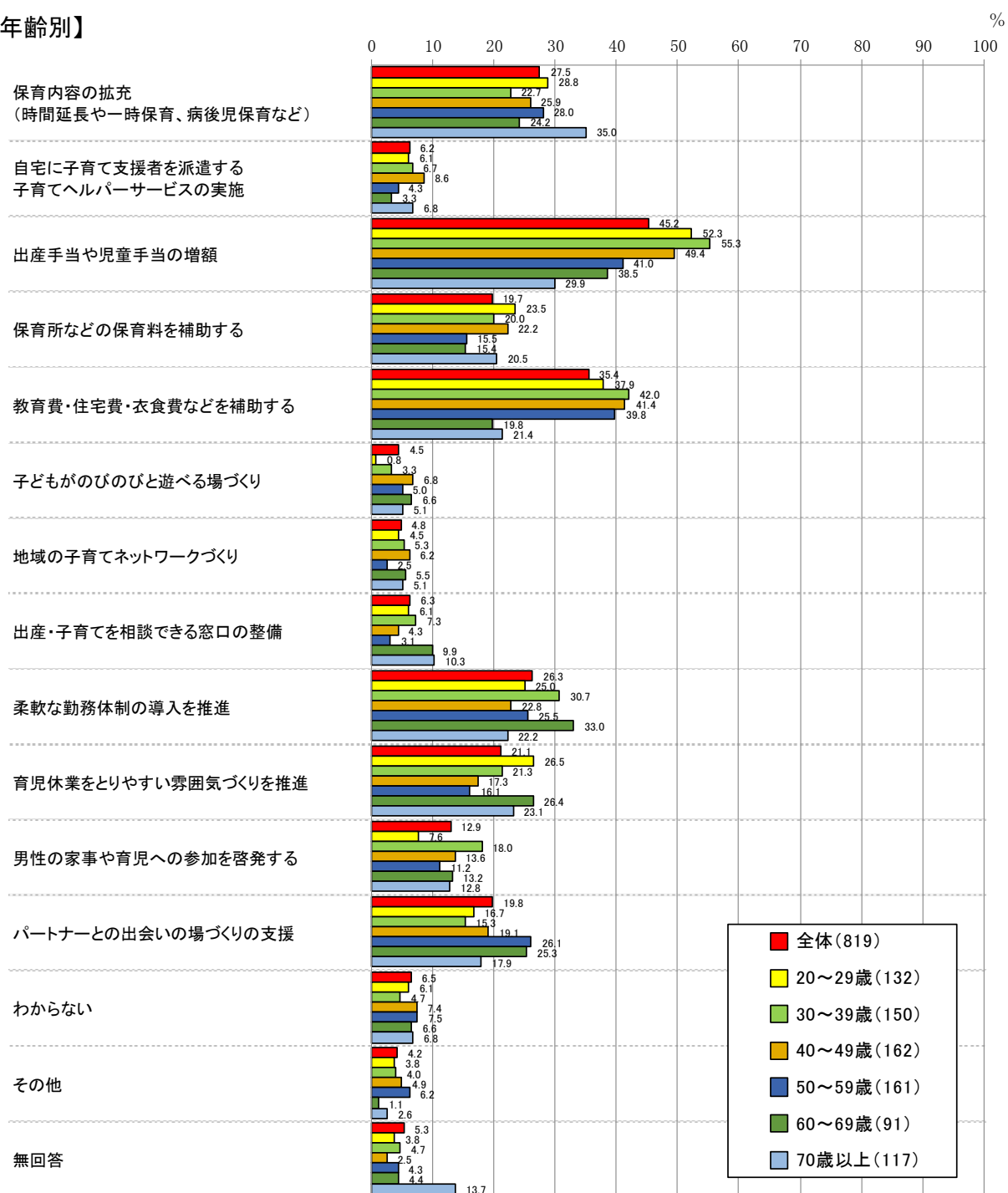
【全 体】

「出産手当や児童手当の増額」の割合が45.2%と最も高く、次いで「教育費・住宅費・衣食費などを補助する」の割合が35.4%、「保育内容の拡充（時間延長や一時保育、病後児保育など）」の割合が27.5%となっています。

【性 別】

性別では、女性に比べ、男性で「出産手当や児童手当の増額」の割合が高く、約5割となっています。また、男性に比べ、女性で「柔軟な勤務体制の導入を推進」「男性の家事や育児への参加を啓発する」の割合が高くなっています。

【年齢別】



【年齢別】

年齢別では、30歳以上で年齢が低くなるにつれ「出産手当や児童手当の増額」の割合が高くなる傾向がみられ、30～39歳で5割台半ばとなっています。

【前回調査（平成 25 年度）との比較】

単位：％

	有効回答数（件）	保育内容の拡充（時間延長や一時保育、病後児保育など）	自宅に子育て支援者を派遣する子育てヘルパーサービスの実施	出産手当や児童手当の増額	保育所などの保育料を補助する	教育費・住宅費・衣食費などを補助する	子どもがのびのびと遊べる場づくり	地域の子育てネットワークづくり	出産・子育てを相談できる窓口の整備
令和2年度調査	819	27.5	6.2	45.2	19.7	35.4	4.5	4.8	6.3
平成 25 年度調査	705	35.7	6.7	35.6	23.8	30.8	6.7	8.9	8.1

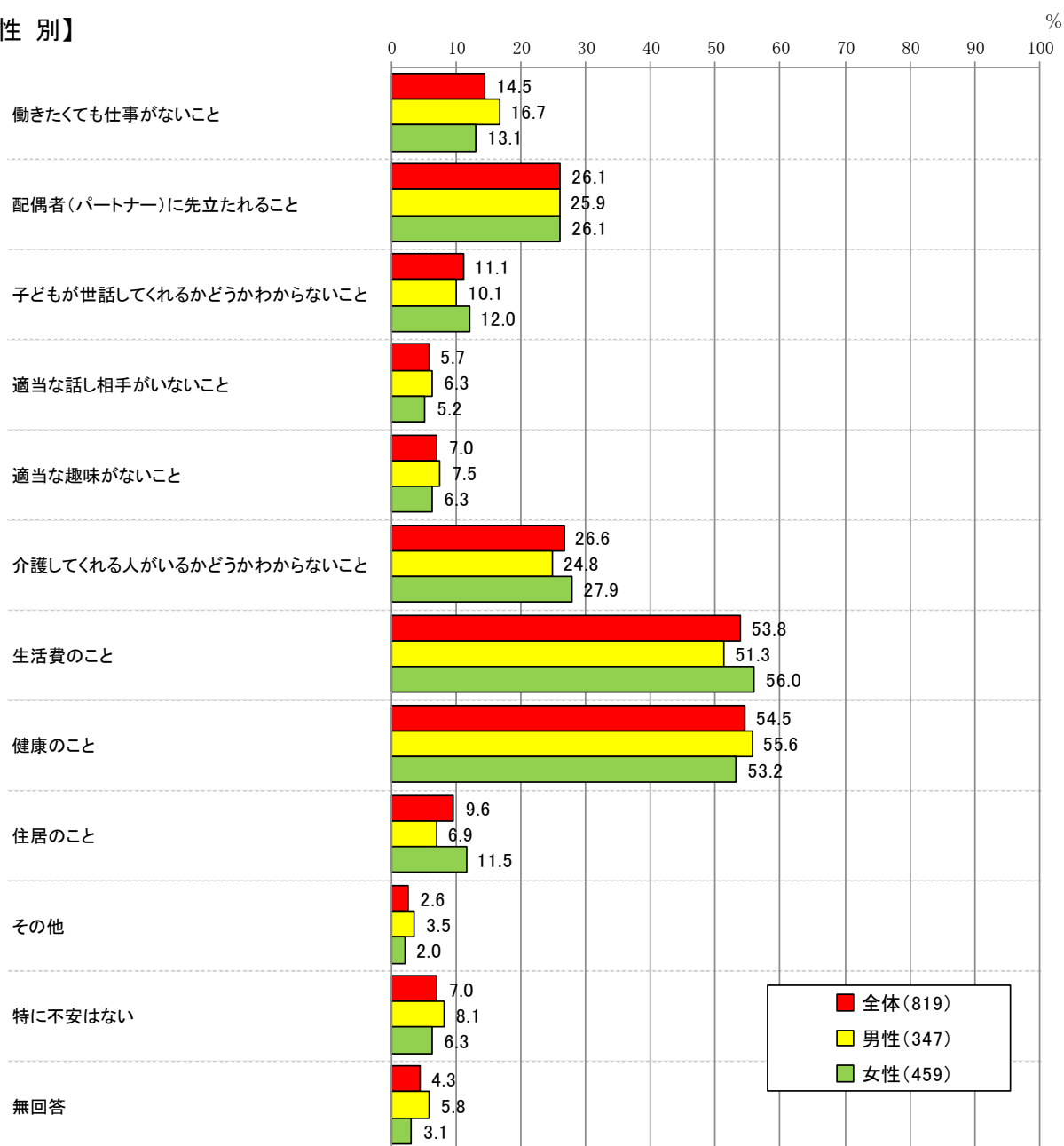
	柔軟な勤務体制の導入を推進	育児休業をとりやすい雰囲気づくりを推進	男性の家事や育児への参加を啓発する	パートナーとの出会いの場づくりの支援	わからない	その他	無回答
令和2年度調査	26.3	21.1	12.9	19.8	6.5	4.2	5.3
平成 25 年度調査	27.5	21.8	13.6	26.7	4.4	3.1	3.4

平成 25 年度調査と比較すると、「出産手当や児童手当の増額」が 9.6 ポイント増加し、「保育内容の拡充（時間延長や一時保育、病後児保育など）」が 8.2 ポイント、「パートナーとの出会いの場づくりの支援」が 6.9 ポイント減少しています。

8 高齢者介護について

問 24 あなたはご自分の老後について、不安に思うことは何ですか。（3つまでに○）

【性 別】



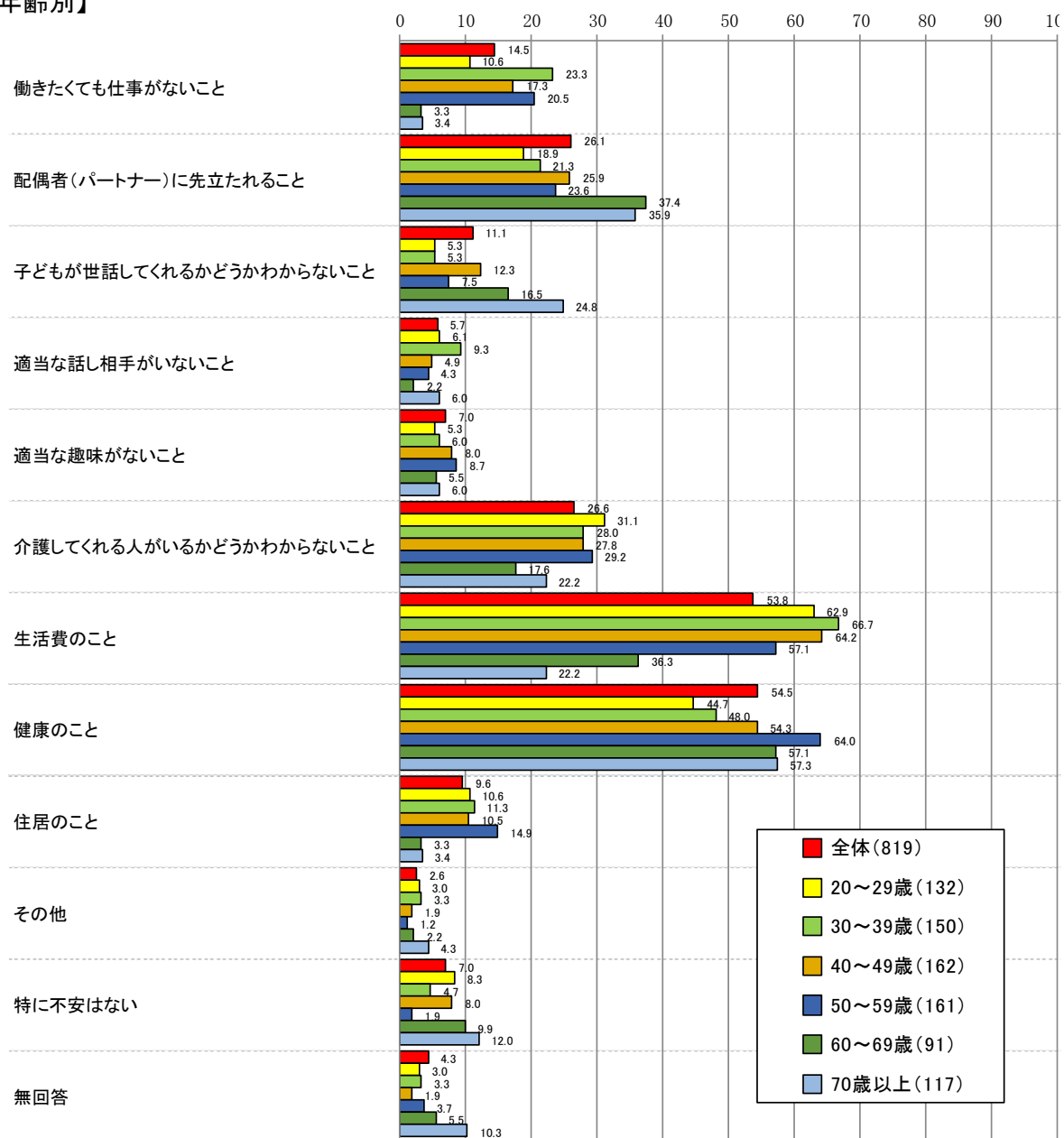
【全 体】

「健康のこと」の割合が 54.5%と最も高く、次いで「生活費のこと」の割合が 53.8%、「介護してくれる人がいるかどうかわからないこと」の割合が 26.6%となっています。

【性 別】

性別では、男女で大きな差異はみられません。

【年齢別】



【年齢別】

年齢別では、50歳以上に比べ、49歳以下で「生活費のこと」の割合が高く、6割を超えています。また、他に比べ、50～59歳で「健康のこと」の割合が高く、6割台半ばとなっています。

【前回調査（平成 25 年度）との比較】

単位：％

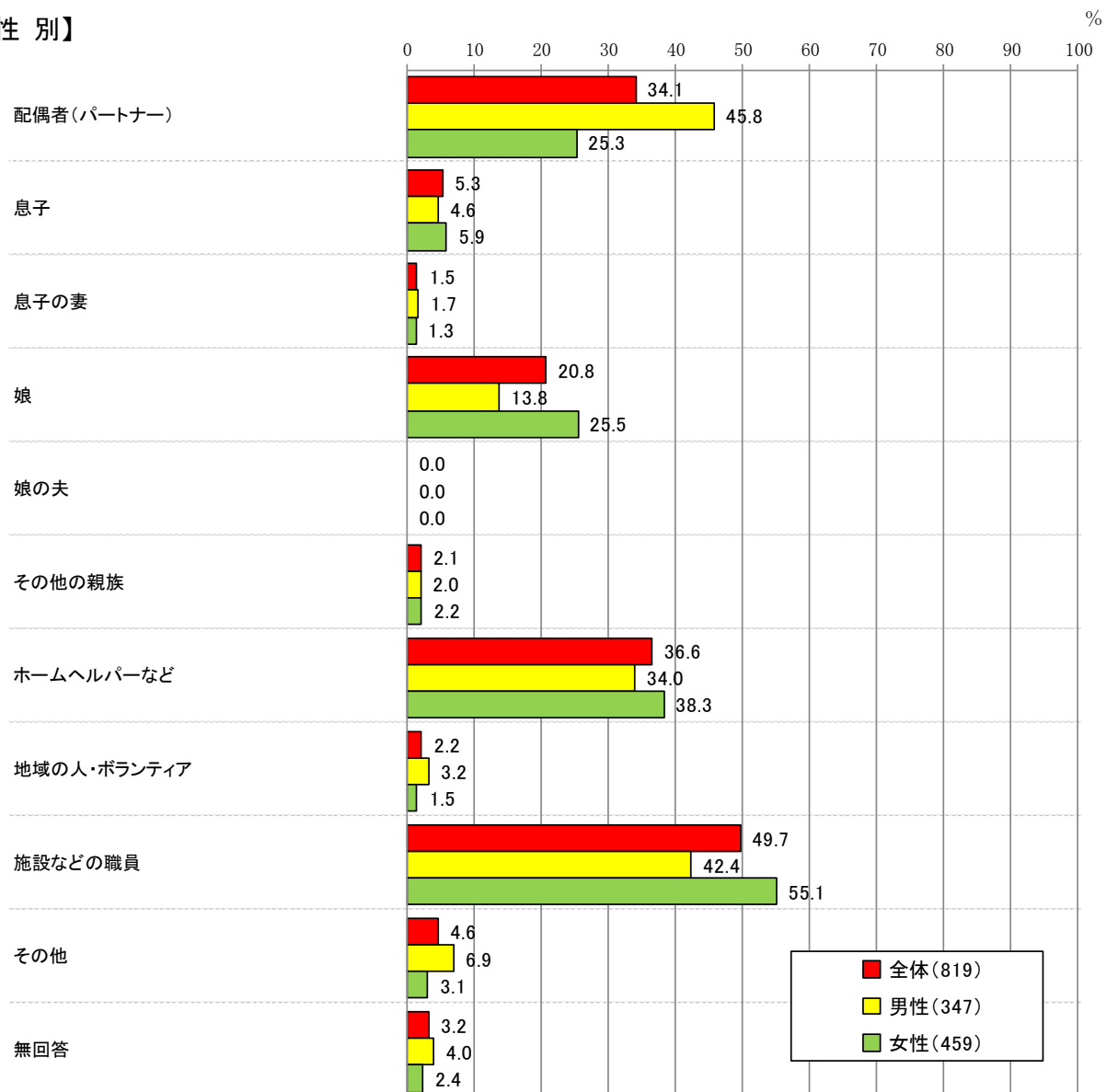
	有効回答数（件）	働きたくても仕事がないこと	配偶者（パートナー）に先立たれること	子どもが世話してくれるかどうかわからないこと	適当な話し相手がないこと	適当な趣味がないこと	介護してくれる人がいるかどうかわからないこと	生活費のこと	健康のこと
令和2年度調査	819	14.5	26.1	11.1	5.7	7.0	26.6	53.8	54.5
平成 25 年度調査	705	18.4	30.1	14.9	5.2	4.1	28.4	52.9	59.0

	住居のこと	その他	特に不安はない	無回答
令和2年度調査	9.6	2.6	7.0	4.3
平成 25 年度調査	7.4	2.6	6.7	2.3

平成 25 年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。

問 25 将来もし、あなたが寝たきりなどになったら、誰に介護してほしいですか。（2つまでに○）

【性 別】



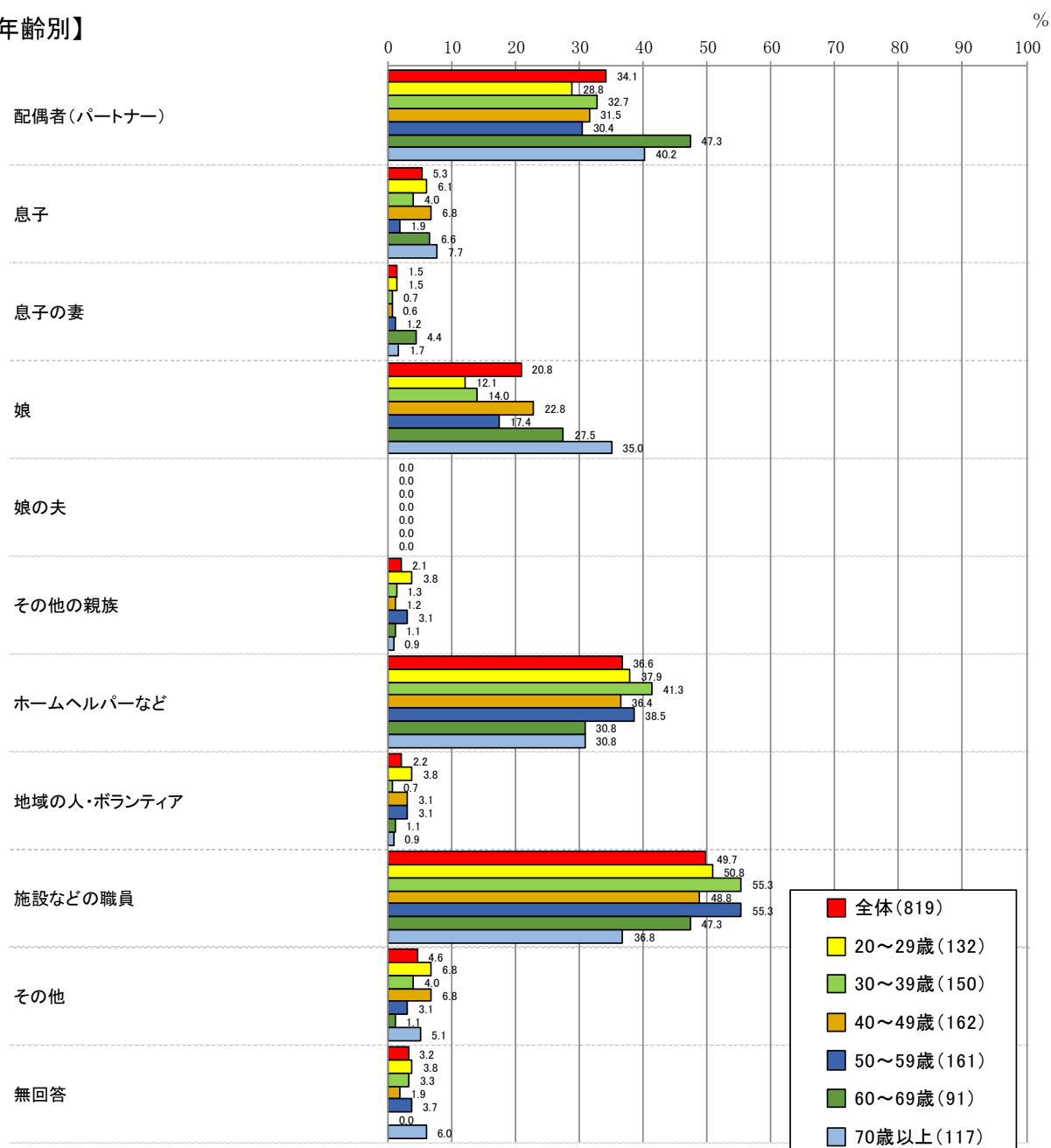
【全 体】

「施設などの職員」の割合が49.7%と最も高く、次いで「ホームヘルパーなど」の割合が36.6%、「配偶者（パートナー）」の割合が34.1%となっています。

【性 別】

性別では、女性に比べ、男性で「配偶者（パートナー）」の割合が高く、4割台半ばとなっています。また、男性に比べ、女性で「娘」「施設などの職員」の割合が高くなっています。

【年齢別】



【年齢別】

年齢別では、年齢が高くなるにつれ「娘」の割合が高くなる傾向がみられ、70歳以上で3割台半ばとなっています。また、他に比べ、60～69歳で「配偶者（パートナー）」の割合が高く、約5割となっています。

【前回調査（平成 25 年度）との比較】

単位：％

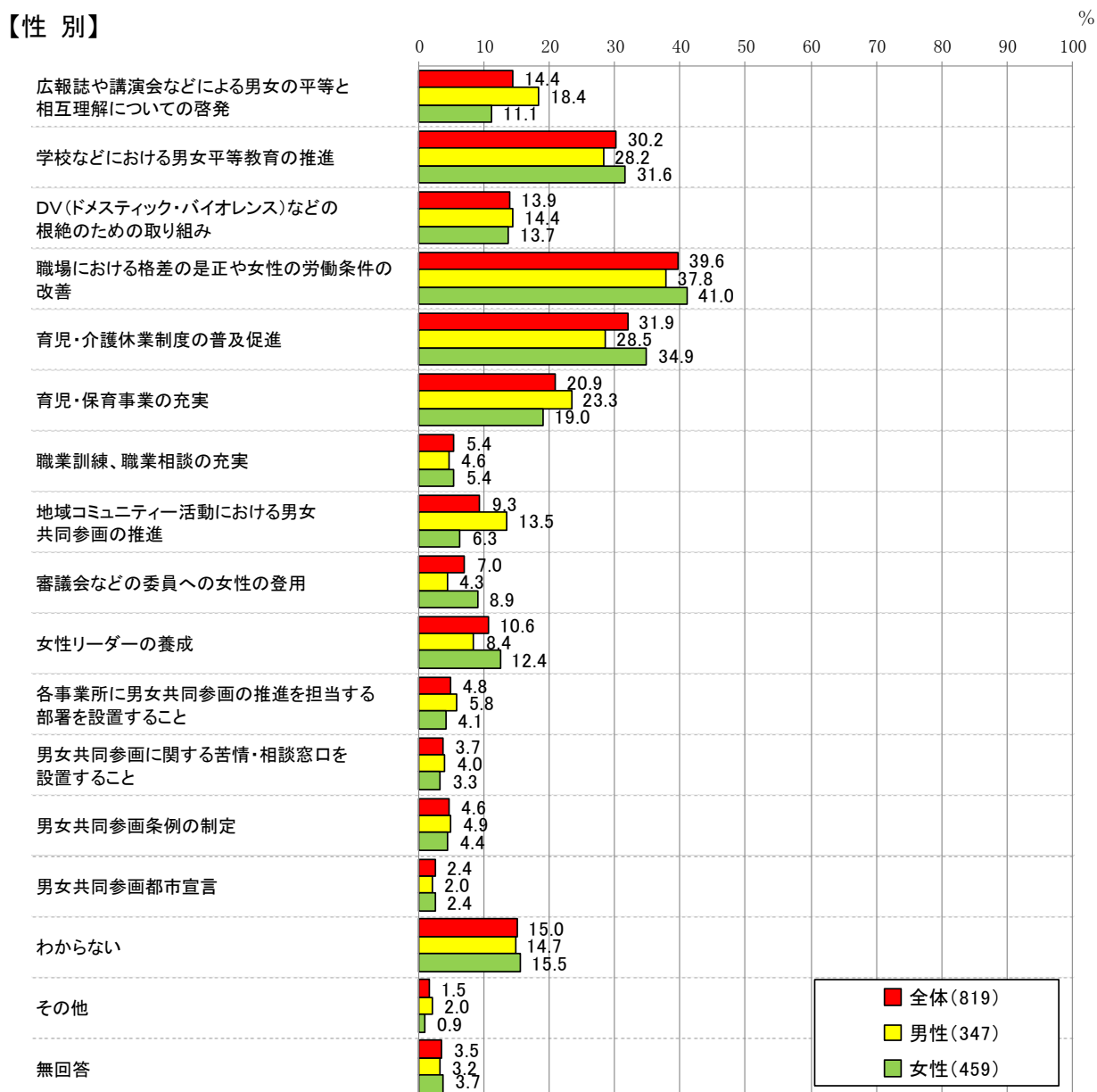
	有効回答数 (件)	配偶者 (パートナー)	息子	息子の妻	娘	娘の夫	その他の親族	ホームヘルパーなど	地域の人・ボランティア
令和2年度調査	819	34.1	5.3	1.5	20.8	—	2.1	36.6	2.2
平成 25 年度調査	705	46.0	8.1	3.0	24.8	0.1	2.3	29.1	2.1

	施設などの職員	その他	無回答
令和2年度調査	49.7	4.6	3.2
平成 25 年度調査	36.9	3.8	—

平成 25 年度調査と比較すると、「配偶者（パートナー）」が 11.9 ポイント減少し、「ホームヘルパーなど」が 7.5 ポイント、「施設などの職員」が 12.8 ポイント増加しています。

9 男女共同参画の推進について

問 26 男女共同参画社会の実現に向けて、どのような取り組みが必要だと思いますか。
(3つまでに○)



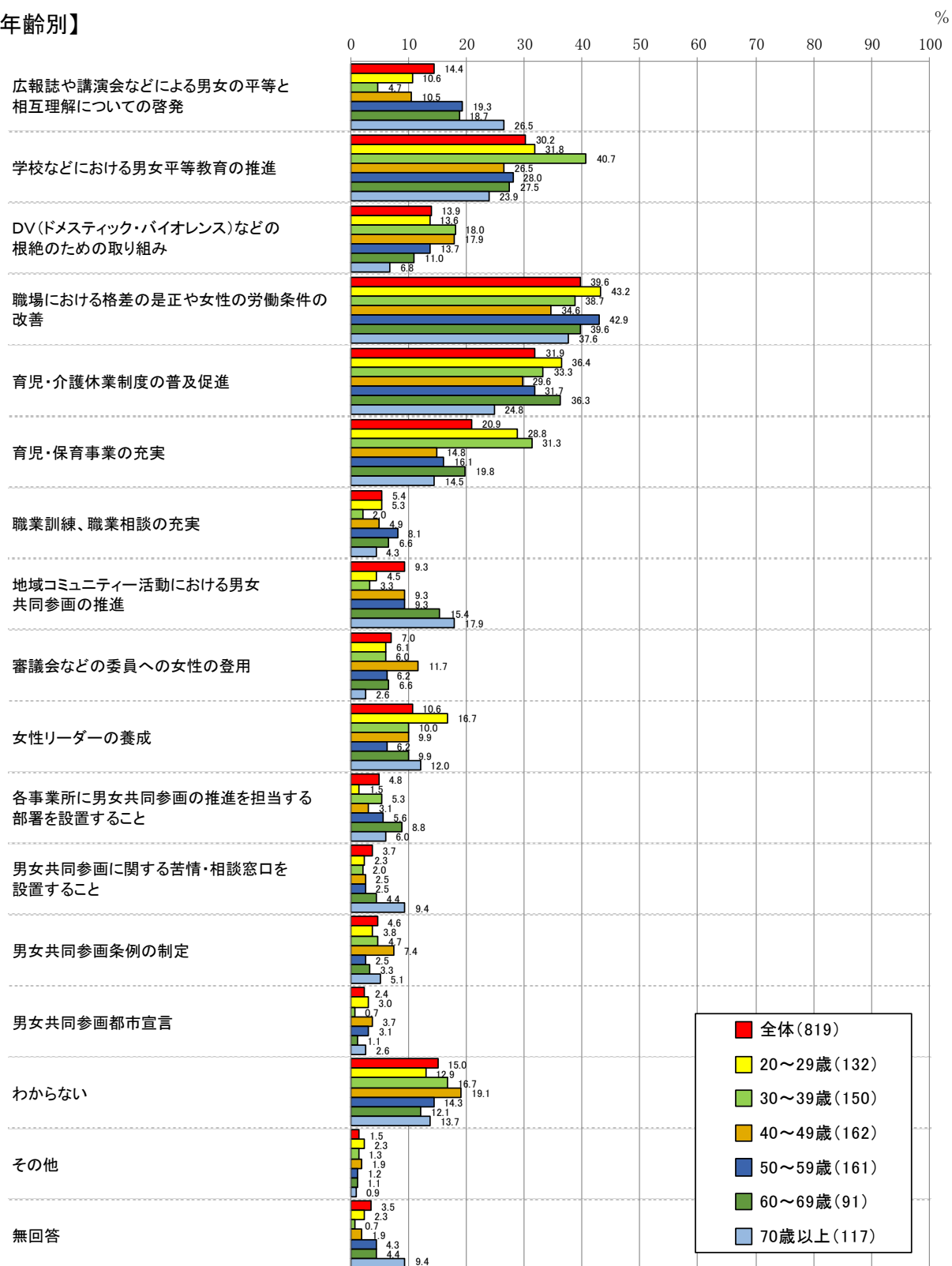
【全 体】

「職場における格差の是正や女性の労働条件の改善」の割合が 39.6%と最も高く、次いで「育児・介護休業制度の普及促進」の割合が 31.9%、「学校などにおける男女平等教育の推進」の割合が 30.2%となっています。

【性 別】

性別では、女性に比べ、男性で「広報誌や講演会などによる男女の平等と相互理解についての啓発」「地域コミュニティ活動における男女共同参画の推進」の割合が高くなっています。また、男性に比べ、女性で「育児・介護休業制度の普及促進」の割合が高く、3割台半ばとなっています。

【年齢別】



【年齢別】

年齢別では、他に比べ、30～39歳で「学校などにおける男女平等教育の推進」の割合が高く、約4割となっています。また、20～29歳、30～39歳で「育児・保育事業の充実」の割合が高く、約3割となっています。

【前回調査（平成 25 年度）との比較】

単位：％

	有効回答数（件）	広報誌や講演会などによる男女の平等と相互理解についての啓発	学校などにおける男女平等教育の推進	DV（ドメスティック・バイオレンス）などの根絶のための取り組み	職場における格差の是正や女性の労働条件の改善	育児・介護休業制度の普及促進	育児・保育事業の充実	職業訓練、職業相談の充実	地域コミュニティ活動における男女共同参画の推進
令和2年度調査	819	14.4	30.2	13.9	39.6	31.9	20.9	5.4	9.3
平成 25 年度調査	705	20.0	25.2	9.8	38.0	29.4	22.1	8.9	15.3

	審議会などの委員への女性の登用	女性リーダーの養成	各事業所に男女共同参画の推進を担当する部署を設置すること	男女共同参画に関する苦情・相談窓口を設置すること	男女共同参画条例の制定	男女共同参画都市宣言	わからない	その他	無回答
令和2年度調査	7.0	10.6	4.8	3.7	4.6	2.4	15.0	1.5	3.5
平成 25 年度調査	6.1	12.3	6.4	5.1	6.1	2.8	12.5	0.7	4.7

平成 25 年度調査と比較すると、「広報誌や講演会などによる男女の平等と相互理解についての啓発」が 5.6 ポイント、「地域コミュニティ活動における男女共同参画の推進」が 6.0 ポイント減少し、「学校などにおける男女平等教育の推進」が 5.0 ポイント増加しています。

Ⅲ 「その他」意見

※固有名称等個人情報に関する内容や男女共同参画と関係のない記載につきましては、省かせていただいております。

F 3 あなたの主な職業をお答えください。(1つに○)

- ・ 嘱託職員 (女性・40 歳代)
- ・ 家事手伝い (女性・20 歳代)
- ・ 土工 (男性・40 歳代)
- ・ 派遣清掃 (男性・50 歳代)
- ・ 契約社員 (女性・50 歳代)
- ・ 派遣社員 (男性・30 歳代)
- ・ 派遣社員 (男性・30 歳代)
- ・ 無職 (男性・70 歳以上)
- ・ 扶養者 (女性・70 歳以上)
- ・ 在宅 (女性・20 歳代)
- ・ 作業所 (女性・50 歳代)
- ・ デーサービス週 2 回通っています (女性・70 歳以上)
- ・ 障害者施設通所 (男性・20 歳代)
- ・ 育児休暇 (女性・30 歳代)
- ・ 公務員を定年退職 (女性・70 歳以上)
- ・ 福祉作業所 (男性・30 歳代)
- ・ 会計年度任用職員 (女性・50 歳代)
- ・ 多機能型事業所の入所者 (男性・20 歳代)

F 4 あなたの家族構成をお答えください。(1つに○)

- ・ 夫婦と子供と孫 (女性・60 歳代)
- ・ 妻、子ども (男性・40 歳代)
- ・ 親・夫婦・子ども (三世代) (女性・50 歳代)
- ・ 母と私 (男性・60 歳代)
- ・ 親兄弟 (女性・30 歳代)
- ・ 母と二人 (女性・30 歳代)
- ・ 親と兄家族 (男性・50 歳代)
- ・ 孫子と祖父、祖母、三人 (女性・70 歳以上)
- ・ 祖父母・おば・父 (女性・20 歳代)
- ・ 母と子 (女性・40 歳代)
- ・ 親と弟 (男性・50 歳代)
- ・ 夫婦と長女 (男性・70 歳以上)
- ・ 親と夫婦と子ども (男性・60 歳代)
- ・ 親と同居 (女性・50 歳代)

- ・ 祖父、祖母、孫（女性・20 歳代）
- ・ 姑と夫婦（女性・50 歳代）
- ・ 夫婦と子供（男性・30 歳代）
- ・ 夫婦+義母（男性・60 歳代）
- ・ 親（母）、祖母（男性・20 歳代）
- ・ 子夫婦と孫（男性・70 歳以上）
- ・ 4 世代家族（女性・30 歳代）
- ・ 夫婦と子（女性・50 歳代）
- ・ 兄と弟（男性・50 歳代）
- ・ 母と二人（男性・50 歳代）
- ・ 妻、子供 2 人（男性・40 歳代）
- ・ 私と子供（女性・50 歳代）
- ・ 子どもと 2 人暮らし（女性・30 歳代）
- ・ 親、夫婦、娘（男性・70 歳以上）
- ・ 夫婦と子ども（女性・30 歳代）
- ・ 夫婦と子ども（男性・70 歳以上）
- ・ 父、祖母（男性・20 歳代）
- ・ 祖父母と親と自分（三世代）（女性・40 歳代）
- ・ 親子四人（女性・50 歳代）
- ・ 子供、孫（女性・70 歳以上）
- ・ 婚約者と二人暮らし（男性・40 歳代）
- ・ 夫婦、長男（男性・70 歳以上）
- ・ 親と夫婦（男性・60 歳代）
- ・ 親と妹（男性・20 歳代）
- ・ 両親との同居（男性・50 歳代）
- ・ 夫と義母（女性・60 歳代）
- ・ 両親（女性・50 歳代）
- ・ 夫婦と子供（女性・50 歳代）
- ・ 高齢者・私・子ども・孫（女性・60 歳代）
- ・ 四世代家族（女性・60 歳代）
- ・ 夫婦と子ども（女性・60 歳代）
- ・ 親、姉、兄、祖母（男性・20 歳代）
- ・ 子供と親と祖母と 4 世代家族（女性・40 歳代）
- ・ 同じ家屋に孫夫婦（女性・70 歳以上）
- ・ 夫婦と妻（自分）の親（女性・60 歳代）
- ・ 夫婦と子ども（女性・50 歳代）

- ・ 夫婦、子供、孫（女性・50歳代）
- ・ 夫と子供（女性・30歳代）
- ・ 親と夫婦のみ（女性・60歳代）
- ・ 親と夫婦（男性・50歳代）
- ・ 夫婦、3親等（女性・50歳代）
- ・ 夫婦・子ども（男性・70歳以上）
- ・ 両親と一緒に（男性・50歳代）
- ・ 親のみ（男性・20歳代）
- ・ 娘夫婦と同居（女性・40歳代）
- ・ 姉家族と妹家族の二世帯（女性・30歳代）
- ・ 親、妻（男性・20歳代）
- ・ 妻と母親と祖母（男性・30歳代）
- ・ 親と私（女性・40歳代）
- ・ 両親、子ども、祖父母（女性・20歳代）
- ・ 父親（両親）、夫、自分、子ども2人（女性・60歳代）
- ・ 私と親（母）、おば（女性・30歳代）
- ・ 夫婦、息子（男性・60歳代）
- ・ 介護施設（女性・70歳以上）
- ・ 妻と、娘（男性・60歳代）
- ・ 夫婦と義父（女性・50歳代）
- ・ 母親と2人（男性・30歳代）
- ・ 親と兄妹（女性・40歳代）
- ・ 祖母、両親、自分たち、子どもの四世帯（女性・30歳代）
- ・ 親と祖母と姉妹（女性・20歳代）

問1－1 社会全体の中で、男性のほうが優遇されていると思う原因は何だと思いませんか。（3つまでに○）

- ・ 女性の方が優遇されている（男性・70歳以上）
- ・ 長男が家を継ぐなど、妻が我慢しなければならない考えが根強い。（男性・20歳代）
- ・ そう言う考えはない。（男性・60歳代）
- ・ 出産すると、社会生活から遠ざかるため復帰が難しい。（女性・30歳代）
- ・ どの方向性に向けても（仕事、家庭内、地域など）、いろいろなつながりを考えた上で、男女平等について深く考えている人は少ない。（男性・20歳代）
- ・ 現代の社会基盤をつくったのが男性であるから。（女性・20歳代）

問6 あなたがお考えになる「女性の仕事や結婚についての理想像」は、次のどれに最も近いですか。(1つに○)

- ・ 私の理想は3でしたが、かないませんでした。(女性・50歳代)
- ・ 仕事を続けながら(1つの仕事をずっととは限らない)、機会に恵まれれば、結婚、出産をする(性別不詳・50歳代)
- ・ 人それぞれだと思う(男性・20歳代)
- ・ 自宅で出来る仕事(テレワーク)は3。それ以外の場合は7。(女性・20歳代)
- ・ 本人が決めることなので、理想はない(男性・30歳代)
- ・ 理想は1人1人がやりたいようにすれば良い。同じ人がいても良いが、やりたいようにやって、他人に決められるものではない。(女性・50歳代)
- ・ 収入が少なければ理想だけでは生活が出来ないと思います。(男性・50歳代)
- ・ 結婚、出産しても仕事をしたい人はすればいいし人それぞれと思っている。結婚が全てではないと思う(女性・40歳代)
- ・ 当人が勝手に決めればいい(男性・40歳代)
- ・ その個人の考えによる。個人の考えが実行できる環境が理想(男性・30歳代)
- ・ 全て本人達の自由(男性・40歳代)
- ・ 人それぞれ(男性・30歳代)
- ・ 人それぞれ立場や環境で理想像は変わる。(男性・30歳代)
- ・ 仕事を続けたければ続け、家庭に入りたいならそうできる環境(性別不詳・年齢不詳)
- ・ 自由に生きていいじゃないか、人間なもの(男性・30歳代)
- ・ その人にあっていれば良いと思う(女性・50歳代)
- ・ 結婚、出産後、できれば仕事をつづける。(女性・20歳代)
- ・ 本人の能力、希望による。(男性・50歳代)
- ・ 本人の意志 全て本人の意志(男性・40歳代)
- ・ 結婚をせずに出産をし仕事も続ける(女性・40歳代)
- ・ 本人の自由(男性・30歳代)
- ・ 本人の考えと配偶者との考え次第。(男性・60歳代)
- ・ どの生き方を選んでも、身近に理解してくれる人がいること。(女性・20歳代)
- ・ 産休・育休を取得し、仕事を続ける。(女性・40歳代)
- ・ 好きに生きればよい。(男性・30歳代)
- ・ 人それぞれだから、理想はない。(女性・20歳代)
- ・ 6と7は同じではあるが、その子どもが大人になって母親がまだ働きたいと思ったら働かせてもよいのではないかと思います。(男性・20歳代)

**問7 女性が仕事をもち続けるうえで、障害となっているものは何だと思いますか。
(3つまでに○)**

- ・ 女性自身の意識 (女性・50 歳代)
- ・ ラディカルフェミニストによる制度改善妨害 (男性・30 歳代)
- ・ 性差、授乳、妊娠 (男性・50 歳代)
- ・ 障害のある子供がいる場合に相談やリハビリ教育を受けられる施設が海匝地域や市内に少ない。(女性・40 歳代)
- ・ 障害者であることへの偏見 (女性・50 歳代)
- ・ 徐々に障害が減り逆に男性に障害が出てくる時代になる (男性・40 歳代)
- ・ 産休がとれるといっても妊娠しながら通常どおりの業務をこなさなければならない環境 (男性・20 歳代)
- ・ 乳幼児を連れてできる就職活動支援があっても全然利用できる内容じゃなかった。形だけ・・・意味ない。(女性・20 歳代)
- ・ 女性は男性に比べ、身体的・精神的な部分が年齢とともに弱くなるが多くなる為。環境の変化 (子育てや仕事の立場、ホルモンバランスの変化や更年期など) (女性・40 歳代)
- ・ 出産・育児の保育 (男性・60 歳代)
- ・ 男性側の職場の理解が不十分、制度が不十分 (女性・30 歳代)
- ・ 給料が安い。(男性・30 歳代)
- ・ 地域の慣習で、保育園に遅くまで預けられない (17 時以降になると、ほぼ子どもがいない)。(男性・40 歳代)
- ・ 男女平等のところで答えたように、多くのことをつなげて考えている人が多くないため、うまく機能していかない。(男性・20 歳代)

問8 雇用の場への女性の進出が進む中で、女性が働きやすい環境をつくるため、どのようなことが必要だと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

- ・ 7にも関わりますが男性への参加促進の為に、男性の育休取得を積極的に行い、企業への理解を深めるべきだと思います。(女性・30 歳代)
- ・ デフレ脱却を妨害する財務省改革 (男性・30 歳代)
- ・ 仕事の時間を減らす (男性・30 歳代)
- ・ 高収入になり、家事を外注できるようにする。(男性・50 歳代)
- ・ 他人があれこれ言う事をやめる。1人1人ちがうのだから、みとめてあげて。(女性・50 歳代)
- ・ 行政の制度だけでない職場での環境改善も必要と思う (女性・40 歳代)
- ・ 税金、社会保険料等の軽減 (男性・50 歳代)
- ・ 昔の考え方をなくす。嫁が食事の仕度をする。(女性・50 歳代)
- ・ 子供が急に体調をくずした時の対応 きまづさ、仕事のやり方、援助 (女性・50 歳代)
- ・ 社会の意識の変化 (男性・30 歳代)

- ・ ベーシックインカム導入（男性・40 歳代）
- ・ 職場の人員が十分に確保されていて、業務分担が適切に行われること（男性・20 歳代）
- ・ 社会全体の意識改革、国が本当に困っている女性の意見を聞き現場の問題を知った上で改善策をつくること（女性・20 歳代）
- ・ 2. 保育施設や保育サービスの充実について、匝瑳市においては十分だと思います。（女性・30 歳代）
- ・ まずは意識を変えること。（男性・40 歳代）
- ・ 社会・地域・家族の理解と協力（女性・40 歳代）
- ・ 地域での男女平等意識の促進（現時点では特に高齢者）（男性・40 歳代）
- ・ 男女平等のところで答えたように、多くのことをつなげて考えている人が多くないため、うまく機能していかない。（男性・20 歳代）

問 9 あなたは機会があれば管理職になりたいと思いますか。（1 つに○）

- ・ 農業、自営（男性・50 歳代）
- ・ 管理職を引退した（男性・50 歳代）
- ・ 考えたことがないのでわからない。（男性・40 歳代）
- ・ になりたいが今のままではなれない（女性・30 歳代）
- ・ シルバーのアルバイトなので制度がない（男性・60 歳代）
- ・ 自営業の為（男性・60 歳代）
- ・ 個人事業主（男性・40 歳代）
- ・ 副業でになりたい（男性・40 歳代）
- ・ パート・アルバイトのため、管理職の道はなし。（男性・60 歳代）
- ・ 臨時職（女性・60 歳代）
- ・ 自営（男性・70 歳以上）
- ・ 年齢的に難しい。（女性・50 歳代）

問 12 あなたが働いていない理由は何ですか。（1 つに○）

- ・ 学生のため、アルバイトはしている（男性・20 歳代）
- ・ 学生（男性・20 歳代）
- ・ 学生（男性・20 歳代）
- ・ 妊娠し、つわりがひどく体調が悪いから（女性・30 歳代）
- ・ 育休中（女性・20 歳代）
- ・ 学生だから（女性・20 歳代）
- ・ コロナの感染がこわいから（女性・30 歳代）
- ・ 学生だから（女性・20 歳代）
- ・ 学生の為（女性・20 歳代）

- ・ おつとめしていない＝無職だが、家でじっと動かないでいる訳ではない。外で働いて、お金をもらっていないだけで、家の事をしているので、働いているつもりだ。(女性・50歳代)
- ・ 学生だから (女性・20歳代)
- ・ 育休中 (女性・30歳代)
- ・ 学生だから (女性・20歳代)
- ・ 学生の為 (女性・20歳代)
- ・ 娘への応援 (孫) (女性・60歳代)
- ・ 年齢的に仕事がむずかしい。(女性・40歳代)
- ・ 学生 (男性・20歳代)
- ・ 年齢的に (女性・70歳以上)
- ・ 学生だから (男性・20歳代)
- ・ 高齢であり生計は子が担っているため。(女性・70歳以上)
- ・ 学生のため (女性・20歳代)
- ・ 学生のため (女性・20歳代)
- ・ 聴覚障害があるため (女性・50歳代)
- ・ 大学生だから (女性・20歳代)
- ・ 学生のため (男性・20歳代)
- ・ 子供達が具合が悪くなった時何かあった時に面倒をみる者が母親以外いないため (女性・40歳代)
- ・ 第2子出産の為 (女性・20歳代)
- ・ 妊娠中である為 (女性・30歳代)
- ・ 高齢 (女性・70歳以上)
- ・ 子育て+パートナーの仕事にあわせて住居が変わってしまうため 仕事を探しにくい (女性・20歳代)
- ・ 学生だから 来月(12月)から地元でアルバイト開始予定 (男性・20歳代)
- ・ 現在勉強したいことがあるため (女性・20歳代)
- ・ 高齢のため (女性・70歳以上)
- ・ 学生だから (男性・20歳代)
- ・ 入院中 (女性・70歳以上)
- ・ 妊娠中だから (女性・30歳代)
- ・ 高齢の為、働けない (女性・70歳以上)
- ・ 生活介護での通所しているから (男性・20歳代)
- ・ コロナで無職 (女性・50歳代)
- ・ まだ学生だから (女性・20歳代)
- ・ 育児休暇 (女性・30歳代)
- ・ 家事をほとんど任されているから。(女性・70歳以上)

- ・ 働いていた会社が育休はないと言われ、給料もごまかされていたため。仕事をやめて、子育てに専念しました。(女性・30 歳代)
- ・ 学生 (男性・20 歳代)
- ・ 夫の仕事上の関係で、働いていない。夫の部署が変われば働くことが可能。(女性・30 歳代)
- ・ 学生だから (女性・20 歳代)
- ・ 出産 (休) → 育休中にクビ (女性・20 歳代)
- ・ 学生であるから。(女性・20 歳代)
- ・ 介護施設に入っているから。(女性・70 歳以上)
- ・ 学生だから。(性別不詳・年齢不詳)
- ・ 育休中 (女性・20 歳代)
- ・ 学生の為 (男性・20 歳代)
- ・ 乳児を育てている為。(女性・20 歳代)
- ・ 学生だから (大学3年) (男性・20 歳代)
- ・ 学生のため (女性・20 歳代)
- ・ 高齢の為 (女性・70 歳以上)
- ・ 学生だから (女性・20 歳代)

問 13 あなたは、女性が職場において活躍するために、どの情報が特に必要になると感じますか。(あてはまるものすべてに○)

- ・ 男性の育休取得率や状況 (女性・30 歳代)
- ・ 1人1人ちがうと思うので、ひとつに決められない。すべてといえば、すべて。知らない人には知らない。(女性・50 歳代)
- ・ 情報等では、社会は動けない。強制力がある内容で無ければ無意味です。(男性・30 歳代)
- ・ 育事、介護、卒業しました。(女性・50 歳代)
- ・ 介護、環境改善などの公的支援の情報不足 (男性・70 歳以上)
- ・ 男性が家のことを進んでやれるような意識にするための会などがあると。(女性・20 歳代)
- ・ 家族の理解がないとむずかしいことも多い (男性・70 歳以上)
- ・ 共働き家族の統計 (匝瑳市と周辺地域の格差)。共働き家族に対する意識調査 (アンケート等)。(男性・40 歳代)
- ・ みんなが意識を持っていれば、特に何もない世の中。(男性・20 歳代)
- ・ その他というよりも、女性が働きやすいように、やはりこうやって上全部丸にしているように、僕はあまりわからないので、やはり女性は可哀想だとちょこっと思ったため、こうやって教えてあげたらよいと思う。(男性・20 歳代)

問 14 次の地域活動の中で、「現在参加しているもの」「今後参加したいもの」について、それぞれ選んでください。（あてはまるものすべてに○）

現在参加している地域活動

- ・ 消防団（男性・30 歳代）
- ・ 地区活動。消防団（男性・30 歳代）
- ・ 消防団（男性・20 歳代）
- ・ 青年会（男性・50 歳代）
- ・ ロータリークラブ（男性・70 歳以上）

今後参加したい地域活動

- ・ 参加したくない（男性・60 歳代）
- ・ 参加したくない（女性・20 歳代）
- ・ これからも参加しない（男性・70 歳以上）
- ・ 参加したくない（女性・30 歳代）
- ・ 参加したいが病の為。（女性・70 歳以上）

問 15 これまで男性は、比較的、家庭生活（家事・育児・介護など）や地域活動への参加が少なかったと言われていますが、男性の参加を促進するためには、どのようなことが必要だと思いますか。（2 つまでに○）

- ・ 強制参加（男性・60 歳代）
- ・ 業務目標などに家庭生活の目標を取り入れる。（男性・20 歳代）
- ・ この設問と選択肢で家庭生活と地域活動を並列に言うのは違うと思う（男性・50 歳代）
- ・ 意識が変わらない事には無理・・・（男性・30 歳代）
- ・ お給料アップ、労働時間を短くする（男性・30 歳代）
- ・ 親からのしつけで何もしない事があたりまえになっているので変わらない（女性・60 歳代）
- ・ 必要ない、無理強いしてもいいことない（男性・40 歳代）
- ・ ベーシックインカム導入（男性・40 歳代）
- ・ 昔からの男性の意識の問題だと思う。若い人は協力的な人もかなりいます。（女性・70 歳以上）
- ・ 子供の頃から、家庭や学校での家事活動実施し身近な感覚にする。（性別不詳・年齢不詳）
- ・ DV のダンナにいられてはかなわないので促進に疑問の女性は少なからずいるはず（男性・70 歳以上）
- ・ 本人の意識（女性・60 歳代）

- ・ 男性の意識改革が必要（女性・30 歳代）
- ・ 考え方を变える（女性・30 歳代）
- ・ 家庭生活の必要性・重要性が自覚できるような意識の喚起を行う（女性・20 歳代）
- ・ 男性の意識改革（女性・70 歳以上）
- ・ 結局、親の育て方で、男児の考え方も育っていく。（女性・50 歳代）
- ・ とりあえず、やらせてみる。（女性・30 歳代）
- ・ これも、先出のその他の回答に同じ。（男性・20 歳代）
- ・ 男性の意識の問題、本人のやる気。（女性・50 歳代）

問 16 自治会やPTAなどの活動で、女性のリーダーが少ないようですが、その原因は何だと思いますか。（2 つまでに○）

- ・ 能力は十分ある人は多くいるが、ボランティアであり、必ず悪口を言う人と戦う気持ちがないので（女性・50 歳代）
- ・ 面倒（女性・30 歳代）
- ・ 無償ではなく、有償にしてはどうか、区長なども金額を上げるとか。（男性・40 歳代）
- ・ 別に少なくない。自営業の社長ばかり（男性・40 歳代）
- ・ 私のまわりでは女性が会長職についている事もあったので少ないとは思っていません。（PTA など）（女性・40 歳代）
- ・ そんなことはないと思う。むしろ男性だからやるというのもおかしい。シングルマザーがやらないというのを聞いたことがあるが、それの方がおかしいと思う。（男性・20 歳代）
- ・ 仕事をしていれば負担の多いPTA、自治会活動などを行う余裕はないと思います。（女性・30 歳代）
- ・ 周りからの目やうわさ、愚痴など。（男性・40 歳代）
- ・ 本当に少ないのか。（男性・30 歳代）
- ・ そういう流れが、少なからず元々あるよう。（男性・20 歳代）
- ・ 現在そのようなことはないように思う。（男性・60 歳代）
- ・ 少なくはない。（男性・40 歳代）
- ・ もめるから。（女性・30 歳代）
- ・ 女性が参加しづらい活動が多いから（平日昼間の会合など）（男性・40 歳代）
- ・ その地位がストレスになるから。（男性・40 歳代）

問 17 あなたは、男女ともに「仕事と仕事以外の生活の調和」をはかり、充実した生活を送るために、どのようなことが必要だと思いますか。（3つまでに○）

- ・ 自由貿易社会では無理でしょう。但し、一部の企業だけ可能だと思う。（男性・60 歳代）
- ・ デフレ脱却（男性・30 歳代）
- ・ 十分な収入（男性・50 歳代）
- ・ 市民税、所得税を下げる（男性・50 歳代）
- ・ 休みと給料ふやせ。米の相場あげろ（男性・40 歳代）
- ・ 子供が急に体調が悪くなった時の職場の支援（女性・50 歳代）
- ・ ベーシックインカム導入（男性・40 歳代）
- ・ 2 以外の時でも経済的支援。（男性・30 歳代）
- ・ 男性の意識改革のためのアプローチ（女性・50 歳代）
- ・ おじいちゃん、おばあちゃんにも両親学級（令和の孫の育て方）をする。同居していなくても、祖父母に安全に安心して孫を見てもらえるようにする。昔の子育てではなく、時代にあった子育て。（子どもはかぜの子じゃない！！とか。鼻血の正しい止め方とか。おやつの正しいあたえ方。）（女性・40 歳代）
- ・ 家族内での役割分担や精神的にフォローしあうことが必要だと思います。（女性・40 歳代）
- ・ 2、3 を実施するにあたり、給与面で不利を受けないこと。（男性・40 歳代）
- ・ あとは、うまく仕事が流れるような上司かどうかなどでも変わってくると思う。（男性・20 歳代）
- ・ 女性の管理職を男女平等ということで単純に増やさない。無理に責任ある立場につかせることで、有能な方の早期退職につながることもある。（男性・40 歳代）

問 18－1 次の職業や役職において、今後、女性の割合がもっと増えるほうがよいと思うのはどれですか。（あてはまるものすべてに○）

- ・ 能力しだい（男性・70 歳以上）
- ・ それぞれ力のある人がついてくれる（女性・60 歳代）
- ・ 適材適所（男性・40 歳代）
- ・ 力仕事は無理なので頭、考え、技術、全てに出来ると思います。（女性・70 歳以上）
- ・ 自衛隊のトップ（幕僚）（男性・40 歳代）

問 19 政策決定の場へ女性の参画が増えることによって、社会がどう変化すると思いますか。（1つに○）

- ・ 競争社会から協力・調和社会へ。（女性・50 歳代）
- ・ かわらない（男性・70 歳以上）
- ・ ダメになる（男性・40 歳代）
- ・ 女性ならではの考えがあるので現在にプラスされると思います（女性・70 歳以上）
- ・ その組織のイメージが良くなる。（男性・30 歳代）

- ・ 女性が参画するからではなく男性、女性とも能力があるものが社会を支える政策に必要だと思います。(女性・40歳代)
- ・ 格差、差別(女性・40歳代)
- ・ 感情で左右されそうで怖い。(女性・30歳代)
- ・ 男女の人口比率が半々であれば政治、社会、仕事、全ての場に於て男女の比率は半々であるべき(当然)だと思います。女性にだけ家事や育児の負担が大きいのは、不平等で、先進国としても恥ずべき状態だと思います。(女性・30歳代)
- ・ よい意味でこれまでになかった対立が生まれると思う。(男性・40歳代)
- ・ 一般の主婦や家庭が必要な支援が考えられる。(女性・20歳代)

問 21-2 実際に誰(どこ)に相談しましたか。(あてはまるものすべてに○)

- ・ 実家の親(女性・70歳以上)

**問 21-3 誰(どこ)にも相談しなかった理由は何ですか。
(あてはまるものすべてに○)**

- ・ 別にない(女性・60歳代)
- ・ すぐに夫が謝罪したから。(女性・30歳代)

**問 22 出生率が低くなった主な原因として何が考えられると思いますか。
(3つまでに○)**

- ・ 不妊治療への理解・金銭への支援などが乏しい。(女性・30歳代)
- ・ デフレ(男性・30歳代)
- ・ 消費税増税での物価を上げたから ロスジェネレーション時代に国が財政出動などしなかったから (就職氷河期) 1997年～(男性・30歳代)
- ・ たのしいことより、つらいことのほうが多いと思う人は、子供をほしがないのかも(女性・50歳代)
- ・ 本当の原因は、可処分所得の減少と比例している問題である。国政の失策である(性別不詳・年齢不詳)
- ・ 賃金の低さ、税金が高い(男性・50歳代)
- ・ 自由がなくなる(男性・20歳代)
- ・ 核家族が増えた。(男性・30歳代)
- ・ 相対的に賃金が低くなり、女性も仕事にいかねばならなくなった。そのため、妊娠は精神的肉体的に負担が大きくなる。(男性・20歳代)
- ・ 派遣社会になったから。(男性・70歳以上)

- ・ 他人による差別感（女性・20 歳代）
- ・ 出産で休むと昇進の道が遠のくことが多い（キャリアの形成が難しい）（女性・20 歳代）
- ・ 子どもが欲しくても、できない人が増えているのに、不妊治療費が高額のため（男性・40 歳代）
- ・ 人を必要としていない。（便利に成り過ぎて）（男性・60 歳代）
- ・ 親世代に教養が身についたため、子供が多いとどうなるか考える人が増えたから。（女性・30 歳代）
- ・ 子どもがでにくい体の人が増えている。（不妊治療）（女性・30 歳代）
- ・ 給料が安いから。（男性・30 歳代）
- ・ お見合いの慣習がなくなったから。（男性・40 歳代）
- ・ 時間に余裕のないスタイルの方が以前より増えたため、おのずとそうなったのでは。（男性・20 歳代）
- ・ 性教育の遅れによる、妊娠・出産への知識不足（男女ともに）（女性・20 歳代）
- ・ お金がないから。（女性・20 歳代）
- ・ 物価と収入が合わない、生活が苦しいのでは。（男性・50 歳代）

問 23 出生率を上げるために行政が推進すべき施策として何が重要だと思いますか。（3 つまでに○）

- ・ 経済的に安定した生活が出来ること（男性・60 歳代）
- ・ まずは結婚（男性・50 歳代）
- ・ 労働時間の短縮、休業をとりやすい環境づくり（性別不詳・50 歳代）
- ・ 子ども 3 人以上の世帯に魅力的な特典をたくさん用意する。（男性・20 歳代）
- ・ デフレ脱却（男性・30 歳代）
- ・ ミクロ対策ばかりじゃなくてマクロ対策する（例）大学まで無償化、1 人目 5 0 0 万円 2 人目 1 0 0 0 万円など（男性・30 歳代）
- ・ 高齢になると妊娠する確率が減る事を教える。（女性・40 歳代）
- ・ 増税、3 人以上子育てした夫婦は、所得税免除（男性・50 歳代）
- ・ 十分な給料、雇用の安定（男性・50 歳代）
- ・ 地方自治体の行政推進には限度があり、国が経済的問題として可処分所得を増やすことをするべし（性別不詳・年齢不詳）
- ・ 家族の総収入を増やす事。5 番は必要なし公平で無くなる（女性・50 歳代）
- ・ 親などとの同居する者には手当等の給付 社会保障費の負担が減る方向（女性・70 歳以上）
- ・ 不妊治療と仕事が両立できる環境の整備と補助金等の支援（男性・50 歳代）
- ・ 先の給料が高くなければ何も変わらない（男性・50 歳代）
- ・ 学校教育の中で、家庭の大切さを学ぶ？（女性・40 歳代）
- ・ 不妊治療の助成金の充実。（男性・40 歳代）
- ・ イベント（スキーツアーやボランティア、キャンプ 防災体験）（女性・50 歳代）
- ・ 義父義母と同居しないこと（男性・20 歳代）

- ・ ベーシックインカム導入（男性・40 歳代）
- ・ まずは女性の余裕をつくること。妊娠してもよい仕事環境。妊娠しようと思っている人に、ストレスフリーな環境を与えること。（男性・20 歳代）
- ・ 子育ての魅力を発信する（女性・50 歳代）
- ・ 派遣社会を正社員社会に変えないとだめ。（男性・70 歳以上）
- ・ 不妊治療への助成増額（又は無償）及び周囲の理解。（女性・40 歳代）
- ・ 賃金 UP、減税（女性・20 歳代）
- ・ 不妊治療に対する世間の理解、無償化（男性・40 歳代）
- ・ 不妊治療の保険適用（女性・30 歳代）
- ・ 男女とも給料を十分にもらえるようにする。（女性・70 歳以上）
- ・ 独身税の法制化（男性・40 歳代）
- ・ 出産・子育てに関する知識を学校で学べるようにする。（女性・30 歳代）
- ・ 妊娠・出産に関する知識の普及（高齢出産や不妊について）（女性・20 歳代）
- ・ 20 代、30 代の年収を上げる。（男性・30 歳代）
- ・ 性教育の見直し（男性・30 歳代）
- ・ 食糧費、光熱費等の生活に直結する費用の税率下げる。（男性・50 歳代）
- ・ 行政が介入しようと影響はない。結果的に子どもができた人は助かるが、この制度があるから子どもをつくろうと考える人は少ないのではないか。（男性・40 歳代）

問 24 あなたはご自分の老後について、不安に思うことは何ですか。（3 つまでに○）

- ・ 介護施設に入るだけの金が無いし、安い所は相当のコネが必要（男性・60 歳代）
- ・ 日本の人口減少で経済がまわらないこと、GDP の低下、税金、物価の上昇（男性・30 歳代）
- ・ 年金がもらえるのが 90 才になってそうで笑えないです。今払っている分は 60 才にはほしい。（女性・30 歳代）
- ・ 今考えてもしょうがない。（男性・60 歳代）
- ・ 年金について（女性・30 歳代）
- ・ 施設が自分が入りたい時すぐ利用できるかどうか？（その他・60 歳代）
- ・ 介護職は公務員としてほしい、外国人に頼っていてはダメ。やり手がない（男性・50 歳代）
- ・ 将来 1 人になるとどうなるかわからない（男性・50 歳代）
- ・ 公的支援が少ないこと（男性・70 歳以上）
- ・ 遠い未来すぎて分らない（女性・20 歳代）
- ・ 安楽死が日本にない事（男性・40 歳代）
- ・ 動けなくなった時、施設に入れるのか。費用がどの位かかるのか etc.（女性・70 歳以上）
- ・ 年金（男性・30 歳代）
- ・ 妻が病弱なこと（男性・70 歳以上）
- ・ 配偶者と 2 人で生活すること（子供が結婚した後）（女性・40 歳代）

- ・ 子供が1人で生活できているか（女性・30歳代）
- ・ 施設に入れるかわからない（女性・70歳以上）
- ・ 老人NOW（女性・70歳以上）
- ・ そんなにまだ考えていない（男性・20歳代）
- ・ 年金が十分にもらえるのか。（女性・20歳代）
- ・ 独身なので、家族がいなくなること。（男性・40歳代）

問 25 将来もし、あなたが寝たきりなどになったとしたら、誰に介護してほしいですか。（2つまでに○）

- ・ 寝たきりでみんなの迷惑になるくらいなら死んだほうがよい（男性・30歳代）
- ・ 介護されたくはない。（女性・20歳代）
- ・ 寝たきりになる前に死を選ぶ（男性・60歳代）
- ・ 誰にも迷惑をかけたくないので、どうしたらいいかわからない。（女性・50歳代）
- ・ 介護されてまで生きていたくない！（男性・70歳以上）
- ・ 安楽死を認める事（男性・50歳代）
- ・ 老人ホームに入りたい（男性・70歳以上）
- ・ 死ぬから要らない（男性・40歳代）
- ・ 血のつながりは関係なく信頼できる優しい人。身内だけだと負担が大きくなり申し訳ない気持ちになってしまうのではないかと不安。（女性・40歳代）
- ・ 寝たきりになってまで、生きていたくない。安楽死の制度化を望みます。（男性・40歳代）
- ・ 一人身の為、安楽死を希望（男性・50歳代）
- ・ 頼れる人も施設に入る貯金もない為わからない（女性・40歳代）
- ・ それまでに、尊厳死の法を作って欲しい。切実に。（女性・30歳代）
- ・ 老人ホームNOW（女性・70歳以上）
- ・ 安楽死（男性・20歳代）
- ・ だれでもよい（男性・40歳代）
- ・ 寝たきりの程度によっては安楽死させてほしい。（女性・20歳代）
- ・ 姉2人いるのでどちらか交代で見てもらいたい。（男性・30歳代）
- ・ 殺してほしい。安楽死を認めてほしい。（男性・70歳以上）
- ・ 病院（女性・20歳代）

問 26 男女共同参画社会の実現に向けて、どのような取り組みが必要だと思いますか。
(3つまでに○)

- ・ 不要 (男性・20 歳代)
- ・ TV、ネット等を利用して、男女の平等の権利の理解を広める。(性別不詳・50 歳代)
- ・ 行政が強制的に推進しないと無理でしょう。(男性・60 歳代)
- ・ フィンランドのまね (男性・30 歳代)
- ・ 能力しだい (男性・70 歳以上)
- ・ 余計なことしないで (男性・40 歳代)
- ・ 男性による育児・介護休業の取得推進 (女性・30 歳代)
- ・ まず男女共同参画社会はどういう社会なのか知らない人多いと思う。(女性・40 歳代)
- ・ 皆が働けるだけの雇用の創出。地域の「目」の改善。(男性・40 歳代)
- ・ 個々の考え方に響かないと、何か策があってもなかなか浸透しないと思う。みんなが、まわりを思いやれるかどうか、人間的なところからと思う。(男性・20 歳代)

IV 自由意見

※固有名詞等個人情報に関する内容や男女共同参画と関係のない記載につきましては、省かせていただいております。

問 27 男女共同参画について、ご意見がありましたら自由にご記入ください。

- ・ 仕事の内容が何であれ、男女が働ける環境作りをして欲しい。自分の職場は、外廻りやパソコン画面に向かってプランを管理する仕事で、夜勤もあり、それらが原因かはわからないが、交代勤務に関しては女性はいない。女性でも十分出来る仕事だし、むしろ女性向だと思うことも多々ある。男でないと交代勤務はダメという意識が経営者側にあるらしく、そうした固定観念を覆す必要があると思う。ちなみに、職場の女性職員は、日勤の事務1名で、女性は1人なのだから特別扱いされて当たり前といった勘違いした所がある。男女共同参画をうたうのであれば特別扱い当たり前はやめていただきたい。(男性・40歳代)
- ・ 男女共同参画と言いながら、結局は女性が云々という話ばかりになる。性別に関わらず、出来ることを出来る人がやれば良いと思う。(男性・60歳代)
- ・ 近年、女性に対する産休・育休制度が充実しつつあるように思えます。ですが、女性をサポートする為の男性に対する育休制度は、企業によってはただ制定しているだけであったり、制度そのものがなかったり、周囲から理解を得られない状況かと思います。もっともっと男性の育休取得を推進し、理解を深めていくことが出来るかと思っています。男性のサポートがあれば、産後の女性の回復も早く男性・女性共に早めに職場復帰することも可能になってくるのではないのでしょうか。(女性・30歳代)
- ・ 匝瑳市では実際にどのような取り組みをされていますか。ぜひ知りたいと思います。(女性・50歳代)
- ・ 仕事に対する考え方が男性と女性とでは違うと感じます。職場で会う他の会社の方々を見てみると男性は仕事に対して熱心で、これで食べていくという感じ。女性は就業時間5分前、5分後という様に時間きっちり(パートサン)しか働かない。このような態度を見てみると男女共同参画は困難と考えます。仕事をきちんとできない人が、PTAや自治会の仕事のみ積極的にやるとは考え難いと思います。また匝瑳市は高齢者も多いので、女性がリーダーをやると“あそこの嫁は強いから”とか“出しゃばり”などと言う人もいます。周囲に気配りもでき、適切な意見を言う方も多いのですが、古くからの習慣で、ご主人が代表という形をとるご家庭も多いと思います。この慣例を変えていく事は大変なので、若い方にチャンスをあげて機会を増やす様にしていく、ではどうでしょうか。20～30代は少ないですが、変化しないと匝瑳は高齢者だらけの市町村になってしまいます。(女性・50歳代)
- ・ 会社が積極的に育児、介護制度をもうけ、社員に自分の会社には制度があることを知らせる、ポスターなどの掲示板。自分の会社には育児、介護制度があることを知らない人が多いので又相談しやすい環境を作る。制度があっても、収入面が心配。制度を充実させてほしいと思う。(男性・50歳代)
- ・ とにかく男性の考えを変えないと何もかわらないと思う。いまだに“女は”“女は”はと言っている男性がいる以上何をやってもダメでしょう。アンケートはやってみて、みんなの意見が見えるので良いと思いますが・・・(女性・50歳代)
- ・ 法律による義務くらいにならないと全体には浸透していかないと思う。(男性・20歳代)
- ・ 今の社会では一概に“男性か女性”では分けられないから『男女共同参画』という言葉も変えていった方がいいと思う。(女性・20歳代)
- ・ 声だけ大きいラディカルフェミニストは人類共通の敵なので、排除しなくてはならない。女性にとって最大の敵は女性なのです。(男性・30歳代)

- ・ この度は考える貴重な機会を頂き、誠にありがとうございます。アンケートに答えていく中で、“お金”と“時間”の必要性を強く感じました。そういった中で子育て世代へのご支援を引き続き頂けると助かります。アンケートの集計大変かと思いますが、よろしくお願いいたします。(男性・30歳代)
- ・ うちの会社では女性も活躍しているので何も不安はないです。(女性・30歳代)
- ・ 男女共同参画と言われてもピンとこない。私は妻を生涯のパートナーとして結婚し、子供も授かった。お互いの得手不得手を補いながら今に至る。男女の差よりも貧富の差が強くなり、色々な障害が出ていると思う。1億総中流時代がなつかしい。(男性・50歳代)
- ・ 1人1人ちがうのだから。多様性と言いながら、はずれた人をゆるさない空気がある。もっと、ひとの生き方をみとめれば良いのに。こうあるべき、という考え方は、やめれば良いのに。このアンケートが、誰かの役に立てばうれしいです。市役所のみなさま、ありがとうございます。がんばってください。(女性・50歳代)
- ・ 男女を平等と考えるならば区別を考えるのではなく(女性リーダー、男性リーダー)能力と適性を重視すべきではないか。男女共同とかは問わなくともよいのではないか。(男性・60歳代)
- ・ 行政として、男女共同参画の意識調査も良いが、我が街の住みやすさ、どうすればもっと住みやすい街になるか？コロナ禍で都会からの移住の受け皿となれるのか？このまま過疎をまっしぐらに進むのか？法律もあるかもしれないが、空き家になった家の敷地の木から道におおいかぶさるような木が生えていたり、道にはみ出るような雑草が整備されて居なかったり、もっと住みやすい街にしてくれ！(男性・50歳代)
- ・ 共同参画については、提起されてから時間が経過していますが、残念ながら今一步すすんでいません。市の条例が「絵にかいた餅」にならぬよう市独自で関連する対策を付け加え、実行性のあるものとしなければ意味が無いのではないのでしょうか。(性別不詳・年齢不詳)
- ・ 政治で男女共同参画をやっていきたいと考えるなら、まず役所が変わらないと無理です。女性管理者は50%占めていますか？市議会議員は半数いますか？自分達が出来ないのに“市民がやれ”は違いますか？改革は難しいですが、やはりだいたんな施策は必要です。まずは自分たちの足元を変えていけば必然に変わると思います。がんばって下さい。(女性・40歳代)
- ・ 今は男女みんな仲いいです。(女性・60歳代)
- ・ 何事においても協力的な姿勢が大切な事だと思います！(女性・60歳代)
- ・ 働いているため、PTA役員などができないため、学校行事の親への負担が減るように行事などを変更してほしい。(母親の参加が多いため)(女性・30歳代)
- ・ 育休を男性も必ず取らなければいけない制度になれば良いと思う。女性の職場(保育所等)で上手くまわせるのであれば男性の仕事でも育休を取ることは可能。病気療養等で休職後復帰する場合も多数あるのだから、男は女より仕事を休めない、という事は無い。(私の夫は一年休んでサポート、私は職場復帰して働きました。)子供は私にも夫にもとても良くなっています。(女性・40歳代)
- ・ 匝瑳市独自でもよいので「男家事デーの日」を設ける。その日は家事である清掃、洗たく炊事等は男がやる日と定め女は休息の日とする。これを報道機関に周知し、TVで全国放映する。昔に比べ結婚年齢が遅くなり、未婚の男女も増えている。男女が知り合い交際に発展する機会となる催しものを開催して欲しい。例～40才以下未婚の男女優先、ゲートボール大会等・・・(男性・60歳代)

- ・ 男女共同参画の必要性について理解を得る為にはもっと、広報や事業の展開が必要ではないか、推進が図られても、進められ意識が変化したという実態を感じていないというのが多くの人の思いではないのか。スピード感を持って推進すべきであると思います。(男性・60歳代)
- ・ 年配の人達が若者の芽をつんでいるところをよくみる。昭和の考えをおしつける人が減れば、男女共同参画社会も実現していくのではないかと思います。(女性・20歳代)
- ・ 何をするにも知識と技能が必要。それを大人になってから獲得するには弊害が多い。幼少期からの教育の充実を検討してもらいたい。貧困の連鎖でその機会を奪われてしまうと今の現状とかわらなくなってしまう。コロナの状況もあるため、学校教育以外の教育の場が多くあるとありがたい。大人の固まった価値観を変えるより、子どもの柔軟な思考を育てるほうがより未来を感じます。(男性・30歳代)
- ・ 行政はもっと地場産業を重視して優先して仕事を与えてほしい。市に本社があればその業者を使うべき、せめて県内業者を使い地場産業を成長させる事で法人税が増えてくるのではないかと！！介護職は公務員化すべき、そうでなければ若手が育たない。重労働なのに、賃金が安すぎる、いつまで経っても人手不足は当然でしょう(男性・50歳代)
- ・ 昇進の話を会社側からいただいたが、上司からは現状の小さい子供の育児をしながら管理職になるにはそれなりの負担や覚悟が要り、厳しいと言われた。職歴やプライドもあり、昇進したいと思っていたが、上司からそのように言われたら、出来ないことなのかなと思うしかなかった。周囲が気持ちの面でももっとバックアップしてくれる風潮がないと自分にその任務をこなすモチベーションも持てないと感じた。まだまだワーキングマザーへの風当たりは強いと実感している。(女性・30歳代)
- ・ 現役世代の考え方を今からすぐ変えるのは難しいと思う。とりあえず枠組みを作っておいて、次世代の子供を教育して身につけてもらい、長い時間をかけて変えていくしかないと思います。(女性・40歳代)
- ・ 地元に戻ってきたいと思う地域づくりをお願いしたい。(男性・20歳代)
- ・ 社会的には男女の性差はまだまだの感がありますが、若い世帯を見ますと、逆に女性の方が力を持っていると感じます。法律の策定より先に、通念の変化で世の中は変わって行くように思います。真の男女平等の社会となりますよう願います。(女性・70歳以上)
- ・ 女性の方が細かく、優しく、大胆に参加できるように(男性・50歳代)
- ・ 男性の育児休業が普及してきていると思うが、私の職場もそうですが、職種や人員によって育児休業がとれないでいるので行政などでもう少し取得普及に心掛けてもらいたいと思う。(男性・20歳代)
- ・ ある程度、年齢のいった人達は、その年代の教育もあり、特に男性は、自分が家計を支えているという自負があり、今の若い人達より、ずっと男性優位と考えている人が多いと思います。そういう年代の人達を変えるのは、大変むずかしいと思いますが、女性からすれば、こんなに有意義な事はありません。地方では年配の女性は全く、男尊女卑が当然であるという考え方を持っている方もまだ居られます。上の方で働きかけてもらえると、うれしいです。(女性・60歳代)
- ・ 結婚し、出産して女性が社会で活躍するには、何よりも家庭の環境が一番重要だと思う。その為にも、男性本人の夫の意識改革が必要で、そういう行動がしやすい職場の労働条件や環境が整っていくのがいいと思う。(女性・50歳代)
- ・ 昔からの考えで、どうしても家の事(家事、育児、など)は女性がやるべきという考えが残っていると思います。1ヵ月前に仕事を辞め、専業主婦になりました。当たり前の様に娘(社会人)は土、日に洗たくはしなくなりました(前はやっていました)。私自身も、仕事してないのだから・・・と家の事はやろう(やらないといけない)と思ってしまいます。仕事をしている人は、家事や育児に忙しいかもしれませんが協力しなくていい・・・というような世の中では、男女が対等になるのは難しいのかもしれないですね。(女性・50歳代)

- ・ 男女平等については、会社等においても女性の管理職が増えているとは感じるが、少子化は特に出産は女性しかいないために、社会からすると、難しい側面があると思う。(男性・50 歳代)
- ・ 男女共同ってもう古くないですか？性差別ですよ？女にだけ補助して何かしたきになるの止めてもらえます？できる奴は自分で何とかするし、できない奴はその程度、そこに男も女もない。今いる子供を大事にマトモに教育することだけ考えろ。そうすれば他の問題は後から解消していく。余計な事をすんな。(男性・40 歳代)
- ・ 自分自身が男女共同参画について考えていなかった。これから気にかけてみたいと思う。(女性・60 歳代)
- ・ 子供を育てるのにお金がかからない。若い人達が住みやすい環境作りをする。インターナショナルスクールなどの保育園を作る。親は子供に対してお金をかける、市はきっと盛り上がる。子供が楽しめる遊び場、教育施設・防災体験をさせる取り組み。例えばグランピング施設をつくり学校の宿泊をそこです。災害の時に役に立つ。職場も増、外からの客も増・子育てをする若い人が住むようになる。※色々な事をする事で男性の役割・女性の役割がわかり、共同参画につながるのではないのでしょうか。男・女は共に得意分野があるからです。(女性・50 歳代)
- ・ 出産・育児にかかる費用が負担になっていると思います。保育所や託児所の利用時間の見直しが必要だと思います。一番は、男性の社会の考え方がさまたげている。(男性・30 歳代)
- ・ 女性のやさしさをもっと引き出すように社会として力に取り組むべきだと思います。(男性・70 歳以上)
- ・ 女性は感情で物事を言うからびみょう。(女性・40 歳代)
- ・ 男女共同と言う言葉に違和感があります。(女性・50 歳代)
- ・ 男女協力して平和な社会になる事を願っています。(女性・70 歳以上)
- ・ 委員への女性登用の割合は、ただの数字でしかない。女性の昇任等も女性の人数を増やして、むりやり男女が平等になろうとしている。上に行きたい人が男女関係なく目指せる環境が望ましく、数的に平等にさせるために女性を登用しているのはおかしい。(男性・20 歳代)
- ・ 教育の推進は、大事だと思いますが、学生はもちろんですが、社会の出ている世代への教育も必要だと思います。私は30代ですが、P2 問2にあった法律の数々は、法学部に通い勉強していたので詳しく知ることが出来ました。しかし、私のような人はレアケースだと思うので、他人は知る機会もないのかなと思います。あとは、私の住んでいる地区では、消防団の勧誘など昔の新聞勧誘のように酷いです。「男は参加するのが当然」など、このような意識の人が多いとなると、ますます教育の必要性や男性の意識の変化は必要と感じられずにはられません。(男性・30 歳代)
- ・ 正直あまりこういう意見をして男性が肩身せまくなるのもどうかと思いますが、子供の体調不良等で仕事を休まなくて良ければ女性男性ともに仕事が無事に出来るのでそこが大事かと？平等なのは大丈夫かと思っています。かえって男性が今は弱くなってしまいます。子供をいつも仕事に見ていただける所さえあれば、男女平等とか強く言わなくても良いかと思っています。(男性・40 歳代)
- ・ 男女共同参画が不明確すぎて、何とも言えない。例などを出して一人一人にわかりやすくする事が初めの一歩だと思う。アンケートを書いても、共同参画がどうなるのかもわからない。(女性・20 歳代)

- ・ 都内で働いたことがあります、匝瑳市の方が、男女格差というのを職場で感じる人が多いので、是非、男女共同参画社会が実現できるよう広めてほしいです。（女性・20 歳代）
- ・ このアンケートを書く時間すら、冷たい目で見られがちで確保が難しいです。良い方に変わっていくことを期待しております！！（女性・20 歳代）
- ・ 男女とも家庭をもつ者が同じ立場で管理職になった場合、家庭の事（家事や子育て）をどちらが担うかなど考えなくてはいけない事が増えると身体的、精神的にも疲弊してしまいます。どちらがではなく、家事代行や2人が休みの時でも預かってくれるサポートシステム等があると助かると思います。（特に若い世代の方々には）現在私が管理職で働いている中で主人や息子（20 歳）が家事のサポートをしてくれます。（5 年前位までは、子供達が学生の頃は私がほとんど家事をしていましたが大変でしたが楽しかったです。）その時々家庭にあったサポート体制があればいいなと。（家事代行は年輩の主婦経験者など集めてはどうでしょうか？）（女性・40 歳代）
- ・ この問題はその家庭により、状況により変わることだと思います。同一人物であっても、今と一年後では、思うこと願うことは違ってくると思います。とても難しい問題であり、考えても考えても変わりゆくものだと思います。（女性・50 歳代）
- ・ 男女平等は理想論だと思います。体格も体力もちがう、同じ仕事を同じようにはできないからです。でも男にできる事、女にできる事それぞれあると思いますし、その中で女性が得意としてできるような仕事をもっと増えていけば良いなと思います。私は自営業なのでコントロールできます。ですが子供を産んで仕事ができなかった期間は世間からとり残されたような焦りのような不安な気持ちがありました。精神的に不安定だったと今振り返ってみるとそう思います。体の変化などあり仕方ない事だと思います。（女性・40 歳代）
- ・ 男女共同参画社会の実現は、市役所の職員さん達は一般企業よりも出来ているように見えて、とてもうらやましく思います。子供が体調を崩した時、仕事を休む方は母親という家庭が多くあるように、男性の意識、会社の理解は早急に対応して頂きたい内容の一つであると思います。家庭を犠牲にしないと働いていられないような社会が男女共同参画実現とならない壁を作っていると思います。世帯主は男性、姓名を変えるのは女性という社会も疑問です。もっと踏み込んだ取り組みの実施を希望します。見ていますのでよろしくをお願いします。（女性・40 歳代）
- ・ 男女共に互いの意見交換の場を作って参加してもらう機会を増やし、自分の意を発したり、人の意見を聞く場が多くなれば良いと思います。他の人の意見を聞き考える事も大事だと思います。（男性・50 歳代）
- ・ 住みやすい郷土を作ってゆくためには男女平等の開かれた社会で地域住民が気軽に男女ともに参加出来て、奉仕出来る社会になることを望みます。“住み良い社会は男女の共同参画から”（男性・70 歳以上）
- ・ 本当の意味での男女平等とは…。建設業の現場や消防等、身体的に女性の参入しづらい分野への進出について、どのように考えるのか。アンケートの所管部署である企画課は、男女共同参画を実践出来ていますか？（男性・40 歳代）
- ・ 時代に関係なく、仕事をしている、していないに関係なく、年令を重ねていくにつれて、男と女の性による考え方が（社会全体に対しての）離れていくと感じている。特に男性が意識を変えなければ、机上のもので終わってしまうと感じています。（女性・60 歳代）
- ・ 性別に関係無く、全ての人に平等に機会を与えられる環境になれば、多くのアイデアが出ると思う。多くのアイデアから様々な良案あるいは良い結果が出ると考えます。小さい自治体から始められれば、可能性は広がると思う。匝瑳市、ガンバレ！（男性・40 歳代）
- ・ 男性の育児や家事の参加は必要であり、実際夕食を作ってもらったりするととても喜んでくれるのでそれだけ負担をかけているというのを感じる事があります。育児も男性が参加し妻に時間を作ってあげる事が大切なように思えます。（男性・30 歳代）

- ・ 本来に実現するなら、子供の教育の現場から、現状とこれからを教育へ取り入れて行くべきだと思います。(女性・30歳代)
- ・ 私の地区では、女性のみが参加しなければいけない行事(男性のみの場合もあり)が多すぎます。それこそ、時代にそぐわないものも多く残っています。平日の昼とかに行なわれるものも多く、仕事を休まなければいけないのです。そういう実態を市の方では把握しているのでしょうかと不安に感じる場合があります。(女性・40歳代)
- ・ 初めてのアンケートでした。この言葉(男女共同参画)を聞いたことがなく、このアンケートをすることにより知ることができ良かったです。もっと、この取組を表に出してほしいと感じました。「平等」と言う言葉は、かなりむずかしいと思います。お互いに助け合い、カバーしながら生活していければ一番良いと思います。人それぞれ考えがあるのでどれが正しいのかわからないですが、住みづらい世の中ですね。1つ1つ改善できることを祈ります。(女性・60歳代)
- ・ 市が男女共同参画計画を策定していたという事を知りませんでした。どのような取組をしているか、より積極的な広報活動が必要ではないでしょうか。(女性・30歳代)
- ・ 家事子育てへの参加については今の子育て世代は昔と考え方がかわって来ていて、協力的な男性が増えていると感じます。自分の親を見て「なんで母親だけ？」と感じていた人が多かった為か、今は「手伝う」というより「やってあたりまえ」になっています。昔は離婚は恥ずかしい事と考えられていて我慢する女の人も多かったですが、今は役に立たずストレスになる男性はいらない時代。“共に生活する為に必要な力”が実際足りないのは男性の方が多いと思います。でも昔から自分たちの立場が悪くならないように「男はえらい」と悪い習慣を続けてきた結果が今。でも女は知っている、本当はえらくも何ともないことを。悪い習慣は男があきらめて無くしていくべき。ツイッターで「#世界一役に立つ旦那の行動」を見てみて下さい。共感する男の人は奥さんに嫌われません。団塊世代の男性はこれを見てどう感じるのか…(女性・30歳代)
- ・ 直接関係あることではないのですが、今後ますます高齢化社会が進むと思われる中、今現在自分が住む周囲は高齢者世帯が多く有ります。老老介護の不安もありますが、いくつになっても生きがいを持ってそれぞれが自立して生活していけるよう、社会のあり方や家庭以外の自分の居場所作りで充実した受け皿が欲しいです。周囲を見てもあまり外出せず家にこもっているお年寄りが多いです。交通の便が悪いので、よけいに今後が不安になります。(女性・60歳代)
- ・ 職場環境改善のための意識改革、特に経営者への教育を促進するような機会が必要だと感じます。また、若い女性、特に新卒の女性などが平等だと感じ、就職できるような職場が市内に欲しいです。(女性・20歳代)
- ・ 市政でも男性が多いと男性の考え、意見が通ってしまい、女性目線での政策が少ないように感じる。企業でも市役所でも能力によって役職を決め、能力のない人は早期退職を促すなど対応をした方が、より能力のある女性が活躍できるのではないかな。男女の事だけでなく、仕事ができない人、仕事をしない人が多いと感じる。特に大企業、公務員に多いと感じる。個人の能力を尊重する社会になると良い。(女性・30歳代)
- ・ 近年では、男女共同参画社会の認知度も上がり、職場における育児や介護に対する特別休暇等の体制も整ってきている印象。しかし、実際長期休暇をとり、職場から離れている時間が長くなると、職場での存在価値が低くなっていることを感じる。仕事と家庭と両立はしたいが、仕事に専念できる家庭事情の方には理解されにくいことは今も変わらず、内面的にストレスとなっている。ライフスタイルに合わせた環境整備は未だ改善の余地があり、家庭のことが職場での立場に影響を与えることのない社会になってほしい。(女性・30歳代)

- ・ もともと、というか最近、特に男尊女卑やマイノリティに対する理解や、それによるサポートが薄れている気がします。「男だから」とか「女だから」ということ自体が、現代においてナンセンスであり、個人を尊重できていないことだと思います。(男性・40 歳代)
- ・ 個人的意見ですが、本当の男女平等は無理と考えます。体のつくり、体力の違い、男性は子どもを産めないのも、それすら平等ではない。ただ互いに平和に生きることを願います。(男性・40 歳代)
- ・ 夫婦別姓を推進してほしい。これに賛成。(男性・70 歳以上)
- ・ 周りから人が入ってくれるような、積極的なまちづくりを促進してもらえれば、人口が増え、おのずと男女も人口増えるので、自然とそうなってくると思います。今のまちでは、なるべく他の地域からは人は入ってほしくない、他からきた私としては、思っています。ちなみにここに住んで20年近くなりますが、いまだ発展しておらず、静かさが増したように思います。このまちに住めば、日常使っている駅など発展してほしいと声が上がってもよいのではないのでしょうか。そういった意味で、やはり女性の数や声が少ないと思います。(女性・40 歳代)
- ・ 仕事をするにしても、スポーツをするにしても、女性が男性を上回ることがないため、男性が女性より立場が上になるようになるのは当たり前だと思う。女性も、仕事をする上では、向上心が感じられない。(男性・20 歳代)
- ・ 子どものうちから教育現場、地域社会、家庭で教えていく必要があると同時に、子どもと関わる大人がみな、男女平等であることが、社会をいきいきとさせるためには絶対に欠かせないこと、という認識を持っていることが大切と思う。これは子どもを間接的に教育することにつながると思う。(女性・40 歳代)
- ・ 基本理念が実現できる社会を望んでいます。これからも、さまざまな取り組みに期待しています。(女性・40 歳代)
- ・ 周辺地域にみんなが働けるだけの雇用がない。このために、16 時に保育園に迎えに行かねばならないという慣習がいつまでも残る。単純に言えば、働ける場所と賃金さえ保障されていれば、この手の問題は自然と改善していく。一方で、自ら望んで独身をつらぬく人には独身税を課すべきで、未来の納税者である子どもの足かせにならない制度をつくってほしい。(男性・40 歳代)
- ・ 実現することを願っています。実現は、なるべく早い方で実現してもらえたらよいと思っています。まずは、なんでも男女共同としてやってみたらよいと思います。やってみないとわからないのでやってみて、またアンケートや意見等を集めてみても遅くはないのではないですか。今はコロナですから、そのうち何かイベントをやったりしてみても、いかがでしょうか。ざっくりですみません。(女性・30 歳代)
- ・ 女性が社会の中で活躍するためには、人々の中に根強く残る固定概念を崩すことが必要だと考えます。女性が家事や子育てを担うべきだという風習をなくすためには、男性が育児を取りやすい職場づくりや、女性の職場での地位向上が望まれると考えます。男性が家の仕事をする、女性が管理職となり活躍すること。これらを実現するには、誰かがモデルになることが必要です。自治体は、先頭になって、新しい社会づくりをしていくことが大切だと思います。よろしくお願いします。(女性・20 歳代)
- ・ 男女が平等に仕事・家事・育児が行えるように、金銭面での支援や、職場での、育児に対しての福利厚生を充実して、だれでも気楽にそれらが取得できるとよいなと思います。(女性・20 歳代)

- ・ DV や児童に対しての虐待等を根絶するための取り組みをした方がよいと思う。企業で育休→産休を取ると切られるので、切られない職場があるとよい。女性に対する（産休や育休）理解のある職場が増えるとうよいと思う。（女性・20 歳代）
- ・ これからは、男女共同参画の時代が来るだろうと、世界を見て感じるが多くなりました。（男性・60 歳代）
- ・ 今まで男性のものだったことを女性にひらくというより、男性の得手不得手、女性の得手不得手をそれぞれが理解し、互いを補っていけるように、そうすることで生活や社会が円滑にまわるようになることが、私の考える理想の男女平等です。そしてそれは、個人間の信頼関係の構築がものをいうと思うので、制度でどうにかできるかというと、正直なところピンときません。私自身、独身子なしなので、これまでの生涯で男女不平等による不満をいただくような出来事は起きていません。（女性・20 歳代）
- ・ 単純にお金がないから、不況になる。お金がないから、使用することも少なくなる。心の余裕が生まれない。核家族を減らし、三世代で暮らす家族が増えればよいと考える。子どもの数を増やさなければ、景気はよくなりえないと考える。景気が良い国は、人口が増えていることから、働く人を増やすことが必要と考える。制度よりも、人口を増やすことを考えた方がよいと思った。環境を変えることが必要とも思う。（性別不詳・年齢不詳）
- ・ 匝瑳市におかれましても、人口は減少傾向にあるように思えます。大きなことをかかげず、どこの家庭・職場においても、すぐに取り組める男女共同参画条例であってほしいと思います。歴史ある旧八日市場です。あたたかく、やさしい条例を望みます。（女性・70 歳以上）
- ・ 力仕事、妊娠や出産など、性差により平等にならないことは必ずありますが、それらを除いて男女平等であるべきだと本当に思うのなら、ある程度条例にでもしてしまえばよいと思います。なんでもそうですが、正しいことならモラルやマナーを啓発するよりルール化した方が早いです。市民が働くのはそれぞれの企業ですから、いくら行政が机上で考えたところで、実際に企業が変わっていなければ意味がありません。私が以前勤めていた会社はまさに男女不平等で、業務内容は男性とまったく同じなのに性別を理由に説明もなく、何年も一部の手当をカットされていました。社内でのパワハラ、セクハラ、マタハラを許容し、監査では虚偽の申告をするようなところだったからかもしれません。そんな企業が今も市内にあるという現実を知ってほしいです。（女性・20 歳代）
- ・ 昔からの通例やしきたりにとらわれず、新しい価値観や習慣を認め合える社会づくりが大切であると思う。横のつながりが強い社会傾向ではあるが、年配者は若者に新しい文化や教え方を学び、若者も年配者から考え方を学べる意識が必要であると思う。（男性・30 歳代）
- ・ 今回の設問自体が男性優遇社会ありきに感じた。現在の社会を考えるとそうなるのも理解できるが、本当に世論として男女共同参画を望んでいるのかが疑問だ。実現できれば素晴らしいが、日本は数段遅れていると思う。（男性・40 歳代）
- ・ 女性の社会での活躍と少子化の食い止めは両立できないと思います。子育ての間、仕事はセーブしないとやっていけません。責任のあるポジションはできないし、やったとしても、子どもや家のことで休んだり早退したりでは、周りに迷惑をかけてしまいます。結局、男性の方が…ということです。雇用する側も、本音は、育休・産休は迷惑なのではないですか。（女性・50 歳代）

- ・ 身体的な特徴の違いもあるので、男性に向いていること、女性に向いていることがあると思う。単純に管理職に女性を増やすことがよいこととは言えない。有能な人材が多ければ、その役職に就くのは当然であるが、女性管理職の割合を増やすことだけが目的になってしまうと、本来の目的からずれてしまうと思う。本人が望まなければ無理に女性管理職を増やす必要はないと思う。(男性・40 歳代)

V 調査票

匝瑳市男女共同参画に関する市民意識調査 ご協力をお願い

市民の皆様には、日頃から市政全般にわたり、ご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。
本市では、「男性も女性もお互いを尊重し、支え合い、みんなが幸せに暮らせる社会をめざす」ことを基本理念とする「第2次匝瑳市男女共同参画計画」を平成29年2月に策定し、男女がお互いを尊重し合い、個性が生きる“男女共同参画社会”を目指して、さまざまな取り組みを実施してまいりました。

このたび、「第3次匝瑳市男女共同参画計画」の策定を進めていくために、本調査を実施いたします。本調査は、皆様の意識や実態を把握するもので、調査結果は、今後の市の事業を検討するうえでの基礎資料といたします。

匝瑳市にお住まいの満20歳以上の方から2,000人を無作為に抽出させていただいた結果、あなた様が対象になりました。つきましては、お忙しいところ恐縮ですが、調査の趣旨をご理解いただき、本調査にご協力いただきますようお願い申し上げます。

なお、記入内容につきましては、無記名でお願いし、調査結果はコンピュータにより統計的に処理いたします。個人の名前が公表されることはありませんので、お考えのままをご記入ください。

令和2年11月

匝 瑳 市

【ご記入に当たってのお願い】

◇調査票の記入について

- ・この調査は、封筒の宛名のご本人が対象となります。
- ・なんらかの事情でご本人が記入できない場合は、ご家族の方などに代筆していただくか、あなたの意思を尊重して代わってご回答していただく方をお願いいたします。
- ・令和2年11月1日現在の内容でご記入ください。
- ・設問に選択肢のあるものは、あてはまる番号に○をつけてください。お答えが「その他」にあてはまる場合は、() 内に具体的にご記入ください。
- ・設問によって、○をつけていただく数を() 内に指定していますので、ご注意ください。
- ・設問によって、回答していただく方が限られる場合がありますので、設問の注意書きをご確認ください。

◇調査票の回収について

ご記入いただきました調査票は、同封の返信用封筒に入れ、**11月20日（金）**までにご返送くださいますようお願いいたします。（切手は不要です。）

◇調査についてのご質問などは、下記までお問い合わせください。

〒289-2198 匝瑳市八日市場ハ793番地2 匝瑳市役所 企画課 企画調整班

電 話：0479-73-0081 F A X：0479-72-1114

e-mail：k-kikaku@city.sosa.lg.jp

(1) あなた自身のことについて

F 1 あなたの性別をお答えください。答えたくない方は、「3. その他」に○を付けてください。
(いずれかに○)

1. 男性 2. 女性 3. その他

F 2 あなたの年齢をお答えください。(1つに○)

1. 20～29 歳 2. 30～39 歳 3. 40～49 歳
4. 50～59 歳 5. 60～69 歳 6. 70 歳以上

F 3 あなたの主な職業をお答えください。(1つに○)

1. 農業 2. 漁業 3. 商工業 4. 自営業
5. 会社員 6. 公務員・団体職員 7. 専業主婦・主夫 8. 学生
9. パート・アルバイトなど 10. 無職 11. その他 ()

F 4 あなたの家族構成をお答えください。(1つに○)

1. ひとり暮らし 2. 夫婦のみ(一世代家族)
3. 親と子ども(二世世代家族) 4. 親と子どもと孫(三世世代家族)
5. その他(具体的に:)

(2) 男女平等に関する意識について

問 1 あなたは、次のA～Hのそれぞれの項目について、男女の地位は平等になっていると思いますか。
(それぞれ1つに○)

項 目	男性の方が非常に 優遇されている	男性の方が優遇さ れている	平等である	どちらかといえば 女性の方が優遇さ れている	どちらかといえば 女性の方が非常に 優遇されている	わからない
A. 家庭生活では	1	2	3	4	5	6
B. 地域活動の場では	1	2	3	4	5	6
C. 学校教育の場では	1	2	3	4	5	6
D. 職場では	1	2	3	4	5	6
E. 政治の場では	1	2	3	4	5	6
F. 法律や制度上では	1	2	3	4	5	6
G. 社会通念・慣習では	1	2	3	4	5	6
H. 社会全体では	1	2	3	4	5	6

問 1-1へ

問1の「H. 社会全体では」の項目で、「1」または「2」と回答した方のみお答えください。

問1-1 社会全体の中で、男性のほうが優遇されていると思う原因は何だと思いますか。

(3つまでに○)

1. 男女の役割分担についての社会通念・慣習・しきたりが根強い
2. 「男は仕事」という社会的風潮があり、仕事優先の考え方が根強い
3. 男女の平等について男性の問題意識がうすい
4. 男女の平等について女性の問題意識がうすい
5. 男女の差別を人権問題としてとらえる意識がうすい
6. 女性が能力を発揮できる環境や機会が十分ではない
7. 能力を発揮している女性を正當に評価する仕組みが十分ではない
8. 育児、介護などを男女が共に担うための制度やサービスなどが整備されていない
9. 女性の意欲や能力が男性に比べて劣っていると考える人がある
10. その他()

問2 あなたは、次のA～Iのそれぞれの用語についてご存知ですか。(それぞれ1つに○)

項 目	よく知っている	少しは知っている	聞いたことがある	知らない
A. 男女雇用機会均等法	1	2	3	4
B. 男女共同参画社会基本法	1	2	3	4
C. 女子差別撤廃条約	1	2	3	4
D. ジェンダー（社会的・文化的につくられた性別）	1	2	3	4
E. セクハラ（セクシャル・ハラスメント）	1	2	3	4
F. DV（ドメスティック・バイオレンス）	1	2	3	4
G. ポジティブ・アクション（積極的改善措置）	1	2	3	4
H. ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）	1	2	3	4
I. 女性活躍推進法	1	2	3	4

(3) 男女の役割分担について

問3 次に掲げる考え方について、あなたはどのように思いますか。(それぞれ1つに○)

項 目	そう 思う	そう 思う どちらか といえ ば	そう 思う ない どちらか といえ ば	そう 思う ない	い どちら ともい えな い
A. 男は仕事、女は家庭	1	2	3	4	5
B. 性別にかかわらず、個性と能力を重視 したほうがよい	1	2	3	4	5
C. 性別にかかわらず、家事をこなしたり、 職業技術を身につける必要がある	1	2	3	4	5

問4 あなたは結婚されていますか。(1つに○)

1. 未婚
3. 離別・死別

2. 既婚(入籍せずパートナーと暮らしている方を含む) →

問4-1、
問4-2へ

問4で「2」と回答した方のみお答えください。

問4-1 あなたの家庭では、次のA～Lのそれぞれの項目について、どなたの役割になっていますか。
(それぞれ1つに○)

項 目	主 に 夫	主 に 妻	家 族 で 分 担	そ の 他 の 人 (男 性)	そ の 他 の 人 (女 性)	該 当 し な い
A. 食事のしたく	1	2	3	4	5	6
B. 食事の後片付け	1	2	3	4	5	6
C. 掃除	1	2	3	4	5	6
D. 洗濯	1	2	3	4	5	6
E. ごみ出し	1	2	3	4	5	6
F. 食料品・日用品の買い物	1	2	3	4	5	6
G. 地域行事などへの参加	1	2	3	4	5	6
H. 乳幼児の世話	1	2	3	4	5	6
I. 家族の介護	1	2	3	4	5	6
J. 子どもの勉強やしつけ	1	2	3	4	5	6
K. 学校行事への参加	1	2	3	4	5	6
L. 役所等への用事・書類の作成	1	2	3	4	5	6

問4で「2」と回答した方のみお答えください。

問4-2 あなたの家庭では、次のA～Lのそれぞれの項目について、あなたはどなたの役割になることが理想と考えますか。(それぞれ1つに○)

項 目	主に夫	主に妻	家族で分担	その他の人 (男性)	その他の人 (女性)	該当しない
A. 食事のしたく	1	2	3	4	5	6
B. 食事の後片付け	1	2	3	4	5	6
C. 掃除	1	2	3	4	5	6
D. 洗濯	1	2	3	4	5	6
E. ごみ出し	1	2	3	4	5	6
F. 食料品・日用品の買い物	1	2	3	4	5	6
G. 地域行事などへの参加	1	2	3	4	5	6
H. 乳幼児の世話	1	2	3	4	5	6
I. 家族の介護	1	2	3	4	5	6
J. 子どもの勉強やしつけ	1	2	3	4	5	6
K. 学校行事への参加	1	2	3	4	5	6
L. 役所等への用事・書類の作成	1	2	3	4	5	6

問5 あなたが平日、次のことに使う時間はどれくらいですか。__に時間をご記入ください。

1. 家事の時間	1日当たり平均 _____ 時間 _____ 分
2. 育児の時間	1日当たり平均 _____ 時間 _____ 分
3. 介護の時間	1日当たり平均 _____ 時間 _____ 分
4. 仕事の時間（通勤時間を含む。）	1日当たり平均 _____ 時間 _____ 分
5. 趣味の時間	1日当たり平均 _____ 時間 _____ 分

(4) 仕事について

問6 あなたがお考えになる「女性の仕事や結婚についての理想像」は、次のどれに最も近いですか。
(1つに○)

1. 結婚をせずに、仕事を続ける	2. 結婚はするが、出産はせず、仕事を続ける
3. 結婚をし、出産をし、仕事も続ける	4. 結婚を機に仕事をやめて家庭に入る
5. 出産を機に仕事をやめて家庭に入る	
6. 結婚を機に仕事をやめて家庭に入るが、子どもが一定の年齢に達したら、再び仕事に就く	
7. 出産を機に仕事をやめて家庭に入るが、子どもが一定の年齢に達したら、再び仕事に就く	
8. 仕事には就かず家庭に入る	9. わからない
10. その他 (_____)	

問7 女性が仕事をもち続けるうえで、障害となっているものは何だと思いますか。(3つまでに○)

1. 女性の雇用機会や採用数が男性より少ないこと
2. 長く働き続けられるような職場の条件や制度が不十分なこと
3. 職場での結婚や出産、育児を支援する制度や雇用主の理解が不十分なこと
4. 保育施設や保育制度が不十分なこと
5. 家族の理解が得られないこと
6. 子どもや病人、高齢者の世話が女性だけにまかされること
7. 仕事と家事の両立がむずかしいこと
8. 特にない
9. その他 ()

問8 雇用の場への女性の進出が進む中で、女性が働きやすい環境をつくるため、どのようなことが必要だと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 再雇用制度の促進
2. 保育施設や保育サービスの充実
3. 産後休暇明け・育児休業明けの保育体制の充実
4. 育児休業制度の定着促進
5. 介護、看護との両立を支援する制度の整備
6. 昇進、昇給や仕事の分担など労働の場での男女平等の促進
7. 男性の家庭生活(家事・育児・介護など)への参加促進
8. 家事の省力化、外部化などによる家事負担の軽減
9. その他 ()
10. わからない

問9・問10は、現在、働いている方のみお答えください。

問9 あなたは機会があれば管理職になりたいと思いますか。(1つに○)

1. なりたい
2. どちらかといえばなりたい
3. どちらかといえばなりたくない
4. なりたくない
5. すでに管理職である
6. どちらでもよい
7. その他 ()

問10 あなたの職場では、有給休暇や育児休業などを取りやすい環境にありますか。(それぞれ1つに○)

項 目	取りやすい	やすい い え ば 取 り	どちらか と	に く い	い え ば 取 り	どちらか と	取りにくい	い え な い	どちらとも	制度がない	わからない
A. 有休休暇	1	2	3	4	5	6	7				
B. 育児休業	1	2	3	4	5	6	7				
C. 介護休業	1	2	3	4	5	6	7				

現在、働いている方で職場に育児休業制度がある方のみお答えください。

問 11 あなたは、機会があれば育児休業を取りたいと思いますか。(1つに○)

- | | |
|-------------------|-----------------|
| 1. 取りたい | 2. どちらかといえば取りたい |
| 3. どちらかといえば取りたくない | 4. 取りたくない |
| 5. どちらともいえない | 6. わからない |

現在、働いていない方のみお答えください。

問 12 あなたが働いていない理由は何ですか。(1つに○)

- | |
|-----------------------------------|
| 1. 家事との両立が困難だから |
| 2. 子育てとの両立が困難だから |
| 3. 介護との両立が困難だから |
| 4. 希望する勤務条件(時間、場所、給与など)の仕事がなかったから |
| 5. 求職しているが仕事が見つからないから |
| 6. 経済的に働く必要がないから |
| 7. 年齢面の制約のため |
| 8. 健康面の理由から |
| 9. 配偶者(パートナー)など家族が望まないから |
| 10. 定年退職したから |
| 11. その他() |
| 12. 特に理由はない |

問 13 あなたは、女性が職場において活躍するために、どの情報が特に必要になると感じますか。
(あてはまるものすべてに○)

- | |
|---|
| 1. 保育所、幼稚園、子ども園に関する情報(場所、保育料など) |
| 2. 放課後児童クラブに関する情報(場所、利用料など) |
| 3. 介護・家事の支援サービスに関する情報(内容、利用方法など) |
| 4. 就職・再就職のための職業訓練に関する情報(利用方法、相談先など) |
| 5. 起業・NPO活動のための情報(支援内容、相談先など) |
| 6. 仕事と育児・介護との両立支援制度に関する情報(内容、利用方法など) |
| 7. 出産・育児などを経ながら就業を継続している女性のモデル事例に関する情報 |
| 8. 積極的に家事・育児に参画する男性のモデル事例に関する情報 |
| 9. ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)の推進や、働き方の見直しの実践例に関する情報 |
| 10. その他() |
| 11. 特にない |
| 12. わからない |

(5) 社会への参画について

問 14 次の地域活動の中で、「現在参加しているもの」「今後参加したいもの」について、それぞれ選んでください。(あてはまるものすべてに○)

(14-1) 現在参加している地域活動	(14-2) 今後参加したい地域活動
1. スポーツ・サークル活動 2. 奉仕活動、福祉活動 3. 文化、教養、学習活動 4. 自治会 5. 婦人会 6. 老人クラブ 7. 子ども会活動 8. 消費者活動、住民運動 9. PTA活動 10. 政治活動 11. その他()	1. スポーツ・サークル活動 2. 奉仕活動、福祉活動 3. 文化、教養、学習活動 4. 自治会 5. 婦人会 6. 老人クラブ 7. 子ども会活動 8. 消費者活動、住民運動 9. PTA活動 10. 政治活動 11. その他()

問 15 これまで男性は、比較的、家庭生活(家事・育児・介護など)や地域活動への参加が少なかったと言われていますが、男性の参加を促進するためには、どのようなことが必要だと思いますか。(2つまでに○)

1. 男性の家庭生活や地域活動への参加を促進するための啓発活動を行う
2. 地域活動に関する情報提供を積極的に行う
3. 労働時間を短くして余暇を増やす
4. 仕事と子育ての両立を支援する体制を整備する
5. 企業など職場における理解を得やすい環境づくりを推進する
6. 男性の家事・育児・介護などに関する技能を高めるような講座を開催する
7. わからない
8. その他()

問 16 自治会やPTAなどの活動で、女性のリーダーが少ないようですが、その原因は何だと思いますか。(2つまでに○)

1. 責任ある地位につきたくないから
2. 家事・育児に忙しく、地域活動に専念できないから
3. 組織活動の経験が少ないから
4. 指導力のある女性が少ないから
5. 女性がリーダーでは女性がついてこないから
6. 女性がリーダーでは男性がついてこないから
7. 女性がリーダーでは軽く見られるから
8. 男性がリーダーとなるのが社会慣行だから
9. わからない
10. その他()

問 17 あなたは、男女ともに「仕事と仕事以外の生活の調和」をはかり、充実した生活を送るために、どのようなことが必要だと思いますか。（3つまでに○）

1. 育児・介護休暇制度を利用しやすいように代替要員の確保など職場環境の整備
2. 育児・介護休業中の賃金や手当などの経済的支援を充実する
3. 在宅勤務、フレックスタイム制など柔軟な勤務制度の導入
4. 残業時間を減らすなど、年間労働時間の短縮
5. 保育所や学童保育の整備、保育時間の延長など保育内容の充実
6. 管理職の意識や男性中心の職場運営の見直し
7. ホームヘルパーや介護施設の充実
8. パートタイマーなど非正規職員の労働条件の改善
9. 職務上必要な教育や訓練などの機会、内容の充実
10. 男女がともに仕事と家庭を両立していくことに対して、周囲の理解と協力があること
11. わからない
12. その他（ ）

問 18 あなたは、今後、もっとさまざまな職業分野で指導的地位に占める女性の割合が増えたほうがよいと思いますか。（1つに○）

- | | |
|--------------------|------------------|
| 1. よいと思う | 2. どちらかといえばよいと思う |
| 3. どちらかといえばよいと思わない | 4. よいと思わない |
| 5. どちらともいえない | 6. わからない |

問 18-1 は、問 18 で「1. 」または「2. 」と回答した方のみお答えください。

問 18-1 次の職業や役職において、今後、女性の割合がもっと増えるほうがよいと思うのはどれですか。（あてはまるものすべてに○）

- | | |
|------------------|---------------------|
| 1. 国会議員 | 2. 都道府県議会議員、市町村議会議員 |
| 3. 都道府県知事、市町村長 | 4. 国家公務員・地方公務員の管理職 |
| 5. 裁判官、検察官、弁護士 | 6. 医師 |
| 7. 大学・研究機関などの研究者 | 8. 学校の校長・副校長・教頭 |
| 9. 企業の管理職 | 10. 起業家・経営者 |
| 11. 農協・漁協の役員 | 12. 自治会長 |
| 13. その他（ | ） |
| 14. わからない | |

問 19 政策決定の場へ女性の参画が増えることによって、社会がどう変化すると思いますか。（1つに○）

- | | |
|-------------------------|--------------------|
| 1. 政治が身近になる | 2. 男性中心の考え方に変化が生じる |
| 3. 男女共同参画社会に向けて施策が推進される | 4. 行政に対する要望がきめ細くなる |
| 5. 何も変わらないと思う | 6. わからない |
| 7. その他（ | ） |

(6) ドメスティック・バイオレンス (DV) について

* ドメスティック・バイオレンス (DV) とは、夫、妻、恋人といった親密な関係にあるパートナーからの暴力のことをいいます。

問 20 あなたは、ドメスティック・バイオレンス (DV) について身近で見聞きしたことがありますか。

(あてはまるものすべてに○)

1. 身近な人から相談を受けたことがある
2. テレビや新聞などで問題になっていることを知っている
3. 「ドメスティック・バイオレンス (DV)」という言葉を見聞きしたことがある
4. 見聞きしたことはない

問 21 あなたは、次のような行為をパートナーから受けたことがありますか。

(あてはまるものすべてに○)

1. 何をやっても、何を言っても 無視された
2. 大切にしているものをわざと壊されたり捨てられたりした
3. ばかにされたり、ののしられたり、命令口調でものを言われた
4. 交友関係や電話を細かく監視された
5. 平手で打たれたり、蹴られたり、かまれたり、げんこつで殴られた
6. 生活費を渡されないことがあった
7. 望まない性行為を強要された

問 21-1 は、問 21 で○が1つ以上あった方のみお答えください。

問 21-1 問 21 で挙げたような行為について誰か (どこか) に相談しましたか。(1つに○)

1. 相談した

2. 相談しなかった

問 21-3 へ

問 21-2 は、問 21-1 で「1. 」と回答した方のみお答えください。

問 21-2 実際に誰 (どこ) に相談しましたか。(あてはまるものすべてに○)

- | | | | |
|------------------|-------------------|----------|---------------|
| 1. 家族 | 2. 親せき | 3. 友人・知人 | 4. 市役所 |
| 5. 千葉県女性サポートセンター | 6. 健康福祉センター (保健所) | | |
| 7. 警察 | 8. 裁判所 | 9. 弁護士 | 10. 医師・カウンセラー |
| 11. その他 () | | | |

問 21-3 は、問 21-1 で「2. 」と回答した方のみお答えください。

問 21-3 誰 (どこ) にも相談しなかった理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

1. 誰 (どこ) に相談してよいのかわからなかったから
2. 恥ずかしくて誰にも言えなかったから
3. 相談しても無駄だと思ったから
4. 子どもに危害が及ぶと思ったから
5. 相談したことがわかったら、もっとひどいことをされると思ったから
6. 相談窓口で不快な思いをと思ったから
7. 自分さえ我慢すれば、このままやっていくことができると思ったから
8. 世間体が悪いから
9. 他人に心配をかけたくなかったから
10. 大げさにしたくなかったから
11. 自分にも悪いところがあると思ったから
12. 相談するほどのことではないと思ったから
13. その他 ()

(7) 少子化対策について

問 22 出生率が低くなった主な原因として何が考えられると思いますか。(3つまでに○)

1. 男女とも「結婚して子育てをする」こと以外に生きがいや価値観を見出す人が増えたから
2. 子育てより仕事や余暇の充実を求める人が増えたから
3. 女性の社会進出が進み、子育てよりも仕事に生きがいを見出す女性が増えたから
4. 結婚年齢が高くなったから
5. 出産・子育ては経済的に負担が大きいから
6. 子どもは少なく生んで、十分に手をかけて育てる人が増えたから
7. 労働環境などを含めて、仕事と子育てを両立させる社会的な仕組みが整っていないから
8. 出産後の職場復帰がむずかしいから
9. 住宅や公園など、子育てに望ましい住環境が整備されていないから
10. いつでもだれでも利用できる子育て支援サービスが整っていないから
11. 地域での付き合いが減り、身近で子育てを支えてくれる人がいなくなったから
12. 地球環境や社会の動向に対して、漠然とした不安を感じる人が増えたから
13. 出産・子育てに対する夫の理解・協力が足りず妻の精神的・肉体的負担が大きいから
14. 様々な理由で「結婚したくてもできない人」や「結婚しない人」が増えたから
15. わからない
16. その他 ()

問 23 出生率を上げるために行政が推進すべき施策として何が重要だと思いますか。(3つまでに○)

1. 保育内容の拡充(時間延長や一時保育、病後児保育など)
2. 自宅に子育て支援者を派遣する子育てヘルパーサービスの実施
3. 出産手当や児童手当の増額
4. 保育所などの保育料を補助する
5. 教育費・住宅費・衣食費などを補助する
6. 子どもがのびのびと遊べる場づくり
7. 地域の子育てネットワークづくり
8. 出産・子育てを相談できる窓口の整備
9. 柔軟な勤務体制の導入を推進
10. 育児休業をとりやすい雰囲気づくりを推進
11. 男性の家事や育児への参加を啓発する
12. パートナーとの出会いの場づくりの支援
13. わからない
14. その他 ()

(8) 高齢者介護について

問 24 あなたはご自分の老後について、不安に思うことは何ですか。(3つまでに○)

1. 働きたくても仕事がないこと
2. 配偶者(パートナー)に先立たれること
3. 子どもが世話してくれるかどうかわからないこと
4. 適当な話し相手がないこと
5. 適当な趣味がないこと
6. 介護してくれる人がいるかどうかわからないこと
7. 生活費のこと
8. 健康のこと
9. 住居のこと
10. その他 ()
11. 特に不安はない

問 25 将来もし、あなたが寝たきりなどになったら、誰に介護してほしいですか。(2 つまでに○)

- | | | |
|---------------|----------------|------------|
| 1. 配偶者(パートナー) | 2. 息子 | 3. 息子の妻 |
| 4. 娘 | 5. 娘の夫 | 6. その他の親族 |
| 7. ホームヘルパーなど | 8. 地域の人・ボランティア | 9. 施設などの職員 |
| 10. その他(| |) |

(9) 男女共同参画の推進について

問 26 男女共同参画社会の実現に向けて、どのような取り組みが必要だと思いますか。(3 つまでに○)

- | |
|------------------------------------|
| 1. 広報誌や講演会などによる男女の平等と相互理解についての啓発 |
| 2. 学校などにおける男女平等教育の推進 |
| 3. DV(ドメスティック・バイオレンス)などの根絶のための取り組み |
| 4. 職場における格差の是正や女性の労働条件の改善 |
| 5. 育児・介護休業制度の普及促進 |
| 6. 育児・保育事業の充実 |
| 7. 職業訓練、職業相談の充実 |
| 8. 地域コミュニティ活動における男女共同参画の推進 |
| 9. 審議会などの委員への女性の登用 |
| 10. 女性リーダーの養成 |
| 11. 各事業所に男女共同参画の推進を担当する部署を設置すること |
| 12. 男女共同参画に関する苦情・相談窓口を設置すること |
| 13. 男女共同参画条例の制定 |
| 14. 男女共同参画都市宣言 |
| 15. わからない |
| 16. その他(|

問 27 男女共同参画について、ご意見がありましたら自由にご記入ください。

以上でアンケートは終わりです。ご協力ありがとうございました。
同封の返信用封筒(切手不要)に入れて、11月20日(金)までに返送してください。

第3次匝瑳市男女共同参画計画
策定に係る市民意識調査結果報告書

令和3年3月発行

編集・発行 匝瑳市企画課
〒289-2198
匝瑳市八日市場ハ793番地2
電話0479-73-0081
